本書の見かた

本書ではお車の各装置や装備の正しい取り扱いかたと、快適ドライブ情報やお手入れのしかた、万一のときの応急処置などを記載しています。

◎ **お車を安全･快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。**
◎ **「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。**

- 本書の中で使用しているマークと意味は次のようになっています。

安全のために守っていただきたいこと。	
⚠ 警告	守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠ 注意	守らないと傷害につながるおそれがあります。
お車のために守っていただきたいこと。	
アドバイス	守らないと装備品や車両の破損につながるおそれがあります。
お車を使ううえで知っておいていただきたいこと。	
知識	知っておくとお車の性能を十分にお使い頂けるとともに、いろいろな装備を上手に使うことができます。
	安全のためにしてはならない行為。（イラスト内に表示されています）

- 参照して読んでいただきたいページなどを、➔マークで表示しています。
- 三菱自動車販売会社で取り付けられた装備（ディーラーオプション）については、その装備に付属の取扱説明書をお読みください。
- 点検･整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- その他、ご不明な点はカーライフアドバイザー（営業部員）にお申しつけください。

- 交通ルールやマナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護に配慮してください。
- 本書と別冊のメンテナンスノートはお車の中に保管してください。
- お車をゆずられるときは次に所有される方のために、本書をお車に付けておいてください。
- 車両の仕様変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

目次

■ 外観フロント.2
■ 外観リヤ.4
■ 車室内.6
■ 運転席まわり.8
■ インストルメントパネル.10

■ 運転する前に.14
■ シートベルト.18
■ エアバッグ.21
■ お子さまの安全のために.28
■ 盗難防止機能.36

■ 計器類.38
■ 警告灯・表示灯.41
■ マルチインフォメーションディスプレイ.46
■ メーターの明るさの調節.71

■ キー.74
■ ドアの施錠と解錠.79
■ シートの調節.84
■ ハンドルの調節.88
■ ミラーの調節.89
■ 窓ガラスの開閉.96
■ 燃料補給口の開閉.98
■ エアコンの操作.100
■ オーディオ.110

■ 始動する.114
■ 運転する.120
■ ランプをつける、ワイパーを使う.132
■ 運転支援システム.140
■ カメラシステム.204

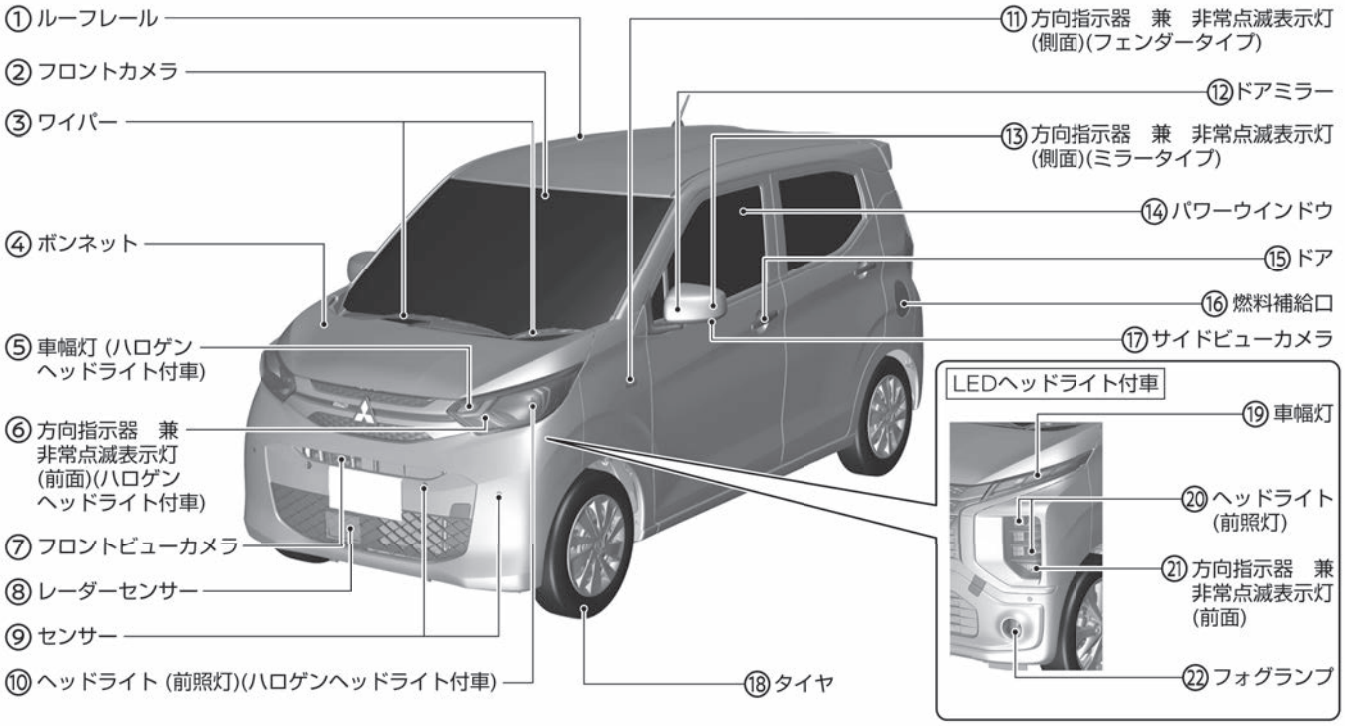
■ 室内灯.222
■ 収納装備.224
■ その他の室内装備.227

■ まずはじめに.236
■ 緊急時の対処方法.240

■ メンテナンスの前に.288
■ 工具・ジャッキ.289
■ 点検と整備.293
■ 清掃・お手入れ.304

イラスト目次 P.2
安全なドライブのために P.13
メーターの見かた P.37
各部の操作 P.73
運転のしかた P.113
室内装備 P.221
トラブルがおきたときは P.235
メンテナンス P.287
索引 P.317

外観フロント

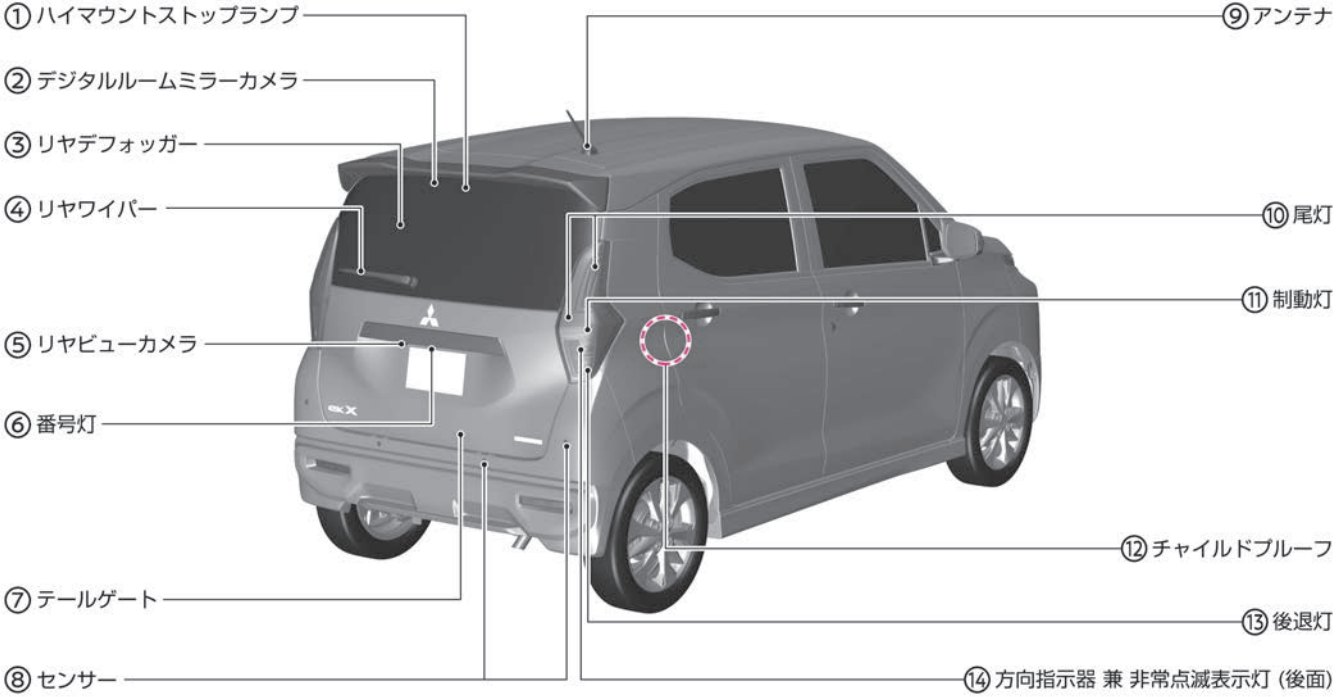

①ルーフレール
②フロントカメラ
③ワイパー
④ボンネット
⑤車幅灯 (ハロゲンヘッドライト付車)
⑥方向指示器　兼　非常点滅表示灯 (前面)(ハロゲンヘッドライト付車)
⑦フロントビューカメラ
⑧レーダーセンサー
⑨センサー
⑩ヘッドライト (前照灯)(ハロゲンヘッドライト付車)
⑪方向指示器　兼　非常点滅表示灯 (側面)(フェンダータイプ)
⑫ドアミラー
⑬方向指示器　兼　非常点滅表示灯 (側面)(ミラータイプ)
⑭パワーウインドウ
⑮ドア
⑯燃料補給口
⑰サイドビューカメラ
⑱タイヤ
LEDヘッドライト付車
⑲車幅灯
⑳ヘッドライト (前照灯)
㉑方向指示器　兼　非常点滅表示灯 (前面)
㉒フォグランプ

外観フロント

① ルーフレール★（➔P.15）
② フロントカメラ（➔P.306）
③ ワイパー（➔P.138）
④ ボンネット（➔P.293）
⑤ 車幅灯（ハロゲンヘッドライト付車）（➔P.132、➔P.280）
⑥ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）（ハロゲンヘッドライト付車）（➔P.136、➔P.280）
⑦ フロントビューカメラ★（➔P.306）
⑧ レーダーセンサー（➔P.305）
⑨ センサー（➔P.69、➔P.307）
⑩ ヘッドライト（前照灯）（ハロゲンヘッドライト付車）（➔P.132、➔P.280）
⑪ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面）（フェンダータイプ）（➔P.136、➔P.280）
⑫ ドアミラー（➔P.94）
⑬ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面）（ミラータイプ）（➔P.136、➔P.280）
⑭ パワーウインドウ（➔P.96）
⑮ ドア（➔P.79）
⑯ 燃料補給口（➔P.98）
⑰ サイドビューカメラ★（➔P.306）
⑱ タイヤ（➔P.296）
⑲ 車幅灯（LEDヘッドライト付車）（➔P.132、➔P.280）
⑳ ヘッドライト（前照灯）（LEDヘッドライト付車）（➔P.132、➔P.280）
㉑ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）（LEDヘッドライト付車）（➔P.136、➔P.280）
㉒ フォグランプ★（LEDヘッドライト付車）（➔P.137、➔P.280）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

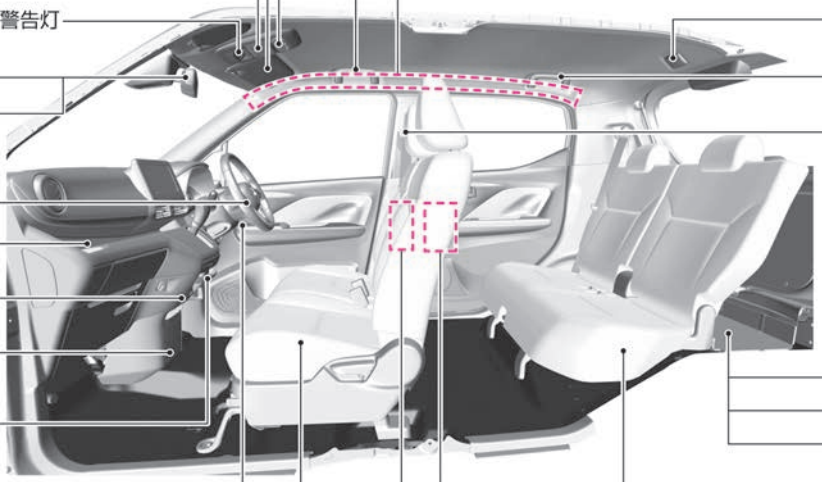
外観リヤ


①ハイマウントストップランプ
②デジタルルームミラーカメラ
③リヤデフォッガー
④リヤワイパー
⑤リヤビューカメラ
⑥番号灯
⑦テールゲート
⑧センサー
⑨アンテナ
⑩尾灯
⑪制動灯
⑫チャイルドプルーフ
⑬後退灯
⑭方向指示器 兼 非常点滅表示灯 (後面)

外観リヤ

① ハイマウントストップランプ（➔P.280）
② デジタルルームミラーカメラ★（➔P.309）
③ リヤデフォッガー（➔P.275）
④ リヤワイパー（➔P.138）
⑤ リヤビューカメラ（➔P.307）
⑥ 番号灯（➔P.132、➔P.280）
⑦ テールゲート（➔P.82）
⑧ センサー（➔P.69、➔P.307）
⑨ アンテナ（➔P.110）
⑩ 尾灯（➔P.132、➔P.280）
⑪ 制動灯（➔P.280）
⑫ チャイルドプルーフ（➔P.81）
⑬ 後退灯（➔P.280）
⑭ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面）（➔P.136、➔P.280）

車室内



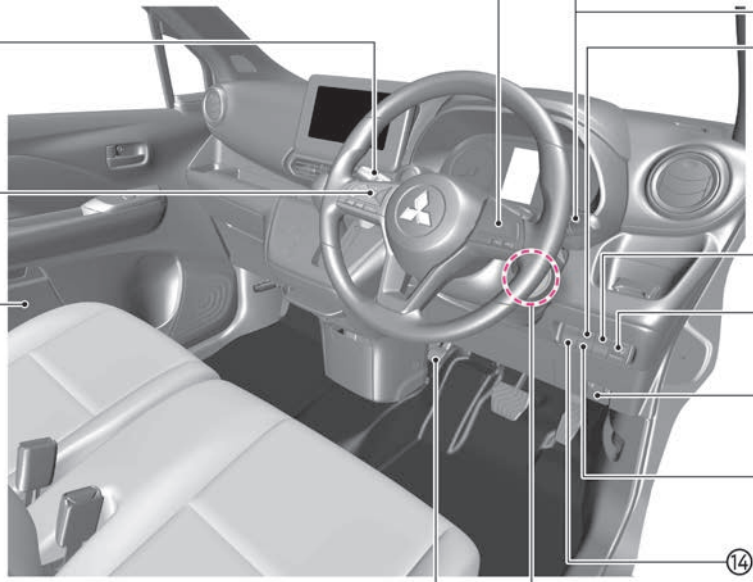
① サンバイザー
② カードホルダー
② カードホルダー
③ 後席シートベルト非着用警告灯
④ 自動防眩ルームミラー
⑤ デジタルルームミラー
⑥ ロックノブ
⑦ ドリンクホルダー
⑧ アクセサリーソケット
⑨ センターロアボックス
⑩ ドリンクホルダー (センタートレイ付)
⑪ パワーウインドウスイッチ
⑫ 前席シート
⑬ ルーム&マップランプ
⑭ アシストグリップ
⑮ SRSカーテンエアバッグ
⑯ ラゲッジルームランプ
⑭ アシストグリップ
⑰ シートベルト
⑱ 工具
⑲ ジャッキ
⑳ パンクタイヤ 応急修理キット
㉑ 後席シート
㉒ SRSサイドエアバッグ

車室内

① サンバイザー（P.230）
② カードホルダー（P.231）
③ 後席シートベルト非着用警告灯（P.253）
④ 自動防眩ルームミラー★（P.89）
⑤ デジタルルームミラー★（P.90）
⑥ ロックノブ（P.80）
⑦ ドリンクホルダー（P.225）
⑧ アクセサリーソケット（P.228）
⑨ センターロアボックス（P.224）
⑩ ドリンクホルダー（センタートレイ付）（P.225）
⑪ パワーウインドウスイッチ（P.96）
⑫ 前席シート（P.84）
⑬ ルーム&マップランプ（P.222）
⑭ アシストグリップ（P.231）
⑮ SRSカーテンエアバッグ（P.26）
⑯ ラゲッジルームランプ（P.222）
⑰ シートベルト（P.18）
⑱ 工具（P.289）
⑲ ジャッキ★（P.289）
⑳ パンクタイヤ応急修理キット（P.240）
㉑ 後席シート（P.86）
㉒ SRSサイドエアバッグ（P.25）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

運転席まわり



① ステアリングスイッチ (右)
－マイパイロット
－オーディオ

② ワイパー・ウォッシャー
スイッチ

③ ステアリングスイッチ (左)
－マルチインフォメーション
ディスプレイ
－オーディオ

④ 車検証入れ

⑤ パーキングブレーキ

⑥ ライトスイッチ

⑦ 方向指示器スイッチ

⑧ フォグランプスイッチ

⑨ ステアリングヒーター
スイッチ

⑩ 走行支援スイッチ

⑪ ヘッドライトレベリング
ダイヤル

⑫ フューエルフィラー
リッドオープナー

⑬ オートストップ&ゴー
[AS&G] OFFスイッチ

⑭ ヒルディセントコントロール
[HDC] スイッチ

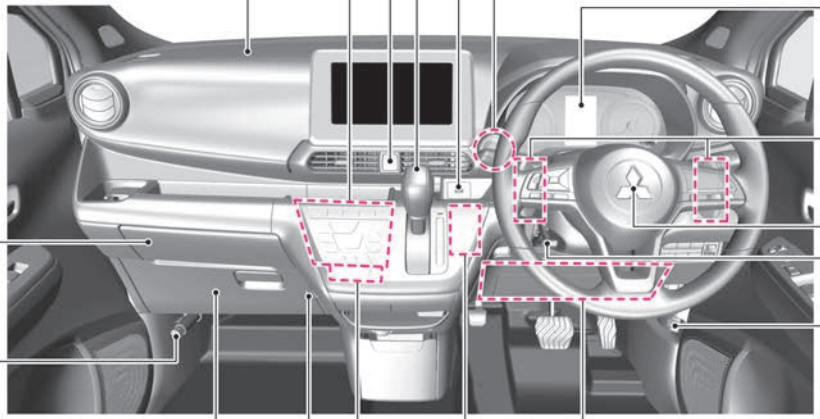
⑮ キースイッチ

運転席まわり

① ステアリングスイッチ（右）
-マイパイロット★（➔P.154）
-オーディオ（➔P.111）
② ワイパー・ウォッシャースイッチ（➔P.138）
③ ステアリングスイッチ（左）
-マルチインフォメーションディスプレイ（➔P.46）
-オーディオ（➔P.111）
④ 車検証入れ（➔P.224）
⑤ パーキングブレーキ★（➔P.124）
⑥ ライトスイッチ（➔P.132）
⑦ 方向指示器スイッチ（➔P.136）
⑧ フォグランプスイッチ★（➔P.137）
⑨ ステアリングヒータースイッチ★（➔P.227）
⑩ 走行支援スイッチ★（➔P.193）
⑪ ヘッドライトレベリングダイヤル（➔P.136）
⑫ フューエルフィラーリッドオープナー（➔P.98）
⑬ オートストップ&ゴー［AS&G］OFFスイッチ（➔P.141）
⑭ ヒルディセントコントロール［HDC］スイッチ★（➔P.149）
⑮ キースイッチ★（➔P.116）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

インストルメントパネル



① エアコン
－タッチパネル式フルオートエアコン
－マニュアルエアコン

② 助手席SRSエアバッグ

③ アッパーグローブボックス

④ 発炎筒

⑤ グローブボックス

⑥ コンビニエントフック

⑦ シートヒータースイッチ (前席)

⑧ 非常点滅表示灯スイッチ

⑨ セレクターレバー

⑩ 充電用USBポート

⑪ エンジンスイッチ

⑫ メーター

⑬ パドルシフト

⑭ 運転席SRSエアバッグ

⑮ ハンドル位置調節レバー

⑯ ボンネットオープナー

⑰ 運転席SRSニーエアバッグ

⑱ 電動パーキングブレーキスイッチ

⑲ ブレーキオートホールドスイッチ

インストルメントパネル

① エアコン
- タッチパネル式フルオートエアコン★（P.100）
- マニュアルエアコン★（P.104）

② 助手席SRSエアバッグ（P.23）
③ アッパーグローブボックス（P.224）
④ 発炎筒（P.236）
⑤ グローブボックス（P.224）
⑥ コンビニエントフック（P.229）
⑦ シートヒータースイッチ（前席）（P.227）
⑧ 非常点滅表示灯スイッチ
⑨ セレクターレバー（P.120）
⑩ 充電用USBポート（P.228）
⑪ エンジンスイッチ★（P.114）
⑫ メーター（P.38）
⑬ パドルシフト★（P.124）
⑭ 運転席SRSエアバッグ（P.23）
⑮ ハンドル位置調節レバー（P.88）
⑯ ボンネットオープナー（P.293）
⑰ 運転席SRSニーエアバッグ（P.27）
⑱ 電動パーキングブレーキスイッチ★（P.125）
⑲ ブレーキオートホールドスイッチ★（P.127）

MEMO

安全なドライブのために

運転する前に

運転前の準備 P.14
運転するときに注意すること P.15
心臓ペースメーカーなどをご使用されている方への注意事項 P.17

シートベルト

シートベルトについて P.18
3点式シートベルト P.18
シートベルトの注意事項 P.19

エアバッグ

SRSエアバッグ P.21
運転席&助手席SRSエアバッグ P.23
SRSサイドエアバッグ P.25
SRSカーテンエアバッグ P.26
運転席SRSニーエアバッグ P.27

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときに注意すること P.28
チャイルドシート P.29

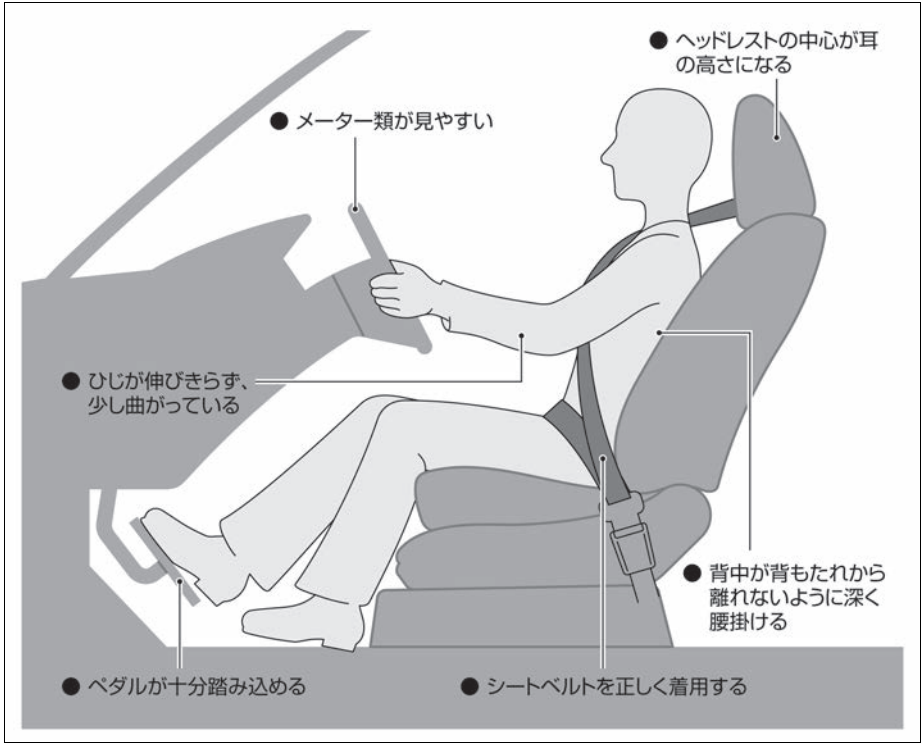
盗難防止機能

イモビライザー（盗難防止装置） P.36

運転前の準備

正しい運転姿勢をとれるよう、ハンドル（➔P.88）、シート（➔P.84）、ミラー（➔P.89、➔P.90）を調節し、シートベルトを着用してください。

正しい運転姿勢について



⚠ 警告

- **ハンドル、シート、ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ハンドルやシートを調節したあとは、確実に固定されていることを確認する。**
  固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートベルトの着用

- 必ず走行前にシートベルトを正しく着用してください。
  ➔シートベルト (P.18)
- 小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご使用ください。
  ➔チャイルドシート (P.29)

ミラーの調節

- ハンドル、シートを調節したあと、ミラーを調節します。確実に後方確認がで

きる位置に、ミラーを調節してください。

➲ドアミラー (P.94)

➲自動防眩ルームミラー（リヤビューモニター付）★ (P.89)

➲デジタルルームミラー（マルチアラウンドモニター付）★ (P.90)

デジタルルームミラー付車

デジタルルームミラー付車は、デジタルルームミラーがOFFの状態（ルームミラーモード）で、確実に後方確認ができる位置に調節してください。

運転するときに注意すること

⚠ 警告

排気ガスには十分注意する

- **排気ガスには無色無臭で有害な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素を吸い込むと一酸化炭素中毒になり、重大な健康障害におよぶか、死亡につながるおそれがあります。**
- **以下の状況では、暖機運転をしたりエンジンをかけたままにしたりしない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりするおそれがあります。

  — 雪が積もった場所に駐停車するとき

  — 降雪時に駐停車するとき

  — 車庫や屋内、壁などに囲まれた換気が悪い場所に駐停車するとき

  — 仮眠や長時間の駐車をするとき

  — 排気管が腐食または損傷しているおそれがあるとき

  — 他車の排気口が近くにあるとき

- **走行する前に、テールゲートが確実に閉まっていることを確認する。**

  走行中に排気ガスが侵入するおそれがあります。

- **車室内に排気ガスが侵入したと感じたときは、窓を開けて十分に換気をする。**
- **排気管に穴や亀裂がある場合や排気音に異常があるときは、三菱自動車販売会社で点検を受ける。**

  排気ガスが車室内に侵入するおそれがあり危険です。

車室内に人やペットを残さない

- **お子さま、介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。**

  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

診断機接続用のコネクターにはご注意を

- **診断機接続用のコネクターには、後付け用品を取り付けないでください。12Vバッテリー（メイン）があがったり、警告灯が点灯したりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。**

燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- **ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まない。**

  引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- **操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れない。また、床やシートのすき間に落としたままにしない。**

  荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

- **灰皿を使ったあとは、マッチやタバコの火が消えていることを確認し、必ずふたを閉める。**

  紙くずなど燃えやすいものは入れないでください。出火するおそれがあります。

故障や破損したまま走行しない

- **排気音が大きくなったときは、三菱自動車販売会社で点検を受ける。**

  排気管が腐食したり路面干渉などで損傷したりしているおそれがあります。また、排気管に穴が開いたまま走行を続けると、高温の排気ガスが漏れ、排気ガスが車室内に侵入し、火災につながるおそれがあります。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 警告

● **事故などでランプが破損したまま走行しない。**

内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

空ぶかしをしたり、エンジンをかけたまま仮眠をしない

● **無用な空ぶかしや、エンジンをかけたまま仮眠をしない。**

万一、セレクターレバーがP以外に入っていると、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。 また、無意識にセレクターレバーを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故やエンジン過熱による火災などにつながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

アクセサリーをウインドウに取り付けない

● **ウインドウにアクセサリーを取り付けない。**

視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造しない

● **市販の不適合品のマフラー取り付けや、三菱自動車純正部品以外の車両の性能や機能に適さない部品を使用しない。**

正常な性能を発揮できないだけでなく、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

● **電装品などを取り付けるときは、必ず三菱自動車販売会社にご相談ください。不適切な取り付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。**

● **ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。**

アドバイス

改造しない

● バッテリーの端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。各システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

● 三菱自動車が国土交通省に届け出をした部品以外を装着すると、違法改造になることがあります。

無線送信機の取り付けについて

● お車に無線送信機を取り付けると、電装システムに影響をおよぼす可能性があります。悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ず三菱自動車販売会社にご相談ください。お客さまのご要望により、無線送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）を三菱自動車販売会社にてご提供します。

性能を十分に引き出すため、ならし運転を行う

● エンジン本体、駆動系などこの車両の持っている性能を十分に引き出すためには、ならし運転が必要です。

走行距離約1,600kmまでは適度な車速、エンジン回転数で運転してください。

ルーフレール★について

● ルーフレールに三菱自動車純正のキャリア（別売り）を使用すると、荷物の積載が可能です。三菱自動車純正のキャリアを使用しないと、車体を破損するおそれがあります。

● 走行中に積載物が落下すると、重大な事故につながるおそれがありますので、しっかりと固定してください。固定方法などはキャリアに付属の取扱説明書に従ってください。

● ルーフレール付車は、次のことをお守りください。

アドバイス

— 樹脂カバーに物を載せたり引っ掛けたりしない。

— キャリア取付部以外の樹脂カバーは取り外さない。

— キャリアを取り付けるときは、三菱自動車販売会社に相談する。

心臓ペースメーカーなどをご使用されている方への注意事項

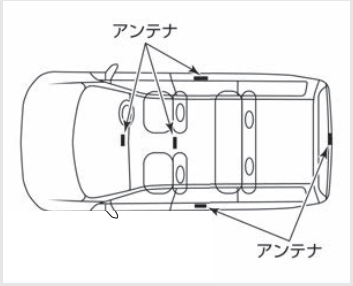
心臓ペースメーカーなどをご使用されている方は、次のことにご注意ください。

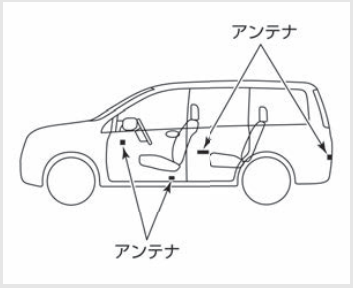
⚠ 警告

キーレスオペレーションシステム★について

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

  ドアおよびテールゲート開閉時、ドアハンドルのスイッチ操作時、エンジン始動時などにキーレスオペレーションシステムの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。





- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  キーレスオペレーションシステムの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

シートベルトについて

シートベルトは、シートに身体を固定することで安全を確保するための安全装置です。
走行するときは、必ずシートベルトを正しく着用してください。

ELR（緊急固定）付シートベルトについて

●身体の動きに合わせて伸縮し、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトがロックし身体を固定します。

⚠ 注意

- **プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理しない。また、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしない。**

  誤って作動したり、正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

プリテンショナーシートベルトについて（前席／後席）

●正面衝突などで車両前方から強い衝撃を受けたときに、装着したシートベルトを瞬時に巻き取り、乗員の拘束性能を高めます。

●衝撃の強さなどによっては、運転席&助手席SRSエアバッグと同時に作動する場合と、プリテンショナーのみ作動する場合があります。

➔ SRSエアバッグ (P.21)

●運転席および助手席にはダブルプリテンショナー機構が付いています。車両前方から強い衝撃を受けたとき、肩からシートベルトを巻き上げると同時に腰側からも巻き上げ、乗員の拘束性能を高めます。

⚠ 警告

- **メーター内のSRSエアバッグ警告灯 が点灯しているときは走行しない。**

  キースイッチ（電源ポジション）をONにしてから約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーが作動しません。必ずSRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

⚠ 注意

- **廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず三菱自動車販売会社に相談する。**

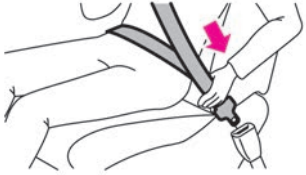
アドバイス

- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず三菱自動車販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

3 点式シートベルト

シートベルトの着用のしかた

1. 正しい姿勢でシートに座り、タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。
   ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。



2. ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。

3. アンカー位置の高さを調節します。（前席シートのみ）
ノブを引きながらアンカー部を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。手を離したあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させます。

4. 外すときは、バックルのボタン（赤色部）を押し、タングを持ってゆっくり戻します。

⚠ 警告

- **ベルトが肩に確実にかかる位置にアンカーの高さを調節する。また、アンカーが確実に固定されていることを確認する。**
  万一のときに肩からベルトが外れるなど、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

- ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから緩め、再度ゆっくり引き出してください。

シートベルトの注意事項

⚠ 警告

- **走行する前に全員がシートベルトを着用する。**
  着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- **シートベルトを着用するときは、次のことを必ず守る。**
  シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
  — 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。
  — 2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
  — ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
  — 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腰部に強い圧迫を受けることがあります。
  — 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分に掛かっていないと、上半身を拘束しないことがあります。
  — クリップなどで故意にベルトにたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果を発揮しないことがあります。
- **シートの背もたれを倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **バックルや巻き取り装置の中に異物を入れない。**
  シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- **妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用する。**

  ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**

  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**

  ➔チャイルドシート (P.29)

- **事故などで衝撃を受けたり傷がついたりしたシートベルトは、三菱自動車販売会社に点検を依頼する。**

  一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分に発揮しないことがあります。

⚠ 注意

- **シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使用しない。**

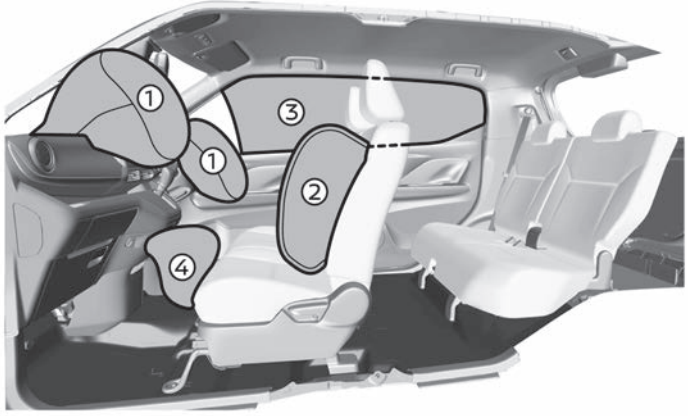
  ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分に発揮しないことがあります。シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。

SRS エアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、乗員への衝撃を緩和します。シートベルトと併用することで安全性を高めるため、シートベルトは必ず着用してください。

SRS エアバッグの種類

① 運転席&助手席SRSエアバッグ
② SRSサイドエアバッグ
③ SRSカーテンエアバッグ
④ 運転席SRSニーエアバッグ



アドバイス

- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず三菱自動車販売会社にご相談ください。
- SRSエアバッグは、一度ふくらむと再使用できません。三菱自動車販売会社で交換してください。

知識

- SRSエアバッグは高温のガスにより高速でふくらむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグがふくらむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがありますが毒性はありません。
- SRSとは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

SRS エアバッグの作動

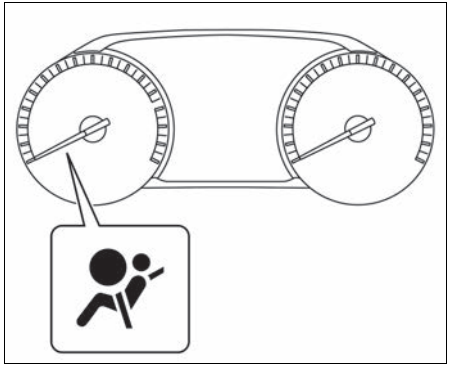
SRSエアバッグは、キースイッチ（電源ポジション）がONのときに作動可能です。

キースイッチ（電源ポジション）をONにしたあと、約7秒間はメーター内のSRSエアバッグ警告灯が点灯し、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作

動しません。警告灯が消灯してから走行してください。

SRSエアバッグは、正面衝突や側面衝突で衝撃を受けたときに作動します。ただし、衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならないときは、作動しないことがあります。

SRSエアバッグが作動するような衝撃を感知すると、非常点滅表示灯が自動的に点滅します。非常点滅表示灯スイッチを押すと消灯しますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。また、衝撃の大きさによっては、点滅しないことがあります。



⚠ 警告

- **SRSエアバッグ警告灯が次の状態のときは走行しない。**
  - ― キースイッチ（電源ポジション）をONにした直後、SRSエアバッグ警告灯が約7秒間点灯しないとき（消灯したままのとき）
  - ― SRSエアバッグ警告灯が点灯し続けるとき

  SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。三菱自動車販売会社にご相談ください。

📖 知識

- 助手席SRSエアバッグ、助手席側のSRSサイドエアバッグおよびSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。

SRS エアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **正しい姿勢でシートベルトを正しく着用する。**

  SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。また、SRSエアバッグの効果が発揮されないおそれがあります。
- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

  ➔チャイルドシート (P.29)

- **必ず次のことを守る。**

  SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなったりし、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

— SRSエアバッグ格納部を修理するときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついているとき、およびひび割れがあるときは、そのまま使用せず三菱自動車販売会社で交換してください。
運転席&助手席SRSエアバッグの格納場所は（➔P.23）をお読みください。
SRSサイドエアバッグの格納場所は（➔P.25）をお読みください。
SRSカーテンエアバッグの格納場所は（➔P.26）をお読みください。
運転席SRSニーエアバッグの格納場所は（➔P.27）をお読みください。

— SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。

— 電気テスターを使用したSRSエアバッグの回路診断、または回路を変更しないでください。

— エアロパーツなどを取り付けたり、サスペンションを改造したりするときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

● **SRSエアバッグが作動したときは、30分経過するまでエアバッグに触らない。**
高温になるため、やけどをするおそれがあります。

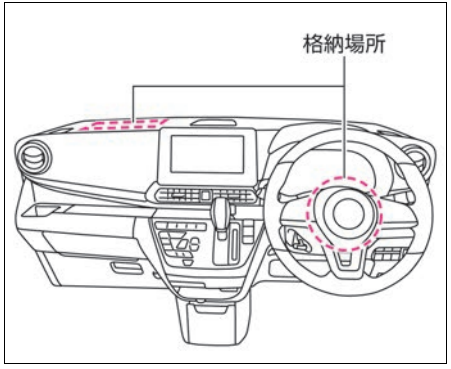
● **SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流す。**
皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

運転席 & 助手席 SRS エアバッグ

車両前方から強い衝撃を受けたときに、SRSエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

運転席SRSエアバッグは、ハンドル部に格納されています。
助手席SRSエアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。



SRS エアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。
- 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
- 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）
- 高速で縁石などに衝突したとき
- 深い穴や溝に落ち込んだとき
- ジャンプして地面にぶつけたとき

アドバイス
- 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃でフロントガラスが割れることがあります。

知識
- 運転席、助手席SRSエアバッグはふくらんだあとすぐにしぼむので、視界の妨げになることはありません。

SRS エアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。
- 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h以下の速度で正面衝突したとき

●トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
●斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRS エアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

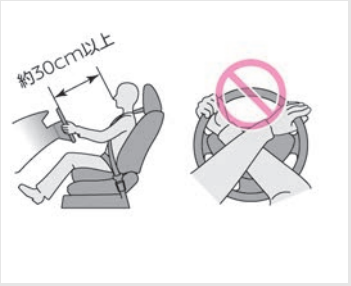
●横方向や後ろから衝突されたとき
●横転、転覆したとき

運転席 & 助手席 SRS エアバッグの注意事項

⚠ 警告

● **運転席のSRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、内がけでのハンドル操作はしない。**

ハンドルから顔をできるだけ（約30cm以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど、手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



● **不適正なハンドルに交換したり、SRSエアバッグ格納部にステッカーなどを貼ったりしない。**

SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

● **フロントガラスにアクセサリーなどを付けない。**

SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

● **助手席のSRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、お子さまを近づかせない。**

SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

SRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを不必要に近づけたりしないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いたりせず、後席シートに乗せてください。

● **チャイルドシートは後席シートに取り付ける。**

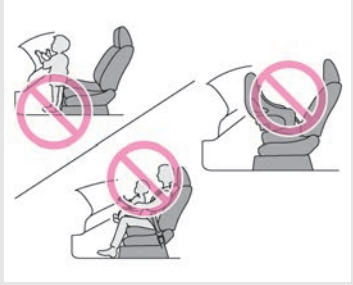
SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

やむをえず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。

● **チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

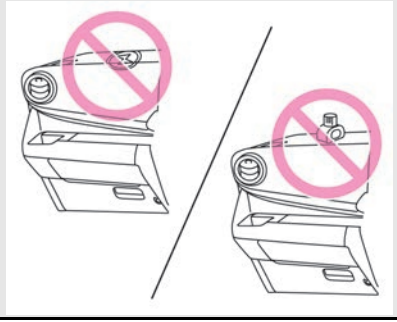
固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

⚠ 警告



- **SRSエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼らない。また、アクセサリーや芳香剤などを置かない。**

  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。



SRS サイドエアバッグ

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSサイドエアバッグは、運転席、助手席ともにシート背もたれ側面（外側）に格納されています。

⚠ 警告

- **SRSサイドエアバッグの格納部に近づかない。**

  ドアにもたれるなど、前席シートの背もたれ側面（外側）に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **前席シートのSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かない。**
- **三菱自動車純正以外のシートカバーは使用しない。**

  取り付けるときはシートカバーに添付の取扱説明書に従い確実に取り付けてください。また、シートのSRSサイドエアバッグが収納されている付近にドリンクホルダーなどのカー用品を取り付けたり、ステッカーなどを貼らないでください。SRSサイドエアバッグが膨らむのを妨げたり、膨らむときにこれらの物が飛んで重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**

  SRSサイドエアバッグが誤作動するおそれがあります。

SRS サイドエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

●一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRS サイドエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

●側面に斜め方向から衝突されたとき
●側面にバイクが真横から衝突したとき
●エンジンルーム（ラゲッジルーム）に衝突されたとき
●横転、転覆したとき
●斜め前方から衝突したとき
●電柱などに衝突したとき

SRS サイドエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

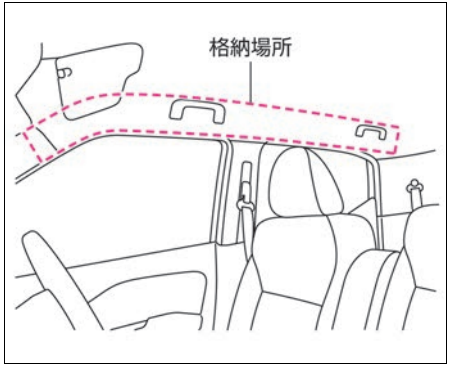
●停車中や走行中の車に正面衝突したとき
●後ろから衝突されたとき

SRS カーテンエアバッグ

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSカーテンエアバッグは、運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。



⚠ 警告

- **SRSカーテンエアバッグの格納部に近づかない。**

  万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けない。**

  SRSカーテンエアバッグが作動したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**

  SRSカーテンエアバッグが誤作動するおそれがあります。

SRS カーテンエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

●一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRS カーテンエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

●側面に斜め方向から衝突されたとき
●側面にバイクが真横から衝突したとき
●エンジンルーム（ラゲッジルーム）に衝突されたとき
●横転、転覆したとき
●斜め前方から衝突したとき
●電柱などに衝突したとき

SRS カーテンエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

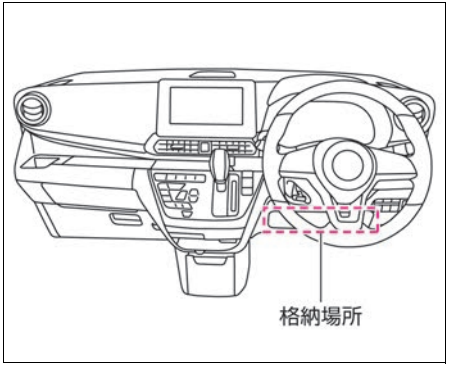
●停車中や走行中の車に正面衝突したとき
●後ろから衝突されたとき

運転席 SRS ニーエアバッグ

車両前方から強い衝撃を受けたときに、SRSニーエアバッグが瞬時にふくらみ、運転者の下肢部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSニーエアバッグは、ハンドル下のインストルメントパネル部に格納されています。



⚠ 警告

- **SRSニーエアバッグの格納部に近づかない。**
  万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **SRSニーエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼らない。また、アクセサリーなどを取り付けない。**

SRSニーエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

SRS ニーエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
- 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）

- 高速で縁石などに衝突したとき
- 深い穴や溝に落ち込んだとき
- ジャンプして地面にぶつけたとき

SRS ニーエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h以下の速度で正面衝突したとき
- トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
- 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRS ニーエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 横方向や後ろから衝突されたとき
- 横転、転覆したとき

お子さまを乗せるときに注意すること

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

⚠ 警告

お子さまにもシートベルトを着用する

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**

  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

  ➔シートベルトの着用のしかた (P.18)

小さなお子さまにはチャイルドシートを使用する

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**

  ➔チャイルドシート (P.29)

チャイルドシートは後席シートに取り付ける

- **チャイルドシートは後席シートに取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

- **チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、ラゲッジルーム（荷室）などに収納する。**

  車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまは後席シートに乗せる

- **お子さまを助手席に乗せるのは避ける。**

  お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになったりするおそれがあります。

  また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

ドア、ウインドウなどは大人が操作する

- **ドアやウインドウなどの開閉は、お子さまには操作させない。**

  開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **チャイルドプルーフ（➔P.81）やパワーウインドウロックスイッチ（➔P.96）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。**

窓から手や顔を出さない

- **お子さまが腕や顔を出さないように注意する。**

  急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- **車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろす。**

  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

- **お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

チャイルドシート

お子さまの年齢や体格に合わせたチャイルドシートを選択し、車両に適切に取り付けてください。

チャイルドシートについて

- チャイルドシートには、乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの3種類があります。お子さまの年齢や体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- チャイルドシートの固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- この車は UN R44 または R129 の基準に適合した ISOFIX 取付装置を標準装備しています。

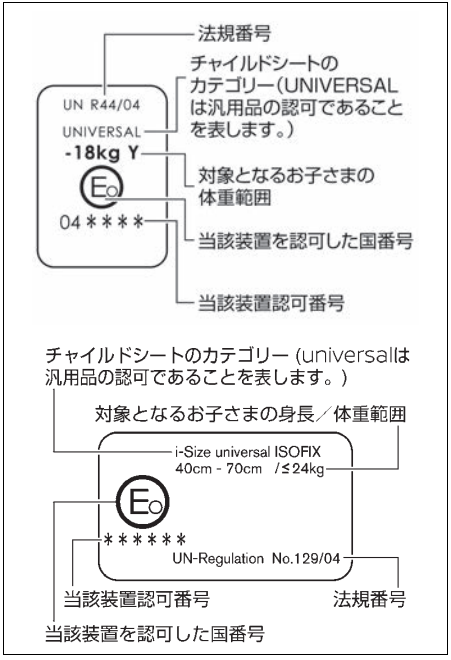
⚠ 警告

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。 やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

知識

- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートを総称してチャイルドシートと呼んでいます。
- UN R44またはR129はチャイルドシートに関する国際法です。 UN R44またはR129の基準に適合した汎用 （ユニバーサル） チャイルドシートには、 認可マークが貼られています。



チャイルドシートの選びかた

この車両には、シートベルトで取り付けるチャイルドシートと、i-SizeおよびISOFIXチャイルドシートを取り付けることができます。i-SizeおよびISOFIXチャイルドシートは、シートベルトを使わずに固定するため、簡単に取り付けることができます。

■ シートベルト固定タイプのチャイルドシート

シートベルトを使用してチャイルドシートを固定します。

➔シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた (P.34)

■ i-SizeおよびISOFIXチャイルドシート

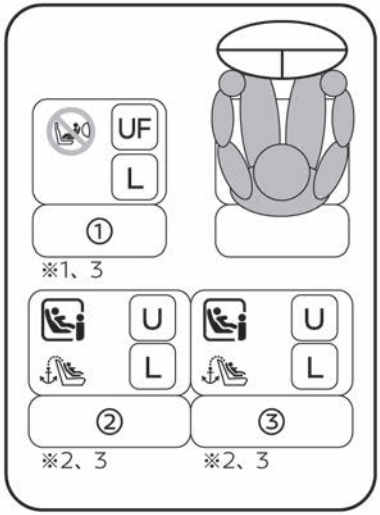
後席シートに付属しているISOFIX取付装置で固定します。

➔i-SizeおよびISOFIXチャイルドシートの取り付けかた (P.34)

使用できるチャイルドシートについて

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。

選択の目安



凡例

マーク	説明
U	車両シートベルト固定式汎用型チャイルドシートに適している
UF	車両シートベルト固定式の前向きに取り付ける汎用型チャイルドシートに適している
	i-Size及びISOFIXチャイルドシートに適している
	後ろ向きチャイルドシート取り付け禁止
	ISOFIXチャイルドシート上部取付金具（テザーアンカレッジ）を装備している座席
L	添付リストに記載されたチャイルドシートに適している
	チャイルドシートの取り付けに適していない

※1：チャイルドシートを装着する際は、背もたれを前に倒し、元に戻すときに一番最初にロックする位置に調節してください。

※2：ベルト固縛のチャイルドシートを装着する際は、背もたれを前に倒し、元に戻すときに一番最初にロックする位置に調節してください。

※3：チャイルドシートを装着する際は、シートの前後調節（スライド）を最後端位置に調節してください。

●チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合は一番上に調節してください。上げても安定しない場合には取り外してください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

幼児拘束装置メーカーに関する詳細情報

シート位置番号	助手席	後席	
	①	②	③
汎用ベルト式に適する着席位置（○/X）	○（前向きのみ）	○	○
i-SizeおよびISOFIX着席位置（○/X）	X	○	○
横向き固定具に適する着席位置（L1/L2）	-	-	-
適する最大の後ろ向き固定具（R1/R2X/R2/R3）	-	R3	R3
適する最大の前向き固定具（F2X/F2/F3）	-	F3	F3
適する最大のブースター固定具（B2/B3）	B3	B3	B3

📖 知識

- i-SizeおよびISOFIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にUN R44またはR129の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書を参照してください。

■ 推奨チャイルドシート

三菱自動車が推奨するチャイルドシートです。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

固定方法	チャイルドシート品名	適用範囲	① 助手席	リヤシート	
				② 左側席	③ 右側席
ISOFIX	i-Size チャイルドシート （後ろ向き）	身長100cm 以下 体重18kg 以下	X	○	○
	i-Size チャイルドシート （前向き）※	身長76 ～ 100cm 体重18kg 以下	X	○	○

※：身長76cm以上、かつ月齢が15か月を超えるまでは前向きで使用しないでください。

固定方法	チャイルドシート品名	質量グループ （お子さまの体重）		① 助手席	リヤシート	
					② 左側席	③ 右側席
シートベルト	チャイルドシート （後ろ向き）	0+	13kg まで	X	○	○
	チャイルドシート （前向き）	I	9 ～18kg	○	○	○
	ジュニアシート	II & III	15 ～36kg	○	○	○

●チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合は一番上に調節してください。上げても安定しない場合には取り外してください。

シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた

1. ヘッドレストを外し（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置きます。
➔ヘッドレストの調節のしかた (P.85)
シートベルトをチャイルドシートに通し、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。

2. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って固定します。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。

⚠ 警告

- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**
確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。

i-Size および ISOFIX チャイルドシートの取り付けかた

1. ISOFIXチャイルドシート下部取付金具は、後席シート左右背もたれのマーク下側にあります。
ヘッドレストを外して（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って下部取付金具に固定します。
➔ヘッドレストの調節のしかた (P.85)

2. 上部取付金具は、後席シート背もたれ裏側にあります。
上部取付金具にフックを固定し、テザーベルトを締めます。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。

⚠ 警告

- **i-SizeおよびISOFIXチャイルドシートを取り付けるときは、後席シートのヘッドレストを取り外す。（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）**
- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**

  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。
- **チャイルドシートを取り付けるときは、ISOFIX取付装置周辺に異物がないことやシートベルトなどがかみ込んでいないことを確認する。**

  チャイルドシートが確実に固定されず、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

知識

- ISOFIX取付装置は、下部取付金具と上部取付金具の2種類があります。

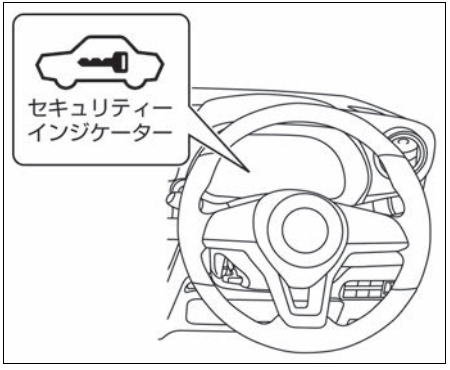
  下部取付金具は背もたれと座面のすき間にあり、上部取付金具は背もたれ裏側にあります。
- 三菱自動車純正以外のシートカバーは使用しないでください。

イモビライザー（盗難防止装置）

イモビライザー（盗難防止装置）について

車両の盗難に対する防御性能を高めるために、あらかじめ登録されているキー以外での始動を禁止するシステムです。

●イモビライザーが働いているときは、セキュリティーインジケーター（P.258）が点滅します。



アドバイス

- キースイッチ（電源ポジション）をONにしたときにセキュリティーインジケーターが点灯し続ける場合は、システムの異常が考えられます。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

知識

- キーに登録された信号は、キーごとに異なります。

メーターの見かた

計器類

各部名称 P.38
メーター P.39

警告灯・表示灯

警告灯の表示位置 P.41
警告灯 P.42
表示灯の表示位置 P.44
表示灯 P.45

マルチインフォメーションディスプレイ

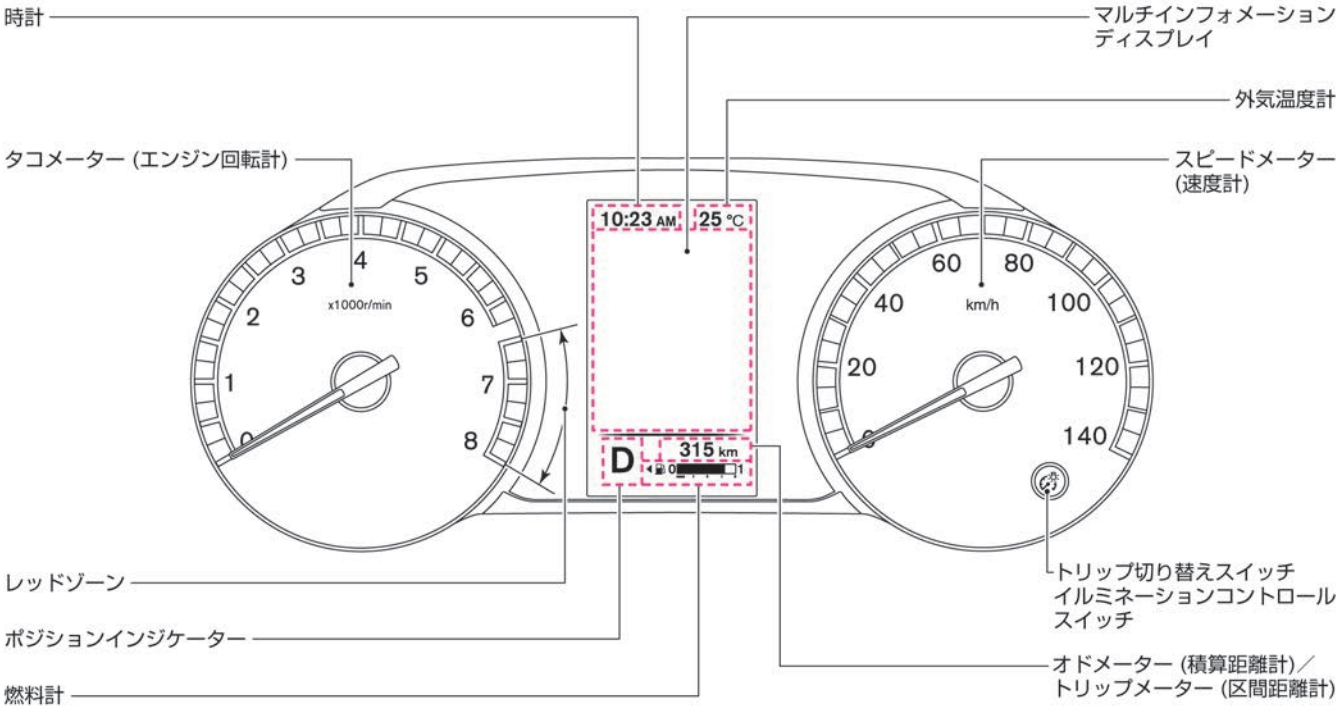
マルチインフォメーションディスプレイとは P.46
エコグループ P.47
インフォメーショングループ P.51
走行支援グループ P.52
各種設定画面 P.53
警告メッセージ P.62
シャシー制御 P.63
画面OFF P.65
走行支援機能表示 P.66
その他の表示機能 P.69

メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール P.71

各部名称

キースイッチ（電源ポジション）をONにすると、計器類が表示されます。



メーター

メーターには、スピードメーター（速度計）、燃料計、ポジションインジケーターなどがあります。

キースイッチ（電源ポジション）をONにすると表示します。

スピードメーター（速度計）

走行速度を表示します。

タコメーター（エンジン回転計）

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

アドバイス

- レッドゾーン（赤色表示部）ではエンジンが過回転となり故障の原因になります。レッドゾーンに入らないように運転してください。

燃料計

燃料の残量を表示します。

●燃料タンクの容量は約27ℓです。

知識

- ◀⛽の矢印は燃料補給口が車両左側にあることを示しています。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、正しく表示されない場合があります。燃料が少なくなってきたら、早めの給油を心がけてください。
- 燃料残量表示が赤線付近の位置になると、燃料残量警告灯が点灯します。

オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）

●次のときに表示します。

— キースイッチ（電源ポジション）がONのとき

— キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしてから数十秒間

— ドアを開けた後数十秒間

オドメーター（積算距離計）

●総走行距離をkmで表示します。

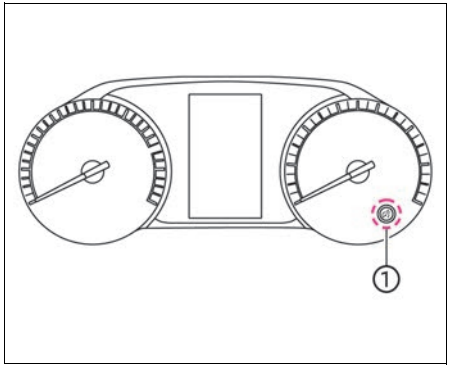
トリップメーター（区間距離計）

●リセットしてからの走行距離をkmで表示します。Aと Bでそれぞれ使い分けることができます。

●リセットするときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにして、0にしたいほうを表示させ、トリップ切り替えスイッチ①を1秒以上押します。

表示の切り替えかた

●トリップ切り替えスイッチ①を押すと次の順で切り替わります。
オドメーター→トリップメーターA→トリップメーターB→オドメーター



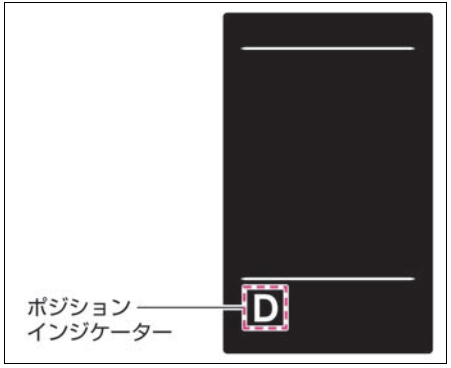
知識

- 12Vバッテリー（メイン）を外したときは、トリップメーターのAとBの記憶が消去され0に戻ります。

ポジションインジケーター

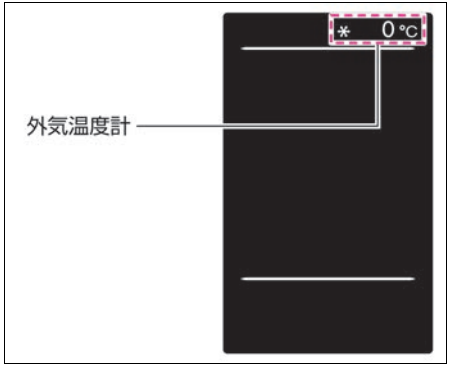
セレクターレバーの位置を表示します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備



外気温度計

●外気温を表示します。



知識

- 外気温センサー取り付け部の温度を表示するため、実際の外気温とは異なることがあります。
- 外気温が3℃以下になると、温度の左側に凍結注意表示 が点灯または点滅します。

  表示・非表示の設定ができます。

  設定（➔P.60）

時計

●時刻を表示します。

●マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「時計」⇒「時計調整」を選択すると、時計の調整が行えます。

設定の詳細については、時計をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.46)

➔時計 (P.53)

知識

- 時計は、12Vバッテリー（メイン）を外すと記憶が消去されます。12Vバッテリー（メイン）を接続後、正しい時刻に調整してください。
- 時刻の表示は、12時間表示または24時間表示を選択できます。

マルチインフォメーションディスプレイ

様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。

●エコグループ

●インフォメーショングループ i

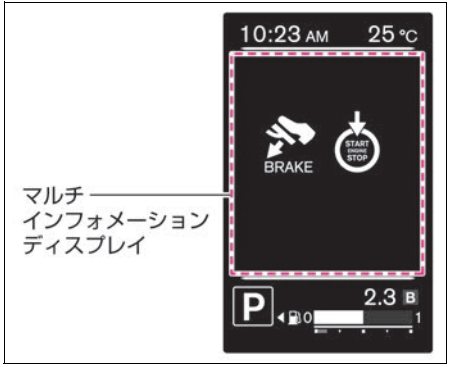
●走行支援グループ

●設定 ⚙

●警告 ⚠

●シャシー制御

●画面OFF

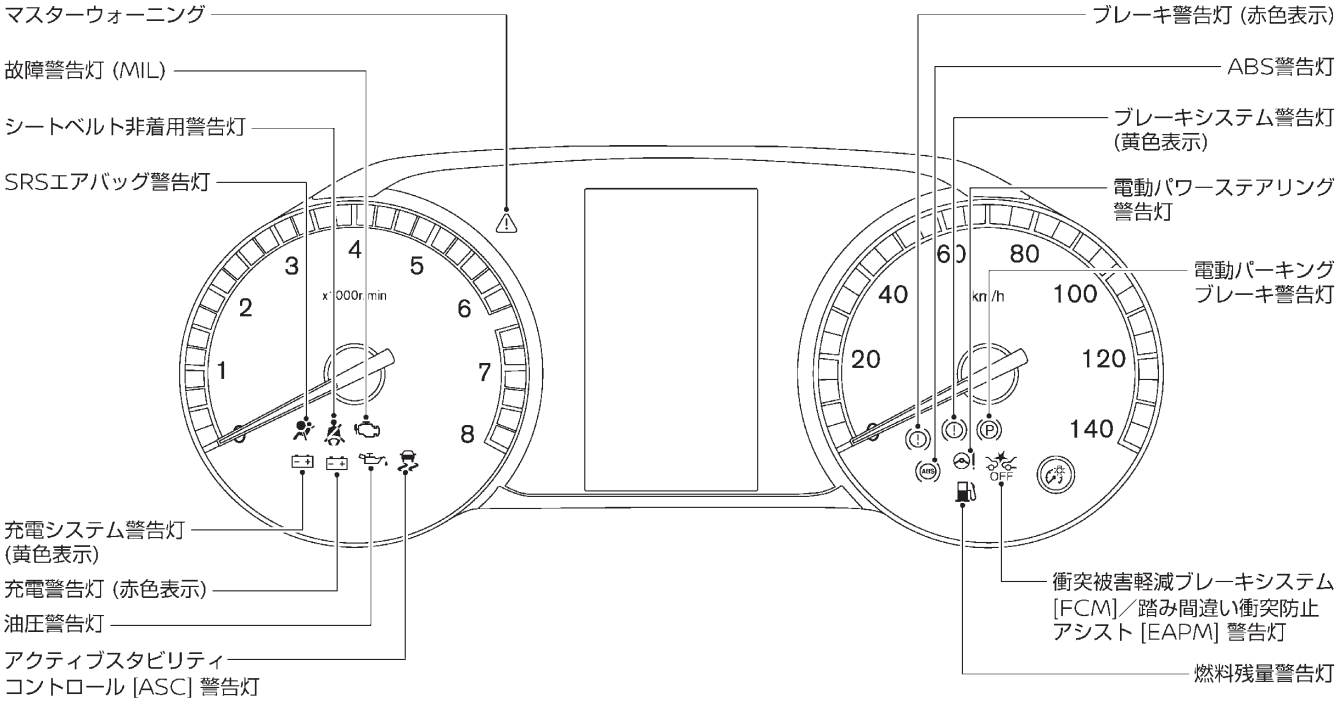


知識

- マルチインフォメーションディスプレイについては、（➔P.46）をお読みください

警告灯の表示位置

次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。通常は警告すべき事象がおこったときに、該当の警告灯のみ点灯または点滅します。



警告灯・表示灯

警告灯

警告灯	名称	警告灯	名称
	油圧警告灯（➔P.249）		故障警告灯（MIL）（➔P.249）
	充電警告灯（赤色表示）（➔P.249）		充電システム警告灯（黄色表示）（➔P.250）
	ABS警告灯（➔P.250）		電動パーキングブレーキ警告灯★（➔P.250）
電動パーキングブレーキ無車	ブレーキ警告灯（赤色表示）（➔P.251）	電動パーキングブレーキ付車	ブレーキ警告灯（赤色表示）（➔P.252）
電動パーキングブレーキ付車	ブレーキシステム警告灯（黄色表示）（➔P.252）		シートベルト非着用警告灯（➔P.253）
	SRSエアバッグ警告灯（➔P.253）		アクティブスタビリティコントロール[ASC]警告灯（➔P.254）
	燃料残量警告灯（➔P.254）		電動パワーステアリング警告灯（➔P.255）

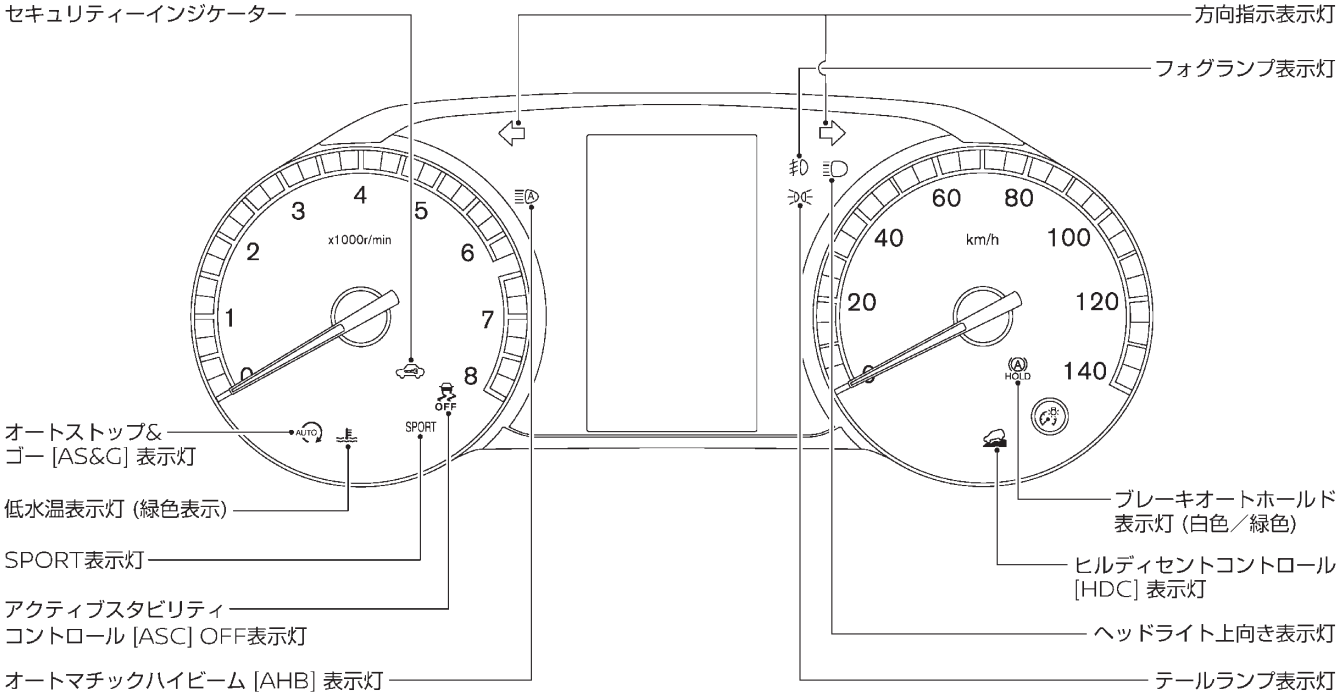
警告灯・表示灯

警告灯	名称	警告灯	名称
	マスターウォーニング （P.255）		衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]／踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]警告灯 （P.256）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

表示灯の表示位置

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。通常は事象がおこったときに、該当の表示灯のみ点灯します。



表示灯

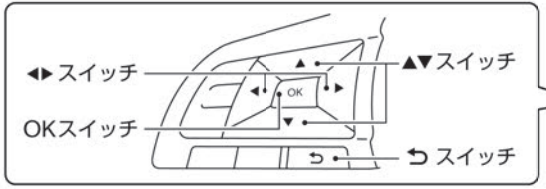
表示灯	名称	表示灯	名称
	方向指示表示灯（➔P.257）		ヘッドライト上向き表示灯（➔P.257）
	テールランプ表示灯（➔P.257）		SPORT表示灯（➔P.257）
	フォグランプ表示灯★（➔P.257）		オートマチックハイビーム[AHB]表示灯（➔P.257）
	オートストップ&ゴー[AS&G]表示灯（➔P.258）		アクティブスタビリティコントロール[ASC]OFF表示灯（➔P.258）
	セキュリティーインジケーター（➔P.258）		ブレーキオートホールド表示灯（白色）★（➔P.258）
	ブレーキオートホールド表示灯（緑色）★（➔P.258）		低水温表示灯（緑色表示）（➔P.258）
	ヒルディセントコントロール[HDC]表示灯★（➔P.259）		

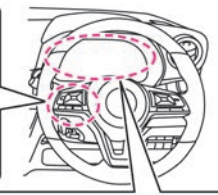
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイとは

様々な機能の作動状態を表示したり設定したりすることができます。キースイッチ（電源ポジション）がONのときハンドル左側にある◀▶スイッチを押すと、エコグループ（➔P.47）、インフォメーショングループ（➔P.51）、走行支援グループ（➔P.52）、設定（➔P.53）、警告（➔P.62）、シャシー制御（➔P.63）、画面OFF（➔P.65）の順で表示項目が切り替わります。

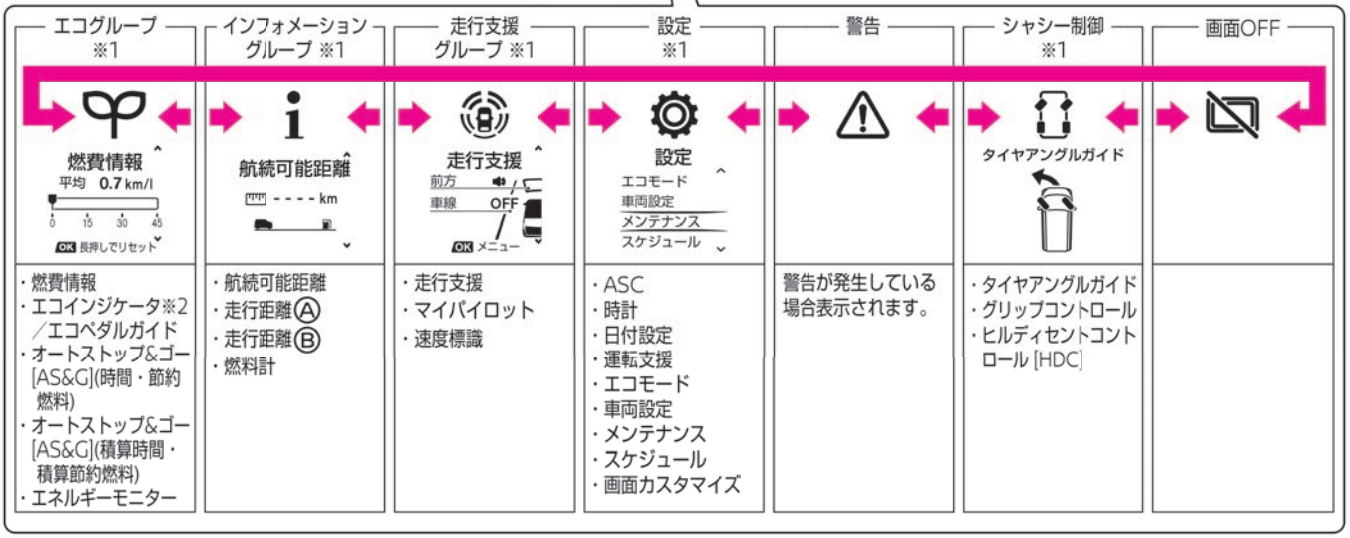
画面の切り替えかた





車種により表示できる項目が異なります。

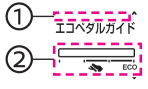
※1 ▲▼を押すと項目を選択します。
※2「設定」の「エコモード」で「エコインジケータ」をONに設定しているときに表示します。



エコグループ

エコグループ ♌（表示項目）について

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで、エコグループ ♌ を選択し、▲▼ スイッチを押すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.46）をお読みください。

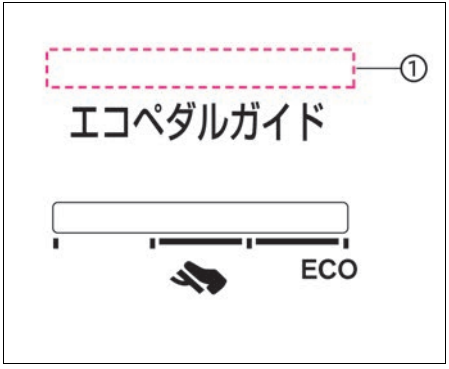
画面表示	項目	概要	詳細説明
	燃費情報	● 現在の瞬間燃費、リセットしてからの平均燃費を表示します。 ● 平均燃費をリセットするときは、この画面を表示中に、ステアリングスイッチの OK スイッチを長押しするとリセットされます。画面の切り替えかたについては（➔P.46）をお読みください。	● 平均燃費は、12Vバッテリー（メイン）交換後やリセット後は「--.-」と表示します。 ● 平均燃費は約30秒ごとに更新します。
	エコインジケータ／エコペダルガイド	● ①「設定 ⚙ 」の「エコモード」で「エコインジケータ」の設定をONにしているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータが3段階で点灯します。 ● ② 走行中アクセルペダルの踏み加減を表示します。	知識 ●詳細については、（➔P.49）をお読みください。
	オートストップ&ゴー[AS&G]（時間・節約燃料）	● エンジン始動時からの、AS&Gが作動した時間と、節約された燃料を表示します。リセットするときは、この画面を表示中に、ステアリングスイッチの OK スイッチを長押しするとリセットされます。画面の切り替えかたについては（➔P.46）をお読みください。	知識 ●AS&Gについては、（➔P.140）をお読みください。

マルチインフォメーションディスプレイ

画面表示	項目	概要	詳細説明
	オートストップ&ゴー[AS&G]（積算時間・積算節約燃料）	● 前回リセット時からの、AS&Gが作動した合計時間と、節約された合計燃料を表示します。 リセットするときは、この画面を表示中に、ステアリングスイッチのOKスイッチを長押しするとリセットされます。画面の切り替えかたについては（➔P.46）をお読みください。	知識 ●AS&Gについては、（➔P.140）をお読みください。
	エネルギーモニター	● 車両とリチウムイオンバッテリー（サブ）間のエネルギーの流れを表示します。	● 詳細については、（➔P.50）をお読みください。

■ エコインジケータ

- マルチインフォメーションディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータ①が3段階で点灯します。
- エコドライブをするほど、点灯範囲が大きくなります。



知識

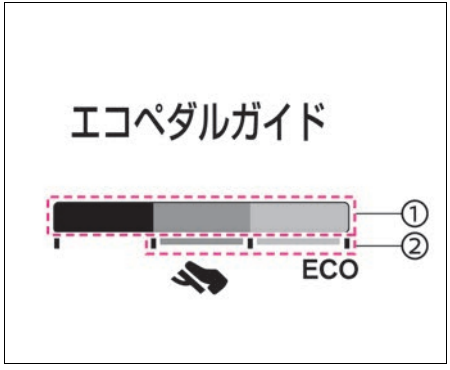
- マルチインフォメーションディスプレイで、「設定 ⚙ 」⇒「エコモード」⇒「ECO情報設定」を選択すると、エコインジケータのON・OFFを切り替えられます。

➔画面の切り替えかた (P.46)
➔エコモード (P.57)

- セレクターレバーがRのときは、点灯しません。

■ エコペダルガイド

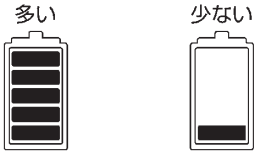
- マルチインフォメーションディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダルの踏み加減を①に表示します。
- アクセルペダルの踏み加減①がエコ運転領域②に入るように調整することで、燃費向上につながります。



知識

- セレクターレバーがRのときは、表示しません。

■ エネルギーモニター

エネルギーモニター	
・減速エネルギーで発電し、リチウムイオンバッテリー (サブ) を充電している状態	・リチウムイオンバッテリー (サブ) から車両へ電源供給している状態 ・エンジンアシストをしている状態★
	
・リチウムイオンバッテリー (サブ) と車両の間にエネルギーの流れがない状態	・リチウムイオンバッテリー (サブ) のエネルギー残量表示

※画面は実際の表示とは異なる場合があります。
※エネルギーモニターの矢印は、車両の状態によっては表示されない場合があります。

📖 知識

- リチウムイオンバッテリー（サブ）のエネルギー残量表示が最大まで到達しない場合がありますが、異常ではありません。

インフォメーショングループ

インフォメーショングループ i（表示項目）について

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、ステアリングスイッチの ◀▶ で、インフォメーショングループ i を選択し、▲▼ を押すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.46）をお読みください。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	航続可能距離	● 残っている燃料で航続可能な距離を表示します。 ● 燃料残量警告が表示されたあとも燃料を補給しないと「----」と表示します。	● 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、正しく表示されない場合があります。燃料が少なくなってきたら、早めの給油を心がけてください。 ● 航続可能距離表示の数値は約30秒ごとに算出しています。
	走行距離Ⓐ／Ⓑ	● リセットしてからの走行距離をkmで表示します。ⒶとⒷでそれぞれ使い分けることができます。 リセットするときは、リセットしたい方の画面を表示中に、ステアリングスイッチの OK スイッチを長押しするとリセットされます。画面の切り替えかたについては（➔P.46）をお読みください。	● 走行距離は、12Vバッテリー（メイン）交換後やリセット後は「0.0」と表示します。
	燃料計	● 燃料の残量を表示します。	知識 ● ◀ の矢印は燃料補給口が車両左側にあることを示しています。 ● 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、正しく表示されない場合があります。燃料が少なくなってきたら、早めの給油を心がけてください。 ● 燃料残量表示が赤線付近の位置になると、燃料残量警告灯が点灯します。

走行支援グループ

走行支援グループ ㊙（表示項目）について

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、ステアリングスイッチの ◀▶ で、走行支援グループ ㊙ を選択し、 ▲▼ を押すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.46）をお読みください。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	走行支援	● 走行支援システムのON・OFF状態を表示します。 この画面を表示中に、ステアリングスイッチのOKスイッチを押すと、メニュー画面を表示し、各走行支援システムのON・OFFを設定します。➔運転支援(P.54)をお読みください。	● 詳しくは、各走行支援システムの説明をお読みください。 — ➔衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）（P.173） — ➔車線逸脱警報システム[LDW]／車線逸脱防止支援機能[LDP]（P.191） — ➔マイパイロット★（P.153）
	マイパイロット★	● マイパイロットの作動状態を表示します。 ● ステアリングスイッチのマイパイロットスイッチ ㊙ を押すと、走行支援画面を表示してから数秒後にマイパイロット画面に切り替わります。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチのOKスイッチを押すと、メニュー画面を表示し、車線維持支援機能[LKA]のON・OFFを設定します。➔運転支援(P.54)をお読みください。	● マイパイロットについては、➔P.153をお読みください。
	速度標識	● 最高速度標識の認識状態を表示します。	● 最高速度標識認識については、（➔P.198）をお読みください。

各種設定画面

運転支援のON・OFF設定をはじめ、時計の調整やアラームの設定などができます。ステアリングスイッチの使いかたは（➔画面の切り替えかた (P.46)）をお読みください。

設定 ⚙（各種設定画面）

各種設定画面では、次の機能の設定ができます。ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、 ▲▼ スイッチで項目を選択します。 OK スイッチを押して決定することができます。

➔設定例1（メーター演出） (P.61)

➔設定例2（オイル） (P.61)

■ ASC

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、 ▲▼ スイッチで項目を選択します。 OK スイッチを押して決定することができます。

項目	機能
システム	● アクティブスタビリティコントロール[ASC]機能のON・OFFを設定します。 ➔ASCの停止のしかた (P.147)

■ 時計

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、 ▲▼ スイッチで項目を選択します。 OK スイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。

項目	機能
時計調整	時計を調整します。 ① OK スイッチを押すと「時」調整画面に切り替わります。 ② ▲▼ スイッチを押して「時」を調整します。 ③ OK スイッチを押すと「分」調整画面に切り替わります。 ④ ▲▼ スイッチを押して「分」を調整します。 ⑤ OK スイッチを押すと時刻が設定されます。 （ ⮌ スイッチを押すと前の調整画面に戻ります。）

項目	機能
12H/24H	● OKスイッチを押すと12時間表示、24時間表示を切り替えます。

■ 日付設定

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、 ▲▼ スイッチで項目を選択します。 OKスイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。

機能
日付を調整します。 ① OKスイッチを押すと「年」調整画面に切り替わります。 ② ▲▼スイッチを押して「年」を調整します。 ③ OKスイッチを押すと「月」調整画面に切り替わります。 ④ ▲▼スイッチを押して「月」を調整します。 ⑤ OKスイッチを押すと「日」調整画面に切り替わります。 ⑥ ▲▼スイッチを押して「日」を調整します。 ⑦ OKスイッチを押すと日付が設定されます。 （ ⮌スイッチを押すと前の調整画面に戻ります。）

■ 運転支援

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、 ▲▼ スイッチで項目を選択します。 OKスイッチを押して決定することができます。

項目 1	項目 2	機能
衝突被害軽減ブレーキ		● FCM、PFCW、EAPMのON・OFFを設定します。 ➔衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（歩行者・自転車運転者検知付） (P.173) ➔前方衝突予測警報[PFCW] (P.179) ➔踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM] (P.182)

項目1	項目2	機能
車線逸脱警報		● LDWのON・OFFを設定します。 ➔車線逸脱警報システム[LDW]／車線逸脱防止支援機能[LDP] (P.191)
車線逸脱防止支援★		● LDPのON・OFFを設定します。 ➔車線逸脱警報システム[LDW]／車線逸脱防止支援機能[LDP] (P.191)
MI-PILOT★	車線維持支援	● 車線維持支援機能[LKA]のON・OFFを設定します。 ➔マイパイロット★ (P.153)
先行車発進お知らせ		● LCDNの設定を、OFF、標準、早めから選択します。 ➔先行車発進通知[LCDN] (P.202)
速度標識表示		● 最高速度標識認識のON・OFFを設定します。 ➔標識認識システム[TSR] (P.198)
道路標識表示		● 進入禁止標識認識／一時停止標識認識のON・OFFを設定します。 ➔標識認識システム[TSR] (P.198)

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

項目 1	項目 2	機能
センサー	フロントセンサー	● フロントセンサーのON・OFFを設定します。 ➔パーキングセンサー（フロント/リヤ） (P.69)
	リヤセンサー	● リヤセンサーのON・OFFを設定します。 ➔パーキングセンサー（フロント/リヤ） (P.69)
	ボリューム	● ボリューム（警報音（ブザー））の大きさを、大、中、小から選択します。 ➔パーキングセンサー（フロント/リヤ） (P.69)
	センサー感度	● センサー感度を遠距離、中距離、近距離から選択します。 障害物までの最長距離が、110%（遠距離）、100%（中距離）、90%（近距離）で変更できます。 中距離を選択したときの障害物までの最長距離は（➔P.214）をご参照ください。 ➔パーキングセンサー（フロント/リヤ） (P.69)
	表示設定	● 障害物に近づいたときの、割り込み表示ON・OFFを設定します。 ➔パーキングセンサー（フロント/リヤ） (P.69)
ふらつき警報		● DAAのON・OFFを設定します。 ➔ふらつき警報[DAA] (P.196)

■ エコモード

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、 ▲▼ スイッチで項目を選択します。 OK スイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	機能
ECO情報設定	エコインジケータ	● エコインジケータのON・OFFを設定します。OFFにすると、エコインジケータが表示されなくなります。 ➔エコインジケータ (P.49)
	エコドライブレポート	● エコドライブレポートのON・OFFを設定します。OFFにすると、エコドライブレポートが表示されなくなります。 ➔エコドライブレポート (P.70)
燃費履歴		● 燃費履歴画面を表示します。 ● リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの OK スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、「はい」を選択し、再度ステアリングスイッチの OK スイッチを押すとリセットされます。 ➔エコドライブレポート (P.70)

■ 車両設定

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、 ▲▼ スイッチで項目を選択します。 OK スイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。

項目	機能
オートライト感度調整	● オートライトコントロール（フロントワイパー連動）の点灯タイミングを、より早い、早い、標準、遅いから選択します。 ➔AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた (P.133)
自動室内灯	● キー連動室内照明のON・OFFを設定します。 ➔ルーム&マップランプの使いかた (P.222)

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

項目	機能
車速連動ワイパー	● 車速連動機能のON・OFFを設定します。 ➔ フロントワイパーの使いかた (P.138)
ドアミラー自動開閉	● ドアロック連動自動格納機能のON・OFFを設定します。 ➔ ドアロック連動自動格納機能について (P.94)

■ メンテナンス

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、 ▲▼ スイッチで項目を選択します。 OK スイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。

項目	機能
オイル オイルフィルター タイヤ ユーザー	● ［メンテナンス］では、次回メンテナンスを行うまでの距離を設定できます。設定値を超えるとメンテナンスする距離がきたことを表示で知らせます。（定期交換部品等の交換距離については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。） — ▲▼スイッチで距離が切り替わり、OK スイッチを押すと決定します。（ ⮌ スイッチを押すと設定前の画面に戻ります。） — 500km～30,000kmまでの範囲内で距離を設定できます。 — 設定距離は500km単位で切り替わります。（長押しすると1,000km単位で切り替わります。） — リセットを選択して OK スイッチを押すとリセット画面が表示され、「はい」を選択して OK スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。 ● 機能を停止することができます。 — 停止する場合は、距離表示を「---」に合わせ OK スイッチを押し決定します。

■ スケジュール

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、 ▲▼ スイッチで項目を選択します。 OK スイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。日付設定（➔P.54）で日付を設定していない場合は、設定することができません。

項目 1	項目 2	機能
誕生日		● 誕生日や各種記念日の設定ができます。 ● 設定した日付になると、表示で知らせます。 ① OK スイッチを押すと「月」調整画面に切り替わります。 ② ▲▼ スイッチを押して「月」を調整します。 ③ OK スイッチを押すと「日」調整画面に切り替わります。 ④ ▲▼ スイッチを押して「日」を調整します。 ⑤ OK スイッチを押すと日付が設定されます。 （ ⮌ スイッチを押すと前の調整画面に戻ります。）
記念日	記念日1	
	記念日2	
車検日		● 車検日や点検日の設定ができます。 ● 設定した日付の約1か月前から表示で知らせます。 ① OK スイッチを押すと「年」調整画面に切り替わります。 ② ▲▼ スイッチを押して「年」を調整します。 ③ OK スイッチを押すと「月」調整画面に切り替わります。 ④ ▲▼ スイッチを押して「月」を調整します。 ⑤ OK スイッチを押すと「日」調整画面に切り替わります。 ⑥ ▲▼ スイッチを押して「日」を調整します。 ⑦ OK スイッチを押すと日付が設定されます。 （ ⮌ スイッチを押すと前の調整画面に戻ります。）
点検日		

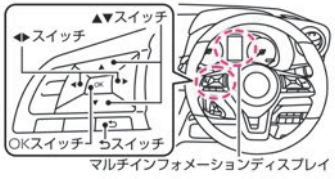
■ 画面カスタマイズ

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、 ▲▼ スイッチで項目を選択します。 OK スイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	機能
凍結注意		● 外気温が3℃以下になったときに表示する凍結注意表示のON・OFFを設定します。 ➔外気温度計 (P.40)
メーター演出	スイープ演出	● スイープ演出のON・OFFを設定します。 知識 **スイープ演出** ●エンジンを始動すると、スピードメーターの指針が一度最大値付近を指し、戻ります。
	ディスプレイ演出	● ディスプレイ演出のON・OFFを設定します。 OFFにすると、エンジン始動時のアニメーションが表示されなくなります。
走行時間	---分／---分	● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。 ▲▼スイッチで分が切り替わり、 OK スイッチを押すと決定します。 ― 最大360分まで設定できます。 ― 設定時間は30分単位で切り替わります。 （ ⮌ スイッチを押すと設定前の画面に戻ります。）
	リセット	「はい」を選択すると、走行した時間をリセットできます。
オートストップ&ゴー		● AS&Gガイダンス表示のON・OFFを設定します。 ➔AS&Gの使いかた (P.140)
ライトオフガイダンス		ライトスイッチを ≡D⊂/OFFの位置に回したとき、メーター内にポップアップを表示する機能のON・OFFを設定します。
工場出荷設定		工場出荷時の設定にリセットすることができます。 ● 「はい」を選択すると、各種設定が初期化されます。

設定例１（メーター演出）

1. ステアリングスイッチの◀▶スイッチを数回押し、［設定 ⚙ ］画面を表示します。



マルチインフォメーションディスプレイ

2. ステアリングスイッチの▲▼スイッチで、［画面カスタマイズ］を選択し、OKスイッチを押して決定します。

設定
画面カスタマイズ
⌄

3. ステアリングスイッチの▲▼スイッチで、［メーター演出］を選択し、OKスイッチを押して決定します。

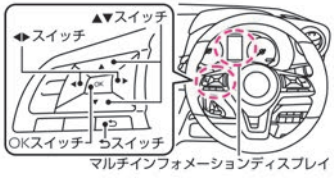
画面カスタマイズ
凍結注意 ☑
メーター演出
走行時間
オートストップ&ゴー ☑

4. ONにしたい項目を、ステアリングスイッチの▲▼スイッチで選択し、OKスイッチを押すと設定がONになります。

メーター演出
スイープ演出 ☑
ディスプレイ演出 ☑

設定例２（オイル）

1. ステアリングスイッチの◀▶スイッチを数回押し、［設定 ⚙ ］画面を表示します。



マルチインフォメーションディスプレイ

2. ステアリングスイッチの▲▼スイッチで、［メンテナンス］を選択し、OKスイッチを押して決定します。

設定
⌃
エコモード
車両設定
メンテナンス
スケジュール
⌄

3. ステアリングスイッチの▲▼スイッチで、［オイル］を選択し、OKスイッチを押して決定します。

メンテナンス
オイル
オイルフィルター
タイヤ
ユーザー

4. ステアリングスイッチのOKスイッチを押して変更画面に進みます。（「---km」の下側の表示）
※「---km」の上側は、設定以降走行した距離を表示します。

オイル
--- km
--- km
リセット

5. 次回メンテナンスを行う距離を設定できます。（手順4「---」下側の表示）
ステアリングスイッチの▲▼スイッチで、距離を切り替え、OKスイッチを押して決定します。
設定距離は500km単位で切り替わります。（長押しすると1,000km単位で切り替わります。）
※機能を停止する場合は、距離表示を「---」に合わせOKスイッチを押し決定します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

- 手順4でリセットを選択してステアリングスイッチのOKスイッチを押すとリセット画面が表示され、「はい」を選択しOKスイッチを押すと走行した距離をリセットできます。（「---」の上側の表示）

警告メッセージ

警告 ⚠

警告について

- 異常を検知するとメーター内のマスターウォーニング⚠が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに警告を表示します。
  警告を一時的に消すときは、OKスイッチを押します。
- 警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

確認のしかた

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、ステアリングスイッチの◀▶スイッチで、警告 ⚠ を選択すると、異常を検知している警告が確認できます。警告メッセージの表示画面については、（➔P.259）をお読みください。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.46）をお読みください。

シャシー制御

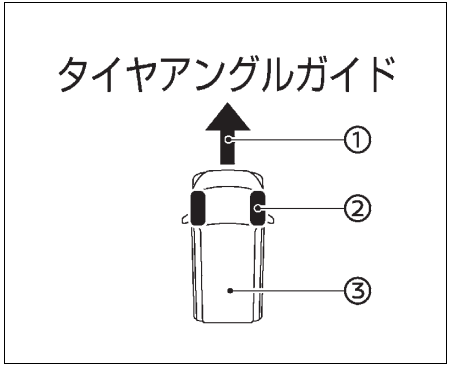
シャシー制御(表示項目)について

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで、シャシー制御を選択し、 ▲▼ スイッチを押すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.46）をお読みください。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	タイヤアングルガイド	● 前進時や後退時のタイヤの方向や角度と進行方向を確認することができます。	知識 ● タイヤアングルガイドについては、（➔P.64）をお読みください。
	グリップコントロール★	● グリップコントロールの作動状態を表示します。 ● グリップコントロール機能により、ブレーキ制御がかかっている車輪を青色に表示します。	知識 ● グリップコントロールについては、（➔P.146）をお読みください。
	ヒルディセントコントロール[HDC]★	● HDCの作動状態を表示します。 ● HDCが作動すると、車輪を青色に表示します。	知識 ● HDCについては、（➔P.148）をお読みください。

■ タイヤアングルガイドについて

●前進時や後退時のタイヤの方向や角度と進行方向を一目で確認することができます。



① 現在のセレクターレバー位置と前輪タイヤの向きで自車が進む方向を表示します。

② 前輪タイヤが向いている方向を表示します。

③ 自車を表します。

知識

● 12Vバッテリー（メイン）を外したときや、12Vバッテリー（メイン）があがったときは、タイヤアングルガイドを正しく作動させるために以下の操作を行ってください。

— 1. 周囲の安全を確認し、エンジンをかけます。

— 2. 停車したままハンドルを右にいっぱいに切り、その後左にいっぱいに切ります。

— 3. 正常に作動することを確認します。正常に作動しないときは、再度上記の操作を行ってください。

■ タイヤアングルガイドの表示例

●例1：セレクターレバーがP、R、N以外でハンドルを左に切っているとき、自車が左前方向に進むことを示しています。

●例2：セレクターレバーがRでハンドルを左に切っているとき、自車が左後ろ方向に後退することを示しています。

知識

● マルチインフォメーションディスプレイの設定でパーキングセンサーをONにしているときに、センサーが障害物を検知する、またはセレクターレバーをRにした場合、センサー表示画面が割り込み表示します。

センサー表示中にステアリングスイッチのOKスイッチまたは ⮌ スイッチを押すと、一時的にパーキングセンサーを停止できます。

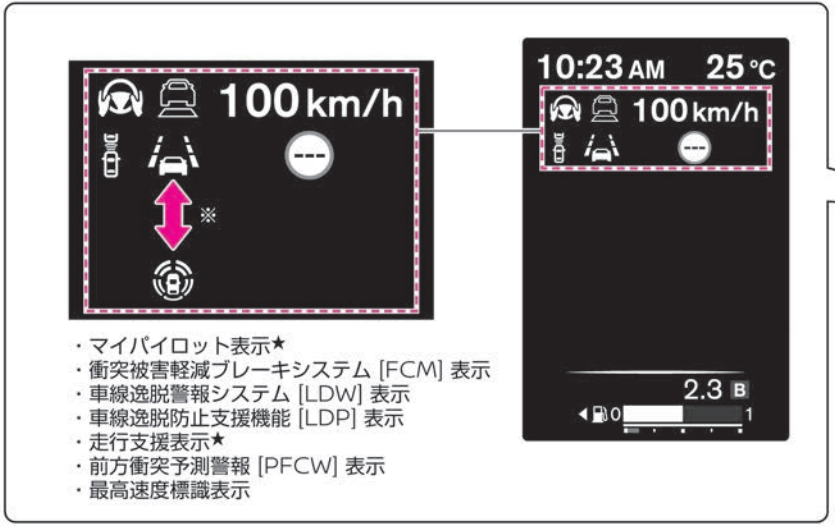
➔パーキングセンサー（フロント/リヤ） (P.69)

画面 OFF

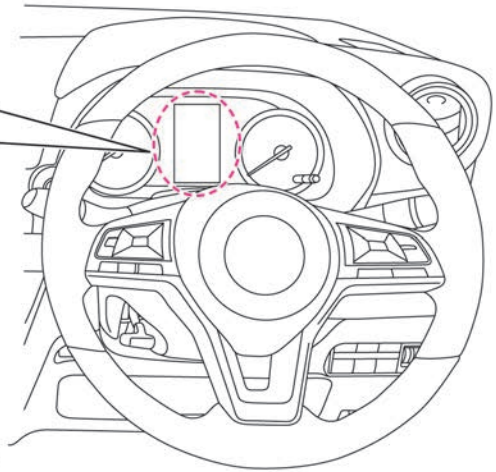
画面 OFF について

●マルチインフォメーションディスプレイの画面表示をOFFにすることができます。

走行支援機能表示



・マイパイロット表示★
・衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM] 表示
・車線逸脱警報システム [LDW] 表示
・車線逸脱防止支援機能 [LDP] 表示
・走行支援表示★
・前方衝突予測警報 [PFCW] 表示
・最高速度標識表示

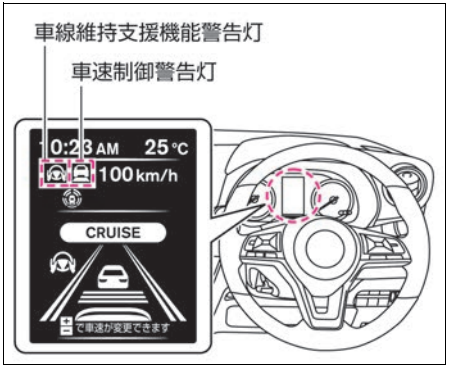


※ 作動している機能によって、表示が切り替わります。

マイパイロット表示★

- マイパイロットスイッチ をONにすると表示します。
- マイパイロットの作動状態を表示します。
- マイパイロットに異常があると、車線維持支援機能警告灯および車速制御警告灯がオレンジ色に点灯します。

マイパイロットについては、（P.153）をお読みください。



アドバイス

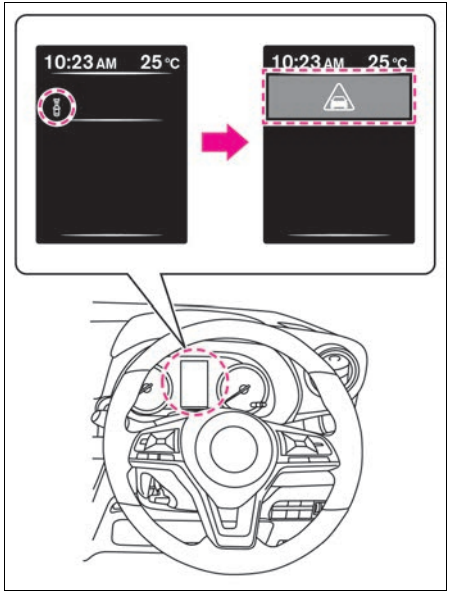
- 警告灯がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。

エンジン再始動後もオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM] 表示

- 衝突するおそれがあると判断すると、警報音（ブザー）とともにマルチインフォメーションディスプレイのFCM表示（接近警報表示）がオレンジ色に点滅します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突危険性が高まったときには、マルチインフォメーションディスプレイのFCM表示が赤色の緊急警報表示になり、警報音（ブザー）とともに軽いブレーキがかかります。
- さらに衝突の危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキがかかります。

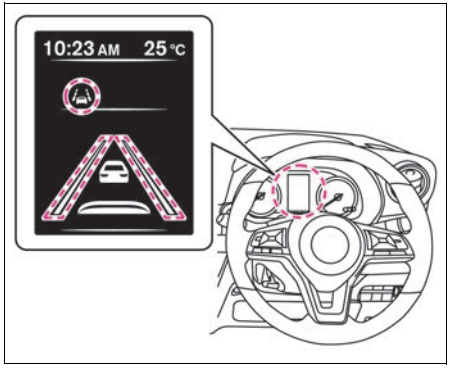
FCMについては、（P.173）をお読みください。



車線逸脱警報システム [LDW] 表示

●車両が右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、オレンジ色に点滅します。

LDWについては、（➔P.191）をお読みください。

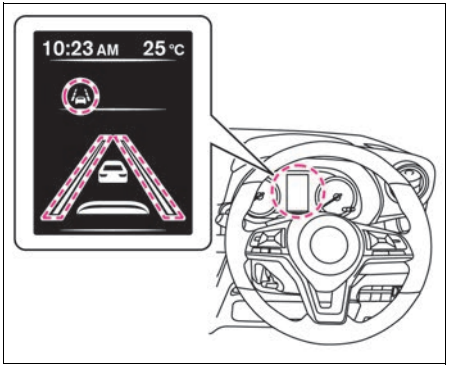


車線逸脱防止支援機能 [LDP] 表示

●車両が右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、オレンジ色に点滅します。

●LDPに異常があると、オレンジ色に点灯します。

LDPについては、（➔P.191）をお読みください。



アドバイス

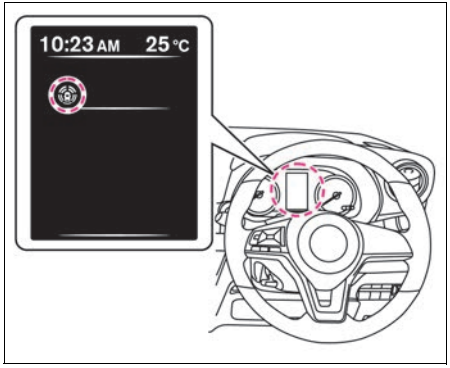
● 表示がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。

エンジン再始動後もオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

走行支援表示★

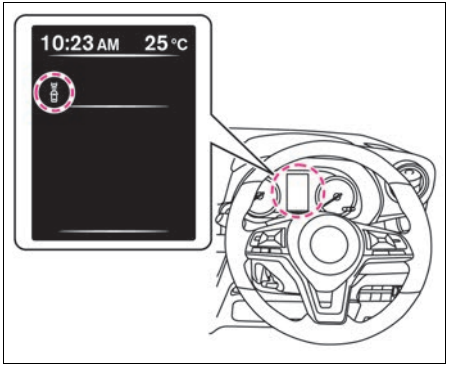
●走行支援スイッチを押して、システムがONになると白色で表示します。

車線逸脱防止支援機能[LDP]については（➔P.191）をお読みください。



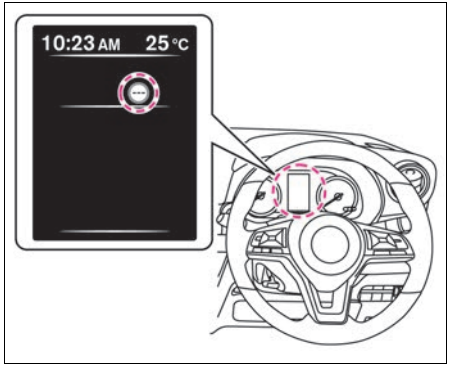
前方衝突予測警報 [PFCW] 表示

- 自車の回避操作が必要と判断すると、オレンジ色に点滅するとともに警報音を鳴らして、運転者に注意を促します。
- PFCWに異常があると、オレンジ色に点灯します。
  PFCWについては、（P.179）をお読みください。



最高速度標識表示

- フロントガラス上部にあるフロントカメラにより、最高速度標識を認識し表示します。
- 最高速度標識表示については、（P.198）をお読みください。



その他の表示機能

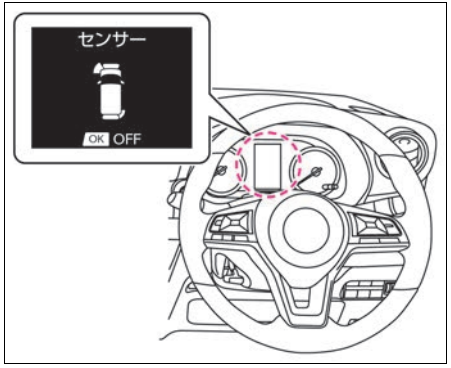
車両と障害物との距離感を、マルチインフォメーションディスプレイに表示することができます。

パーキングセンサー（フロント / リヤ）

- 車両が障害物に近づくと、マルチインフォメーションディスプレイのセンサー表示色が緑→黄→赤の順に切り替わり、警報音（ブザー）が鳴ります。

表示色	警報音（ブザー）
緑	ピッ、ピッ、ピッ・・・
黄	ピピピピピ・・・
赤	ピー

- 次の場合にパーキングセンサー（フロント/リヤ）が作動します。
  - セレクターレバーを**R**にしたとき
  - セレクターレバーが**D**または**L**（**Ds**）で障害物を検知したとき（10km/h 以下）
  - センサー表示中にステアリングスイッチの**OK**スイッチまたは ⮌ スイッチを押すと、一時的にパーキングセンサー（フロント/リヤ）を停止できます。
- ただし次の場合は、一時停止が解除されます。
  - セレクターレバーを**R**以外にしてから再度**R**にしたとき
  - 車両を12km/h以上で走行させたとき



知識

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「センサー」を選択すると、パーキングセンサーの各種設定が行えます。

  設定の詳細については、運転支援をお読みください。

  画面の切り替えかた (P.46)

  運転支援（P.54）
- センサーが障害物を検知すると、パーキングセンサー画面が割り込み表示します。割り込み表示はOFFにすることができます。

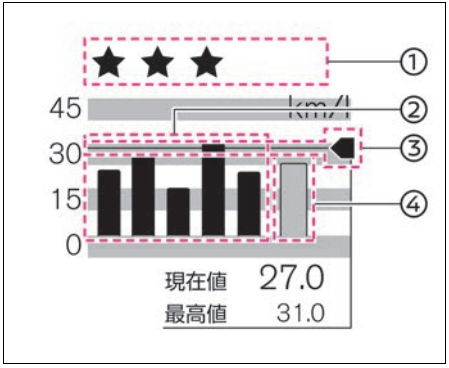
  運転支援（P.54）
- センサー表示の見かたについては、（P.214）をお読みください。

センサーのお手入れについては、（P.307）をお読みください。

エコドライブレポート

キースイッチ（電源ポジション）をOFFにするとエコドライブレポート画面を表示します。

エコ運転評価の結果表示は、約10分以上走行したときに表示します。



① **今回の評価**
エコドライブするほど★が増えます。
★は1～5段階で表示されます。

② **履歴**
過去5回分の平均燃費を表示します。

③ **最高値**
過去のベスト燃費を表示します。

④ **現在値**
今回の平均燃費を表示します。

知識

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「エコモード」⇒「ECO情報設定」を選択すると、エコドライブレポート表示のON・OFFを切り替えることができます。

  設定の詳細については、エコモードをお読みください。

  画面の切り替えかた (P.46)

  エコモード (P.57)
- 現在値が最高値を上回ると、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしたときに、「ベスト燃費を更新しますか？」と表示します。

  更新したいときは、ステアリングスイッチの ▲▼スイッチを押して［更新］を選択し、OKスイッチを押して決定します。

  ［いいえ］を選択すると、最高値は更新されず、エコドライブレポート画面に戻ります。

  スイッチの位置については（P.46）をお読みください。

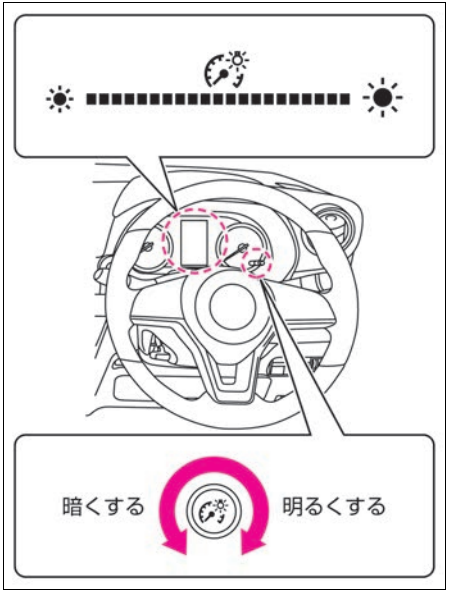
メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール

メーターの明るさ調節のしかた

キースイッチ（電源ポジション）がONのときに、メーター照明の明るさを調節できます。

- スイッチを左右に回して調節します。
- 右に回すと明るくなり、左に回すと暗くなります。
- 明るさのレベル表示は、メーター内のディスプレイに表示されます。



知識

- 明るさのレベルが最大または最小に達すると、音が鳴ります。
- 12Vバッテリー（メイン）を外すと調節した記憶は消去されます。

MEMO

キー

- キー（キーレスオペレーションキー）★ P.74
- キーレスオペレーションシステムに関する注意事項 P.75
- キー（キーレスエントリーキー）★ P.77
- キー（キーレスエントリーキー）に関する注意事項 P.78

ドアの施錠と解錠

- ドア P.79
- テールゲート P.82

シートの調節

- 前席シート P.84
- 後席シート P.86

ハンドルの調節

- ハンドル P.88

ミラーの調節

- 自動防眩ルームミラー（リヤビューモニター付）★ P.89
- デジタルルームミラー（マルチアラウンドモニター付）★ P.90
- ドアミラー P.94

窓ガラスの開閉

- パワーウインドウ P.96

燃料補給口の開閉

- 燃料補給口 P.98

エアコンの操作

- タッチパネル式フルオートエアコン★ P.100
- マニュアルエアコン★ P.104
- 吹き出し口 P.107
- エアコンを使うときに注意すること P.108

オーディオ

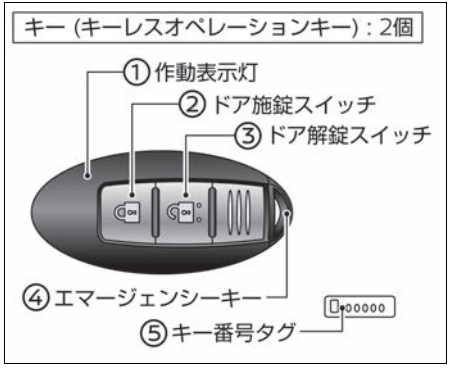
- オーディオ★の使いかた P.110
- ステアリングスイッチ P.111

キー（キーレスオペレーションキー）★

キーを携帯するだけでドア、テールゲートの施錠・解錠およびエンジン始動操作ができます。

ドアの施錠・解錠のしかたは（➔P.79）、始動操作は（➔P.114）をお読みください。

各部名称と機能



① **作動表示灯**
②または③のスイッチを押すと点滅します。

② **ドア施錠スイッチ**
スイッチを押すと、すべてのドアとテールゲートが施錠されます。

③ **ドア解錠スイッチ**
スイッチを押すと、すべてのドアとテールゲートが解錠されます。

④ **内蔵キー（エマージェンシーキー）**
キーの電池が切れたときや、12Vバッテリー（メイン）があがったときなどにドアの施錠・解錠ができます。

➔内蔵キー（エマージェンシーキー）でのドアの開けかた（P.244）

⑤ **キー番号タグ**
キーを紛失した場合、キー番号から三菱自動車販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。

知識

- キーは2個ついています。
- キーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 作動表示灯が点滅しない場合は、電池の消耗が考えられます。電池が切れた場合は、新しい電池と交換してください。

➔キー（キーレスオペレーションキー）★の電池交換（P.299）

- キーの電池が切れても、ドアの施錠・解錠やエンジンの始動を行うことができます。

➔ドアが開かないときは（P.244）

➔キーレスオペレーションキー★で始動できないときは（P.245）

- キーレスオペレーションシステムの機能のON・OFFを切り替えることができます。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

キーレスオペレーションシステムに関する機能について

アンサーバック機能

- ドアの施錠・解錠時に、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）
  アンサーバック機能のブザーを停止することができます。三菱自動車販売会社にご相談ください。

ウェルカムライト★

- ドアの施錠・解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）
  ウェルカムライトの設定を変更することができます。三菱自動車販売会社にご相談ください。

キー連動室内照明システム

- ドアを解錠すると、室内照明が約15秒間点灯します。
  詳しくは、室内灯（➔P.222）をお読みください。

オートロック機能

- 解錠スイッチを押してから約30秒以内にいずれかのドア、またはテールゲートを開けなかったときは、盗難防止のためす

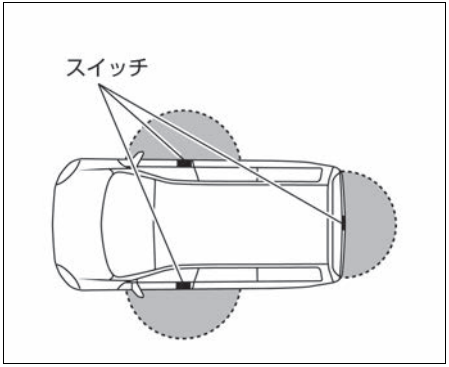
べてのドアとテールゲートが施錠されます。
（施錠されるまでの間に、再度解錠スイッチを押すと、その時点から約30秒後に施錠されます。）

ドアの施錠・解錠の作動範囲

作動範囲は各ドアハンドルのスイッチから周囲約80cm以内です。作動範囲は各ドアハンドルのスイッチを中心に球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。

キーが作動範囲内にある場合は、キーを携帯している人以外でもドアハンドルのスイッチを押して施錠・解錠できます。

- ドアハンドルのスイッチを押してドアを施錠したあとは、ドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- ドアハンドルのスイッチを押す前にドアハンドルを引かないでください。ドアは解錠されますが、開きません。一度ドアハンドルを離してから再び引いて開けてください。
- 車から離れるときは、盗難や事故防止のため、必ず電源ポジションをOFFにして施錠してください。

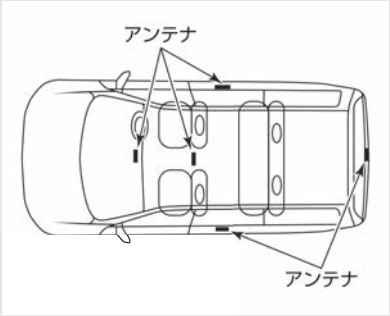


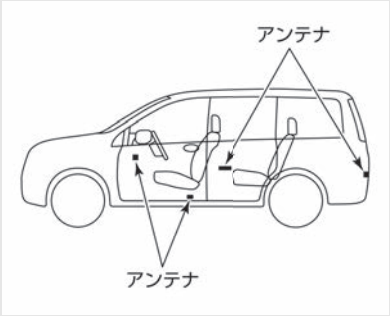
キーレスオペレーションシステムに関する注意事項

⚠ 警告

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

  ドアおよびテールゲート開閉時、ドアハンドルのスイッチ操作時、エンジン始動時などにキーレスオペレーションシステムの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。





- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  キーレスオペレーションシステムの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

- **航空機内ではキーのスイッチを押さない。**

⚠ 警告

万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。

アドバイス

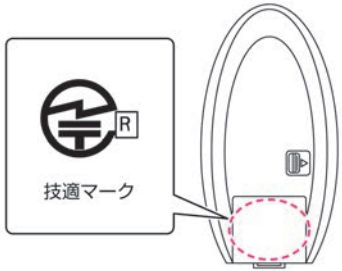
- キーは運転者が必ず携帯してください。
- キーは、必ず内蔵キー（エマージェンシーキー）を内蔵した状態で携帯してください。
- キーはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるときの衝撃により破損するおそれがあります。また、ドアポケット内に一緒に入れておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車室内に封じ込めるおそれがあります。
- インストルメントパネル上面、ドアポケット付近、グローブボックス内、フロア上では、キーが正常に作動しなかったり、車外から施錠ができ、キーを車室内に封じ込めたりするおそれがあります。
- キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに三菱自動車販売会社にご相談ください。

- キーは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起こるため、ドアハンドルのスイッチやキーのスイッチが正常に作動しない場合があります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備があるとき
  - 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
  - キーが金属製の物に接したり、覆われたりしているとき
  - 近くで電波式のリモコンスイッチを操作しているとき
  - キーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）
  - 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき
  - 極端に気温が低いとき（電池の性能が低下するため）
- キーは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
  - 電池を交換するとき以外は分解しない（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）
  - 日本国内のみで使用する

- キーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが約2年です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。

  ➔キー（キーレスオペレーションキー）★の電池交換 (P.299)
- キーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では、作動範囲が狭くなったり、作動しなかったりすることがあります。
- キーは送信機を内蔵している精密機械です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
  - 長時間高温になる場所に置かない
  - 分解しない
  - 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない
  - 水に濡らさない
  - 超音波洗浄器などにかけない
  - 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけない
  - テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない
- キーの認証技適マークはキーの裏面で確認できます。

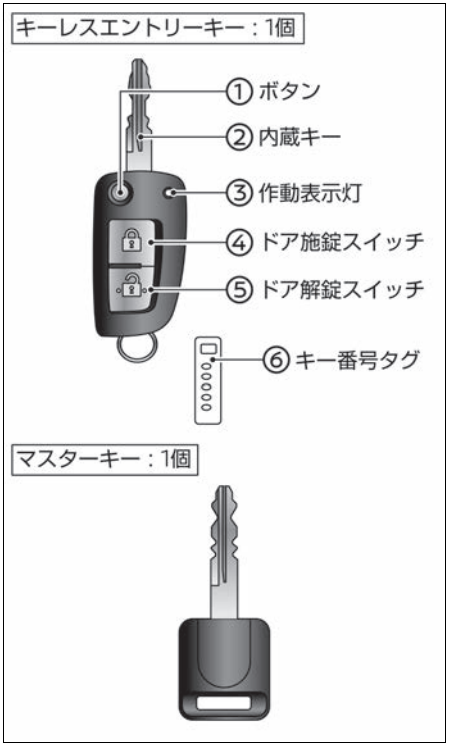
アドバイス



キー（キーレスエントリーキー）★

キーは離れたところ（約1m）から、すべてのドアとテールゲートの施錠・解錠ができます。

各部名称と機能



① **ボタン**
ボタンを押して、内蔵キーを出します。元に戻すときは、ボタンを押してロックを解除してからキーを元の位置にカチッと音がするまで押し込みます。

② **内蔵キー**
エンジンの始動時だけでなく、キーの電池が切れたときや、12Vバッテリー（メイン）があがったときなどにドアの施錠・解錠ができます。

③ **作動表示灯**
スイッチを押すと点滅します。

④ **ドア施錠スイッチ**
スイッチを押すと、すべてのドアとテールゲートが施錠します。

⑤ **ドア解錠スイッチ**
スイッチを押すと、すべてのドアとテールゲートが解錠します。

⑥ **キー番号タグ**
キーを紛失した場合、キー番号から三菱自動車販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。

アドバイス

- 内蔵キーを戻すときは、ボタンを押してから戻してください。無理に戻そうとすると、破損するおそれがあります。

知識

- キーは2個（キーレスエントリーキー1個とマスターキー1個）ついています。
- リモコンは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 作動表示灯が点滅しない場合は、電池の消耗が考えられます。電池が切れた場合は、新しい電池と交換してください。

➔キー（キーレスエントリーキー）★の電池交換 (P.300)

キー（キーレスエントリーキー）に関する機能について

アンサーバック機能

●ドアの施錠・解錠時に、作動確認のための非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）

キー連動室内照明システム

●ドアを解錠すると、室内照明が約15秒間点灯します。
詳しくは、室内灯（➔P.222）をお読みください。

オートロック機能

●解錠スイッチを押してから約30秒以内にいずれかのドア、またはテールゲートを開けなかったとき、またはキースイッチにキーを差し込まなかったときは、盗難防止のためすべてのドアとテールゲートが施錠されます。
（施錠されるまでの間に、再度解錠スイッチを押すと、その時点から約30秒後に施錠されます。）

キー（キーレスエントリーキー）に関する注意事項

警告

- **航空機内ではリモコンのスイッチを押さない。**
  万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。

アドバイス

- 周囲の状況によっては、作動する距離が変わることがあります。確実に作動させるためには、車両から約1mまで近づいてください。
- 極端に気温が低いとき、電池の性能が低下するため、システムが作動しない場合があります。
- リモコンは精密電子機器です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
  — 長時間高温になる場所に置かない
  — 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない
  — 水に濡らさない
- キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに三菱自動車販売会社にご相談ください。
- キーの認証技適マークはキーの側面で確認できます。

ドア

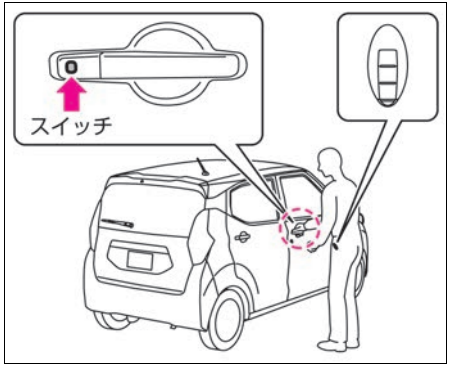
ドアハンドルのスイッチ★やキーのスイッチで施錠・解錠します。

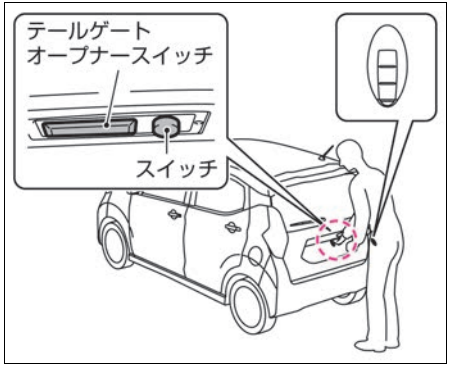
施錠したあとは、必ず施錠されていることを確認してください。

ドアハンドルのスイッチでの施錠・解錠のしかた（キーレスオペレーションシステム付車）

- キーを携帯し、運転席、助手席ドアまたはテールゲートにあるスイッチを押すと、すべてのドアとテールゲートが施錠・解錠します。
- キーが各スイッチから周囲80cm以内にあるときに作動します。
- 施錠・解錠したときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅





アドバイス

- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 急にドアハンドルを操作すると、ドアハンドルが引かれるため、施錠できないことがあります。

知識

- ドアハンドルのスイッチでの施錠・解錠機能のON・OFFを切り替えることができます。設定を切り替えたいときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 次のような場合は、作動しません。
  - 電源ポジションがONのとき（解錠のみできます）
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  - キーが施錠・解錠の作動範囲内にないとき
  - キーの電池が切れているとき

オートロック機能

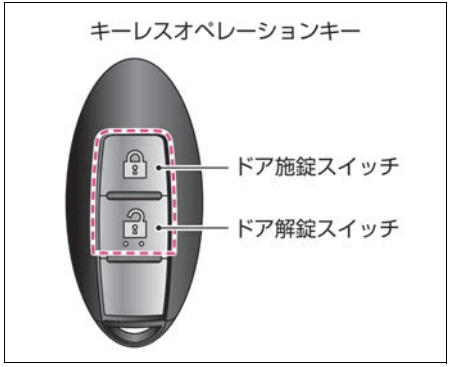
- 盗難防止のため、自動的に施錠する機能です。ドアハンドルのスイッチを押して解錠したときは、約30秒間ドアを開けないと再びすべてのドアとテールゲートが施錠されます。

キーのスイッチでの施錠・解錠のしかた

- すべてのドアとテールゲートを施錠するときは、ドア施錠スイッチ を押します。
- すべてのドアとテールゲートを解錠するときは、ドア解錠スイッチ を押します。
- 作動範囲は、車両から約1mです。

キーレスオペレーションシステム付車

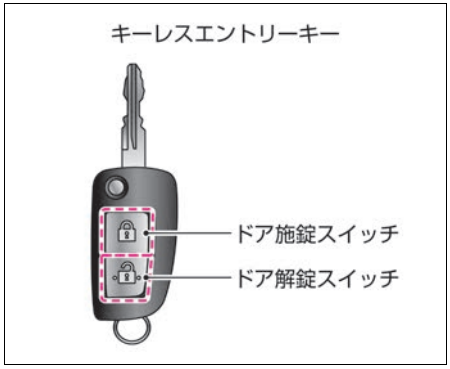
●施錠・解錠をしたときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。



	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅

キーレスエントリーシステム付車

●施錠・解錠をしたときは、非常点滅表示灯が次のように作動します。



	非常点滅表示灯
施錠	1回点滅
解錠	2回点滅

知識

- キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。三菱自動車販売会社にご相談ください。

  キー（キーレスオペレーションキー）★の電池交換 (P.299)

  キー（キーレスエントリーキー）★の電池交換 (P.300)

- キーの電池が切れ、施錠・解錠ができないときは、内蔵キー（エマージェンシーキー）で施錠・解錠ができます。

  内蔵キー（エマージェンシーキー）でのドアの開けかた (P.244)

- 次のような場合は、キーのスイッチを押しても作動しません。
  - 電源ポジションがONのとき（キーレスオペレーションシステム付車）
  - キーをキースイッチに差し込んでいるとき（キーレスエントリーシステム付車）
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき（解錠のみできます）
  - 車から離れすぎているとき
  - キーの電池が切れているとき

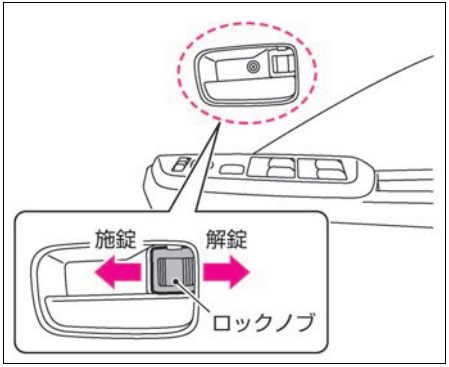
オートロック機能

- 盗難防止のため、自動的に施錠する機能です。ドア解錠スイッチを押して解錠したときは、約30秒間ドアを開けないと再びすべてのドアとテールゲートが施錠されます。

ロックノブでの施錠・解錠のしかた

●施錠するときは、施錠するドアのロックノブを施錠側に押し込みます。

●解錠するときは、解錠するドアのロックノブを解錠側に引きます。



知識

- 運転席のロックノブですべてのドアとテールゲートが施錠または解錠します。
- 運転席ドアは、施錠したままでもドアハンドルを引くとドアが開けられます。そのとき、すべてのドアとテールゲートが同時に解錠します。

キーを使用しない施錠のしかた

助手席、後席ドア

●ロックノブを押し込み、そのままドアを閉めます。

知識

- 運転席ドアが開いているときは、運転席ロックノブで施錠できません。

衝撃感知式ドアロック解除システム

●キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、車両が前後方向または側面から強い衝撃を受けるとシステムが作動し、約3秒後にすべてのドアとテールゲートが解錠されます。

●衝撃の強さなどによっては、作動しないことがあります。システム作動後にシステムを解除させる（ドアをロックする）には、一旦キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしてください。

チャイルドプルーフ

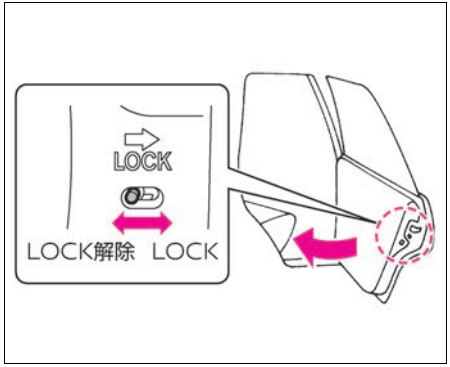
後席シートに乗せたお子さまなどが、誤って後席のドアを開けないようにロックできます。

ロックするには

●後席ドアにあるロックレバーをLOCK位置にしてドアを閉めます。

ドアを開けるには

●解錠しているとき、車外からドアハンドルを引きます。



知識

- 車室内から開けるときは、ドアロックノブが解錠していることを確認し、窓ガラスを下げ、手を外に出して車外のドアハンドルを引きます。

ドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **ドアの開閉はお子さまにはさせない。**

  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**

  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。

⚠ 警告

- **走行する前にドアを確実に閉める。**
  走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

テールゲート

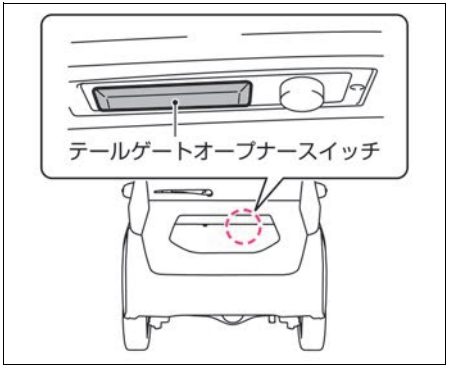
テールゲートの開けかた

キーレスオペレーションシステム付車

- 解錠されているときは、テールゲートオープナースイッチを押し、テールゲートを持ち上げます。
- 施錠されているときは、キーを携帯してテールゲートオープナースイッチを押し、テールゲートを持ち上げます。（ドアも同時に解錠します。）

キーレスエントリーシステム付車

- 解錠後、テールゲートオープナースイッチを押し、テールゲートを持ち上げます。

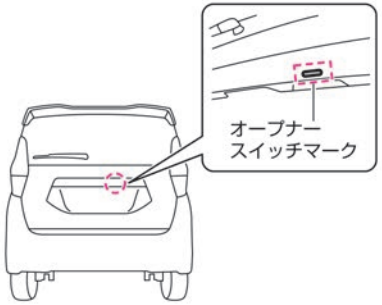


アドバイス

- テールゲートオープナースイッチを押したまま、リモコンでドアを施錠・解錠しないでください。故障の原因になります。
- 手を添えないと全開にならない場合は、ガスステーの保持力が低下しているおそれがあります。お近くの三菱自動車販売会社にて、早めの点検を受けてください。

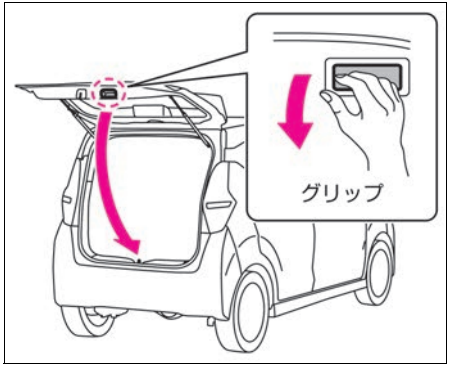
知識

- テールゲートオープナースイッチの位置を示すマークがあります。



テールゲートの閉めかた

- グリップに手を掛け、テールゲートを降ろし確実にロックするまで押し付けます。



アドバイス

- テールゲートを閉めるときは、ストライカーに異物を挟まないようにしてください。ストライカーやテールゲートのロックが破損し、テールゲートが閉まらなくなるおそれがあります。

テールゲートに関する注意事項

⚠ 警告

- **テールゲートの開閉はお子さまにはさせない。**

  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **テールゲートを開けるときは、周囲の安全を確認する。**

  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。

- **走行する前にテールゲートを確実に閉める。**

  走行中に突然テールゲートが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ラゲッジルーム（荷室）に人を乗せて走行しない。**

  急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **走行前にテールゲートが確実に閉まっていることを確認する。**

  テールゲートを開けたまま走行すると、車室内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **テールゲートや車体側に手を触れたままテールゲートを閉めない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。

- **テールゲートを閉めるときは、テールゲートのふちやその周辺に手をかけない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。必ず外から押して閉めてください。

- **テールゲートを開ける前に、テールゲートに付着した雪や氷、ゴミなどの重量物を取り除く。**

  重量物が付いたままテールゲートを開けると、重みで突然閉まるおそれがあります。

- **テールゲートを開けるときは、必ず全開にする。**

  途中で止めると突然閉まるおそれがあります。

- **風が強いときにテールゲートを開ける場合は特に注意する。**

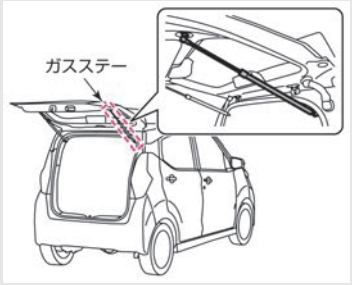
  風にあおられ、急に閉まることがあります。

- **テールゲートを閉めるときは、手などを挟まないように注意する。**

テールゲートガスステーについて

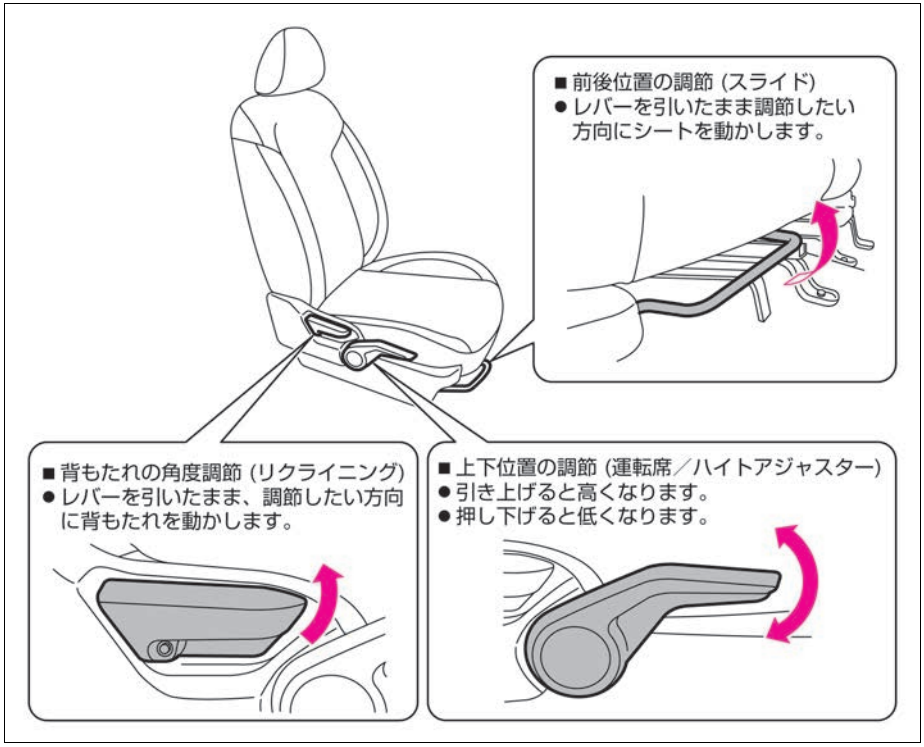
- **テールゲートのガスステーは、テールゲートの重量を支えるために取り付けられています。ガスステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことを守る。**
  - ガスステーに手やひもなどをかけたり、横方向に力をかけたりしない
  - ビニール片、ステッカー、接着剤などの異物をロッド部に付着させない
- **ガスステーを持って、テールゲートを閉めたり、ぶら下がったりしない。**

  手や腕を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。



前席シート

シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体に当たり思わぬケガをするおそれがあります。
- **シートの下に手を入れるときは注意する。**

⚠ 注意

車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たりケガをするおそれがあります。

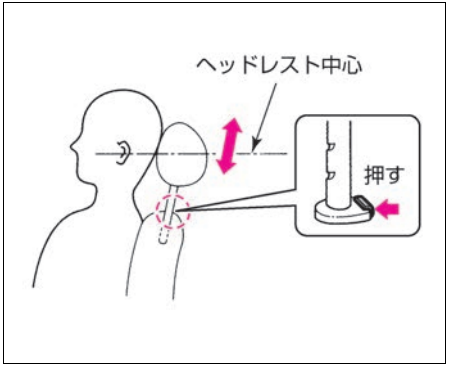
アドバイス

- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたり、クッションなどを使用すると、前席シートベルト非着用ウォーニング（➔P.253）が正常に作動しなくなるおそれがあります。

ヘッドレストの調節のしかた

ヘッドレストの中心が、耳の高さになる位置に調節します。

- 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。
- 低くするときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。



⚠ 警告

- **ヘッドレストを外したまま走行しない。**

  万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**

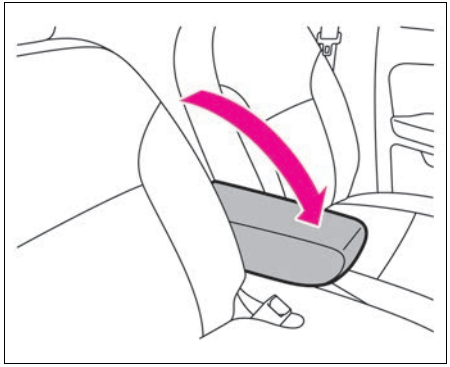
  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ヘッドレストを差し込みます。

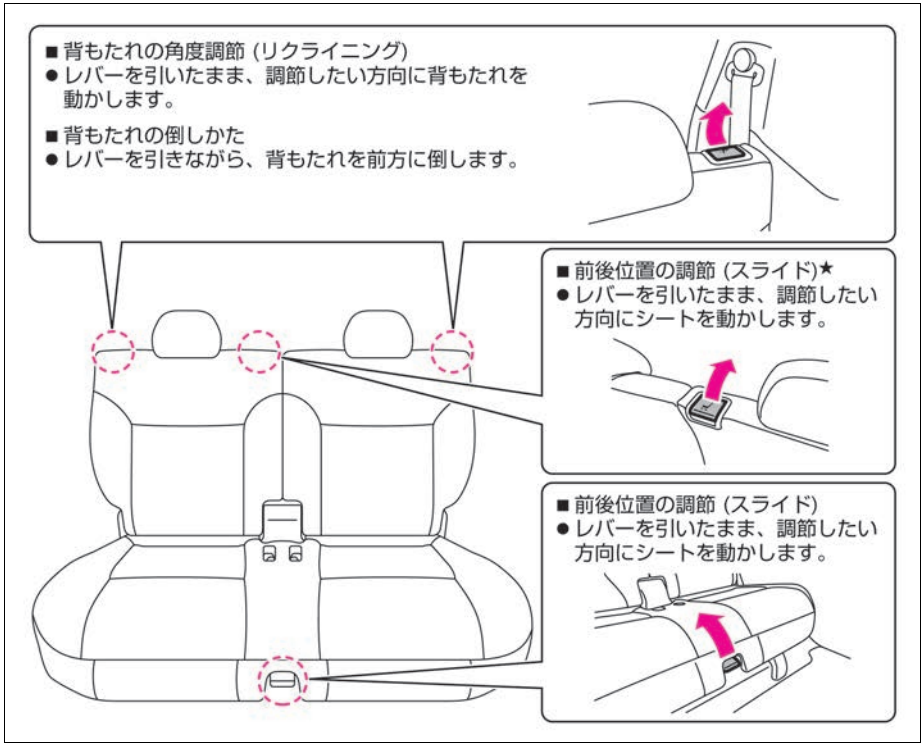
アームレストの使いかた

- 使うときはアームレストを前に倒します。格納するときは引き上げます。



後席シート

シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体に当たり思わぬケガをするおそれがあります。
- **シートの下に手を入れるときは注意する。**
  車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たりケガをするおそれがあります。

知識

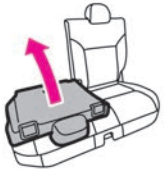
- 約15km/h以上で走行中、後席の乗員が着用しているシートベルトを外すと、後席シートベルト非着用ウォーニング（➔P.253）が作動します。

  後席乗員検知付車は、後席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、後席シートベルト非着用ウォーニングが作動します。

シートの折りたたみかた

1. 折りたたみたいシートの背もたれの角度調節レバーを引きながら、背もたれを前に倒します。

2. 元に戻すときは、背もたれを起こし、手で後方に押し付けてロックします。



警告

- **シートは必ず固定する位置で使用する。**

注意

- **シートを折りたたんだとき、折りたたんだ背もたれの上に乗らない。**

  シートを損傷したり、転んだりして思わぬケガをするおそれがあります。
- **背もたれを起こすときは、背もたれを手で押さえ、ゆっくり戻す。**

  急に戻すと顔や身体などに当たり、思わぬケガをするおそれがあります。
- **背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれで挟み込んでいないことを確認する。**

  挟み込まれていると、シートベルトが正しく着用できません。

アドバイス

- 物や飲物などを置いたままシートを折りたたむと、物を壊したり車室内を汚すおそれがあります。シートを倒すときは十分に注意してください。
- ラゲッジルーム（荷室）に荷物を積むときは、シートベルトに傷をつけないように注意してください。
- 前席シートに当たりシートが折りたためないときは、ヘッドレストを格納するか、前席シートの前後位置を調節してください。

ヘッドレストの使いかた

●ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。

— 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。

— 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。

アドバイス

- 後席シートのヘッドレストは、格納状態では機能が十分に発揮できません。ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してください。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

●脱着のしかたは、前席シートと同じです。

➔ヘッドレストの外しかた、付けかた (P.85)

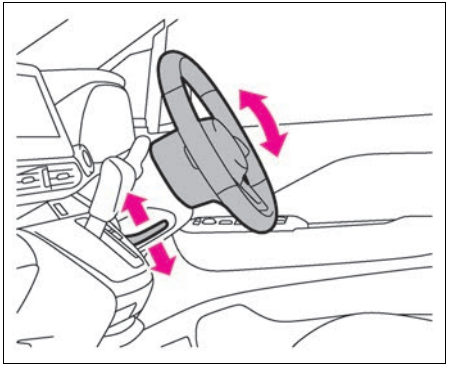
ハンドルの調節

ハンドル

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドル位置を調節します。

ハンドル位置の調節のしかた

- ハンドル左下のレバーを押し下げ、ハンドルを上下に動かします。
- 適切な位置で止め、レバーを引き上げて固定します。



⚠ 警告

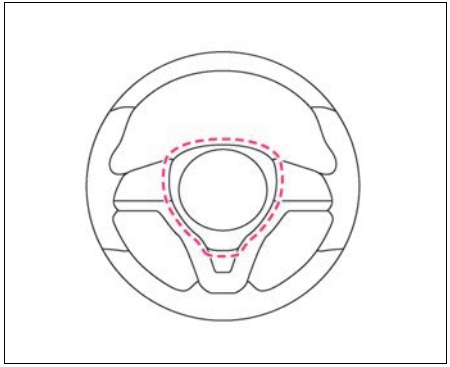
- **ハンドルの調節は、必ず走行前に行う。**

  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**

  ハンドル位置が固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ホーンの鳴らしかた

ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。

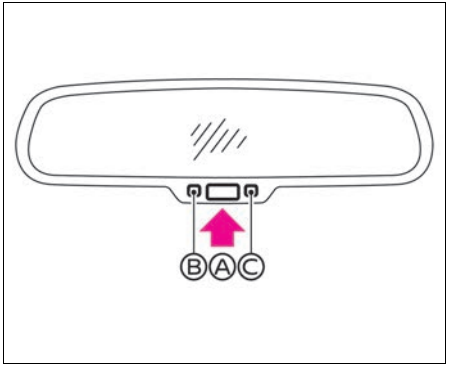


自動防眩ルームミラー（リヤビューモニター付）★

自動防眩ルームミラーは、後続車両のヘッドライトの明るさに応じて反射率を調整します。キースイッチ（電源ポジション）をONにすると作動します。

自動防眩ルームミラーの使いかた

●システムが作動状態になるとインジケーターⒷが点灯し、後続車両のヘッドライトによる眩しさを軽減します。



●スイッチⒶを押すとルームミラーは標準作動状態になり、インジケーターが消灯します。スイッチを再び押すと、自動防眩システムが作動します。

●セレクターレバーを**R**に入れると、モニターには車両後方が映し出されます。

➔リヤビューモニター★ (P.204)

⚠ 警告

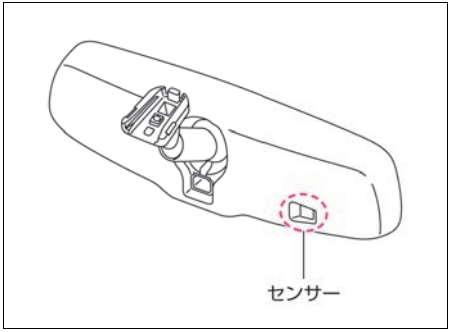
- **ミラーの調節は走行前、防眩への切り替えは必要なときのみ行う。**
  思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ルームミラーに物をかけたり、ガラスクリーナーを使用したりしない。**
  センサーⒸの感度が低下し、作動不良の原因となる場合があります。

アドバイス

- ミラーを90度以上回転させないでください。配線が断線するおそれがあります。

知識

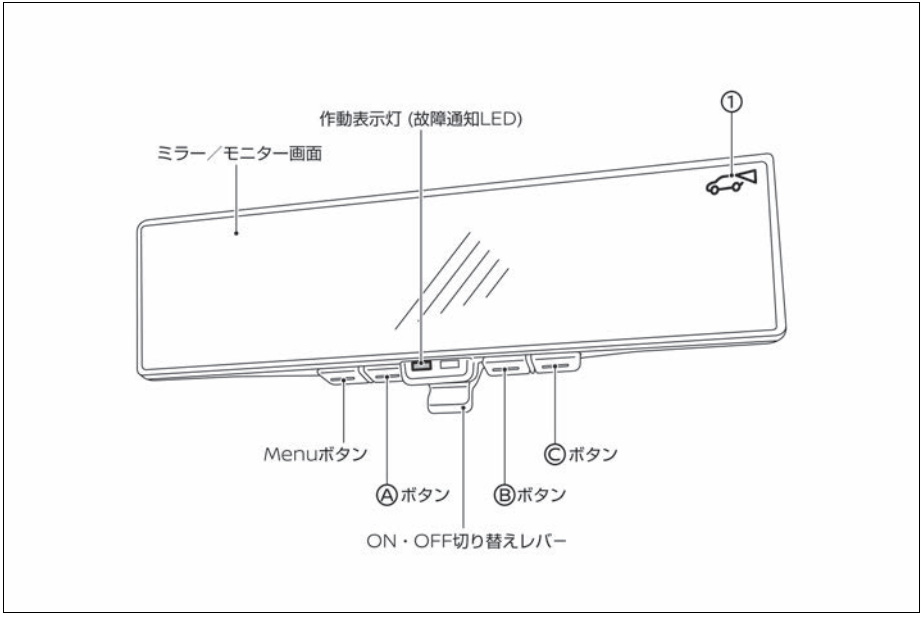
- リヤビューモニターを表示中は、防眩システムの作動、非作動の切り替えはできません。
- 自動防眩システムを非作動状態にしてエンジンを停止しても、再度エンジンを始動すると自動防眩システムは作動状態になります。
- ミラー裏側にあるセンサーをドライブレコーダーなどでふさがないでください。防眩機能が作動しない場合があります。



デジタルルームミラー（マルチアラウンドモニター付）★

乗員、ヘッドレスト、積載物などでさえぎられがちなルームミラーの後方視界をクリアに保ちます。車内の状況に関わらず、車両後方にあるカメラの画像をルームミラーに映し出します。ON・OFF切り替えレバーでミラー状態とモニター表示状態を切り替えることができます。デジタルルームミラーモードのとき、マルチアラウンドモニター（➔P.208）を表示させることができます。

デジタルルームミラーの使いかた



Menuボタン：調節する項目を表示
Ⓐボタン・Ⓑボタン：項目選択および調節
Ⓒボタン：決定

⚠ 注意

- **走行前に、ルームミラーの調節を必ず行う。**

  ルームミラーモード（ミラー状態）にして正しい姿勢で運転席に座り、後方がよく見える位置に調節してください。調節をしないで運転を始めると、デジタルルームミラーモード（モニター表示状態）にしたときにミラーの反射でモニターが見えにくくなる場合があります。

📖 知識

- 各ボタンは下側から上方向に押します。

ルームミラーモード

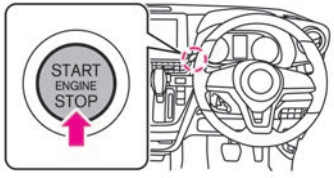
- ミラーとして使用します。

デジタルルームミラーモード

- モニターとして使用します。

  （デジタルルームミラーモードのときは、①が表示されます。）

1. 電源ポジションをONにします。



2. デジタルルームミラーのON・OFF切り替えレバーを手前に引きます。（作動表示灯（故障通知LED）が点灯）

3. デジタルルームミラーモードに切り替わり、モニターに車両後方の画像が表示されます。
デジタルルームミラーのON・OFF切り替えレバーを車両前方側へ倒すと、モニター画面がOFFになり、ルームミラーモードとして使用できます。

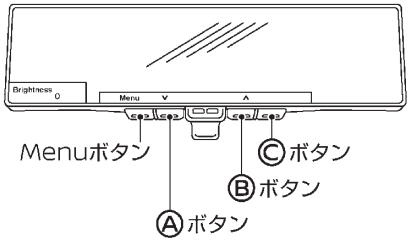
知識

- 周囲の明るさにより見づらかったり、眩しく感じたときはデジタルルームミラーモードをOFFにし、ルームミラーモードでご使用ください。

- 電源ポジションがONのときにⒶボタンを押すと、マルチアラウンドモニター画面が表示されます。

➔マルチアラウンドモニター（移動物検知機能付）★ (P.208)

デジタルルームミラーの画質調節



デジタルルームミラーモード（モニター表示）で、マルチアラウンドモニター画面を表示していないときにMenuボタンを押すと、各種調節ができます。

Menuボタンを押すと調節できる項目が表示されます。Ⓐボタン・Ⓑボタンで選択し、Ⓒボタンで調節する項目を決定します。

■ Brightness（明るさ）

モニター画像の明るさを調節します。

（周囲の明るさにより、画面の明るさが調節できなくなる場合があります。）

- Ⓐボタンを押すと、画面が暗くなります。
- Ⓑボタンを押すと、画面が明るくなります。
- 調節幅：-8（暗い）～+8（明るい）

■ Down/Up（下／上）

モニター画像の上下位置を調節します。

- Ⓐボタンを押すと、画像が下に移動します。
- Ⓑボタンを押すと、画像が上に移動します。
- 調節幅：-8（下方向）～+8（上方向）

■ Left/Right（左／右）

モニター画像の左右位置を調節します。

- Ⓐボタンを押すと、画像が左に移動します。
- Ⓑボタンを押すと、画像が右に移動します。
- 調節幅：-8（左）～+8（右）

■ Rotation（回転）

モニター画像位置の回転調節をします。

- Ⓐボタンを押すと、画像が左に回転します。
- Ⓑボタンを押すと、画像が右に回転します。
- 調節幅：-8（左回り）～+8（右回り）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ Indication（インジケーター）

モニター文字表示の表示・非表示を設定します。

- Ⓐボタンを押すと、モニター文字表示が非表示になります。
- Ⓑボタンを押すと、モニター文字表示が表示されます。

■ Language（言語）

表示させる言語を切り替えます。

- Ⓐボタン・Ⓑボタンで選択し、Ⓒボタンで決定します。

■ Switch Backlight（スイッチ照明）

スイッチの照明のON・OFFを設定します。

- Ⓐボタンを押すと、スイッチの照明がOFFになります。
- Ⓑボタンを押すと、スイッチの照明がONになります。

■ License（ライセンス）

ライセンス情報が表示されます。

デジタルルームミラー使用時の注意事項

本製品には、次のソフトウェアが含まれています。

①パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社（「パナソニック」）により、またはパナソニックのために開発されたソフトウェア

②パナソニックにライセンスされた第三者所有のソフトウェア

③オープンソースソフトウェア

上記③に分類されるソフトウェアには、下記WEBサイトに記載されているライセンス情報が適用される様々なソフトウェアを含むオープンソースソフトウェア（OSS）が含まれています。

http://car.panasonic.jp/oss/n03pkdl6

⚠ 警告

- **走行前に、ルームミラーの調節を必ず行う。**

  ルームミラーモード（ミラー状態）にして正しい姿勢で運転席に座り、後方がよく見える位置に調節してください。調節をしないで運転を始めると、デジタルルームミラーモード（モニター表示状態）にしたときにミラーの反射でモニターが見えにくくなる場合があります。

- **デジタルルームミラーモードのときに作動表示灯（故障通知LED）が消灯したら、すみやかにルームミラーモードに切り替える。**

  再度デジタルルームミラーにしても点灯しない場合、システムの異常が考えられます。三菱自動車販売会社にご相談ください。

- **あらかじめ死角範囲を確認する。**

  デジタルルームミラーには死角があります。システムを過信せず、安全運転を心がけてください。

- **ミラー本体やカメラ、配線を分解したり改造したりしない。**

  異臭がする、煙が出るなどした場合は、ただちに使用を中止し三菱自動車販売会社にご相談ください。

- **走行中に操作しない。**

  走行中に操作を行うと、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ミラー本体、カメラ、配線類にはタバコなどの火気を近づけない。**

  破損や車両火災の原因となります。

- **デジタルルームミラーが故障したときは、すぐにルームミラーモードに戻す。**

- **モニターを凝視しない。**

  — 前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

  — 同乗者が凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

- **太陽や後方車両のヘッドライトなどの強い光源がカメラに入ると、デジタルルームミラーのモニターに光のスジが入ったり、明るい光源がモニター上に広がったりする場合があります。その際には、必要に応じてルームミラーモードに戻してご使用ください。**

ミラーの調節

アドバイス

- エンジンが停止している間にデジタルルームミラーを長時間使用すると12Vバッテリー（メイン）があがるおそれがあります。
- 無線機のアンテナをデジタルルームミラー近くに取り付けないでください。無線機の電波により、デジタルルームミラーの映像に乱れが出ることがあります。
- ボタンを強く押しすぎたり、レバーを強く操作したりすると故障の原因となります。また、ミラー本体が落下するおそれがあります。
- ミラーを上下20度、左右30度以上回転させないでください。配線が断線するおそれがあります。
- ミラー本体に強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 車両後方についているカメラやカメラカバーに無理な力をかけないでください。カメラが外れたり、故障するおそれがあります。
- 外部光による影響でモニターが見えにくいときは、ルームミラーモード（ミラー状態）にして使用してください。
- LED光源を使用した照明の一部が映った場合、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 外部環境の乱反射により、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 素早い動きにはモニター表示が追従できない場合がありますが、故障ではありません。
- ルームミラーとは後方の見えかたが異なります。デジタルルームミラーの機能を過信せず、直接後方を確認するなど、責任のある運転を心掛けてください。
- モニターの明るさを明るく調節し過ぎると、運転中に目が疲れることがあります。明るさを適切に調節してください。
- 雨天時はリヤワイパーを併用してください。リヤワイパーを併用してもカメラ映像が不鮮明の場合、リヤワイパーゴムの劣化を確認してください。
- リヤワイパー使用中は、カメラ前をリヤワイパーが通過した際に、画面がちらつくように見える場合がありますが、故障ではありません。
- カメラ映像が不鮮明な場合は、デジタルルームミラーカメラ前面のテールゲートガラスを清掃してください。清掃してもカメラ映像が不鮮明な場合は、ガラス面に油膜が付いているおそれがあります。油膜取りを使用して清掃してください。

➔外観リヤ (P.4)

➔デジタルルームミラー★のお手入れ (P.309)

- テールゲートガラスがくもった場合は、リヤデフォッガーを使用し、テールゲートガラスのくもりを取ってください。くもりが完全に取れるまでルームミラーモードで使用してください。
- デジタルルームミラーのモニターが熱を帯び、高温になることがありますが、故障ではありません。
- 遠いものや暗いときは色が認識しにくいことがありますが、故障ではありません。
- デジタルルームミラーのお手入れについては（➔P.309）をお読みください。
- 運転者の体調などによりデジタルルームミラーモードの映像に焦点が合うまでに時間を要する場合があります。
- デジタルルームミラーの前方をふさがないでください。モニターの明るさ調整やカメラ映像の切り替えができないことがあります。
- デジタルルームミラーモードのとき、デジタルルームミラーが高温になると明るさが低下したり、映像が表示されなかったりする場合があります。
- デジタルルームミラーモードのとき、デジタルルームミラーが低温になるとカメラ映像が遅れることがあります。

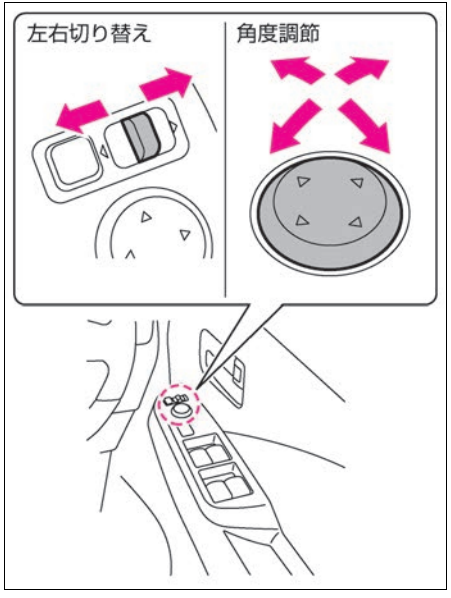
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ドアミラー

キースイッチ（電源ポジション）がONまたはOFF（ACC状態）のときに操作できます。ACC状態については、ACC電源オートオン/オフ機能（P.119）をお読みください。

ドアミラーの角度調節のしかた

- 左右切り替えスイッチを、調節したいミラーの方に動かします。
- 角度調節スイッチを前後左右に押して、鏡面角度を調節します。



⚠ 警告

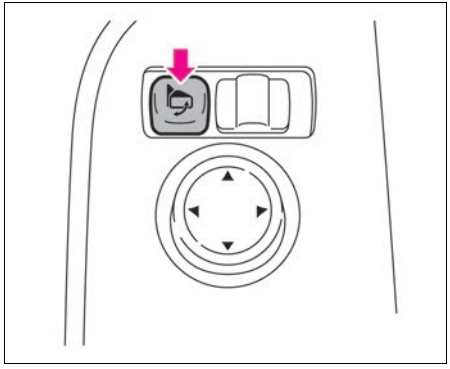
- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中にミラーを調節すると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ミラーの映像は実際より遠くに見えるので注意してください。

ドアミラーの格納のしかた

- スイッチを押すと、左右のミラーが格納します。
- スイッチをもう一度押すと、元の位置に戻ります。



⚠ 注意

- **ミラーが動いているときは手を触れない。**
  手を挟む、またはミラーが故障するおそれがあります。
- **ミラーを格納したまま走行しない。**
  後方確認ができないため危険です。

アドバイス

- 手動でミラーを開閉しないでください。手動で開閉すると、走行中にミラーが規定位置より前方または後方に倒れ、後方確認ができなくなるおそれがあります。手動で開閉してしまったときは、走行前にスイッチで開閉操作を行ってください。

知識

- スイッチ操作を連続して行うと、途中で停止することがありますが、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。
- 手動で開閉すると、キースイッチ（電源ポジション）をONにしたときに、スイッチの位置によりミラーが動き出すことがあります。

ドアロック連動自動格納機能について

ドアの施錠に連動させ、ミラーを格納することができます。ドアミラー格納スイッチが押し込まれていない状態で使います。

ミラーの調節

●リモコンまたは、ドアハンドルのスイッチ★で施錠すると、左右のミラーが格納されます。
●キースイッチ（電源ポジション）をONにすると、元に戻ります。

📖 知識

- ドアミラー格納スイッチが押し込まれているときは、ドアロック連動自動格納機能は作動しません。
- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ドアミラー自動開閉」を選択すると、ドアロック連動自動格納機能のON・OFFを切り替えることができます。

  設定の詳細については、車両設定をお読みください。

  ➔画面の切り替えかた (P.46)

  ➔車両設定 (P.57)

ヒーテッドドアミラーの使いかた

●キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、リヤデフォッガースイッチ（➔P.275）をタッチする（押す）と、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりを取ります。

パワーウインドウ

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき操作できます。

パワーウインドウの開けかた、閉めかた

運転席のスイッチで、各席の窓ガラスの開閉ができます。助手席のスイッチおよび後席のスイッチでは自席の窓ガラスの開閉ができます。

開けるには

●スイッチを軽く押すと、押している間だけ開きます。

閉めるには

●スイッチを軽く引き上げると、引き上げている間だけ閉まります。

自動開閉するには

運転席の窓ガラスはワンタッチで自動開閉できます。

●スイッチを強く押すと全開します。

●スイッチを強く引き上げると全閉します。

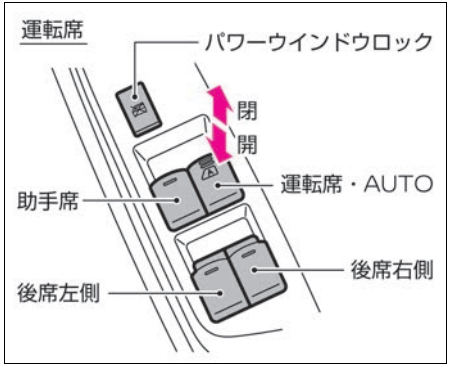
●途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引き上げます。

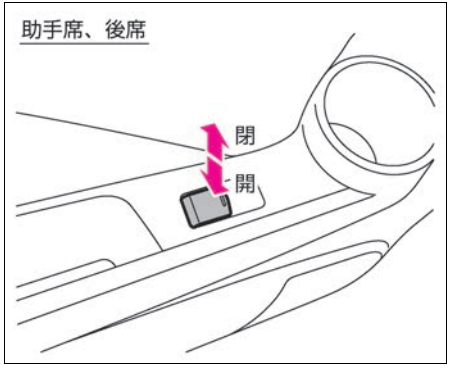
開閉操作をロックするには

お子さまが誤って窓ガラスを開閉することを防止できます。

●パワーウインドウロックスイッチを押し込むと、運転席以外の窓ガラスの開閉ができなくなります。

●スイッチを押し戻すとロックが解除されます。





⚠ 警告

● 乗員の操作を含めすべての窓ガラス開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。

— 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながったりするおそれがあります。

— 窓ガラスを開閉するときは、窓から手や顔などを出したり、故意に挟み込み防止機構を働かせたりしないでください。手や顔、腕などを窓ガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害につながるおそれがあります。

— お子さまにはパワーウインドウを操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあるため、パワーウインドウロックスイッチを押し込んでください。

— 窓ガラスを開閉するときはお子さまに声をかけ、手や腕などが窓ガラス付近にないことを確認してから操作を行ってください。

— 車から離れるときはキースイッチ（電源ポジション）をOFFにし、キーとお子さまを車内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

キーOFF後作動機構

- 運転席の窓ガラスは、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしたあとでも、約15分間は開閉することができます。ただし、その約15分間に運転席ドアまたは助手席ドアを開けると、窓ガラスの開閉はできなくなります。

挟み込み防止機構

●運転席の窓ガラスをワンタッチで閉めているとき、車体と窓ガラスの間に異物が挟まると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し開きます。

⚠ 注意

- **指などを挟まれないように注意する。**

  窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

知識

- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。
- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを上側へ引き続けて閉めてください。

正常に作動しないとき

運転席窓ガラスのワンタッチ開閉、挟み込み防止機構、キーOFF後作動機構が正常に作動しないときは、次の操作を行い初期設定してください。

① エンジンを始動します。
② スイッチを押して、窓ガラスを全開にします。
③ スイッチを引き上げ続け、窓ガラスが全閉して3秒以上たってから手を離します。
④ 正常に作動することを確認し、正常に作動しないときは、早めに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 初期設定を行うときは、ドアを閉めて操作してください。

燃料補給口の開閉

燃料補給口

燃料補給口は助手席側の車両後方にあります。

燃料の補給

燃料タンクの容量は約27 ℓ です。

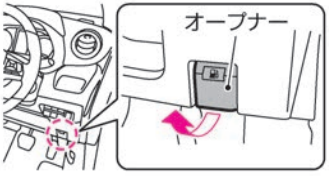
適用	指定燃料
ターボ無車	無鉛レギュラーガソリン
ターボ付車	

アドバイス

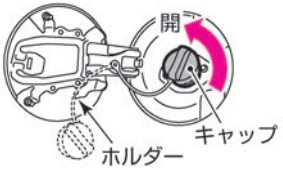
- 指定以外の燃料は補給しないでください。

開けかた、閉めかた

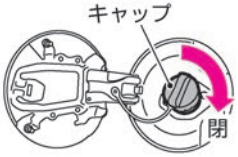
1. 運転席右下にあるオープナーを引きリッドを開けます。



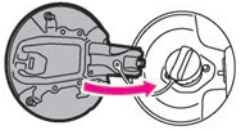
2. キャップを左にゆっくり回して開けます。
補給時、キャップのひもはリッド裏側のホルダーに引っ掛けます。



3. 閉めるときは、キャップを"カチッ、カチッ"と、3回以上音がするまで右に回して閉めます。



4. リッドを閉めます。



警告

- **キャップは確実に閉める。**
閉まっていないと走行中に燃料が漏れ、火災につながるおそれがあります。
- **三菱自動車純正品以外のキャップは使用しない。**

燃料補給時の注意事項

警告

- **燃料補給時は、次のことを必ず守る。**
  - ― エンジンを止める
  - ― 車のドアや窓を閉める
  - ― タバコなどの火気を近づけない
  - ― 気化した燃料を吸わない
- **補給作業を行う前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去する。**
放電による火花でやけどをしたり、燃料に引火したりするおそれがあります。
- **補給作業はひとりで行う。**
作業中に車室内に戻ったり、帯電している人や物に触れると再帯電するおそれがあります。
- **キャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外す。**
急に開けると、燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- **給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。**
給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。
- **給油ノズルの自動停止後は、給油の継ぎ足しをしない。**

燃料補給口の開閉

⚠ 警告

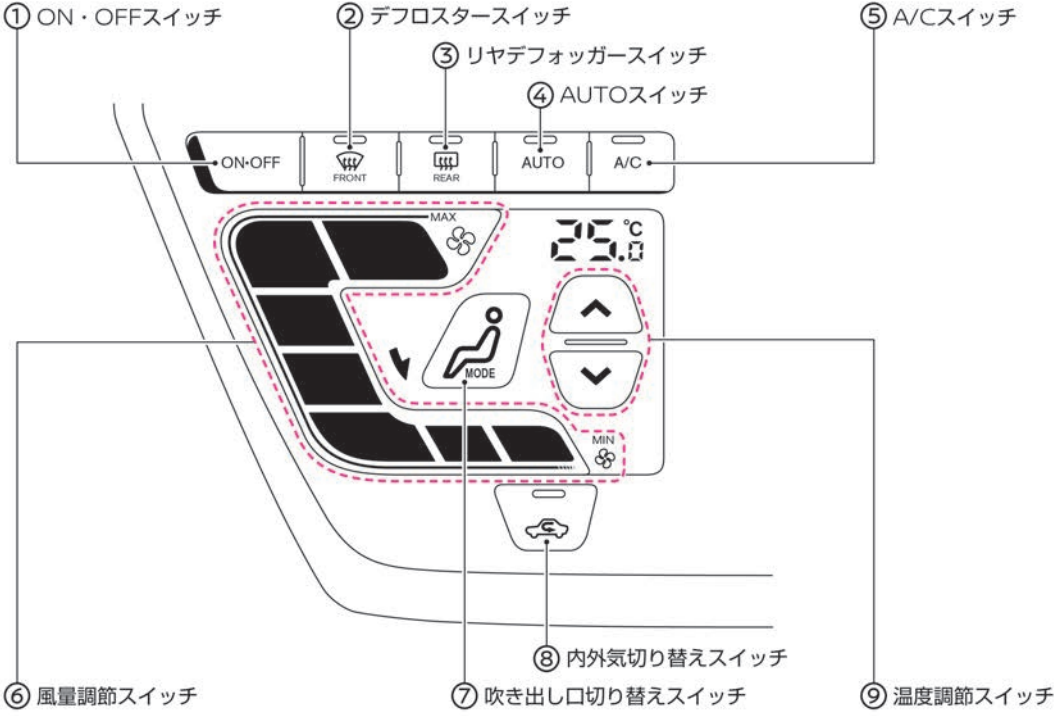
継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。

- **ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る。**

タッチパネル式フルオートエアコン★

吹き出し温度、吹き出し口、風量を自動で制御し、設定した温度に保ちます。また、内気循環／外気導入を自動制御モードに設定することで、自動制御に切り替えます。

各スイッチの名称と機能



エアコンの操作

① **ON・OFFスイッチ**
タッチパネル式フルオートエアコンのON・OFFを切り替えます。

② **デフロスタースイッチ（P.275）**
フロントガラスのくもりが取れます。

③ **リヤデフォッガースイッチ（P.275）**
テールゲートガラスのくもりが取れます。また、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し、霜やくもりが取れます。

④ **AUTOスイッチ**
自動制御に切り替えます。吹き出し温度、吹き出し口、風量の切り替えを自動で制御して設定した温度に保ちます。

⑤ **A/Cスイッチ**
冷房・除湿機能のON・OFFを切り替えます。

⑥ **風量調節スイッチ**
風量を切り替えます。

⑦ **吹き出し口切り替えスイッチ（P.107）**
吹き出し口を切り替えます。

⑧ **内外気切り替えスイッチ**
スイッチをタッチするごとに、内気循環、外気導入が切り替わります。（内気循環のとき、スイッチの表示灯が点灯します。）

⑨ **温度調節スイッチ**
設定温度を切り替えます。（Lo 18.0℃～32.0℃ Hi）

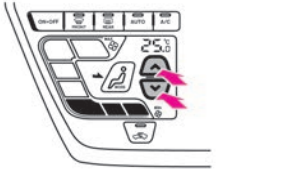
知識

- スイッチをタッチすると、操作音が鳴ります。

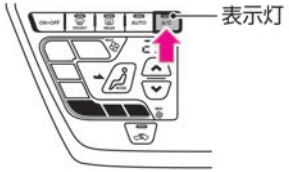
オートでの使いかた

1. AUTOスイッチをタッチします。
（スイッチの表示灯が点灯）

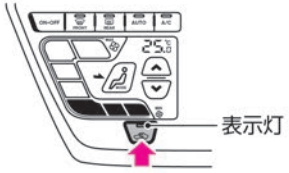
2. 温度調節スイッチをタッチして、設定温度を調節します。
▲：設定温度を上げる
▼：設定温度を下げる



3. A/Cスイッチの表示灯が消灯しているときは、A/Cスイッチをタッチします。（スイッチの表示灯が点灯）
A/Cスイッチ点灯時：冷房・除湿機能ON



4. 内外気切り替えスイッチを約2秒間タッチし続けます。
作動音とともにスイッチの表示灯が2回点滅し、自動制御モードに切り替わります。

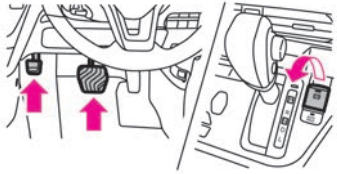


知識

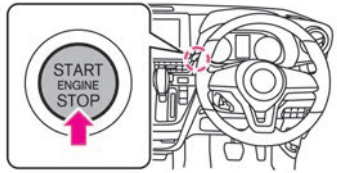
- オートで使用中に風量の調節または吹き出し口の切り替えを行うとAUTOスイッチの表示灯は消灯しますが、操作した機能以外については引き続き自動制御されます。また、内気循環／外気導入が自動制御モード中に内外気切り替えスイッチをタッチするとマニュアルモードに切り替わります。（点灯の場合は内気循環、消灯の場合は外気導入の状態になります。）

タッチスイッチ感度の調整のしかた

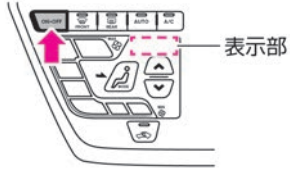
1. 安全な場所に停車し、セレクターレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけます。



2. エンジンを始動します。



3. ON・OFFスイッチを約10秒間タッチします。
ブザー音が鳴り、設定温度表示部に感度が表示され、タッチスイッチ感度調整モードになります。



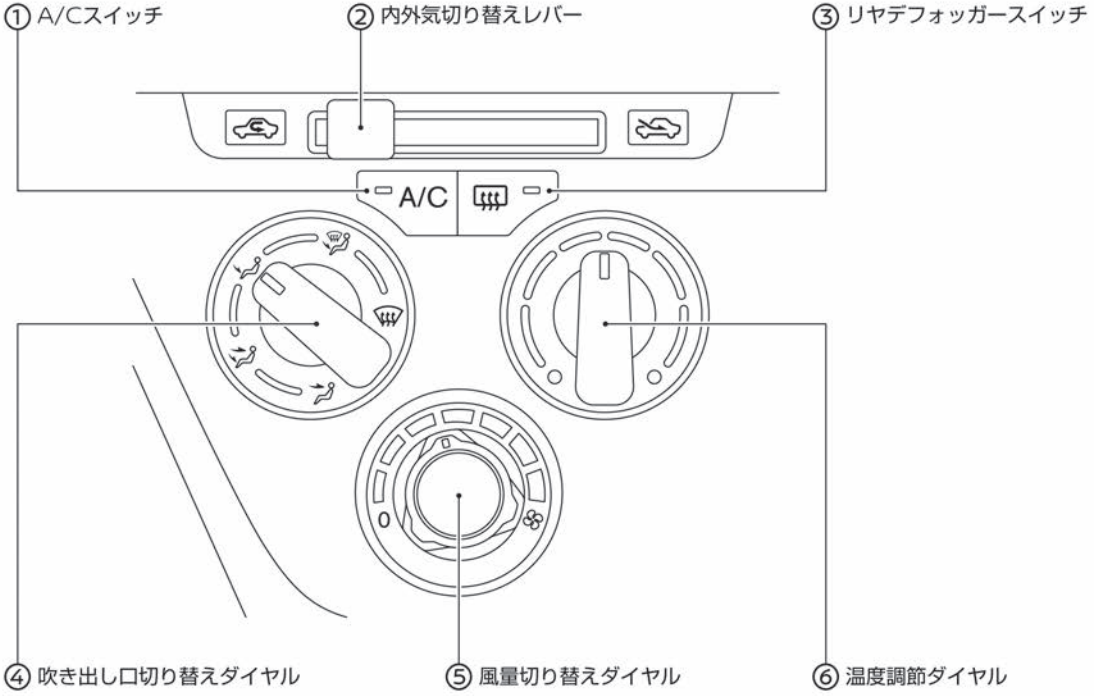
4. 温度調節スイッチをタッチして感度を調整します。
タッチスイッチ感度調整モードになってから約20秒経過するとブザー音が鳴り、感度が設定されます。

アドバイス

- 感度は5段階（1～5）に調整できます。
  - 1：低い（反応しにくい）
  - 5：高い（反応しやすい）
- タッチスイッチ感度調整モードになってから約20秒以内に電源ポジションをOFFにすると、感度は設定されず調整前の状態に戻ります。
- 工場出荷時の感度は「2」に設定されています。

マニュアルエアコン★

各スイッチの名称と機能



エアコンの操作

① **A/Cスイッチ**
冷房・除湿機能のON・OFFを切り替えます。

② **内外気切り替えレバー**
内気循環と外気導入を切り替えます。

③ **リヤデフォッガースイッチ（P.275）**
テールゲートガラスのくもりが取れます。また、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し、霜やくもりが取れます。

④ **吹き出し口切り替えダイヤル（P.107）**
吹き出し口を切り替えます。

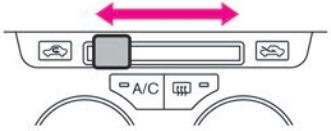
⑤ **風量切り替えダイヤル**
風量を切り替えます。

⑥ **温度調節ダイヤル**
設定温度を切り替えます。

マニュアルエアコンの使用例（冷房）

1. 吹き出し口を切り替えます。

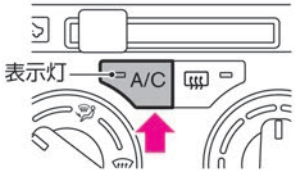
2. 内外気切り替えレバーで、内気循環・外気導入を切り替えます。



3. 風量調節ダイヤルを回します。
右回し： 風量を上げる
左回し： 風量を下げる

4. 温度調節ダイヤルを回します。
右回し： 設定温度を上げる
左回し： 設定温度を下げる

5. A/Cスイッチを押します。
冷房・除湿機能ON：表示灯が点灯
冷房・除湿機能OFF：表示灯が消灯



知識

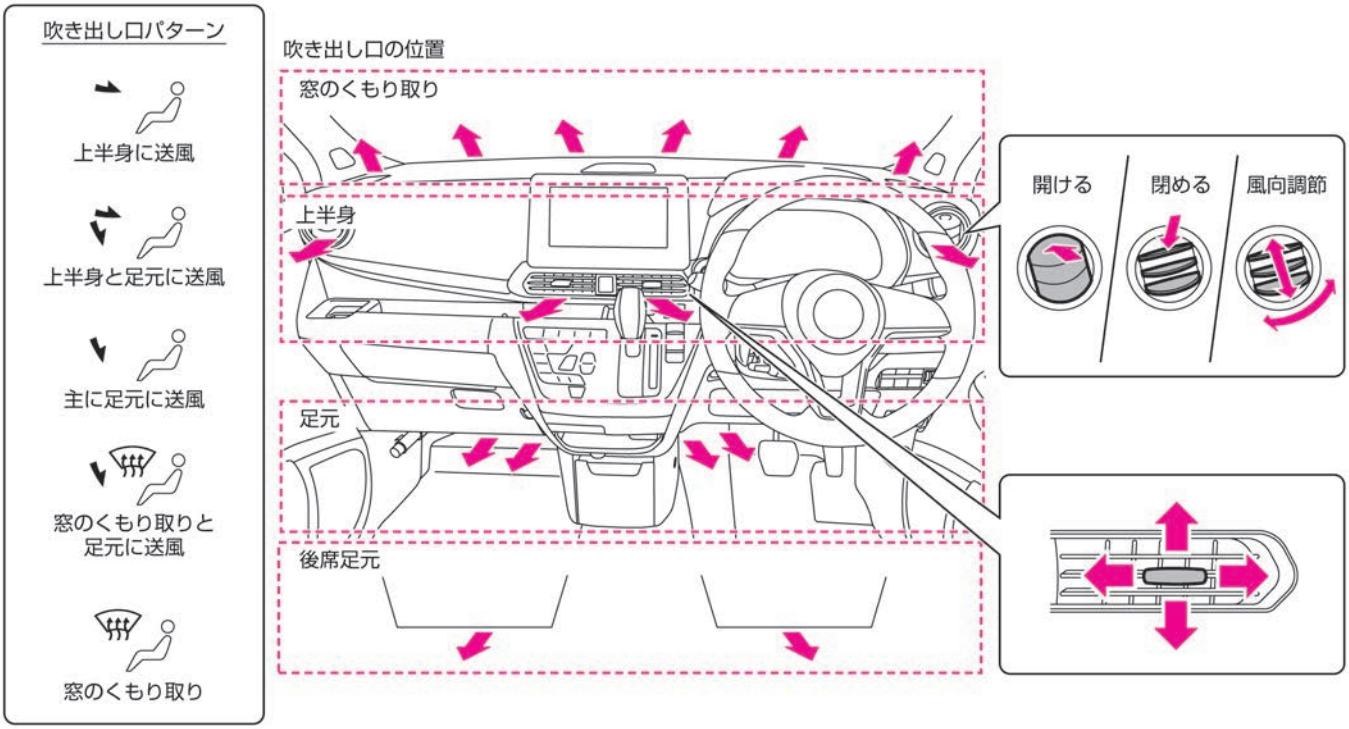
- 外気温が0℃近くまで下がると、A/Cスイッチが点灯していてもエアコン（冷房・除湿機能）が作動しないことがあります。

内外気切り替えレバーについて

- 外気導入：外気を取り入れたいときや、タバコの煙などを外に出したいときに使います。（通常はこの位置で使います）
- 内気循環：トンネル内や渋滞などで外気が汚いときや、早く冷房を効かせたいときに使います。

吹き出し口

タッチパネル式フルオートエアコン付車は、吹き出し口切り替えスイッチまたはデフロスタースイッチをタッチするごとに吹き出し口が切り替わります。マニュアルエアコン付車は、吹き出し口切り替えダイヤルを回すと吹き出し口が切り替わります。



エアコンを使うときに注意すること

エアコンに関する注意事項

⚠ 警告

- **内気循環で長時間使用しない。**

  窓ガラスがくもりやすくなり、視界が損なわれ危険ですので、一時的にご使用ください。

⚠ 注意

- **吹き出し風を長時間連続して身体に当てない。**

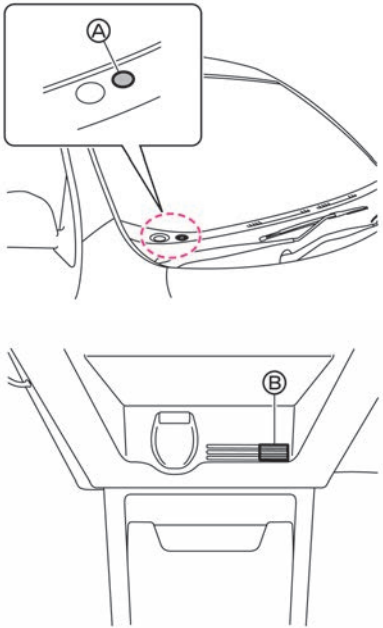
  特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間当たらないように運転者が注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

- **デフロスタースイッチをONにしているときに、エアコンの設定温度を低くしない。**

  フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス

- タッチパネル式フルオートエアコン付車の自動温度調節は、日射センサーⒶと温度センサーⒷで行っています。センサーをふさいだり、クリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。



- ほこり、花粉、粉じんなどを集じんするためのクリーンエアフィルターを装着しています。集じん性能を維持するため、クリーンエアフィルターは定期的に交換してください。

  交換時期：1年ごとまたは12,000km走行ごと

- クリーンエアフィルターが交換時期に満たない場合でも、吹き出し風量が極端に減少したり、窓ガラスがくもりやすくなった場合は交換してください。なお、取り付け、交換などについては、三菱自動車販売会社にご相談ください。

- 外気導入に固定していると、夏場など外気温が高いときは、冷房の効きが悪くなる場合があります。その場合は、一時的に内気循環にしてください。

- エアコンシステムのオイル循環を切らさないために、ときどきA/CスイッチをONにしてください。なお、外気温が0℃近くまで下がるとエアコンシステムが作動しないことがあるため、暖かい日に行ってください。

- エアコンガスは必ず指定のものをご使用ください。エアコンガスの詳細については、ボンネットの裏にあるエアコンラベルをご確認ください。

- エアコンの修理、メンテナンスは三菱自動車販売会社にご相談ください。

知識

- 冷房時、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するもので、異常ではありません。
- 外気温が0℃近くまで下がると、A/Cスイッチの表示灯が点灯していてもエアコンが作動しないことがあります。
- エアコンがONのとき、またはOFFにした直後に、"カチカチ"、"シュー"、"コツン"などの音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 始動直後で吹き出し風の温度が低いときは、足元への吹き出し風量が少なくなります。
- エアコンの運転中または運転後などに車両の下に水が垂れることがあります。
- 外気温が低いときは、外気温に応じてフロントデフロスターへの風量が多くなります。（タッチパネル式フルオートエアコン付車）
- 通電するもの（コード、USBなど）を近づけると、スイッチが反応することがあります。（タッチパネル式フルオートエアコン付車）

エアコンのにおいについて

- エアコンシステムは、空気中のいろいろなにおいが混ざり合うため、吹き出し風からにおいを感じることがあります。
- エアコン作動時のにおいを抑えるため、駐車時などは外気導入にしておくことをおすすめします。

オーディオ★の使いかた

安全運転のために

●運転中は車外の音が聞こえる程度の音量でお聞きください。

⚠ 警告

- **走行中のオーディオ操作は、絶対にしない。**
  前方不注意となるおそれがあります。
- **音量を大きくしない。**
  大きすぎると車外の状況が分からないため、思わぬ事故の原因となります。

ラジオの受信について

●ラジオの受信は、車両の移動に伴う電波の変動、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することができない場合があります。

📖 知識

- オーディオを聞いているとき、車室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。

アンテナについて

⚠ 注意

- **アンテナの調節や脱着時は、周囲の安全を十分に確認してから行う。**

アドバイス

- アンテナを調節するときや脱着するときは、アンテナの根元を持って行ってください。
- 次のような場合には、必ずアンテナを取り外してください。破損するおそれがあります。
  — 洗車機を使うとき
  — ボディーカバーを掛けるとき
  — 降雪時に長時間駐車するとき

📖 知識

- 屋根の低い車庫や立体駐車場など、アンテナが当たるような場所ではアンテナを倒してください。

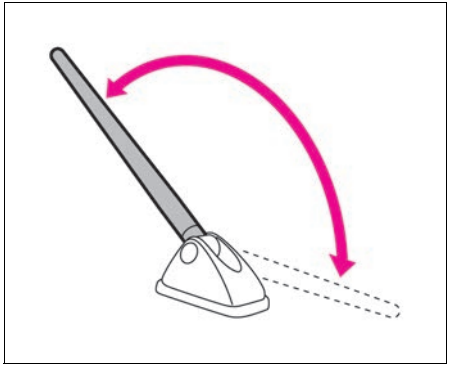
調節のしかた

●アンテナの角度は無段階に調節できます。

●アンテナの根元を持って動かします。

外しかた

●アンテナの外しかたについては、（➔P.304）をお読みください。

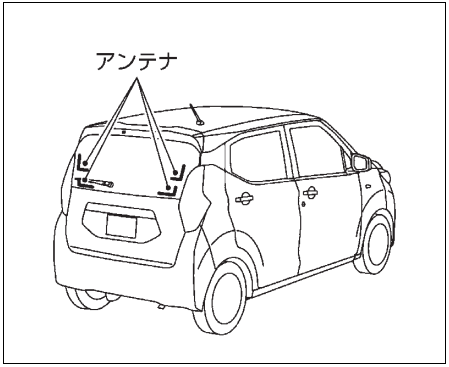


アドバイス

- アンテナが当たるような場所以外では倒したままにしないでください。車体に当たり、塗装面を傷つけるおそれがあります。

ガラスアンテナについて

●アンテナ線はテールゲートガラスの内側にあります。

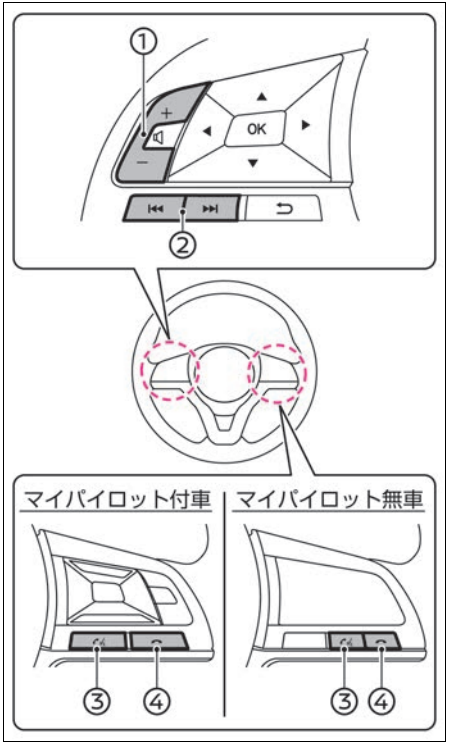


アドバイス

- テールゲートガラスにミラータイプのフィルムや金属物（市販のアンテナなど）を貼り付けないでください。受信感度が低下し、ノイズ（雑音）などが入るおそれがあります。
- テールゲートガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。
- アンテナ線は、手荷物などで傷つけないようにしてください。

ステアリングスイッチ

三菱自動車純正品のオリジナルナビゲーションを操作することができます。



① **音量調節スイッチ**
音量を調節できます。

② **選曲／選局スイッチ**
曲や放送局などの切り替えができます。

③ **通話開始スイッチ**
着信中に押すと電話を受けます。

④ **通話終了スイッチ**
通話中に押すと電話を切ります。

※車両型式、オプションなどにより、使用できないスイッチもあります。

知識

- 取り扱いについては、オリジナルナビゲーション用取扱説明書（別冊）も合わせてお読みください。
- 三菱自動車純正品以外のナビゲーションシステムでは作動の保証はいたしません。

MEMO

運転のしかた

始動する

エンジンスイッチ（キーレスオペレーションシステム付車） P.114
キースイッチ（キーレスエントリーシステム付車） P.116
ACC電源オートオン/オフ機能 P.119

運転する

セレクターレバー（パドルシフト無車） P.120
セレクターレバー（パドルシフト付車） P.122
パーキングブレーキ★ P.124
電動パーキングブレーキ★ P.125
ブレーキオートホールド★ P.126
発進 P.129
停車・駐車 P.130

ランプをつける、ワイパーを使う

ライトスイッチ P.132
ヘッドライトレベリングダイヤル P.136
フォグランプスイッチ★ P.137
ワイパー・ウォッシャースイッチ P.138

運転支援システム

オートストップ&ゴー[AS&G]（コーストストップ機能付） P.140
HYBRID★ P.144
4WD（4輪駆動）車★の扱いかた P.144
エマージェンシーストップシグナルシステム[ESS] P.145
アンチロックブレーキシステム[ABS] P.145
アクティブスタビリティコントロール[ASC] P.146
ヒルスタートアシスト[HSA] P.148
ヒルディセントコントロール[HDC]★ P.148
e-Assist P.149
走行支援システム P.151
マイパイロット★ P.153
衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（歩行者・自転車運転者検知付） P.173
前方衝突予測警報[PFCW] P.179
踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM] P.182
車線逸脱警報システム[LDW]／車線逸脱防止支援機能[LDP] P.191
ふらつき警報[DAA] P.196
標識認識システム[TSR] P.198
先行車発進通知[LCDN] P.202

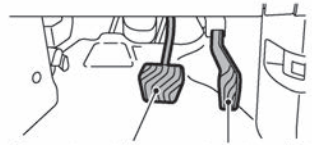
カメラシステム

リヤビューモニター★ P.204
リヤビューモニター★の注意事項 P.205
マルチアラウンドモニター（移動物検知機能付）★ P.208
マルチアラウンドモニター★に関する注意事項 P.216

エンジンスイッチ（キーレスオペレーションシステム付車）

エンジンの始動のしかた

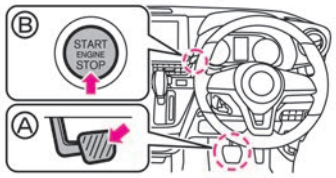
1. アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（➔P.14）がとれるようにハンドル、シート、ミラーを調節します。



ブレーキペダル　アクセルペダル

2. パーキングブレーキがかかっていることと、セレクターレバーがPに入っていることを確認します。

3. ブレーキペダルⒶをしっかりと踏み込みながら、エンジンスイッチⒷを1回押します。



⚠ 警告

- **エンジンを始動する前にペダルの位置を確認する。**

  ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。

- **換気の悪い場所では、暖機運転をしたりエンジンをかけたままにしたりしない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **エンジンを始動するときは、必ず運転席に座る。**

  運転席以外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **セレクターレバーの操作は必ずエンジンが始動したことを確認してから行う。**

  スターターモーターが回転中にセレクターレバーを操作すると、エンジン始動が中止され、思わぬ事故につながるおそれがあります。

📖 知識

- エンジン始動前のブレーキペダル操作などにより、ブレーキペダルが硬くなっている場合があります。この場合、ブレーキペダルを軽く踏んだ状態ではペダル踏み込み操作が検知されず、エンジンが始動しません。ブレーキペダルを通常よりも強く踏み込んでください。
- エンジンの始動を連続して行うと保護機能が作動し、エンジンがかからなくなることがあります。その場合は、3分以上待ってから再度エンジンスイッチを押して始動してください。
- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、“カチッ”と音が聞こえることがありますが異常ではありません。

エンジンがかかりにくいときは

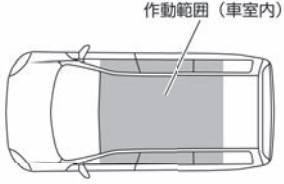
- ブレーキペダルを踏みながら、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでエンジンスイッチを一度押してください。

知識

ブレーキペダル、アクセルペダルは離さず、約5秒後にもう一度エンジンスイッチを押してください。その後、再度手順3の操作をしてください。

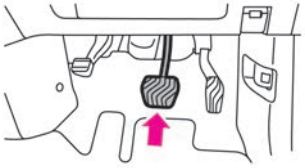
エンジンが暖まっているときの始動

- 高速走行後や登坂走行後などエンジンがかかりにくいときは、アクセルペダルを少し（踏み込み量の約1/5）踏み込んだ状態でエンジンを始動し、エンジンがかかったら、アクセルペダルをエンジン回転数の上昇に合わせて戻します。
- キーが作動範囲（車室内）にあるときに、エンジンを始動することができます。



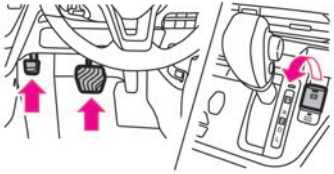
エンジン停止のしかた

1. ブレーキペダルを踏んで、車両を完全に停車させます。



2. ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。

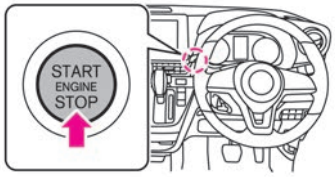
➔パーキングブレーキのかけかた (P.124)
➔電動パーキングブレーキのかけかた (P.125)



3. セレクターレバーを**P**に入れます。

➔セレクターレバーの操作 (P.120)

4. エンジンスイッチを1回押すと、エンジンが停止します。



電源ポジションの切り替えかた

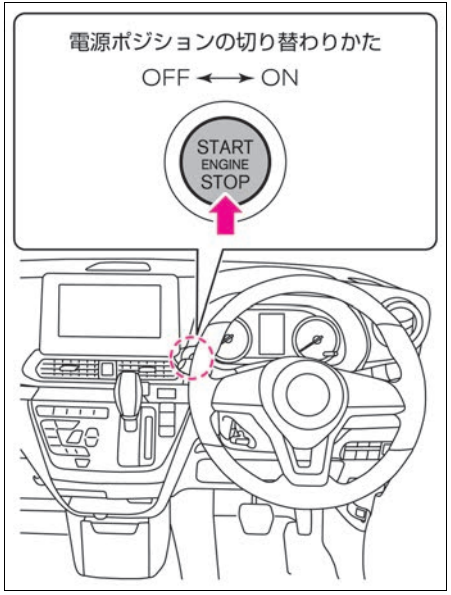
電源ポジション	働き
OFF	● アクセサリーソケットなどが使える位置（ACC状態のとき） ● エンジンを停止する位置
ON	● すべての電装品が使える位置

●キーを携帯しているときに、次の作動をします。

— ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、電源ポジションが切り替わります。

— ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動します。

— エンジン回転中にエンジンスイッチを押すと、エンジンが停止します。



アドバイス

- 12Vバッテリー（メイン）あがりを防止するため、電装品（アクセサリーソケットなど）はエンジンをかけてご使用ください。エンジンを始動しないときは、電装品を長時間使用することや同時に複数使用することは避けてください。

知識

- 電源ポジションがOFFのとき、ハンドルロック（ステアリングロック）がかかっていない場合は、いずれかのドアを開けるか、または閉めるとハンドルロック（ステアリングロック）が作動します。

  ➔ハンドルがロックし、エンジンの始動ができないときは (P.245)

- 電源ポジションがOFFの位置でも、ACC状態のときはアクセサリーソケットなどの電装品を使うことができます。

  ACC状態については、ACC電源オートオン/オフ機能（➔P.119）をお読みください。

エンジンの非常停止のしかた

緊急時など、走行中に強制的にエンジンを停止させるときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- エンジンスイッチをすばやく3回押す。
- エンジンスイッチを2秒以上押し続ける。

⚠ 警告

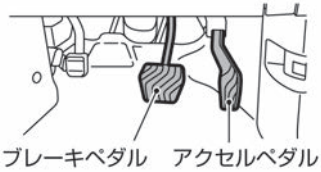
- **非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。**

  非常停止後は、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

キースイッチ（キーレスエントリーシステム付車）

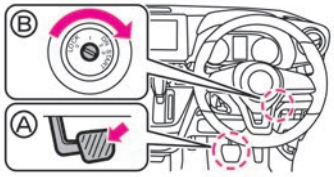
エンジンの始動のしかた

1. アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（➔P.14）がとれるようにハンドル、シート、ミラーを調節します。



2. パーキングブレーキがかかっていることと、セレクターレバーがPに入っていることを確認します。

3. ブレーキペダルⒶをしっかりと踏み込みながら、キースイッチⒷをSTARTまで回します。



⚠ 警告

- **エンジンを始動する前にペダルの位置を確認する。**

  ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。

- **換気の悪い場所では、暖機運転をしたりエンジンをかけたままにしたりしない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **エンジンを始動するときは、必ず運転席に座る。**

  運転席以外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **セレクターレバーの操作は必ずエンジンが始動したことを確認してから行う。**

スターターモーターが回転中にセレクターレバーを操作すると、エンジン始動が中止され、思わぬ事故につながるおそれがあります。

📖 知識

- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、"カチッ"と音が聞こえることがありますが異常ではありません。

エンジンがかかりにくいときは

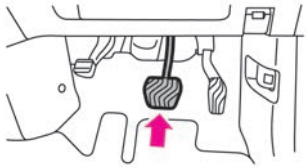
- ブレーキペダルを踏みながら、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでキースイッチをSTARTの位置まで約5秒間回し続けてください。その後、再度手順3の操作をしてください。

エンジンが暖まっているときの始動

- 高速走行後や登坂走行後などエンジンがかかりにくいときは、アクセルペダルを少し（踏み込み量の約1/5）踏み込んだ状態でエンジンを始動し、エンジンがかかったら、アクセルペダルをエンジン回転数の上昇に合わせて徐々に戻します。

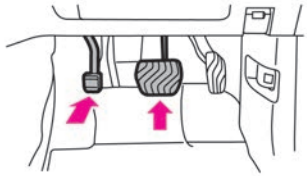
エンジン停止のしかた

1. ブレーキペダルを踏んで、車両を完全に停車させます。



2. ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。

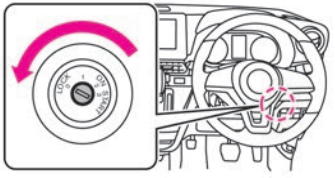
➔パーキングブレーキのかけかた (P.124)



3. セレクターレバーを**P**にします。

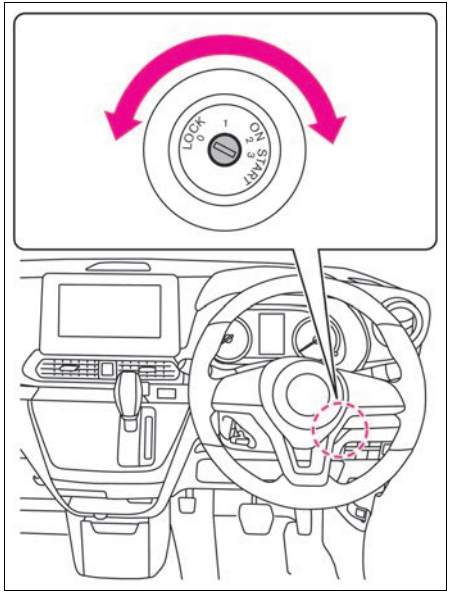
➔セレクターレバーの操作 (P.120)

4. キースイッチを左側に回すと、エンジンが停止します。



キースイッチの位置について

キースイッチ位置	働き
LOCK（OFF）（0）	● アクセサリーソケットなどが使える位置（ACC状態のとき） ● キーを抜き差しできる位置（ハンドルがロックされる位置）
（OFF）（1）	● アクセサリーソケットなどが使える位置（ACC状態のとき） ● エンジンを停止する位置
ON（2）	● すべての電装品が使える位置
START（3）	● エンジンを始動する位置（手を離すとONの位置に戻ります）



⚠ 注意

● **変形したキーを使用する、または純正品以外を使用しない。**

始動時にキーがSTART位置から戻らなくなり、車両故障やモーターの過熱による火災につながるおそれがあります。

アドバイス

● 12Vバッテリー（メイン）あがりを防止するため、電装品（アクセサリーソケットなど）はエンジンをかけてご使用ください。エンジンを始動しないときは、電装品を長時間使用することや同時に複数使用することは避けてください。

知識

● キースイッチがOFFの場合でも、ACC状態のときにアクセサリーソケットなどの電装品を使うことができます。

ACC状態についてはACC電源オートオン/オフ機能（➔P.119）をお読みください。

キースイッチの使いかた

●キーをキースイッチに差し込み回します。

●キーを抜くときは、セレクターレバーを**P**に入れてからLOCKまで回します。

アドバイス

● セレクターレバーを **P** に入れないでキーを回すと（1）の位置で止まります。その場合は、セレクターレバーを **P** に入れたあと、キーをON方向に少し回し、再度LOCKまで回してください。

知識

- キーが回りにくいときは、ハンドルロック（ステアリングロック）がかかっている場合があります。ハンドルロック（ステアリングロック）を解除するときは、ハンドルを左右に軽く回しながらキーを回してください。

  ハンドルがロックし、エンジンの始動ができないときは (P.245)

- エンジンを止め、キーを差したまま運転席ドアを開けるとキー抜き忘れ警報が鳴ります。（キースイッチがONのときは鳴りません。）

ACC 電源オートオン / オフ機能

キースイッチ（電源ポジション）がOFFのときでも、特定の条件で、アクセサリーソケットなどの一部の電装品が使える状態（ACC状態）に自動で切り替わる機能です。エンジンの停止後や、キースイッチ（電源ポジション）をONにする前でも、アクセサリーソケットなどが使用できます。

ACC 電源オートオン / オフ機能について

●次の場合、自動でACC状態に切り替わります。
- ― ドアを解錠したとき（キーレスエントリーシステム機能、またはキーレスオペレーションシステム機能★で解錠したとき）
- ― エンジンを停止したとき

ACC状態を停止するには

●次の場合、ACC状態が完全に停止します。
- ― ACC状態のまま約13分間経過したとき
- ― ドアを施錠し、約3分間経過したとき（キーレスエントリーシステム機能、またはキーレスオペレーションシステム機能★で施錠したとき）

アドバイス

- 12Vバッテリー（メイン）あがりを防止するため、電装品（アクセサリーソケットなど）はエンジンをかけてご使用ください。エンジンを始動しないときは、電装品を長時間使用することや同時に複数使用することは避けてください。

知識

- ドアロック連動自動格納機能によってドアミラーが格納されている場合は、ACC状態でドアミラー格納スイッチを押しても作動しません。

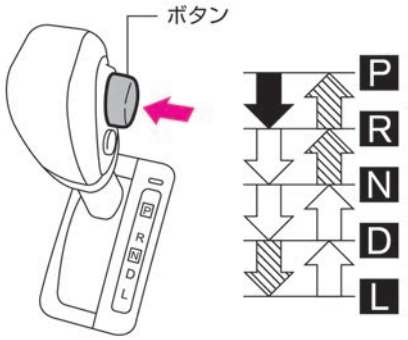
  ドアロック連動自動格納機能について (P.94)

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

セレクターレバー（パドルシフト無車）

セレクターレバーの操作

- セレクターレバー位置は目で確認し、メーター内のポジションインジケーターも合わせて確認してください。
  ➔ポジションインジケーター (P.39)
- キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、すべてのセレクターレバー位置に操作することができます。



セレクトレバー操作	
➡	ブレーキペダルを踏んだままボタンを押して操作します。
⇨	ボタンを押さずにそのまま操作します。
⇨	ボタンを押して操作します。

⚠ 警告

- **次のような操作は、絶対に行わない。**

  トランスミッションを破損し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

  — 車が完全に停止する前にPに入れる

  — 車を前進させているときにRに入れる

  — 車を後退させているときにD、Lに入れる

- **セレクターレバーの操作は必ずエンジンが始動したことを確認してから行う。**

  スターターモーターが回転中にセレクターレバーを操作すると、エンジン始動が中止され、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ⇨の操作は、ボタンを押さないで操作する習慣をつけてください。ボタンを押して操作すると、意に反してP、R、Lに入れてしまうおそれがあります。
- Pから操作するとき、ボタンを押したままブレーキペダルを踏むと、セレクターレバーを動かせないことがあります。ボタンは、ブレーキペダルを踏んでから押してください。

知識

- セレクターレバーをRに入れるとブザーが鳴ります。

知識

- 万一12Vバッテリー（メイン）あがりなどでセレクターレバーをPから動かせないときは、➔セレクターレバーが動かないときは（P.277）をお読みください。

各セレクターレバー位置の働き

セレクターレバー位置	働き
P	**駐車およびエンジンを始動するとき** ● キーレスオペレーションシステム付車は、電源ポジションをOFFにすることができます。 ● キーレスエントリーシステム付車は、キースイッチをOFFまたはLOCKにすることができます。（P以外ではキースイッチをLOCKにできません。）
R	**後退するとき** 車室内でブザーが鳴り運転者に知らせます。（車外の人に注意するものではありません。）
N	**動力が伝わらない状態** （Nでもエンジンの始動ができますが、安全のためPで始動してください。）
D	**通常走行するとき** 速度に応じて無段階に自動変速します。また走行状況によってはアダプティブシフトコントロール（➔P.121）が働き、より適切に変速します。
L	**急な下り坂を走行するとき** 強いエンジンブレーキが必要なときに使います。（急な下り坂以外ではなるべく使用しないでください。）

アダプティブシフトコントロールについて

急な上り下りや、カーブが連続するような道路状況でも快適で安全な走りを実現できるよう自動的に適切なギヤチェンジを行います。

上り坂やカーブでの制御

変速回数の少ないなめらかな走行ができるように、坂の勾配やカーブに応じて低速ギヤを保持します。

下り坂での制御

エンジンブレーキを併用させることで、フットブレーキを使う回数を低減させるように坂の勾配に応じて低速ギヤに切り替えます。

スポーティーな走行での制御

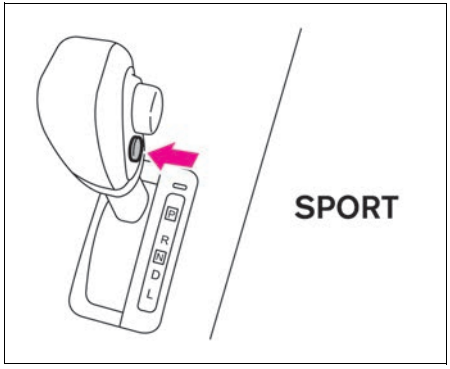
アクセルペダルを踏み込んだときにもたつきのないスムーズな加速が得られるように、加減速を繰り返すような連続するカーブでは低速ギヤを保持します。

アドバイス

- トランスミッションが、走行開始直後で暖まっていないときや、低速で高負荷な走行を繰り返し過熱しているときは制御が作動しない場合があります。その場合は必要に応じてスポーツモードをONまたはセレクターレバーをLに入れ、シフトダウンしてください。

スポーツモードスイッチの使いかた

- セレクターレバーがDのとき使えます。
- 通常走行するときはスイッチを押してメーター内の表示灯SPORTを消灯させます。（スポーツモードOFF状態）



- スポーティーな走行をするときや、下り坂で軽いエンジンブレーキをかけたいときはスイッチを押してメーター内の表示

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

灯SPORTを点灯させます。（スポーツモードON状態）

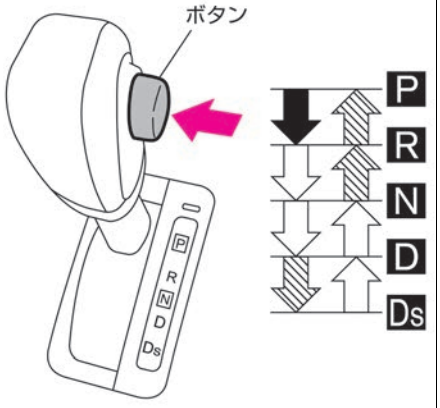
スポーツモード（メーター内表示灯）	働き
ON（点灯）	登坂路走行、パワフル走行など走りを重視した走行や、下り坂で軽いエンジンブレーキをかけることができます。
OFF（消灯）	燃費性能など、経済性を重視した走行ができます。

知識

- セレクターレバーをD以外に入れるとスポーツモードがOFFになります。
- スポーツモードではエンジンが高出力を発生する回転域を使用したギヤ比が選択されます。

セレクターレバー（パドルシフト付車）

セレクターレバーの操作



セレクターレバー操作	
➡	ブレーキペダルを踏んだままボタンを押して操作します。
⇨	ボタンを押さずにそのまま操作します。
⇨	ボタンを押して操作します。

- セレクターレバー位置は目で確認し、メーター内のポジションインジケーターも合わせて確認してください。
  ➔ポジションインジケーター (P.39)
- 電源ポジションがONのとき、すべてのセレクターレバー位置に操作することができます。

⚠ 警告

- **次のような操作は、絶対に行わない。**

  トランスミッションを破損し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

  — 車が完全に停止する前にPに入れる

  — 車を前進させているときにRに入れる

  — 車を後退させているときにD、Dsに入れる
- **セレクターレバーの操作は必ずエンジンが始動したことを確認してから行う。**

  スターターモーターが回転中にセレクターレバーを操作すると、エンジン始動が中止され、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ⇨の操作は、ボタンを押さないで操作する習慣をつけてください。ボタンを押して操作すると、意に反して**P**、**R**、**Ds**に入れてしまうおそれがあります。
- **P**から操作するとき、ボタンを押したままブレーキペダルを踏むと、セレクターレバーを動かせないことがあります。ボタンは、ブレーキペダルを踏んでから押してください。

知識

- セレクターレバーを**R**に入れるとブザーが鳴ります。
- 万一12Vバッテリー（メイン）あがりなどでセレクターレバーを**P**から動かせないときは、セレクターレバーが動かないときは（P.277）をお読みください。

各セレクターレバー位置の働き

セレクターレバー位置	働き
P	**駐車およびエンジンを始動するとき** 電源ポジションをOFFにすることができます。
R	**後退するとき** 車室内でブザーが鳴り運転者に知らせます。 （車外の人に注意するものではありません。）
N	**動力が伝わらない状態** （**N**でもエンジンの始動ができますが、安全のため**P**で始動してください。）
D	**通常走行するとき** 速度に応じて無段階に自動変速します。また走行状況によってはアダプティブシフトコントロール（P.123）が働き、より適切に変速します。
Ds	**スポーティーな走行をするときや、登坂路走行、パワフル走行など走りを重視した走行をするときの位置** 速度に応じて無段階に自動変速します。 ブレーキペダルを踏んで減速しているときや、カーブを走行しているときにエンジン回転数を維持することで、立ち上がりのときに力強く加速します。

アダプティブシフトコントロールについて

急な上り下りや、カーブが連続するような道路状況でも快適で安全な走りを実現できるよう自動的に適切なギヤチェンジを行います。

上り坂やカーブでの制御

変速回数の少ないなめらかな走行ができるように、坂の勾配やカーブに応じて低速ギヤを保持します。

下り坂での制御

エンジンブレーキを併用させることで、フットブレーキを使う回数を低減させるように坂の勾配に応じて低速ギヤに切り替えます。

スポーティーな走行での制御

アクセルペダルを踏み込んだときにもたつきのないスムーズな加速が得られるように、加減速を繰り返すような連続するカーブでは低速ギヤを保持します。

アドバイス

- トランスミッションが、走行開始直後で暖まっていないときや、低速で高負荷な走行を繰り返し過熱しているときは制御が作動しない場合があります。その場合は必要に応じてセレクターレバーを**Ds**に入れ、シフトダウンしてください。

スポーツモードの使いかた

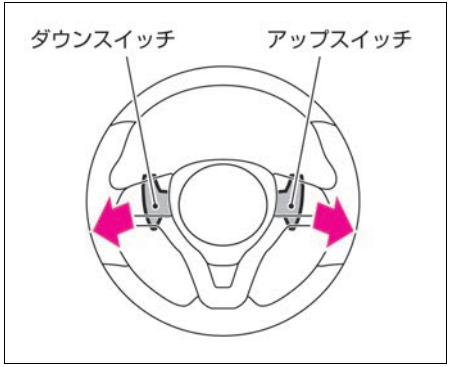
セレクターレバーが**D**または**Ds**で走行中（約10km/h以上）にパドルシフトを操作するとスポーツモードになり、手動でギヤを選択するマニュアル車のような運転ができます。

切り替えかた

●パドルシフトを手前に引いて操作します。

― シフトアップするとき
右側のパドルシフトを引きます。
（高速ギヤに変速します。）

― シフトダウンするとき
左側のパドルシフトを引きます。
（低速ギヤに変速します。）



解除のしかた

●以下の方法でスポーツモードを解除できます。

― パドルシフトを約2秒間手前に引き続ける

― セレクターレバーを**D**レンジに入れる（セレクターレバーが**Ds**レンジのとき）

知識

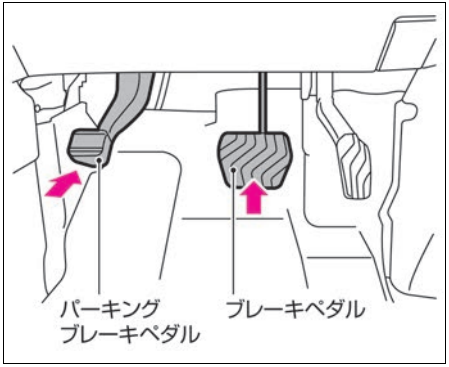
- スポーツモードでは走行性能の確保や安全のため、パドルシフトを操作しても希望する変速ギヤにシフトしない場合があります。その場合は、シフトポジションインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。
- 走行中にエンジンが高回転になると自動的にシフトアップします。また、車速が下がると自動的にシフトダウンし、停車前に1速に入ります。
- セレクターレバーが**D**で走行中にスポーツモードにしたあとに、セレクターレバーで解除したいときは、**D**レンジから**Ds**レンジに入れ、再度**D**レンジに戻します。
- セレクターレバーが**D**のときにパドルシフトでスポーツモードにしてしばらく定速で走行したとき、または車両が約10km/h以下になったときは自動的にスポーツモードが解除され、通常の**D**に戻ります。

パーキングブレーキ★

停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキをかけると、後輪が固定されます。パーキングブレーキペダルで操作します。

パーキングブレーキのかけかた

●右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。



⚠ 警告

- **パーキングブレーキをかけたまま走行しない。**
  ブレーキが過熱して効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。
- パーキングブレーキをかけ直したいときは、一度解除してから踏み込み直してください。

パーキングブレーキの解除のしかた

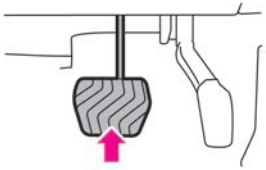
●右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを"カチッ"と音がするまで踏み、ゆっくりと離します。

電動パーキングブレーキ★

停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキをかけると、後輪が固定されます。電動パーキングブレーキスイッチで操作します。

電動パーキングブレーキのかけかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。



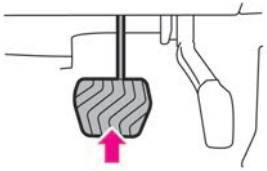
2. 電動パーキングブレーキスイッチを引き上げます。
スイッチを引き上げると、電動パーキングブレーキスイッチの表示灯が点灯し、メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯（赤色）Ⓟが約2秒後に点灯します。

知識

- ブレーキオートホールドが作動しているときにセレクターレバーをPにすると、パーキングブレーキがかかります。
  その他、ブレーキオートホールドについては（➔P.126）をお読みください。
- レーダークルーズコントロール[ACC]により自車が停止状態を保持しているとき、ACCが解除されると電動パーキングブレーキが作動することがあります。詳しくは、（➔P.160）をお読みください。

電動パーキングブレーキの解除のしかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。



2. 電動パーキングブレーキスイッチを押し下げます。
スイッチを押し下げると、電動パーキングブレーキスイッチの表示灯が消灯し、電動パーキングブレーキが解除されるとメーター内の電動パー

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

キングブレーキ警告灯（赤色）Ⓟが消灯します。

⚠ 警告

- **電動パーキングブレーキを作動させたまま走行しない。**
  ブレーキに不具合が生じ、事故につながるおそれがあります。

📖 知識

- 電動パーキングブレーキは、電源ポジションがONのときのみ解除できます。

自動解除のしかた

電動パーキングブレーキスイッチを操作しなくても、パーキングブレーキを解除することができます。

渋滞や上り坂での発進に便利です。

- 電動パーキングブレーキがかかっている状態でセレクターレバーをDまたはRにし、アクセルペダルをゆっくり踏んでください。
  パーキングブレーキが解除され、メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯Ⓟが消灯します。
- パーキングブレーキの自動解除は、以下の条件を満たしている必要があります。
  — 運転席シートベルトを着用している
  — エンジンがかかっている
  — セレクターレバーがP、N以外のとき

電動パーキングブレーキに関する注意事項

⚠ 警告

- **車両を離れるときは、電動パーキングブレーキをかけたあと、セレクターレバーをP位置に切り替える。**
- **電動パーキングブレーキをかけたり、解除したりの操作を短時間に繰り返さない。**
  システムの過熱を防ぐために電動パーキングブレーキが作動しなくなる場合があります。約1分間経過してから再度操作してください。

アドバイス

- 寒冷時に駐車するときは、電動パーキングブレーキをかけずにセレクターレバーをP位置に入れ、電動パーキングブレーキを解除したまま車輪の前後に適切な輪留めをしてください。寒冷時に電動パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが凍結し、解除できなくなるおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキが12Vバッテリー（メイン）あがりや故障などで解除できなくなったときは、三菱自動車販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

📖 知識

- 電動パーキングブレーキをかけたり解除したりすると、車両の後方部から作動音（ウィーン、グググ）が聞こえることがありますが、これは異常ではありません。
- 走行中、非常事態で電動パーキングブレーキをかける必要が生じたときは、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げ続けてください。ブザーが鳴り、電動パーキングブレーキがかかります。スイッチから手を離すと、電動パーキングブレーキは解除されます。
- 電源ポジションがOFFのときに、電動パーキングブレーキスイッチを引くと、電動パーキングブレーキスイッチの表示灯がしばらく点灯状態になることがあります。

ブレーキオートホールド★

ブレーキオートホールド機能は、信号待ちなどの停車中にブレーキペダルを踏み続けなくても、ブレーキ力を保持する機能です。

ブレーキオートホールド機能について

- ブレーキオートホールド機能は、運転者のブレーキ操作によって停車した際に、ブレーキ力を保持する機能です。
  ブレーキ力が保持されているときにアクセルペダルを踏むと、ブレーキが解除され、発進することができます。

ブレーキオートホールド機能の作動について

- ブレーキオートホールド機能のON・OFF設定は、再度設定を変更するまで、電源ポジションをOFFにしても、その設定が維持されます。

ブレーキオートホールド機能をONにする

- 電源ポジションをONにし、ブレーキオートホールドスイッチを押すと、ブレーキオートホールドスイッチ表示灯が点灯します。
- ブレーキオートホールド機能は、次の条件が満たされたときのみ、ブレーキオートホールド表示灯（白色）が点灯し、待機状態になります。（➔P.258）
  - 運転席シートベルトを着用している
  - 電動パーキングブレーキが解除されている
  - セレクターレバーがP以外にある
  - 急な坂道の途中に停車していない

ブレーキオートホールド機能をOFFにする

- ブレーキオートホールド機能がONのとき、ブレーキオートホールドスイッチを押すと、ブレーキオートホールドスイッチ表示灯が消灯しブレーキオートホールド機能がOFFになります。
- ブレーキ力が保持されている状態で、ブレーキオートホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルを踏みながらブレーキオートホールドスイッチを押します。

ブレーキオートホールド機能の使いかた

■ ブレーキ力を保持させる

ブレーキオートホールド機能が待機状態（ブレーキオートホールド表示灯が白色に点灯）のとき、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させると、ブレーキオートホールド機能によってブレーキ力が保持されます。

ブレーキ力が保持されているときは、ブレーキオートホールド表示灯が緑色に点灯します。（➔P.258）

■ 発進する

セレクターレバーがPまたはN以外にあり、ブレーキ力が保持されている状態でアクセルペダルを踏むと、保持されているブレーキ力が解除されて発進します。

ブレーキ力の保持が解除されると、ブレーキオートホールド表示灯が白色に点灯し、待機状態に戻ります。

坂道では、ブレーキオートホールド機能が作動開始するまでブレーキペダルを強く踏み込む必要があります。

ブレーキオートホールド機能使用時の注意事項

⚠ 警告

- **急な坂道や滑りやすい路面で使用しない。**

  ブレーキオートホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。

  急な坂道などでブレーキオートホールド機能を作動させたとき、運転者にブレーキペダルを踏むよう警告メッセージが表示されることがあります。

- **ブレーキオートホールド機能が作動していても停止状態を維持できないときは、ブレーキを使用して車両を停車させる。**

  ブレーキ力保持状態のときに外的要因で車両が動くと、警告音が鳴り、警告メッセージが表示されることがあります。

⚠ 警告

警告メッセージ（➔P.261）

- **次の場合はブレーキオートホールド機能をOFFにする。**
  - ― 洗車機を使用するとき
  - ― 車両のけん引時
  - ― 過積載のとき
- **次の場合はセレクターレバーをPにしてパーキングブレーキが確実にかかっているか確認する。**

  車両が不意に動き出し重大な傷害や事故を起こすおそれがあります。
  - ― 駐車するとき
  - ― 人が乗降するとき
  - ― 荷物の積み下ろしをするとき
- **アクティブスタビリティコントロール[ASC]警告灯（➔P.254）、ブレーキシステム警告灯（黄色表示）（➔P.252）、電動パーキングブレーキ警告灯（➔P.250）、またはマスターウォーニング（➔P.255）が点灯し、「シャシー制御表示」の警告メッセージ（➔P.263）が表示されたときは、ブレーキオートホールド機能は作動しません。**
- **ブレーキオートホールド機能をOFFにする際は、ブレーキペダルを踏みながらブレーキオートホールドスイッチを押す。**

  急な坂道では、ブレーキオートホールド機能での停止状態からアクセルを踏んでもブレーキオートホールド機能が解除できない場合があります。
- **ブレーキペダルから足を離す前に、ブレーキオートホールド表示灯（緑色）が点灯していることを確認する。**

⚠ 注意

- **ブレーキオートホールド機能によってブレーキ力が保持されているときに、ブレーキオートホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**

  ブレーキが解除され車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **車両が停止してもブレーキ保持が開始されないときは、ブレーキオートホールド表示灯（緑色）が点灯するまでブレーキペダルを踏み込む。**

  ブレーキペダルが十分な力で踏まれていない、もしくは、車両停止後にブレーキペダルを離すのが早すぎると、ブレーキオートホールド表示灯（緑色）は点灯しません。

アドバイス

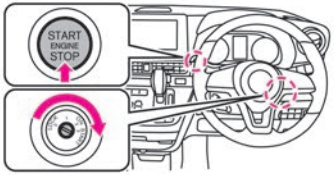
- 次の場合は、システムに異常が発生しているおそれがあります。ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
  - ― 警告メッセージが表示されたとき
  - ― ブレーキオートホールドスイッチを押してもスイッチの表示灯が点灯しないとき

- ブレーキオートホールド機能がONでブレーキ力が保持されているときに、次の状態になるとパーキングブレーキがかかり、ブレーキ力が解除されます。（ブレーキオートホールド表示灯は消灯します）
  - ― ブレーキオートホールド機能によるブレーキ力の保持が3分以上継続されたとき
  - ― セレクターレバーをPにしたとき
  - ― 電動パーキングブレーキスイッチを引き上げたとき
  - ― 運転席シートベルトを外したとき
  - ― 電源ポジションをOFFにしたとき
  - ― ブレーキオートホールド機能に不具合が生じたとき
- ブレーキ力を保持しているときは、車両の停止状態を維持するため、作動音が発生する場合がありますが、異常ではありません。

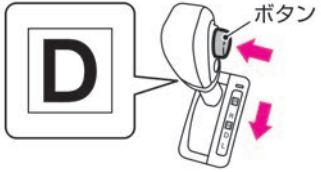
発進

発進のしかた

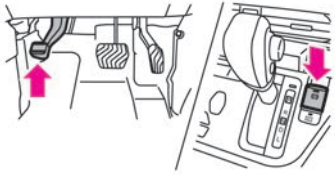
1. ブレーキペダルを踏んだまま、エンジンを始動します。
   キーレスオペレーションシステム付車（➔P.114）
   キーレスエントリーシステム付車（➔P.116）



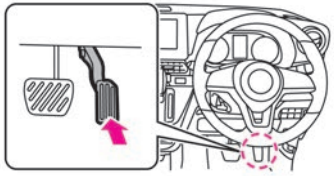
2. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、ボタンを押してセレクターレバーをDに入れます。
   ➔セレクターレバーの操作 (P.120)



3. パーキングブレーキを解除します。
   ➔パーキングブレーキの解除のしかた (P.125)
   ➔電動パーキングブレーキの解除のしかた (P.125)



4. ブレーキペダルを徐々に緩め、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。



⚠ 警告

- **発進するときは、アクセルペダルを踏んだままセレクターレバーを操作しない。**
  急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。
- **停車中、セレクターレバーがP、N以外に入っているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**
  クリープ現象により車が動き出し、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 電動パーキングブレーキをかけ、運転席シートベルトを着用せずにアクセルペダルを踏むと、電動パーキングブレーキが解除されず、電動パーキングブレーキが故障するおそれがあります。（電動パーキングブレーキ付車）

知識

- 急な上り坂で発進するときは、ヒルスタートアシスト[HSA]（➔P.148）が作動します。

走行のしかた

- セレクターレバーをDにしたまま走行します。
- アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。
  アクセルペダルの踏み加減と走行速度や走行状況などにより、適切なギヤに自動変速されます。
- 高速道路の入り口などで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
  キックダウンし急加速します。
- 下り坂では、エンジンブレーキを併用して走行します。セレクターレバーがDで

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

も、アクセルペダルを戻すとエンジンブレーキが得られます。
また坂の勾配に応じて強いエンジンブレーキが必要な場合は、L（Ds）に入れます。
勾配のゆるい下り坂では、スポーツモードにしても、軽いエンジンブレーキが得られます。
➔スポーツモードスイッチの使いかた (P.121)

⚠ 警告

- **下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用する。**
  ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなり危険です。坂の勾配に応じてエンジンブレーキを併用してください。
- **滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキは効かせない。**
  タイヤがスリップするおそれがあり危険です。
- **走行中はセレクターレバーをNに切り替えない。**
  エンジンブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、トランスミッションが故障する原因となります。

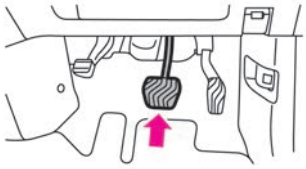
アドバイス

- 上り坂ではクリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。車両故障につながるおそれがあります。
- 上り坂でセレクターレバーをDまたはL（Ds）のまま故意に車両を後退させたり、下り坂でRのまま故意に車両を前進させたりしないでください。車両故障につながるおそれがあります。
- 冠水路など深い水たまりは無理に走行しないでください。 エンジン破損や車両故障につながるおそれがあります。
- 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

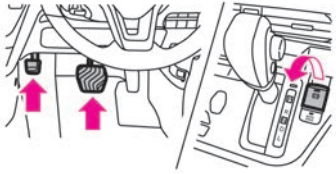
停車・駐車

停車・駐車のしかた

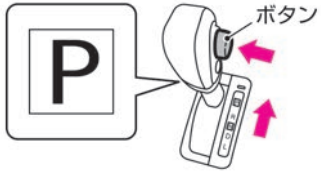
1. 停車するときは、セレクターレバーはDまたはL（Ds）のままで、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。



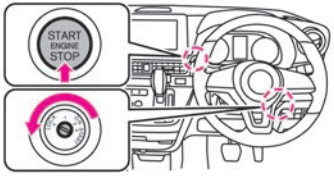
2. そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。
➔パーキングブレーキのかけかた (P.124)
➔電動パーキングブレーキのかけかた (P.125)



3. ブレーキペダルを踏んだままボタンを押してセレクターレバーをPに入れます。
➔セレクターレバーの操作 (P.120)



4. キースイッチを左側に回す、またはエンジンスイッチを1回押すと、エンジンが停止します。



⚠ 警告

- **駐車するときは、ガスライターなどに注意する。**

  操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

- **停車中の空ぶかしはしない。**

  万一、セレクターレバーがP、N以外に入っていると急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。停車後の再発進は、セレクターレバーを目で確認してください。

- **換気の悪い場所では、エンジンをかけたままにしない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **車から離れるときは、必ずセレクターレバーをPにして、エンジンを停止する。**

  エンジンがかかったままで、セレクターレバーがP、N以外だと、クリープ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込むと急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **枯れ草、紙、木材、油など燃えやすい物の上や近くには駐停車しない。**

  排気管や排気ガスは高温になるため着火するおそれがあり危険です。

- **長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があるので注意する。**

アドバイス

- 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形したりするおそれがあります。

知識

- 屋根の低い車庫や立体駐車場など、アンテナが当たるような場所ではアンテナを倒してください。
- エンジン始動時や停止時などに運転席下から"コン、コン"という音がする場合があります。これは運転席下にあるリチウムイオンバッテリー（サブ）の作動音であり、異常ではありません。

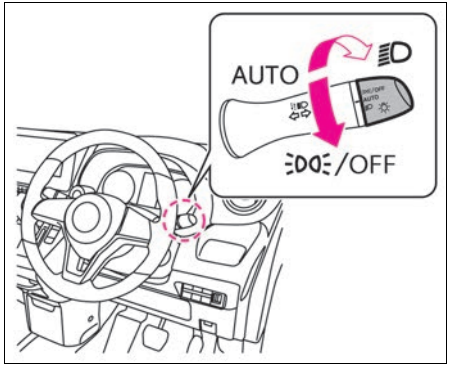
ライトスイッチ

ライトスイッチの使いかた

スイッチを回すと、次のように点灯、消灯します。

スイッチ位置	点灯するランプ
/OFF（/OFFの位置に回しても手を離すと自動でAUTOの位置に戻ります。）	停車時に/OFFの位置に回すと車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。 停車時に/OFFの位置に回して1.5秒以上保持すると、全ランプが消灯します。 走行を開始すると周囲の明るさに応じて、ランプが自動点灯・消灯します。
AUTO	ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯・消灯します。
	ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

- 車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているときはメーター内のテールランプ表示灯が点灯します。
- ライトスイッチを/OFFの位置に回すと、マルチインフォメーションディスプレイにライトオフガイダンスが表示されます。



アドバイス

- エンジン停止時に長時間点灯させないでください。12Vバッテリー（メイン）があがるおそれがあります。

知識

- 通常時はAUTOの位置で使用してください。

バッテリーセーバー

- ランプを点灯したままキースイッチ（電源ポジション）をOFFにすると12Vバッテリー（メイン）あがりを防止するためランプが消灯します。ランプ消灯後、次の操作を行うとランプが再点灯します。
  - ― キースイッチ（電源ポジション）をONにする
  - ― ライトスイッチを操作する（約5分後にランプは再度消灯します）

ヘッドライト消し忘れ警報

- キースイッチ（電源ポジション）がON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合にブザーが鳴ります。
  - ― ライトスイッチが の位置にあるとき
  - ― ライトスイッチを/OFFの位置に回して、メーター内のテールランプ表示灯が点灯しているとき

/OFF の使いかた

- ライトスイッチは/OFFの位置に回しても手を離すと自動でAUTOの位置に戻ります。
- ライトの点灯状態は次のとおりです。

ライトスイッチを/OFFの位置に回したとき

- 停車時にライトスイッチを/OFFの位置に回すと、車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。
- 停車時にライトスイッチを/OFFの位置に回しても、走行すると周囲の明るさに応じてヘッドライトが自動点灯します。
- 走行中にライトスイッチを/OFFの位置に回すと、周囲が明るいときは車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。

周囲が暗いときはライトスイッチを ≡D/OFFの位置に回しても、点灯しているヘッドライトを消灯できません。（停車時またはフォグランプ★点灯時のみ消灯可能です。）

- フォグランプ点灯時、車両が完全に停止する前にライトスイッチを ≡D/OFFの位置に回してヘッドライトを消灯した場合、再度走行してもヘッドライトは点灯しません。再度ヘッドライトを点灯させるときは、ライトスイッチを ≡D/OFFまたは ⟃D の位置に回すか、フォグランプをOFFにします。（フォグランプ付車）

ライトスイッチを ≡D/OFFの位置に回して1.5秒以上保持したとき

- 停車時にライトスイッチを ≡D/OFFの位置に回して1.5秒以上保持すると、全ランプが消灯します。
- 停車時にライトスイッチを ≡D/OFFの位置に回して1.5秒以上保持しても、走行すると周囲が暗いときはヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
- 走行中にライトスイッチを ≡D/OFFの位置に回して1.5秒以上保持しても、点灯しているランプを消灯できません。

知識

- 次の操作をすると、AUTO（自動点灯・消灯）に戻ります。
  - 再度ライトスイッチを ≡D/OFFの位置に回す
  - ⟃D の位置にしてからAUTOの位置にする

AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた

- キースイッチ（電源ポジション）がOFFのときは消灯します。
- キースイッチ（電源ポジション）がONのときは次のように作動します。

周囲が明るいとき

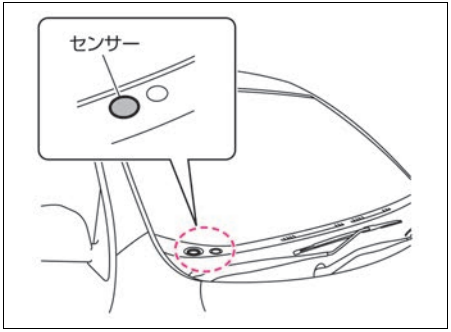
- 停車中、走行中ともにヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が消灯します。

周囲が暗いとき

- 停車中、走行中ともにヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯します。
- 歩行者事故が多く発生している夕暮れ時や雨天でのワイパー使用時にもランプを自動点灯します。

アドバイス

- センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。



知識

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「オートライト感度調整」を選択すると、オートライトの感度調整ができます。 設定の詳細については、車両設定をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.46)
➔車両設定 (P.57)

⟃D の使いかた

- ライトスイッチを ⟃D の位置に合わせるとヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

自動点灯ランプの消灯のしかた

ヘッドライトの消灯方法

●停車中、ライトスイッチを ≡D⊂/OFFの位置に回すと、ヘッドライトが消灯します。

●走行中、フォグランプがONの状態でライトスイッチを ≡D⊂/OFFの位置に回すと、ヘッドライトが消灯します。（フォグランプ付車）

すべてのランプの消灯方法

●停車中、ライトスイッチを ≡D⊂/OFFの位置に回して1.5秒以上保持すると、全ランプが消灯します。

知識

● フォグランプ★点灯中を除き、ヘッドライトは走行中に消灯できない仕様となっています。

オートマチックハイビーム [AHB]

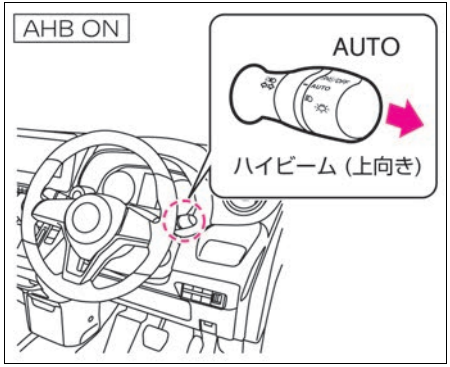
AHB : Automatic High Beam

先行車または対向車や周囲の明るさなどに応じ、ハイビーム（上向き）とロービーム（下向き）が切り替わります。

約25km/h以上で走行中、ヘッドライトが点灯しているときに切り替えを行い、約15km/h以下になるとロービーム（下向き）に切り替わります。

AHBをONにする方法

●ライトスイッチがAUTOの位置でレバーを車両前方に押すと、AHBがONになります。（メーター内のAHB表示灯 Ⓐ が点灯）



AHBをOFFにする方法

次のいずれかの操作をすると、AHBがOFFになります。

●ハイビームのとき

– ライトスイッチをAUTOの位置以外にする…①

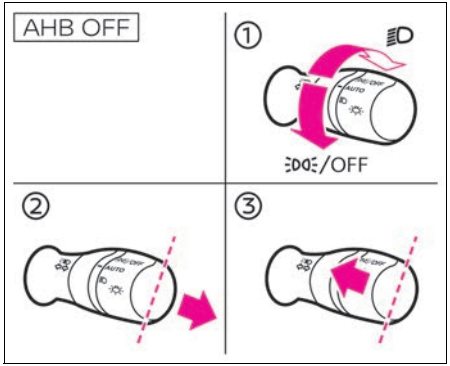
– ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）…②

– ライトスイッチを車両後方に引く（ロービームに切り替わります）…③

●ロービームのとき

– ライトスイッチをAUTOの位置以外にする…①

– ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）…②



警告

● **システムを過信しない。**

常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。

● **次のようなときは、AHBが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。**

– 悪天候のとき（雨、霧、雪など）

– 周囲にヘッドライトや尾灯に似た光源があるとき

– 対向車または先行車が無灯火のとき

– 対向車のヘッドライトが汚れていたり、光軸がずれているとき

– 明るさの急激な変化が連続しているとき

⚠ 警告

— 段差や起伏のある道路を走行しているとき
— カーブが多い道路を走行しているとき
— ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき
— トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
— パンクやけん引などで車両が傾いているとき

アドバイス

- AHBが正しく作動しなかったり、作動中にメーターにAHB表示灯が点灯しなかったりしたときは、AHBが故障しているおそれがあります。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

  AHB表示灯（P.257）

知識

- AHBがONでロービームのとき、ライトスイッチを車両後方に引くとパッシングになります。

  （AHBはONを維持）
- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

- 次のような原因で、上向きと下向きの切り替わるタイミングが変化することがあります。
  — 対向車または先行車のランプの明るさ
  — 対向車または先行車の向きや動き
  — 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯している
  — 対向車または先行車が二輪車
  — 道路状況（カーブや勾配、路面状況など）
  — 乗車している人数や荷物の量

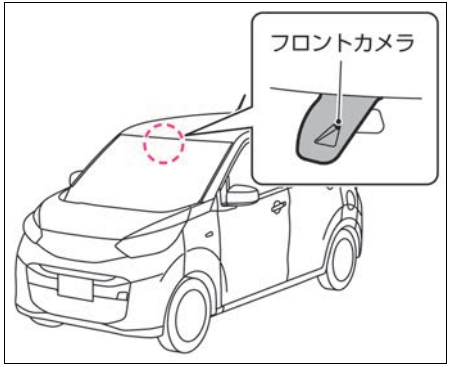
■ フロントカメラについて

フロントガラス上部に周囲の状況を感知するためのカメラがあります。

AHBを正しく作動させるため、次のことをお守りください。

- フロントガラスが汚れたら清掃してください。
- カメラの周辺にアクセサリーやステッカーなどを取り付けないでください。
- カメラのレンズには触れないでください。
- カメラおよびその周囲に強い衝撃を与えないでください。

フロントカメラの取り扱い (P.306)



ハイビーム（上向き）への切り替えかた

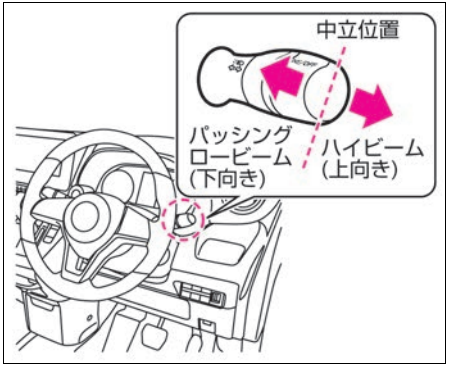
ライトスイッチが の位置のとき

- ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。
- パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。

ライトスイッチがAUTOの位置のとき

- ヘッドライトが点灯しているとき、ライトスイッチを車両前方に2回押すとハイビームに切り替わります。（1回押すとオートマチックハイビーム[AHB]（P.134）がONになります。）
- ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。

●パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。



アドバイス

- 対向車があるときや市街地走行などでは下向きにしてください。

知識

- ハイビームに切り替えているときは、メーター内のヘッドライト上向き表示灯が点灯します。
- AHBがONのとき、ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。
- ヘッドライト、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがありますが異常ではありません。

- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

方向指示器の使いかた

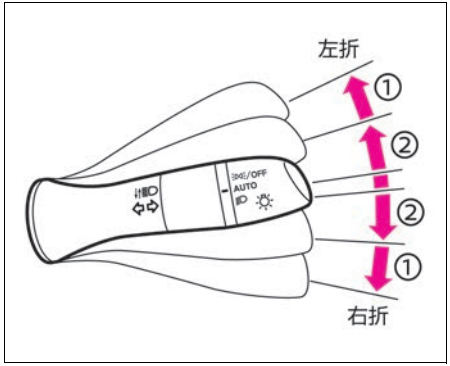
キースイッチ（電源ポジション）がONのとき使えます。

●右折または左折するときは、ライトスイッチを①の位置まで動かします。

●車線変更などのときは、ライトスイッチを②の位置まで動かし軽く押さえます。スイッチを押さえている間、方向指示器が点滅します。

コンフォートフラッシャー機能について

スイッチを②の位置まで上または下に押さえたあと、すぐに手を離したときは3回点滅し消灯します。



アドバイス

- 方向指示器のランプとメーター内の方向指示表示灯の点滅が速くなったときは、方向指示器のランプの電球切れなどのおそれがあります。電球を交換してください。

外装ランプが点灯しないときは (P.279)

ヘッドライトレベリングダイヤル

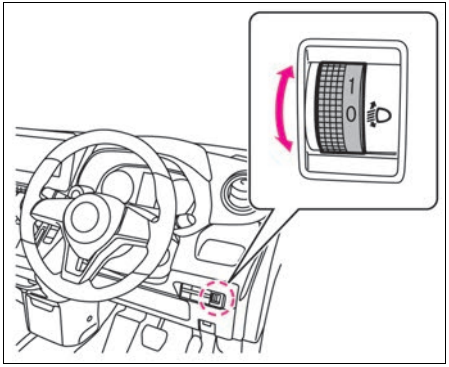
ヘッドライトの照らす方向（光軸）を調節します。乗員の人数や荷物の重さなどに応じ、調節してください。

ヘッドライトレベリングダイヤルの使いかた

ヘッドライトが下向きのとき、ダイヤルを回して調節します。

●通常は、ダイヤルが0の位置で使います。

●ダイヤルを大きな数字の方へ回すほど、照らす方向は下向きになります。



アドバイス

- 乗車人員や荷物量の違いにより、ヘッドライトが上側を照らすときや、アップダウンの多い山道などで、前を走行する車のミラーや対向車のフロントガラスを照らすようなときは、照らす向きを下側に調節してください。

■ ダイヤル位置の目安

次の表を目安に、乗員の人数や荷物の量に応じてダイヤル位置を選択してください。

ハロゲンヘッドライト付車

スイッチ位置	前席シート乗員数	後席シート乗員数	ラゲッジルームの積載重量
0	1	0	—
	2	0	—
1	2	2	—
	2	2	75kg
2	1	0	260kg

LEDヘッドライト付車（2WD）

スイッチ位置	前席シート乗員数	後席シート乗員数	ラゲッジルームの積載重量
0	1	0	—
	2	0	—
1	2	2	—
2	2	2	75kg
3	1	0	300kg

LEDヘッドライト付車（4WD）

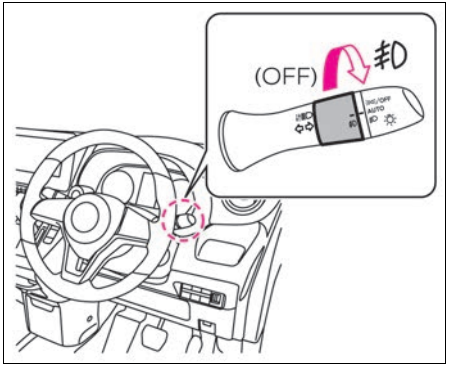
スイッチ位置	前席シート乗員数	後席シート乗員数	ラゲッジルームの積載重量
0	1	0	—
	2	0	—
1	2	2	—
2	2	2	75kg
	1	0	235kg

フォグランプスイッチ★

雨、霧、雪などで視界が悪いとき、ヘッドライトの補助のために使用します。

フォグランプの使いかた

- ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。
- スイッチを回して を ━ の位置に合わせて使用します。
- フォグランプが点灯しているときは、メーター内のフォグランプ表示灯が点灯します。



知識

- 濃霧時にヘッドライトを消灯して走行したい場合は、次の操作を行うと車幅灯とフォグランプの点灯で走行することができます。
  - ― フォグランプが点灯しているときに、ライトスイッチをAUTOから /OFFの位置に回す、または から /OFFの位置に回す

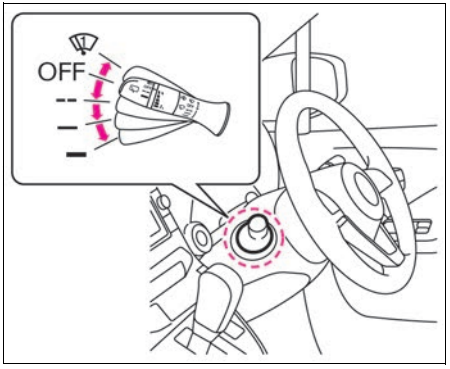
ワイパー・ウォッシャースイッチ

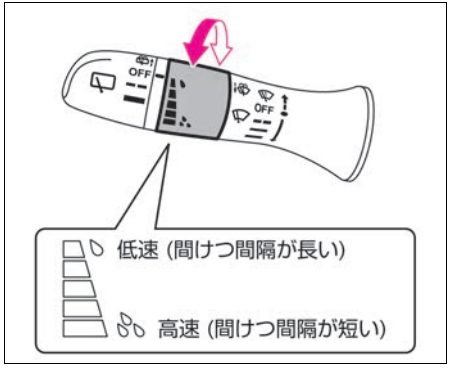
キースイッチ（電源ポジション）がONのとき使用できます。

フロントワイパーの使いかた

スイッチを動かすと、次のように作動します。

スイッチ位置	作動
	レバーを上げている間作動します。 手を離すとOFFに戻ります。
OFF	停止します。
--	間けつで作動します。 スイッチを回し、ワイパーの間けつ時間を調節します。
—	低速で連続して作動します。
▬	高速で連続して作動します。





知識

- 間けつ作動の間隔は、車速が速くなると短くなる車速感知式です。
- ライトスイッチがAUTOの位置のときにワイパーが数回作動すると、車外の明るさに関係なくヘッドライトが点灯します。

  AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた (P.133)
- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「車速連動ワイパー」を選択すると、車速連動機能のON・OFFを切り替えることができます。

  設定の詳細については、車両設定をお読みください。

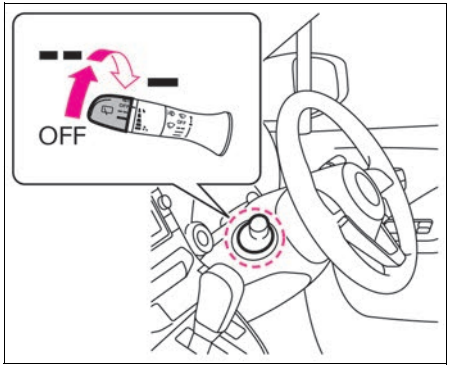
  画面の切り替えかた (P.46)

  車両設定 (P.57)

リヤワイパーの使いかた

スイッチを回すと、次のように作動します。

スイッチ位置	作動
OFF	停止します。
--	間けつで作動します。
—	低速で連続して作動します。



知識

リバース連動機能

- フロントワイパー作動中にセレクターレバーをRに入れると、リヤワイパーが作動します。

ウォッシャーの使いかた

フロントウォッシャー

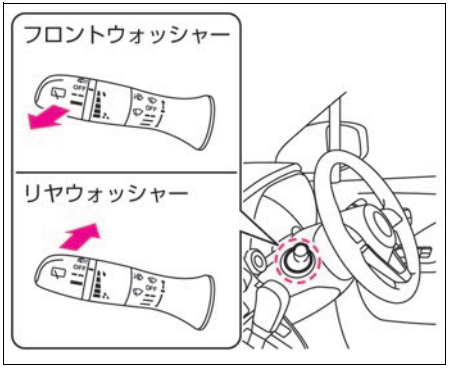
●スイッチを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。

●スイッチを引いている間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

リヤウォッシャー

●スイッチを車両前方に押すと、ウォッシャー液が噴射します。

●スイッチを押している間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。



知識

● ウォッシャースイッチを操作したあと、ガラスに残ったウォッシャー液をふき取るため、約3秒後に一度ワイパーが作動します。（ドリップ拭き取り機能）

ワイパー・ウォッシャーを使うときの注意事項

警告

● **寒冷時は、ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターでガラスを温める。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にする。**

寒冷時は、ガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

● 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。

● ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチをOFFにし障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで（約1分間）待ってから、再度スイッチを操作してください。ワイパーが作動を開始します。

● 凍結などでワイパーゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障したりするおそれがあります。

● 窓ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してからワイパーをご使用ください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷つけるおそれがあります。

● ウォッシャー液が出ないときは、連続して30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。

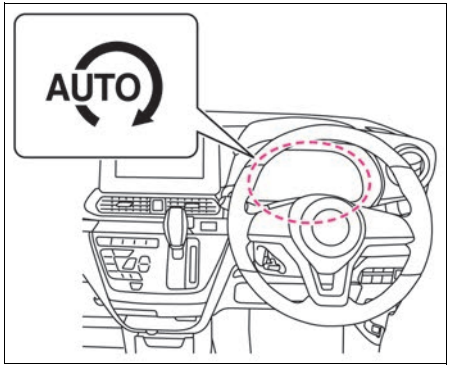
● ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

オートストップ & ゴー [AS&G]（コーストストップ機能付）

オートストップ&ゴー[AS&G]は、車両が停車したときまたは停車する前にエンジンを停止させ、発進するときにエンジンを始動することで、アイドリングによる排気ガスの発生や騒音を抑制するとともに燃費を向上させるシステムです。

AS&G の使いかた

アイドリングストップ中は、メーター内のAS&G表示灯が点灯します。



アイドリングストップ機能

- 次のときに、エンジンが停止します。
  - セレクターレバーがDまたはL（Ds）のときに、ブレーキペダルを踏んで停車したとき
  - セレクターレバーをNにして、ブレーキペダルを踏み停車しているとき
  - セレクターレバーがPのとき
- ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

⚠ 警告

- **アイドリングストップ中に車両が動き出したときは、すみやかにブレーキペダルを踏む。**

  アイドリングストップ機能によるエンジン停止中に車両が動き出した場合は、エンジンが再始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

📖 知識

- メーター内のAS&G表示灯で、AS&Gの状態をお知らせします。

  AS&G表示灯（➔P.258）
- マルチインフォメーションディスプレイでAS&Gの積算時間と節約した燃料の量などを確認できます。

  エコグループ（➔P.47）

コーストストップ機能

- セレクターレバーがDのときブレーキペダルを踏んで減速中、車速が約13km/hになるとエンジンが停止します。
- ブレーキペダルから足を離すとエンジンが再始動します。

AS&G警告ブザー

- アイドリングストップ中にボンネットが開いたときにブザーが鳴ります。

AS&Gガイダンス表示

- 車両停止時に次の条件によりアイドリングストップしないとき、マルチインフォメーションディスプレイにAS&Gガイダンスが表示されます。
  - ブレーキペダルの踏み込みが少ない（➔P.267）
  - ハンドル操作を検知している（➔P.267）
  - エアコン（冷房・暖房・除湿機能）を優先している（➔P.268）

📖 知識

- AS&G警告ブザーが鳴ったときは、ボンネットが開いていないか確認してください。ボンネットが開いていると、通常のエンジン停止状態となるため、エンジンをかけ直してください。
- 充放電能力と寿命性能を強化したAS&G専用の12Vバッテリー（メイン）を搭載しています。専用バッテリー以外を使用すると、12Vバッテリー（メイン）の早期劣化やAS&G機能、エンジンアシスト機能が正常に機能しなくなる原因となります。
- 12Vバッテリー（メイン）は、お客さまの車両に適合した三菱自動車純正部品をおすすめします。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

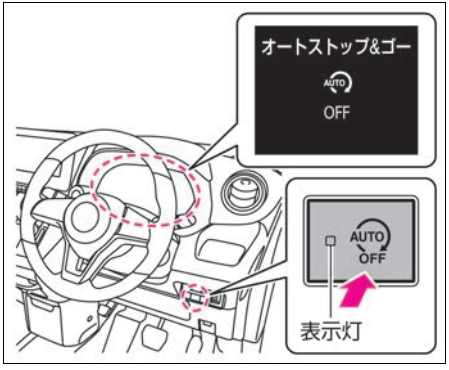
知識

- リチウムイオンバッテリー（サブ）は、お客さまの車両に適合した三菱自動車純正部品をご使用ください。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

AS&G の作動停止のしかた

AS&Gの作動を停止（OFF）するには、AS&G OFFスイッチを押します。

- AS&G OFFスイッチを押すと、AS&Gの作動が停止します。（スイッチの表示灯が点灯）
- 再度、AS&Gを使用（ON）するときは、もう一度AS&G OFFスイッチを押します。（スイッチの表示灯が消灯）



知識

- アイドリングストップ中にスイッチを押すと、エンジンは再始動します。
- AS&GのON・OFFを切り替えると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- スイッチを押しAS&Gの作動を停止させても、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしエンジンを始動すると、AS&Gは作動します。（スイッチの表示灯が消灯）

AS&G を使うときの注意事項

アドバイス

- 充放電能力と寿命性能を強化したAS&G付車専用の12Vバッテリー（メイン）をご使用ください。専用バッテリー以外を使用すると、12Vバッテリー（メイン）の早期劣化やAS&Gが正常に作動しなくなる原因となります。
- 12Vバッテリー（メイン）は、お客さまの車両に適合した三菱自動車純正部品をおすすめします。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。
- リチウムイオンバッテリー（サブ）は、お客さまの車両に適合した三菱自動車純正部品をご使用ください。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

知識

- 次のような場合は、アイドリングストップ機能またはコーストストップ機能が作動しません。
  - エンジンを始動して、一度も走行しないでアイドリングを続けているとき
  - エンジン冷却水の温度が低いとき
  - バッテリーの容量が低いとき
  - バッテリーの温度が低いまたは極端に高いとき
  - ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
  - エンジン回転中にボンネットを開けたとき
  - ボンネットを開けた状態でエンジンを始動させたとき
  - 運転席のシートベルトが着用されていないとき
  - 運転席ドアが開いているとき
  - ハンドル操作をしているとき
  - メーター内のAS&G表示灯 AUTO が点滅しているとき
  - アクセルペダルを踏んでいるとき

知識

- セレクターレバーがRのとき
- 室内の温度が約20℃以下のとき（タッチパネル式フルオートエアコン付車）
- 室内の温度が約30℃以上のとき（エアコンがOFFのときはアイドリングストップします。）（タッチパネル式フルオートエアコン付車）
- エアコンの風量が最大のとき（タッチパネル式フルオートエアコン付車）
- デフロスタースイッチ（P.100）がONのとき（外気温によってはアイドリングストップする場合があります。）（タッチパネル式フルオートエアコン付車）
- エアコンの風量切り替えダイヤルがOFF（0）以外の位置で、吹き出し口切り替えダイヤルをデフロスター位置にしたとき（マニュアルエアコン付車）（P.104）
- AS&G OFFスイッチがONのとき
- メーター内の電動パワーステアリング警告灯、ABS警告灯、アクティブスタビリティコントロール[ASC]警告灯が点灯しているとき
- ブレーキペダルの踏み込みが弱いとき
- 消費電力が大きいとき
- 標高約2000m以上の高地のとき

● 次のような場合は、アイドリングストップ機能が作動しません。

- 車両が動いているとき
- 急勾配の坂道で停車したとき

● 次のような場合は、コーストストップ機能が作動しません。

- 車速が約13km/h以上のとき
- セレクターレバーがD以外のとき
- 平坦路以外のとき
- 踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]が前方に車両や歩行者を検知しているとき
- セレクターレバーがDのときに、パドルシフト★を操作してスポーツモードが作動しているとき
- マイパイロット★が作動しているとき

● 次のような場合は、システムが作動するまでに時間がかかる場合があります。

- バッテリーが十分に充電されていないとき
- 外気温が低いときまたは高いとき
- 12Vバッテリー（メイン）を交換したあとや、長期間12Vバッテリー（メイン）端子を外したあと
- 外気温が低く、暖房中のとき

● 次のような場合は、アイドリングストップ機能によるアイドリングストップ中にエンジンが再始動します。

- 坂道でブレーキを緩め、車両が動き出したとき
- セレクターレバーをRに入れたとき
- セレクターレバーがL（Ds）、D、Nのときにブレーキペダルを緩めたとき
- セレクターレバーをNまたはPからL（Ds）、Dに入れたとき
- セレクターレバーがDまたはDsのときに、パドルシフト★を操作したとき

● 次のような場合はコーストストップ機能によるアイドリングストップ中にエンジンが再始動します。

- 車速が約13km/h以上になったとき
- セレクターレバーをD以外に操作したとき
- ボンネットを開けたとき
- セレクターレバーがDのときに、パドルシフト★を操作したとき

知識

- コーストストップ機能によるアイドリングストップ中に、衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]またはEAPMが作動した場合、停車後に再始動します。
- このシステムは、信号待ちなどのときに使用し、長時間の停車などの場合は、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしてエンジンを停止してください。
- アイドリングストップ機能によるアイドリングストップ中にボンネットを開けると、ブザーが鳴るとともに通常のエンジン停止状態となります。その場合は、エンジンをかけ直してください。
- アイドリングストップ機能またはコーストストップ機能によるアイドリングストップ中は、エアコン（冷房・暖房・除湿機能）がOFFになり、送風になります。
- アイドリングストップ機能によるアイドリングストップ中にハンドルを操作したとき、ハンドル操作力が重く感じることがあります。
- 次のような場合は、アイドリングストップ機能によるアイドリングストップ中にブレーキペダルから足を離しても、エンジンが再始動しません。（下記の再始動条件で再始動する場合があります。）
  - セレクターレバーがPのとき
  - ブレーキオートホールド機能★が作動しているとき
  - マイパイロット★が作動しているとき
- 次のような場合は、アイドリングストップ機能またはコーストストップ機能によるアイドリングストップ中に、エンジンが再始動します。
  - アイドリングストップしてから、3分以上経過したとき
  - AS&G OFFスイッチを押したとき
  - マイパイロット★（➔P.153）をセットしたとき（ブレーキペダルの踏み込み量によってはエンジンが再始動しない場合があります。）
  - マイパイロット★（➔P.153）で停車中に発進操作したとき
  - マイパイロット★（➔P.153）で停車中に先行車が発進したとき
  - エアコン風量切り替えダイヤルがOFF（0）以外の位置で、吹き出し口切り替えダイヤルをデフロスター位置にしたとき（マニュアルエアコン付車）
  - 室内の温度が約20℃以下になったとき（タッチパネル式フルオートエアコン付車）
  - 室内の温度が約30℃以上になったとき（エアコンがOFFのときはアイドリングストップし続けます。）（タッチパネル式フルオートエアコン付車）
  - A/Cスイッチ、AUTOスイッチ（➔P.100）をタッチしたとき（タッチパネル式フルオートエアコン付車）
  - デフロスタースイッチ（➔P.100）をONにしたとき（外気温によってはエンジンが再始動しない場合があります。）（タッチパネル式フルオートエアコン付車）
  - アクセルペダルを踏んだとき
  - ハンドル操作をしたとき
  - バッテリーの容量が低くなったとき
  - 消費電力が大きいとき
  - ブレーキペダルを数回踏み直すなどして、ブレーキ装置の負圧が不足したとき
  - 運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたとき

車両後退抑制機能

- 坂道でアイドリングストップ機能によるアイドリングストップ中から発進するときに、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に発生する車両の後退を軽減するシステムです。

📖 知識

- この装置はASC（➔P.146）のブレーキ制御を利用しているため、メーター内のASC警告灯 （➔P.254）が点灯したときは作動しません。

HYBRID★

オートストップ&ゴー[AS&G]、エンジンアシスト機能、バッテリーへの充電（エネルギー回生機能）を効率よく制御し、燃費を向上させます。

バッテリーについて

12Vバッテリー（メイン）とリチウムイオンバッテリー（サブ）の2つのバッテリーを搭載しています。

➔バッテリーの搭載位置 (P.301)

⚠ 警告

- **バッテリーの端子を外した状態で走行しない。**

  車両の各システムが正常に機能せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

📖 知識

- 充放電能力と寿命性能を強化したAS&G専用の12Vバッテリー（メイン）を搭載しています。専用バッテリー以外を使用すると、12Vバッテリー（メイン）の早期劣化やAS&G機能、エンジンアシスト機能が正常に機能しなくなる原因となります。
- 12Vバッテリー（メイン）は、お客さまの車両に適合した三菱自動車純正部品をおすすめします。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。
- リチウムイオンバッテリー（サブ）は、お客さまの車両に適合した三菱自動車純正部品をご使用ください。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

HYBRIDの機能

エネルギー回生機能

アクセルペダルを踏まずに惰性での走行中やブレーキペダルを踏んで減速しているときなど作動条件を満たすと、ECOモーターの発電量を増大させバッテリーを充電します。

エンジンアシスト機能

バッテリーの充電量に十分な余裕があるとき、加速中に作動条件を満たすと、最大30秒間ECOモーターの力で駆動力をアシストします。

📖 知識

- 次のような場合は、エンジンアシスト機能が作動しません。（車両の状態によっては次の条件以外でも、エンジンアシストしない場合があります。）
  - ― 急発進、急加速したとき
  - ― 発進したあとにブレーキペダルを踏んだとき
  - ― 発進したあとにアクセルペダルを緩めたとき
  - ― ABS、アクティブスタビリティコントロール[ASC]が作動しているとき
  - ― バッテリーの充電量が十分でないとき
  - ― 外気温度が低く、バッテリーの保護が必要なとき

4WD（4輪駆動）車★の扱いかた

4WD車は、滑りやすい路面などで優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。4WD車特有の取り扱いかたを十分理解し、正しい運転をしてください。

走行するとき

- オフロード（不整地）走行やラリー走行用ではありません。走行するときは以下のことを必ずお守りください。
  - ― 河川などの水中走行はしない

— 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすいところでの連続走行はしない
— 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させない

●運転操作は一般車と同様です。ハンドル、アクセルおよびブレーキペダルなどの操作は慎重に行い、安全運転を心がけてください。

知識

● 4WD車は、2WD車に対し、制動距離が短くなるわけではありません。

タイヤについて

●タイヤの交換は4輪とも同時に行い必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
●摩耗差が大きいものやサイズが異なるタイヤを装着すると車の機構を破損するおそれがあります。
冬用タイヤも必ず4輪同じものを装着してください。
タイヤ交換は三菱自動車販売会社にご相談ください。

4WD 車の特性

■ タイトコーナーブレーキング現象

乾燥した舗装路を4WD状態で走行中、ハンドルをいっぱいに切って旋回するとブレーキをかけたような状態になることがあります。この現象をタイトコーナーブレーキング現象といいます。

この現象は旋回するとき前後輪に回転差が生じるために起きる4WD車特有の現象で異常ではありません。この現象が発生したときはハンドルの操作力が重くなります。

アドバイス

● タイトコーナーブレーキング現象が起きるとタイヤのスリップ音や駆動系のきしみ音などが発生することがあります。

走行のしかた

■ 雪道など舗装路以外を走行するとき

●路面の状態に合わせ慎重に走行します。

⚠ 警告

● **急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはしない。**
タイヤがスリップしたり、横滑りや尻振りなどをおこし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

エマージェンシーストップシグナルシステム [ESS]

ESS : Emergency Stop Signal system

エマージェンシーストップシグナルシステム[ESS]は、急ブレーキを踏んだとき、後続車に追突される可能性を低減させるため、制動灯を点滅させて後方へ急ブレーキを知らせます。

ESS について

●60km/h以上の速度で走行中、急ブレーキを踏むと作動します。
●次の場合は作動が停止します。
— ブレーキペダルから足を離したとき
— ブレーキペダルを踏んでいても急ブレーキではなくなったとき

知識

● メーター内のABS警告灯（➔P.250）が点灯しているときは、ESSが作動しない場合があります。

アンチロックブレーキシステム [ABS]

ABS : Anti-lock Brake System

ABSとは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、車両の安定性を向上させるとともにハンドル操作による障害物回避をしやすくするシステムです。

ABS について

急ブレーキを踏まなければならないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

●危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
●ABSが作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりし

ます。これはABSの正常な作動によるものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

●障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。

●キースイッチ（電源ポジション）をONにしたときや、エンジン始動後最初の発進時に、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停車させるため、ABSは低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約10km/h以下では作動しません。

⚠ 警告

- **カーブの手前では十分に減速する。**

  ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車両と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早めの操作で安全運転を心がけてください。

- **でこぼこ道、じゃり道、積雪路などでは、特に速度を控え、車間距離を十分にとる。**

  ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しやすくするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、じゃり道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を控え、車間距離を十分にとって運転してください。

- **タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着する。**

  ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アクティブスタビリティコントロール [ASC]

ASC：Active Stability Control

ASCは、横滑りや駆動輪の空転を抑えて走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

ASC の機能について

●ASCのシステムには次の機能があります。

— ASC機能：走行中の横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させる機能です。

— トラクションコントロール機能（TCS）：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、エンジンの出力を抑えることにより、駆動力およびハンドルの操作性を向上させる機能です。

— グリップコントロール機能：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、もう一輪の駆動力を確保する機能です。

— ABS機能：ABS（➔P.145）

⚠ 警告

- **滑りやすい路面やカーブの手前では速度を落とす。**

  この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。ASCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では、特に速度を落とし安全運転を心がけてください。

- **次の場合、メーター内のASC警告灯 が点灯し正常に作動しないことがあるので注意する。**

  — サスペンション、タイヤ、ブレーキ、ステアリング、エンジン関係部品などを純正品以外に交換したり、改造したとき

  — サスペンション、タイヤ、ブレーキなどの関係部品が著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき

- **ASC付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着する。**

知識

- ASC作動時は、ブレーキの作動により音や振動を発生する場合がありますが異常ではありません。

ASC の作動について

●ASCの作動と警告灯

— ASCが作動しているときは、メーター内のASC警告灯が点滅します。

— トラクションコントロール機能（TCS）／グリップコントロールのみが作動しているときもASC警告灯が点滅します。ASC警告灯が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっていますので特に慎重に運転してください。

●次の場合、ASC警告灯が点灯することがあります。一度キースイッチ（電源ポジション）をOFFにし、再度エンジンを始動するとASC警告灯は消灯します。

— 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき。

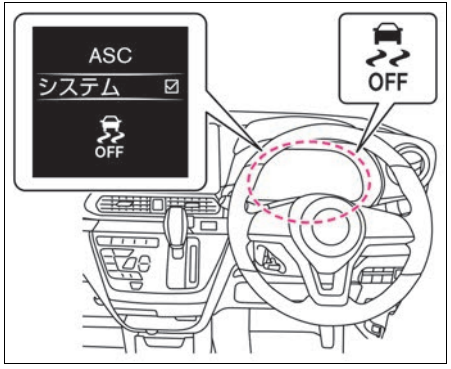
— 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したとき。

ASC の停止のしかた

●マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「ASC」⇒「システム」を選択すると、ASC機能のON・OFFを切り替えられます。
設定の詳細については、ASCをお読みください。
➔画面の切り替えかた (P.46)
➔ASC (P.53)

●ASC機能をOFFに切り替えると、ASCが停止し、ASC OFF表示灯が点灯します。

●再度、ASCを使用（ON）するときは、ASC機能をONに切り替えます。ASC OFF表示灯が消灯し、ASCがONになります。



アドバイス

- ASCが作動しているときは、ぬかるみや雪道から脱出するときに、スリップ状態を検知するため、アクセルペダルを踏み込んでもタイヤの回転数が上がらないことがあります。タイヤの回転数を上げたいときはASCを停止してください。
- ASC機能をOFFにすると、ASCのすべての機能と次の機能が停止します。（ABSおよびグリップコントロール機能を除く）
  — マイパイロット★（➔P.153）
  — 衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）（➔P.173）
  — 前方衝突予測警報[PFCW]（➔P.179）
  — 踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]（➔P.182）
  — 車線逸脱防止支援機能[LDP]（➔P.192）

知識

- キースイッチ（電源ポジション）をONにするたびに、ASCはONになります。
- ASCが作動すると車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。

知識

- キースイッチ（電源ポジション）をONにしたときや、エンジン始動後最初の発進時に、エンジンルーム内から音が聞こえることがありますが、システムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

ヒルスタートアシスト [HSA]

HSA : Hill Start Assist

ヒルスタートアシスト[HSA]は、上り坂での発進を補助するシステムです。

HSA について

- 上り坂で発進するとき、ブレーキペダルからアクセルペダルへ踏み替える間に発生する車両の後退を防ぎます。
- セレクターレバーがP、N以外のとき、ブレーキペダルから足を離すと、約2秒間ブレーキ力を保持します。

警告

- **HSAの機能を過信しない。**

  凍結している路面や泥状の坂道では、車両がスリップして後退することがあります。特に安全運転を心がけてください。

  緩やかな坂道ではHSAが作動せず後退する場合があります。その際はブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキをかけてください。

- **坂道での駐停車にHSAを使用しない。**

  思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **停車するときは、ブレーキペダルを踏み続ける。**

  この装置は、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。駐車するときは確実にセレクターレバーをPにして、パーキングブレーキをかけてください。

アドバイス

- セレクターレバーを操作した直後は、ブレーキペダルを踏んだ状態で約1秒待ってから発進してください。セレクターレバーをPからDまたはNからDにした直後は、HSAが作動しないことがあります。

知識

- メーター内のアクティブスタビリティコントロール[ASC]警告灯 （➔P.254）が点灯しているときは作動しません。
- HSAが作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

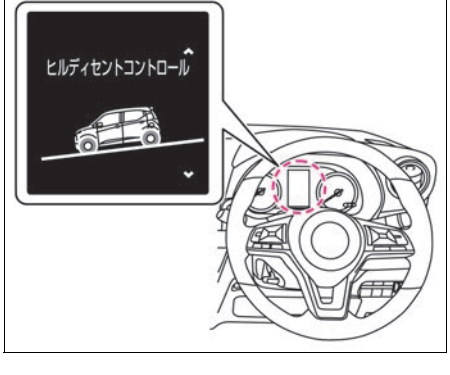
ヒルディセントコントロール [HDC]★

HDC : Hill Descent Control

ヒルディセントコントロール[HDC]は、急な下り坂や滑りやすい路面を下るときの走行を補助するシステムです。

HDC の機能について

- HDCは、エンジンブレーキだけでは十分な減速ができないような急な下り坂や、オフロードのような滑りやすい路面を下るとき、一定の低車速を保ち、下り坂での走行を補助するシステムです。
- マルチインフォメーションディスプレイを「ヒルディセントコントロール」に切り替えると、HDCの作動を画面で確認することができます。
  詳しくは、➔画面の切り替えかた (P.46)をお読みください。



⚠ 警告

● **HDCの機能を過信しない。**

極端に急な下り坂、凍結路、泥状の下り坂では必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。一定の速度を保持できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

📖 知識

● システムが作動しているとき、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

HDC の作動について

●HDCは、次の条件が満たされたときのみ作動することができます。
- — HDCスイッチを押してONにしている
- — セレクターレバーがPまたはN以外に入っている
- — 車速が約25km/h以下
- — アクセルペダルとブレーキペダルを踏んでいないとき

HDCをONにしていても、条件が満たされていないときはHDC表示灯（P.259）が点滅し、システムが作動しません。

アドバイス

● 長時間連続使用するとシステム温度が上昇し、一時的に作動が停止します。このとき、HDC表示灯が点滅します。

● アクティブスタビリティコントロール[ASC]警告灯が点灯しているときは、HDCは作動しません。

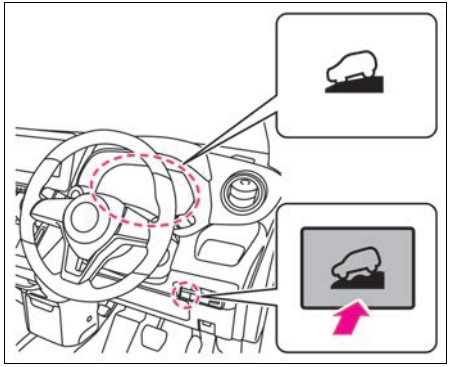
HDC の使いかた

●スイッチを押すとHDCがONになり、HDC表示灯が点灯または点滅します。

●HDC表示灯が点滅しているときは、作動条件を満たしていないためHDCが作動しません。

●HDCで走行しているときは、アクセルペダルまたはブレーキペダルの操作で車速を変更することができます。

●HDCをOFFにするときは、もう一度スイッチを押します。



アドバイス

● アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むと、HDCは作動を停止します。ペダルから足を離すとシステムが再び作動するので、車速を調節することができます。

● HDCスイッチをONにしても表示灯が点滅または点灯しないときは、システムの異常が考えられます。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

e-Assist

各種センサーによって事故の危険を検知して運転者に知らせるとともに、できる限り事故被害を予防・回避・軽減できるよう支援する安全技術です。

e-Assist について

e-Assistには次の機能があります。

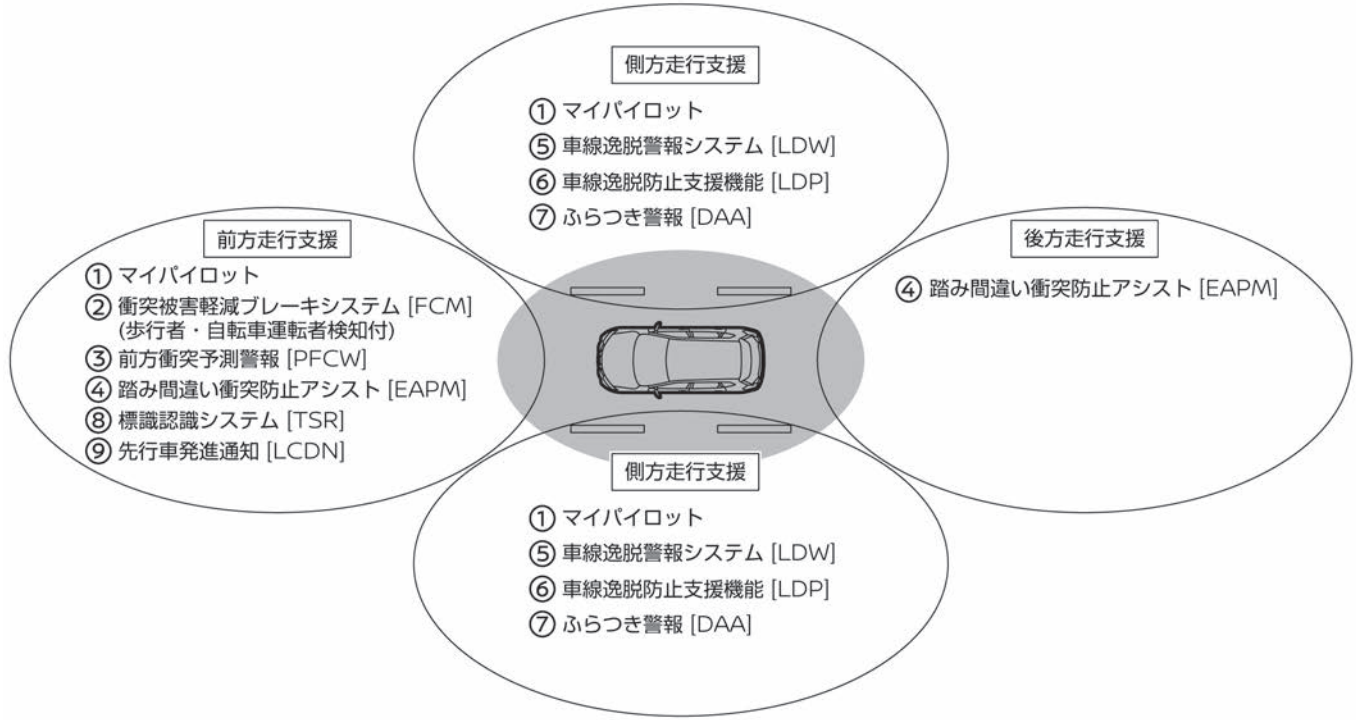
- 衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）（P.173）
- 前方衝突予測警報[PFCW]（P.179）
- 踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]（P.182）
- 車線逸脱警報システム[LDW]（P.191）
- 車線逸脱防止支援機能[LDP]（P.191）
- ふらつき警報[DAA]（P.196）
- 標識認識システム[TSR]（P.198）
- 先行車発進通知[LCDN]（P.202）
- オートマチックハイビーム[AHB]（P.134）

⚠ 警告

- **e-Assistの各機能は、運転者の安全運転を前提としたシステムであり、運転操作の負担や衝突被害を軽減することを目的としています。システムの検知性能・制御性能には限界があるため、これらのシステムに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。**

走行支援システム

走行支援システムについて



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

運転支援システム

① **マイパイロット★**
走行中、前方車両との車間距離を制御し、前方車両停車時は停車してその状態を保持します。また、走行車線内を走行するようにハンドルを制御することで運転操作の負担を減らします。（P.153）

② **衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）**
前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。（P.173）

③ **前方衝突予測警報[PFCW]**
前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。（P.179）

④ **踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]**
進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者（前進時のみ）などがいる場所で、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違えやブレーキ操作が遅れたとき、音と表示で警告し、さらに過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。（P.182）

⑤ **車線逸脱警報システム[LDW]**
運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。（P.191）

⑥ **車線逸脱防止支援機能[LDP]**
運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。（P.191）

⑦ **ふらつき警報[DAA]**
ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したとき、音と表示により運転者に休憩を促します。（P.196）

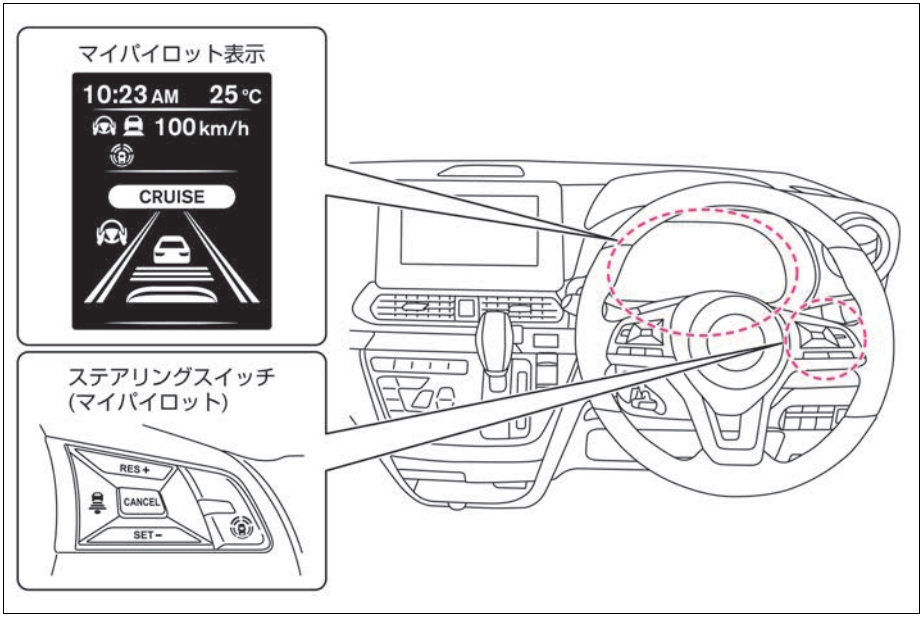
⑧ **標識認識システム[TSR]**
走行中に認識した進入禁止標識、一時停止標識、および最高速度標識の情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。（P.198）

⑨ **先行車発進通知[LCDN]**
先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、音と表示でお知らせする機能です。（P.202）

マイパイロット★

マイパイロットは、運転者が設定した車速を上限に先行車と車速に応じた車間距離を保ちながら、車線中央付近を走行するための運転操作を支援します。

システムに関連する表示とスイッチ



⚠ 警告

- **高速道路や自動車専用道路で使用する。**

  マイパイロットは、高速道路や自動車専用道路の直線や緩やかなカーブでの使用を想定して設計されています。一般道での使用は思わぬ事故につながるおそれがありますので使用しないでください。

- **マイパイロットの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がける。**

  自車の前への急な割り込みや先行車が急ブレーキをかけたとき、急なカーブを走行するとき、悪天候などでは、適切な減速や操舵制御が行えず先行車に接近したり、レーンマーカーに近づいたりすることがあります。先行車との車間距離、自車の車線内の位置、周囲の状況に応じて自らアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。

  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことを示します。

- **手放し運転を行うことはできない。**

  運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

- **停止中の車両には反応しない。**

⚠ 警告

料金所や渋滞の最後尾で停止中の車両に対しては減速しません。十分注意してください。

マイパイロットについて

●マイパイロットのシステムには次の機能があります。

レーダークルーズコントロール[ACC]

ACC：Adaptive Cruise Control

●先行車を検出しているときは、運転者がセットした車速（約30km/h以上）を上限に、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。

●先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、ACCは停止した状態を保持します。

●先行車が発進したときは、ステアリングスイッチのRES+スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと停止状態を解除し、再びACCによる追従走行を開始します。

●先行車を検出していない場合は運転者がセットした車速で定速走行します。（約30km/h以下では前方に車両がいない場合使用できません。）

➔レーダークルーズコントロール[ACC]の作動 (P.156)

車線維持支援機能[LKA]

LKA : Lane Keep Assist

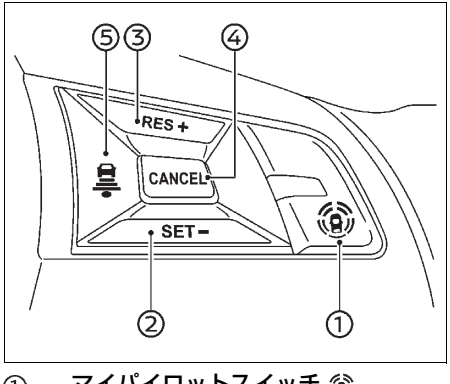
●車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。（約50km/h以下では前方に車両がいる場合に使用できます。）

➔車線維持支援機能[LKA]の作動 (P.163)

知識

● アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行することができる定速制御機能については、➔定速制御機能について (P.170)をお読みください。

ステアリングスイッチ（マイパイロット）



① **マイパイロットスイッチ**
-マイパイロットのON・OFFができます。

② **SET−スイッチ**
-SET-スイッチを押したときの車速でマイパイロットを開始できます。
-設定速度を下げることができます。

③ **RES+スイッチ**
-マイパイロットを解除後、解除前の設定速度で再び開始することができます。
-設定速度を上げることができます。

④ **CANCELスイッチ**
-マイパイロットの解除ができます。

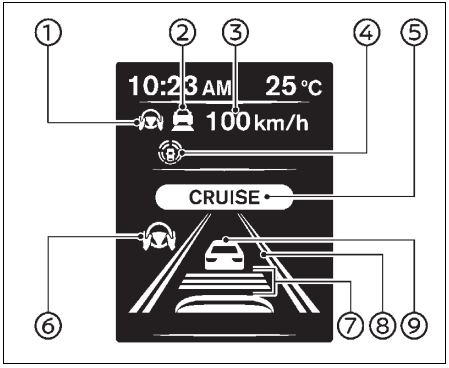
⑤ **車間設定スイッチ**
-車間設定を「長」「中」「短」の3段階に切り替えることができます。

知識

● マイパイロットをONにすると、LDPも同時にONになります。

詳しくは、➔車線逸脱警報システム[LDW]／車線逸脱防止支援機能[LDP] (P.191)をお読みください。

マルチインフォメーションディスプレイ



① **車線維持支援機能作動灯／警告灯**
-車線維持支援中は緑色に点灯

② **車速制御作動灯／警告灯**
-定車間制御中：緑色に点灯
-定速制御中：緑色（線画）に点灯

③ **設定車速表示**
-設定車速を表示

④ **マイパイロット作動灯**
-マイパイロットON：白色に点灯
-マイパイロット作動開始：緑色に点灯

⑤ **マイパイロット作動表示**
-マイパイロット作動中は青色に点灯

⑥ **車線維持支援機能作動表示**
-車線維持支援中は緑色に点灯

⑦ **車間設定表示**
-車間距離の設定状況を表示

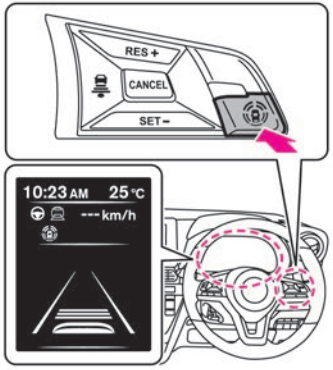
⑧ **車線検出表示**
-車線検出有り：緑色に点灯
-車線検出無し：灰色に点灯

⑨ **先行車検出表示**
-先行車検出有り：表示
-先行車検出無し：非表示

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

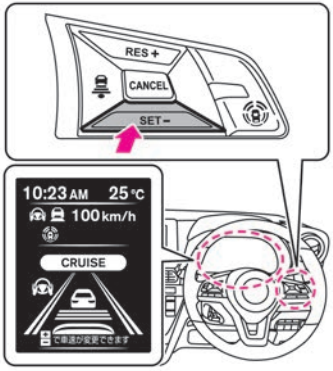
マイパイロットの使いかた

1. マイパイロットスイッチ を押します。
・マイパイロットがONになります。
・マルチインフォメーションディスプレイにマイパイロットの状態が表示されます。



2. 設定したい速度まで加速または減速します。

3. SET-スイッチを押します。
・スイッチを押したときの速度が設定速度になり、マイパイロットの制御が開始します。
（車速約30km/h以下で先行車を検出しているときにスイッチを押した場合、設定速度は30km/hになります。）
マイパイロット作動灯が緑色、マイパイロット作動表示が青色に点灯します。



知識

- マイパイロットには次の機能があります。

➔レーダークルーズコントロール[ACC]の作動 (P.156)

➔車線維持支援機能[LKA]の作動 (P.163)

知識

- マイパイロットスイッチ を約1.5秒押し続けると、定速制御機能に切り替わります。

  定速制御機能について (P.170)

- 車間設定は、エンジンを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。
- エンジンを止めるとマイパイロットはOFFになります。
- 次の場合は、マイパイロットの制御を開始することができません。

  （設定車速表示が約2秒間点滅します。）

  — 運転席、助手席、後席、またはテールゲートのいずれかのドアが開いているとき
  — 運転席シートベルトを着用していないとき
  — 車速が約30km/hを下回っていて、先行車を検出していないとき
  — セレクターレバーがDまたはL（DS）以外のとき
  — 電動パーキングブレーキが作動しているとき
  — ブレーキペダルを踏んでいるとき
  — アクティブスタビリティコントロール[ASC]をOFFにしたとき
  — ASC/TCSが作動したとき
  — タイヤが空転したとき

レーダークルーズコントロール [ACC] の作動

先行車を検出しているとき

●運転者がセットした車速（約30km/h以上）を上限に、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車検出表示が点灯し、車速制御作動灯が定車間制御中表示（緑）で点灯します。

先行車が停止したとき

●ACCで走行中に先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、ACCは停止した状態を保持します。（停止した状態を保持しているときは、「RES+を押すと再開します」と表示されます）

先行車が発進したとき

●ACCで停止状態を保持しているときに先行車が発進したときは、RES+スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと停止状態は解除され、再びACCによる追従走行を開始します。

追従走行時

車両停止保持時

知識

- ACCで自車が停止したとき、停止した状態を保持するまでは周囲に注意してください。
- 車間設定スイッチ により、車間を設定することができます。

  車間距離設定の変更のしかた (P.158)

- ACCの制御によりブレーキが作動した場合は、自車の制動灯が点灯します。

📖 知識

- ブレーキが作動したとき、音がすることがありますが異常ではありません。
- 車両停止保持状態のときに、RES+スイッチを押すと、約3秒間は発進待機状態になります。（車両停止保持状態が解除されます）
- ACCにより自車が停止したあと、約3分を経過すると、解除音とともに電動パーキングブレーキが作動し、ACCは解除されます。
- ACCにより自車が停止中に、先行車が発進するとオートストップ&ゴー[AS&G]が解除されエンジンが再始動します。

先行車を検出していないとき

●運転者が設定した速度で、定速走行します。先行車検出表示が消灯し、車速制御作動灯が定速制御中表示（線画）で点灯します。

📖 知識

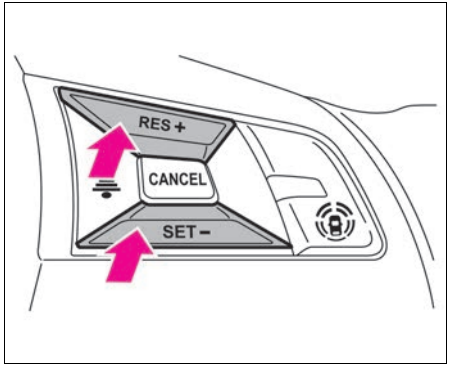
- 設定車速までは機能の制御によって加速しますが、素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- 先行車を検出していない場合、車速が約25km/h以下になると、ACCは解除されます。

設定車速の変更のしかた

設定車速を5km/hきざみで変更できます。

●設定車速を上げたいときは、RES+スイッチを押します。

●設定車速を下げたいときは、SET-スイッチを押します。



📖 知識

- 車間制御しているときは、先行車に合わせた車速に制御されるため、RES+スイッチを押して、設定車速を上げても加速しません。

  このとき機能上は設定車速を変更しているため、先行車を検出しなくなるとその設定した車速まで加速します。設定車速はマルチインフォメーションディスプレイの設定車速表示を確認しながら変更してください。

一時的に加速、減速をしたいとき

加速したいとき

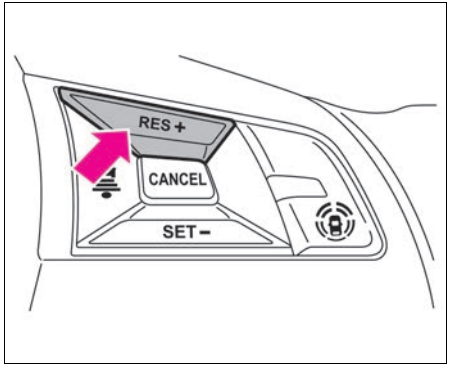
●アクセルペダルを踏むと、加速します。

●アクセルペダルを離すと、元の制御状態に戻ります。

減速したいとき

●ブレーキペダルを踏むと、減速（制御が解除）します。

●解除前の設定速度で再びセットしたいときは、RES+スイッチを押します。



知識

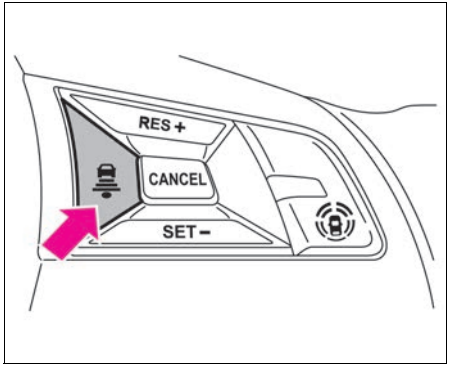
- アクセルペダルを踏んでいるときは、ACCによるブレーキ制御も接近警報も行いません。
- 通常、車間制御中は先行車の速度に合わせて加速、減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要なときや、先行車が急減速したり、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

- アクセルペダルを踏んで加速した場合や、SET-スイッチで設定速度を下げた場合などで設定速度より実際の速度の方が高くなったときは、設定速度表示が点滅します。

車間距離設定の変更のしかた

先行車との車間距離を交通状況に応じて選ぶことができます。レーダークルーズコントロール[ACC]制御中またはセット待機状態のときに車間設定を切り替えることができます。

●車間設定スイッチを押すごとに「長」→「中」→「短」→「長」の順に切り替わります。



知識

- 車間距離は車速に応じて変わり、速度が高いほど長くなります。

知識

車間設定	ディスプレイ
長	
中	
短	

- 車間設定は、エンジンを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

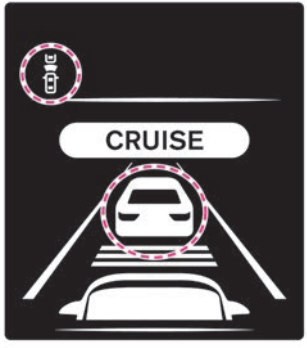
割り込み検知

●自車に近い位置に他車が割り込んできたときは、"ポーン"という音とともに先行車検出表示が点滅し、運転者にお知らせします。

接近警報

●車間制御中に先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、次のようにブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示によって運転者に注意を促します。この場合は、ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

●先行車に接近し、車間距離が十分でないと判断されるときはブザーが"ピッ、ピッ、ピッ、ピッ…"と鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの先行車検出表示および接近警報表示が点滅します。



知識

- 接近警報が頻繁に作動するような状況では、レーダークルーズコントロール[ACC]を使用しないでください。

- 短い車間距離でも、次の場合には接近警報が作動しないことがあります。
  - 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
  - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）
  - 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 料金所や渋滞の最後尾で停止中の車両に対しては接近警報は作動しません。

追い越し時加速機能

●設定車速が70km/h以上でレーダークルーズコントロール[ACC]制御中、先行車が設定車速以下のとき、方向指示器を右折側に操作すると、車両が加速し先行車を追い越す準備を始めます。

●運転者がステアリングを操作し、追い越すために車線を変更したときに先行車を検出した場合は、運転者がセットした車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車を検出しなかった場合は運転者がセットした車速で定速走行します。

知識

- 方向指示器を右折側に操作し、車両が加速しているときに先行車との距離が近づきすぎると加速は停止し、設定してある車間距離に戻ります。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

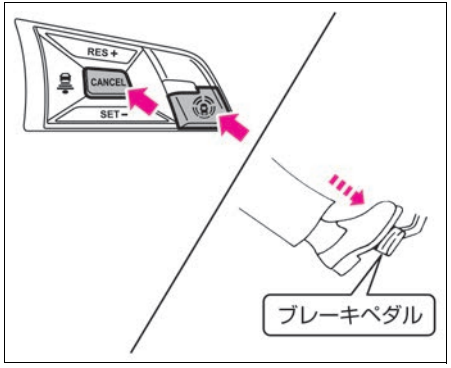
知識

- 次の場合は追い越し時加速機能が解除されます。
  - ― ブレーキペダルを踏んだとき
  - ― CANCELスイッチを押したとき

レーダークルーズコントロール [ACC] の解除のしかた

次のいずれかの操作でACCが解除されます。

- CANCELスイッチを押す
- マイパイロットスイッチ を押す
- ブレーキペダルを踏む（ACCにより、自車が停止状態を保持しているときを除く）



警告

- **車から離れるときは、必ずマイパイロットスイッチ を押して、マイパイロットをOFFにし、セレクターレバーをPに入れ、エンジンを停止する。**

レーダークルーズコントロール [ACC] の自動解除

- 次の場合は、解除音とともにACCが解除されます。
  - ― 運転席、助手席、後席、またはテールゲートのいずれかのドアを開けたとき
  - ― 運転席のシートベルトを解除したとき
  - ― 先行車を検出していないときに、車速が約25km/hを下回ったとき
  - ― ACCにより自車が停止後、約3分が経過したとき
  - ― セレクターレバーをDまたはL（Ds）以外にしたとき
  - ― 電動パーキングブレーキをかけたとき
  - ― アクティブスタビリティコントロール[ASC]をOFFにしたとき
  - ― ASC/TCSが作動したとき
  - ― タイヤが空転したとき
  - ― 周辺の電波源の影響を受けているとき
- 次の場合は「フロントレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください」と表示され、作動が停止します。
  - ― センサー部が汚れ、先行車の検出が困難になったとき
    システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止してレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから再始動し、再びシステムをONにしてください。
  - ― 道路形状や周辺の建造物により、レーダーが先行車を正確に検知できないとき（例：長い橋、雪原、長い壁の横など）
    システムを再び作動させる場合は、上記の状況から離れるとシステムは自動的に作動を再開します。

アドバイス

- ACCにより自車が停止状態を保持中に運転席ドアを開けたとき、電動パーキングブレーキが正常に作動しなかった場合は「ブレーキを踏んでください 停止状態が維持出来ません」と警告メッセージが表示されます。

知識

- ACCにより自車が停止状態を保持しているとき、 次の条件により、ACCが解除されると電動パーキングブレーキが作動します。
  - ― 運転席、助手席、後席、またはテールゲートのいずれかのドアを開けたとき

知識

— 運転席のシートベルトを解除したとき

— ACCにより自車が停止後、約3分が経過したとき

— セレクターレバーをDまたはL（Ds）以外にしたとき

— ASCをOFFにしたとき

— ACCに異常があるとき

— CANCELスイッチを押したとき

— マイパイロットスイッチ を押したとき

レーダークルーズコントロール [ACC] の故障について

●システムに異常があると、警告音とともにマルチインフォメーションディスプレイ内に車速制御警告灯（オレンジ）が点灯し、警告が表示され、システムが停止します。
車速制御警告灯（P.155）

アドバイス

● 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。 上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

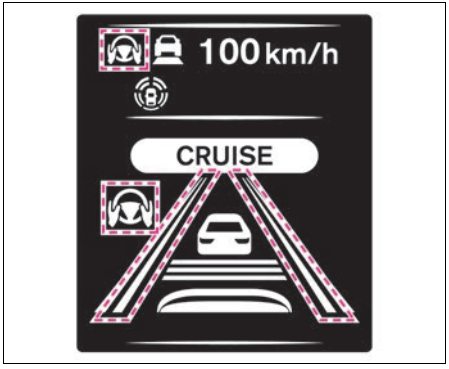
マイパイロット（レーダークルーズコントロール [ACC]）警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。マルチインフォメーションディスプレイの表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
 作動範囲外のため 現在使用できません	● アクティブスタビリティコントロール [ASC]をOFFにしたとき	● ASCがOFFの場合はACCは使用することができません。
 システムを解除しました 滑りやすい路面です	● ASC/TCSが作動したとき ● タイヤの空転を検出したとき	● ASC/TCSが作動する、または、タイヤが空転するような状況ではACCは使用できません。
 現在使用できません パーキングブレーキが 作動しています	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときはACCは使用することができません。
 現在使用できません シートベルトが 解除されています	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合はACCは使用することができません。
⚠警告 現在使用できません システムが 故障しています	● システム故障	● 安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
⚠警告 ブレーキを踏んでください 停止状態が 維持出来ません	● ACCにより車両が停止中、運転席ドアが開いたが電動パーキングブレーキが正常に作動しなかったとき	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。

車線維持支援機能 [LKA] の作動

車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。



- LKAは、次の条件を満たすとき作動することができます。
  - レーダークルーズコントロール[ACC]の制御が開始しているとき
  - 両側のレーンマーカーを検出しているとき
    レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。
  - 先行車を検出しているとき（車速が約50km/hを下回っている場合のみ）
  - 運転者がハンドルを持っているとき
  - 車線の中央を走行しているとき
  - 方向指示器が作動していないとき
  - ワイパーが高速で作動していないとき
- LKAが作動すると、ブザーが鳴るとともに車線維持支援機能作動灯、車線維持支援機能作動表示、車線検出表示が緑色になります。

車線維持支援機能 [LKA] の ON・OFF のしかた

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「MI-PILOT」を選択すると、LKAのON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援をお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.46)
  ➔ 運転支援 (P.54)

知識

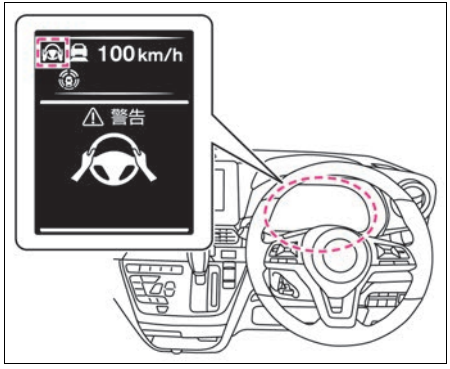
- マルチインフォメーションディスプレイの車両情報画面がマイパイロット画面のときは、ステアリングにある OK スイッチを押すとマイパイロットの設定画面が表示されます。
- LKAのON・OFF設定はエンジンを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

手放し警告について

⚠ 警告

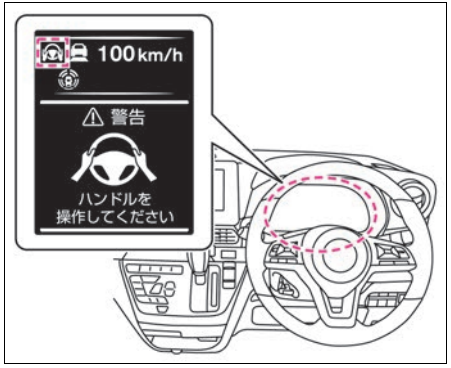
- **手放し運転を行うことはできません。**
  運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

- 運転者がハンドルを持っていない、または操作していない場合、車線維持支援機能警告灯が赤色に点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに手放し警告が表示されます。



- 手放し警告が表示されているにもかかわらず、運転者のハンドル操作が検出されない場合は、車線維持支援機能警告灯と手放し警告が赤色に点滅し、警告音とともに「ハンドルを操作してください」と表示され、車線維持支援機能は解除されます。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備



- 運転者のハンドル操作が検出されない場合、車線維持支援機能警告灯が消灯し、緊急警報音が鳴るとともに手放し警告が赤色に点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに「緊急停止」と表示され、自車を減速、緊急停止させます。
- 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドルを操作すると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。
- 緊急停止後、マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを操作してください」と警告メッセージが表示されます。

アドバイス

- ハンドルに手を軽く添えて運転をしている場合など、ハンドル操作を検出できず、手放し警告が表示されることがあります。

知識

- 手放し警告により車線維持支援が解除された場合、再度運転者がハンドルを操作すると手放し警告が消灯し、マイパイロットを解除し再度セットすることで車線維持支援を再開できます。

車線維持支援機能 [LKA] の一時待機について

運転操作による一時待機

- 方向指示器を作動させたときは、車線維持支援機能が一時待機状態になります。（再び作動条件を満たすと作動を再開します）
- 車線維持支援機能作動灯、車線維持支援機能作動表示、車線検出表示が灰色になります。

マイパイロット（車線維持支援機能[LKA]）警告メッセージ（➔P.166）

システムによる一時待機

- 次の場合は、ブザーとともに警告メッセージが表示され、車線維持支援機能が一時待機状態になります。（再び作動条件を満たすと作動を再開します）
  - ― 両側の車線を検出しなくなったとき
  - ― 車速が約50km/h以下で、先行車を検出しなくなったとき
- 車線維持支援機能作動灯、車線維持支援機能作動表示、車線検出表示が灰色になります。

マイパイロット（車線維持支援機能[LKA]）警告メッセージ（➔P.166）

車線維持支援機能 [LKA] の自動解除

- 次の場合は、警告メッセージが表示され、LKAが解除されます。
  - ― ワイパーを高速で作動させたとき
  - ― 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき （雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）

マイパイロット（車線維持支援機能[LKA]）警告メッセージ（➔P.166）

知識

- LKAによるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によりいつでも修正することができます。

車線維持支援機能 [LKA] の故障について

- システムに異常があると、警告音とともにマルチインフォメーションディスプレイに車速制御警告灯（オレンジ）、および車線維持支援機能警告灯（オレンジ）が点灯し、警告が表示され、システムが停止します。

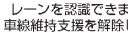
車速制御警告灯（➔P.155）
車線維持支援機能警告灯（➔P.155）

アドバイス

- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

マイパイロット（車線維持支援機能 [LKA]）警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。 マルチインフォメーションディスプレイの表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
	● 両側の車線を検出しなくなったとき ● 車速が約50km/h以下で、先行車を検出しなくなったとき	● 作動条件を再度満たすと車線維持支援機能は再開されます。
	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないときに表示します。 — 表示（赤）により警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
	● 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。 — 音、表示（赤）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。 ● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、LKAが解除されます。
	● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 — 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、マイパイロットが解除されます。
	● 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき （雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）	● 再び車線維持支援機能を使用したいときは、レーンマーカーがはっきりと描かれている道路でマイパイロットを解除し、再度セットしてください。
	● ワイパーを高速で作動させたとき	● ワイパーの高速作動を解除して再度セットしてください。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
 カメラが認識 できないため 現在使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光を受けたとき	● 状況が改善すると、マイパイロットを使用することができます。 ● 警告表示が出続ける場合は、安全な場所に停車し、エンジンを一旦停止してからカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除いてください。
 車線認識カメラ・ その周辺が高温のため 使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 室内の温度が下がるとマイパイロットを使用することができます。

マイパイロットに関する注意事項

⚠ 警告

- **マイパイロットは脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。**

  先行車との車間距離、車線内の位置、周囲の状況に応じてアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作するなどして、常に安全運転を心がけてください。

- **マイパイロットの性能には限界があります。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、マイパイロットを使用しないでください。**

  — 急カーブや曲がりくねった道
  マイパイロットは直線路や緩やかなカーブ路での使用を想定して設計しているため、車線中央付近を維持できなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

  — 急勾配の坂道
  停止状態を保持できず、車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

  — 急な下り坂
  設定車速を超えてしまうおそれがあります。また先行車がいる場合は、ブレーキが過熱して十分な減速ができなくなるおそれがあります。

  — 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

  — 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況
  ブレーキ作動が遅れて車間距離が短くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

  — 道路構造物（壁、ガードレール、ポール、縁石など）と、レーンマーカーが極端に近い道
  道路構造物に接近し思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **次のような状況では先行車との車間距離が正確に検出できない、またはレーンマーカーが検出できない場合があり、適切に制御できず、思わぬ事故につながるおそれがありますのでマイパイロットを使用しないでください。**

  — 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき

  — 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき

  — カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき

  — カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき

  — 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき

  — 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき

  — 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯していない、あるいはヘッドライトのレンズが極端に汚れているとき

  — 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき

  — トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき

  — 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき

  — 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき

  — 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行するとき

  — 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき

  — 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき

  — オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき

- **次のような状況ではマイパイロットは正しく機能しません。マイパイロットを使用しないでください。**

  — タイヤの空気圧が適正ではないとき

⚠ 警告

- ― 摩耗しているタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、三菱自動車純正品もしくは三菱自動車販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
- ― 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき
- ― カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
- ― 極端に重い荷物を積んでいるとき
- ― けん引しているとき
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

📖 知識

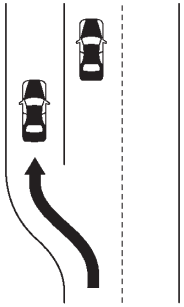
- マイパイロットを正しく作動させるために、カメラ前方のフロントガラス、レーダーセンサーおよびその周辺のお手入れを行ってください。

➲フロントカメラの取り扱い (P.306)

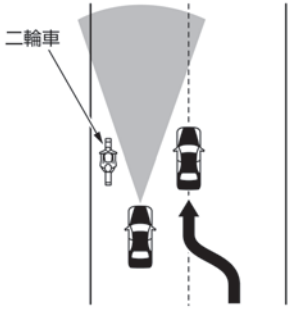
➲レーダーセンサーの取り扱い (P.305)

レーダークルーズコントロール[ACC]について

- 高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどに進入する（本線から出る）とき本線上でACCによりセット車速よりも遅い車速で走行する先行車に追従走行している場合には、自車または先行車の車線変更などで、自車線上に先行車を検出しなくなることによりセット車速まで加速するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- 近距離ではレーダーセンサーの検出エリアが狭いため、自車線の端を走行する二輪車を検出できなかったり、間近に割り込んでくる先行車の検出が遅れたりして、車間距離が適切に保てない場合があります。



- レーダーセンサーの汚れを判定する機能を備えておりますが万全ではありません。状況によってはレーダーセンサーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では、適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。また、レーダーセンサーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

  なお、汚れを判定した場合は、ACCは解除されます。

📖 知識

● 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭くなっている道）や自車の状況（ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など）によっては、一時的に先行車を検出できなくなったり、隣の車線の車両や周辺のものを検出して制御したり、警報が作動する場合があります。

また、一時的に先行車を検出できず、先行車に近づく場合があります。

車線維持支援機能[LKA]について

● 次のような状況ではレーンマーカーを正しく検出できず、適切なハンドル制御が行えない場合があります。

— レーンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき

— レーンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき

— レーンマーカーが多重に描かれているときⒶ

— 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき

— 料金所や交差点手前などでレーンマーカーがない、またはレーンマーカーが大きく変化しているときⒷ

— 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき

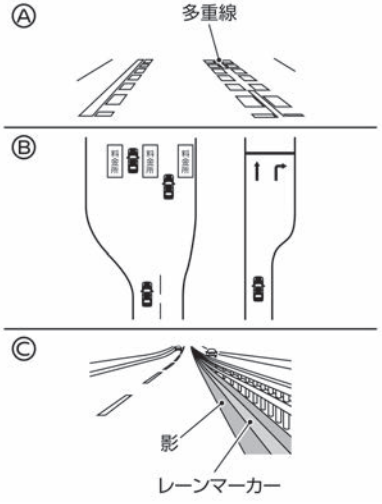
— 停止禁止部分または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき

— 濡れている、または水たまりがある路面を走行しているとき

— 工事などで車線内に複数のレーンマーカーがある道を走行しているとき

— 道路構造物、街路樹、建物などの影が差している路面を走行しているときⒸ

— 合流、分岐路を走行しているとき



定速制御機能について

定速制御機能を使用すると、セレクターレバーがDのとき、アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行することができます。（車間制御や車線維持支援は行いません。）約40km/h以上で任意の速度にセットできます。

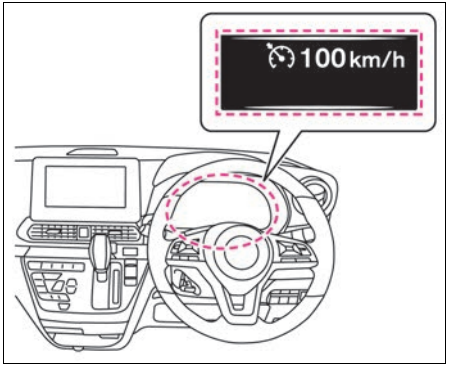
■ 定速制御機能表示

● マイパイロットスイッチ をONにすると点灯し、システムの作動状態を色で表示します。セットすると設定した速度を表示します。

— 白色：
マイパイロットスイッチ を1.5秒以上押し、システムがONになると表示します。

— 緑色：
車速を設定すると表示します。

— オレンジ色（警告灯）：
システムが故障すると表示します。



⚠ 警告

- **定速制御機能を使用するときは、十分な車間距離をとる。**

  定速制御中は車間制御を行わないため、ブレーキ操作も警報も行いません。先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。
- **次の状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、定速制御機能を使用しない。**
  - ― 交通量の多い道や急カーブのある道
  - ― 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
  - ― 急な下り坂

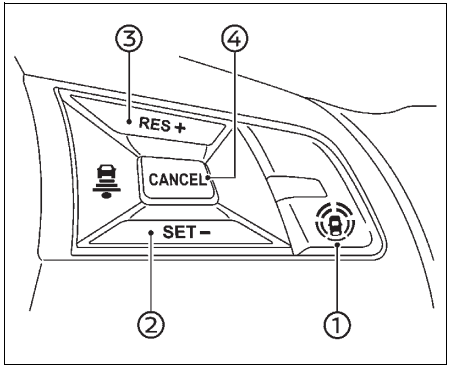
アドバイス

- 定速制御機能表示がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車して、電源ポジションをOFFにし、再始動してから再度定速制御機能をセットしてください。エンジン再始動後もセットできない、または定速制御機能表示がオレンジ色に点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

知識

- 定速制御機能使用時は、車線維持支援を行いません。

■ ステアリングスイッチ（定速制御機能）



① **マイパイロットスイッチ**
-定速制御機能のON・OFFができます。

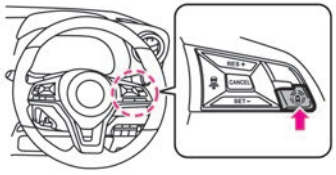
② **SET-スイッチ**
-スイッチを押したときの車速で定速制御機能をセットできます。
-設定車速を下げることができます。

③ **RES+スイッチ**
-定速制御機能を解除後、解除前の設定車速に再びセットすることができます。
-設定速度を上げることができます。

④ **CANCELスイッチ**
-定速制御機能の解除ができます。

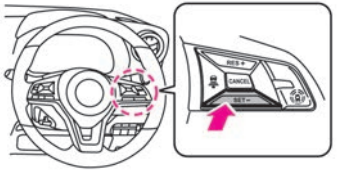
定速走行のしかた

1. ハンドルにあるマイパイロットスイッチ を1.5秒以上押して定速制御機能をON（待機状態）にします。
   マルチインフォメーションディスプレイに定速制御機能表示が点灯します。



2. 設定したい速度まで加速または減速します。

3. SET-スイッチを押します。
SET-スイッチを押したときの車速で定速走行を開始します。



知識

- 定速走行中、一時的に加速したいときはアクセルペダルを踏みます。加速後にアクセルペダルを離すと、徐々に設定車速に戻ります。

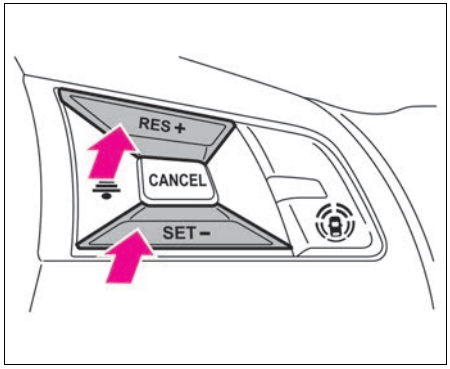
設定車速の変更のしかた

速度を上げる

●定速走行中にRES+スイッチを押し続けると加速します。設定したい速度で手を離します。

速度を下げる

●定速走行中にSET-スイッチを押し続けると減速します。設定したい速度で手を離します。



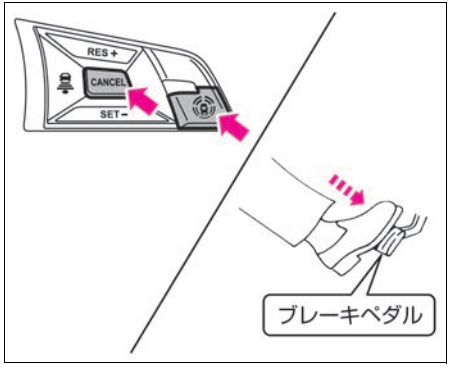
定速走行の解除のしかた

次の操作をすると、定速走行が解除されます。

●CANCELスイッチを押す

●マイパイロットスイッチ を押す

●ブレーキペダルを踏む



アドバイス

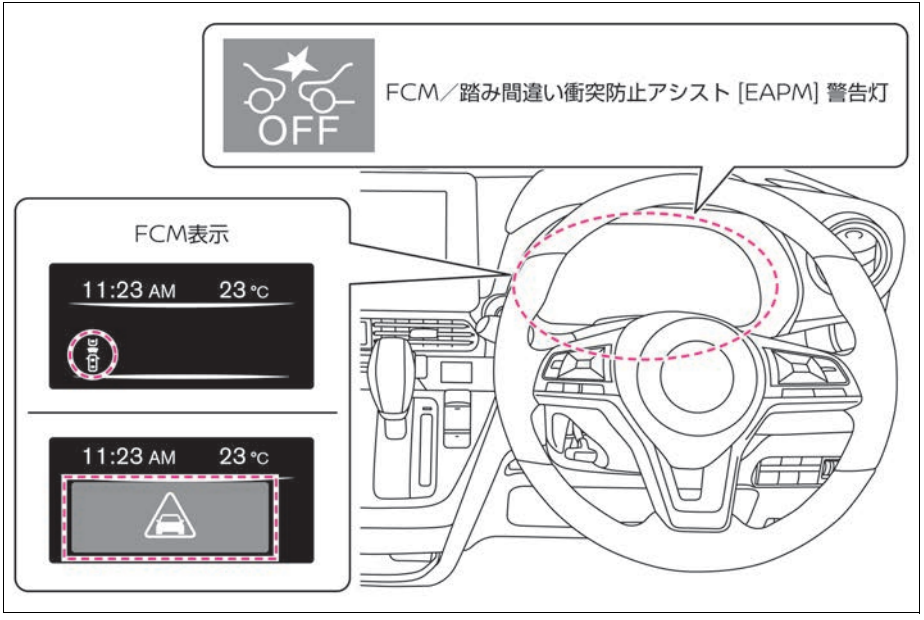
- CANCELスイッチで解除したときやブレーキペダルを踏んで解除したときは、セット待機状態になります。解除前の設定車速で再びセットしたいときは、RES+スイッチを押します。
（車速が約40km/h以上のとき戻せます。）
- 次の場合は、“ピー”という音とともに制御が解除されます。
  - 速度が約30km/h以下になったとき
  - 設定速度より約13km/h以上速度が低下したとき
  - アクティブスタビリティコントロール[ASC]/TCSが作動したとき
  - タイヤが空転したとき
  - セレクターレバーをDまたはL（Ds）以外にしたとき
  - システムに異常があるとき

衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）

FCM：Forward Collision Mitigation system

衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]は、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。

システムに関連する表示



⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  FCMは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突回避操作を支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。

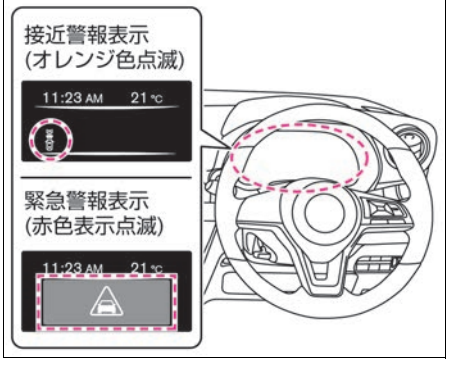
  必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して安全運転を心がけて走行してください。

FCM について

- フロントガラス上部のフロントカメラおよび車両前部のレーダーセンサーにより、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車を検知します。
- 車速約5km/hから作動します。
  歩行者・人が乗車している自転車には約10～60km/hの範囲で作動します。
  （車速約80km/h以上では停止車両に対しては作動しません。）
- 衝突するおそれがあると判断すると、警報音（ブザー）とともにマルチインフォメーションディスプレイのFCM表示（接近警報表示）がオレンジ色に点滅します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突危険性が高まったときには、マルチインフォメーションディスプレイのFCM表示が赤色の緊急警報表示になり、警報音

（ブザー）とともに、軽いブレーキがかかります。

●さらに衝突の危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキがかかります。



📖 知識

- 次の場合、システムによるブレーキの作動が解除されます。
  - ― アクセルペダルを強く踏み込んだとき
  - ― ハンドルを大きく、または素早く切ったとき
  - ― 前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突の危険がなくなったと判断したとき
- システムによるブレーキで車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除されます。

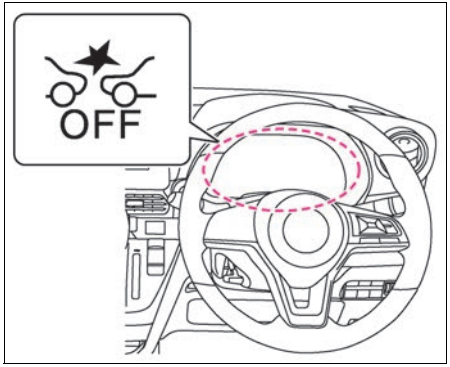
- 運転者がハンドルやアクセル、ブレーキを操作している場合は、FCMの作動が遅れる、または作動しない場合があります。
- 前方車両と自車の速度の差が小さいときは作動しません。
- システムによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。
- マルチインフォメーションディスプレイを「走行支援」および「マイパイロット」★に切り替えると、FCMの作動状態をマルチインフォメーションディスプレイ内で確認することができます。

  詳しくは、画面の切り替えかた（➔P.46）をお読みください。

FCM の停止のしかた

●マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「衝突被害軽減ブレーキ」を選択すると、FCM機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。
画面の切り替えかた（➔P.46）
運転支援（➔P.54）

●機能をOFFにすると、システムが停止します。
（FCM／踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]警告灯が点灯）



📖 知識

- マルチインフォメーションディスプレイの設定で機能をOFFにしても、エンジンを再始動するとONに切り替わります。
- FCMをOFFにすると、PFCW、EAPMも連動してOFFになります。

  ➔前方衝突予測警報[PFCW] (P.179)

  ➔踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM] (P.182)

FCM に関する注意事項

📖 知識

- 次のような障害物は検知しません。
  - ― 子供などの背の低い人、動物

📖 知識

— 対向車両

— 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者、人が乗車している自転車以外の障害物）

● システムは車両の後端を認識するため、以下の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。

— バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両

— 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両

— 前方を横切って通過する車両

— 斜めもしくは前向きに止まっている車両

● 次のような場合は、前方の車両、歩行者、人が乗車している自転車を検知できないことがあります。

— 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき

— 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき

— カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などの付着やワイパーの拭き残しがあるとき

— カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき

— 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき

— 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき

— 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯していない、あるいはヘッドライトのレンズが極端に汚れているとき

— 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき

— トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき

— カーブを走行しているとき

— 勾配の変化があるところを走行しているとき

— 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき

— 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき

— 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき

— 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更・右左折、前方車両の右左折・急ハンドル・急加速・急減速など）

— 始動してから約15秒間

— カメラの視界がさえぎられているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）

— カメラの向きがずれているとき

— 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき

— 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき

— オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき

— 子供用の自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）

● 以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。

— 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合

— 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合

— 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合（周りの風景が水たまりに映り込むなど）

— 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき

— 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき

● 以下の対象物にはシステムが作動しない場合があります。

知識

- 歩行者、人が乗車している自転車の移動速度が速いとき
- 対向して接近する歩行者、自転車
- 歩行者の姿勢や手足の状態（手を上げているなど）により、歩行していると特定できないとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
- 車高の低い車両
- 最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両
- 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
- 前方の至近距離に割り込んだ車両
- 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者、自転車
- 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者、人が乗車している自転車
- 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）
- リヤタイヤから車両後端までが長い車両
- 四輪車以外の車両（二輪車など）
- 荷台から荷物や幌がはみ出している車両
- ショッピングカート、ベビーカー、自転車などを押しているとき

● 以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。

- 複数の対象物同士が近接している場合
- 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合

● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

● 次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。

- 滑りやすい路面を走行しているとき
- 勾配のある路面を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
- 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、三菱自動車純正品もしくは三菱自動車販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
- 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- 車両が傾いているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）

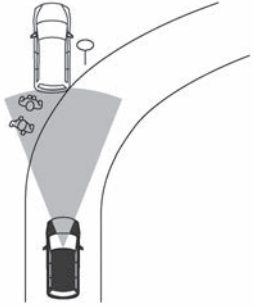
● 路面または壁面の影や模様・ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示、濡れた路面に映り込んだ模様、わだちなどや光の反射を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール、カーブミラー、電柱や電線、看板）などで構成される形状が、車両や歩行者、自転車の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似通っている場合、システムが作動する場合があります。

● 右左折中の前の車両にシステムが作動を継続する場合があります。

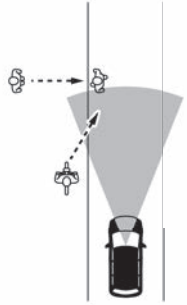
● 前の車両に接近し追い越す場合、システムが作動する場合があります。

知識

- 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、ワインディング道、車線規制や工事中など）によっては、一時的に自車正面の対向車にシステムが作動する場合があります。
- 以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。
  - ― 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、自転車、人が乗車している自転車、車両など）



  - ― 道幅が狭い路地などを走行する際の歩行者・人が乗車している自転車
  - ― 路肩の障害物を避けるため、一時的に自車前方の走行レーンにはみ出したり、近づいたりする歩行者や人が乗車している自転車



  - ― 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
  - ― 駐車場内にある物（梁など）
  - ― 走行車線または隣接する車線にある物（歩行者、車両など）
  - ― 走行車線または隣接する車線に近づいてくる物（歩行者、車両など）
  - ― 対向して接近する歩行者
  - ― 走行路にある物（近接する樹木など）

FCM の作動が停止するとき

- 次の場合、メーター内のFCM／踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]警告灯 が点灯し、作動が停止します。
  - ― FCMの設定をOFFにしたとき
  - ― アクティブスタビリティコントロール[ASC]をOFFにしたとき（メーターの表示と警報音（ブザー）のみ作動します。）
  - ― 周辺の電波源の影響を受けているとき
  停止したときの状態が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。
- 次の場合、メーター内のFCM／EAPM警告灯 が点滅し、システムが一時的に作動しなくなります。
  - ― フロントガラスの汚れなどにより、カメラが前方を認識できなくなったとき
  - ― 前方からの強い光により、 カメラが前方を認識できなくなったとき
  - ― 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき
  （室内の温度が下がると、作動を復帰します。）
- システムに異常があると、メーター内のFCM／EAPM警告灯 が点灯するとともに、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
警告灯（➔P.256）
警告メッセージ（➔P.264）
- 次の場合、メーター内のFCM／EAPM警告灯 が点灯するとともに、マルチインフォメーションディスプレイに「フロントレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。

— 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れを取り除き、エンジンを再始動してください。

— 道路形状や周辺の建造物により、レーダーが先行車を正確に検知できないとき
（例：長い橋、雪原、長い壁の横など）
上記の状況から離れるとシステムは自動的に作動を再開します。

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。フロントカメラの取り扱いについては、（➔P.306）をお読みください。
- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。

  上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

  警告灯（➔P.256）

知識

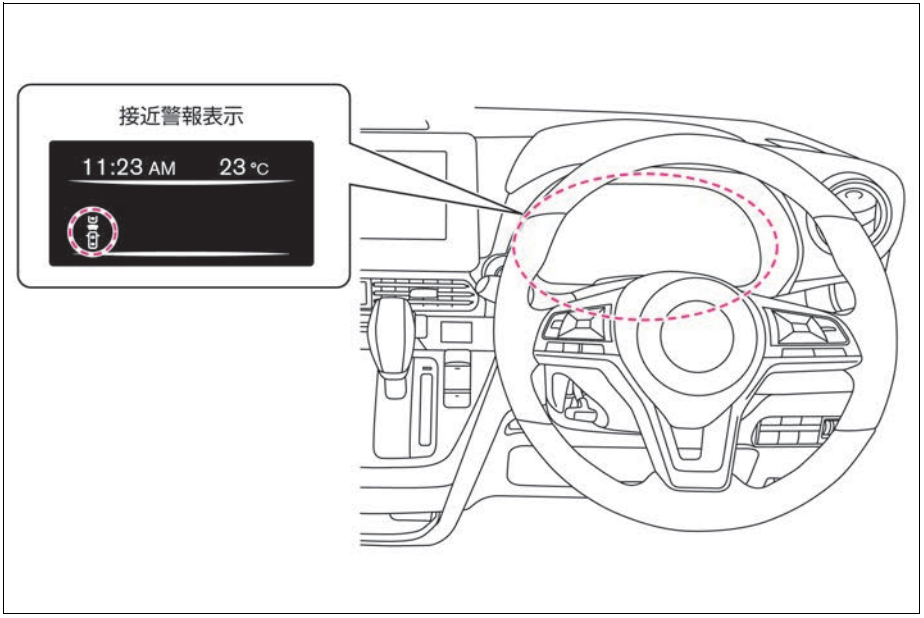
- 夜間、ライトを付けずに走行するなどで、カメラの視界が真っ暗な状態になった場合は、メーター内のFCM／EAPM警告灯 が点滅する場合があります。

前方衝突予測警報 [PFCW]

PFCW : Predictive Forward Collision Warning

前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。

システムに関する表示



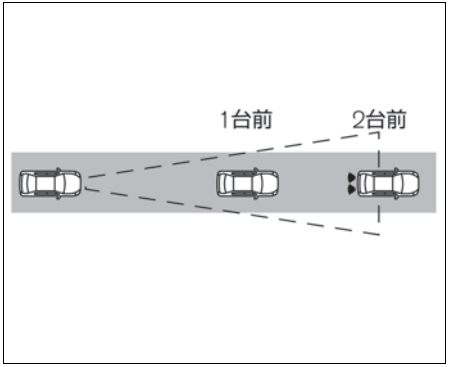
⚠ 警告

- **PFCWは前方を走行する2台前の車両の急な減速などを検知したとき運転者に警報を行いますが、衝突を回避する機能はありません。**
- **PFCWは脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。**

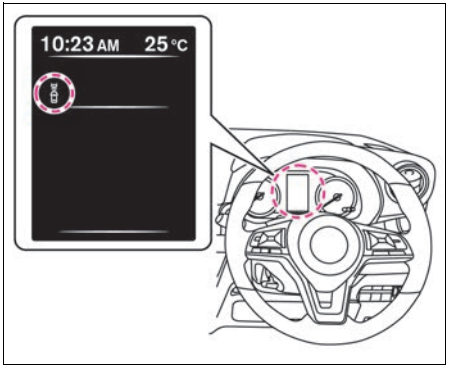
  前方の車両との車間距離、周囲の状態に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

PFCW について

- PFCWは車速が約5km/h以上で作動します。
- 車両前部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の2台前の車両との距離を計測します。



●自車の回避操作が必要と判断すると、マルチインフォメーションディスプレイの接近警報表示がオレンジ色に点滅するとともに警報音を鳴らして、運転者に注意を促します。



知識

● FCMのON・OFFを切り替えると、PFCW、EAPMも連動してON・OFFされます。

➔衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）(P.173)

➔踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM](P.182)

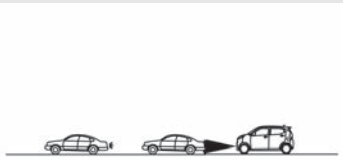
PFCW に関する注意事項

警告

● **次のような障害物は検知しません。**
- 歩行者、自転車、動物、道路上に落ちている障害物
- 対向車両
- 前方を横切って通過する車両

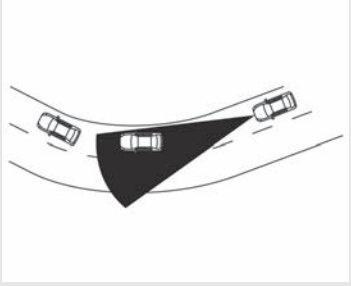
● **次のような場合は、前方の2台前の車両を検知できないことがあります。**
- 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
- 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
- トンネル内を走行しているとき
- 前方の車両がけん引を行っているとき

- 前方の車両との距離が極端に近いとき

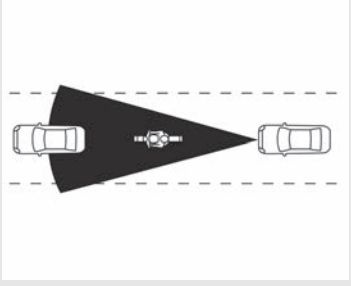


⚠ 警告

― 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき



● **前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のときは、前方の車両を検知できず、PFCWにより警報を行わないことがあります。**



● **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

PFCW の作動が停止するとき

●次の場合、メーター内の衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]／踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]警告灯が点灯し、作動が停止します。

― FCMの設定をOFFにしたとき

― FCMが異常により作動を停止したとき

― アクティブスタビリティコントロール[ASC]をOFFにしたとき

― 周辺の電波源の影響を受けているとき

停止したときの状態が改善されるとシステムは作動を再開します。

●次の場合、メーター内のFCM／EAPM警告灯が点灯するとともにマルチインフォメーションディスプレイに「フロントレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示され、システムが停止します。

― 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき

上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、エンジンを再始動してください。

●システムに異常があると、メーター内のFCM／EAPM警告灯が点灯するとともにマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。

警告灯（➔P.256）
警告メッセージ（➔P.264）

アドバイス

● FCMをONにできない、または警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

警告灯（➔P.256）

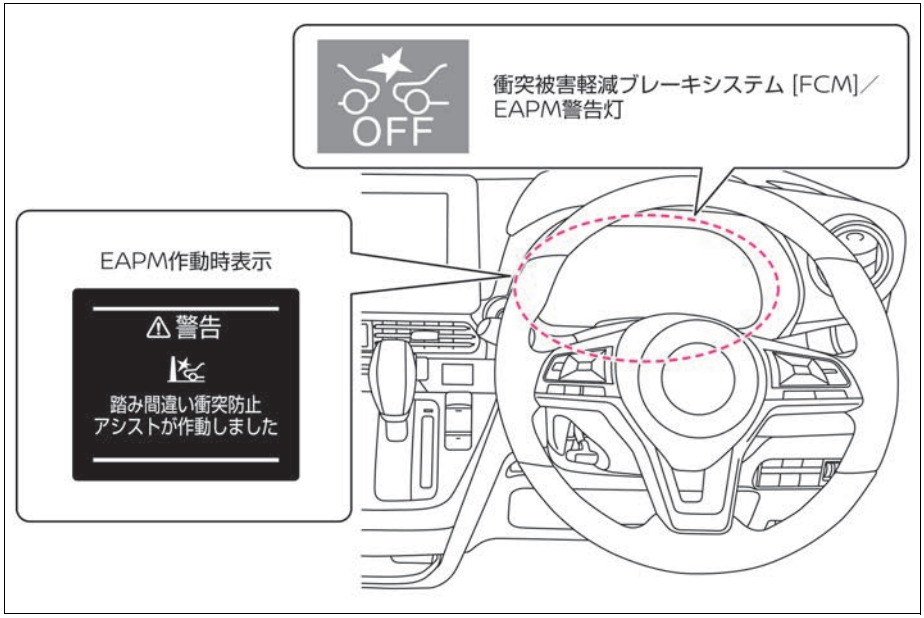
● レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからエンジンを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.305）をお読みください。

踏み間違い衝突防止アシスト [EAPM]

EAPM：Emergency Assist for Pedal Misapplication

踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]は、進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者（前進時のみ）などがいる場所で、駐車操作時など低速のときにアクセルペダルとブレーキペダルを間違えて踏み込む、あるいはブレーキ操作が遅れたときに運転者に音と表示で警告します。さらにエンジンやブレーキを制御することで、過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。

システムに関連する表示



⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  EAPMは、アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えることにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。

EAPM について

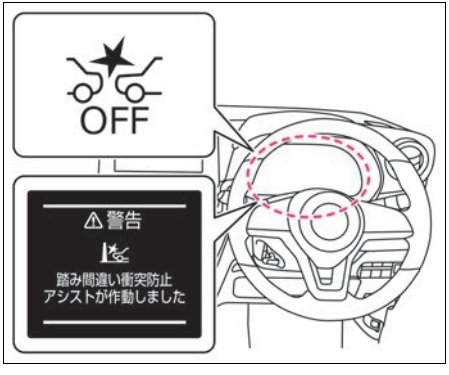
前進時

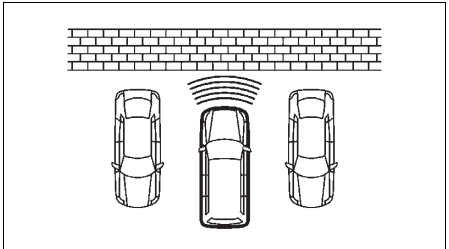
- フロントガラス上部のフロントカメラにより前方の車両や歩行者を検知します。
- フロントバンパーに取り付けられたセンサーにより、進行方向の障害物を検知します。

後退時

- リヤバンパーに取り付けられたセンサーにより、進行方向の障害物を検知します。

EAPMには、2つの機能があります。次ページ以降をお読みください。

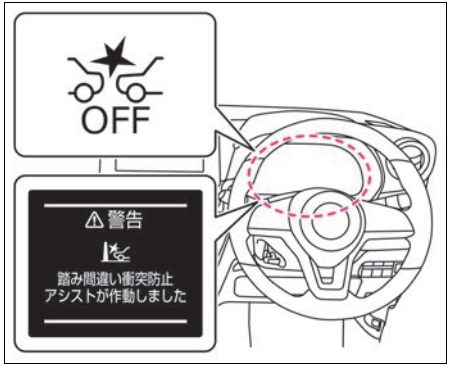


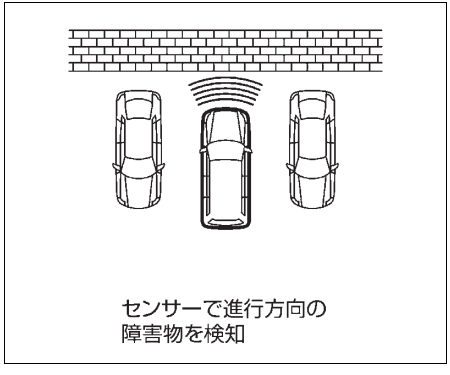


センサーで進行方向の
障害物を検知

低速加速抑制機能

- 前進時（停車時含む）、進行方向に車両や歩行者、壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 後退時（停車時含む）、進行方向に壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 車両、歩行者に対しては、車速約0～25km/hの範囲で作動します。
- 壁などの障害物に対しては、車速約0～15km/hの範囲で作動します。
- 低速加速抑制機能が作動しているときは、警報音（ブザー）と警告灯の点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイの表示によって運転者に警告します。
  警告灯（➔P.256）
  警告メッセージ（➔P.263）





センサーで進行方向の
障害物を検知

⚠ 警告

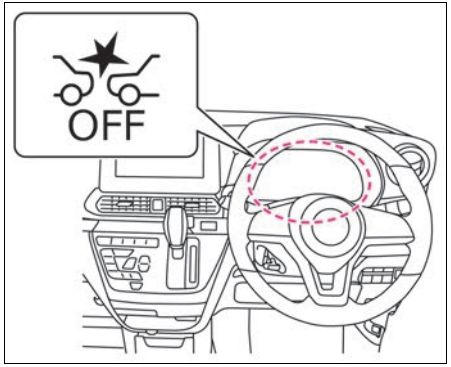
- **故意にアクセルペダルを踏み込まない。**
  低速加速抑制機能は、アクセルペダルをゆっくりと深く踏み込んだときには作動しません。故意にアクセルペダルを踏み込まないでください。車両が急に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

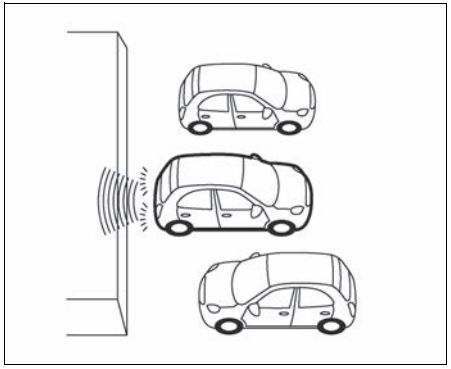
低速衝突軽減ブレーキ機能

- 前進、または後退時、進行方向の障害物を検知し、衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、エンジン出力の制御、およびブレーキをかけて衝突を回避、または被害の軽減をします。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能は、車速約2～15km/h の範囲で作動します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

●低速衝突軽減ブレーキ機能が作動すると、警報音（ブザー）と警告灯の点滅によって運転者に警告します。
警告灯（➔P.256）





知識

- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは制動灯が点灯します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動しているときは、作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

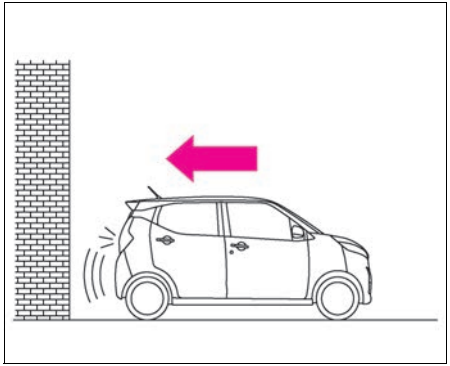
低速衝突軽減ブレーキが作動するとき・しないとき

クルマ止めのない駐車場などで、壁などに衝突しそうになったとき

万一、運転者のブレーキ操作が遅れ、壁などに衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、警報音（ブザー）と警告灯が点滅し、ブレーキをかけて衝突を回避または被害を軽減します。

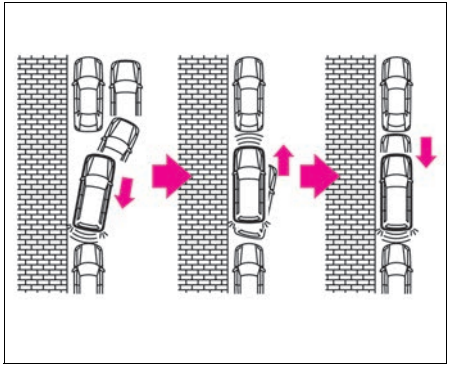
●ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいたときは作動しません。

●システムは、ブレーキペダルを踏みながら車両を移動する（駐車場での操作）など低速における支援を目的にしています。
アクセルペダルを踏んで前進・後退する状況などでは作動が遅れ十分に機能しない場合があります。

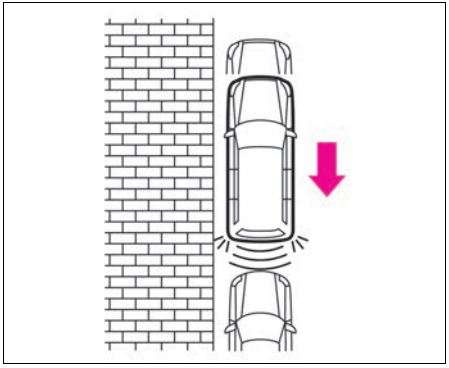


縦列駐車をするとき

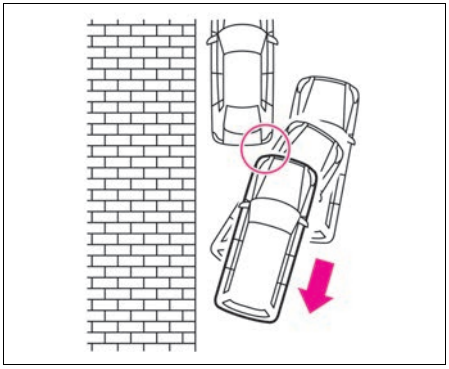
セレクターレバーを**D**から**R**、または**R**から**D**に切り替えたときは、セレクターレバーの操作を繰り返すたびに進行方向の障害物を検知してブレーキ制御が作動します。



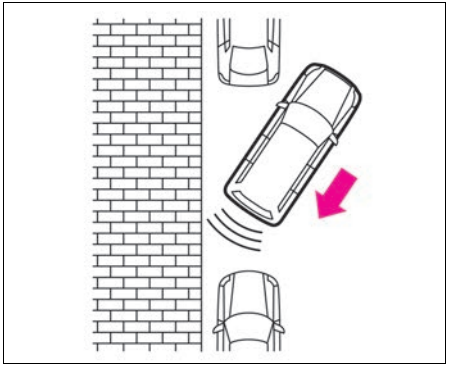
●ブレーキ制御が作動したあと、セレクターレバーを切り替えずにさらに同じ障害物に向かって前進、または後退をした場合、ブレーキ制御は作動しません。
●アクセルペダルを踏んでいるときは作動が遅れることがあります。



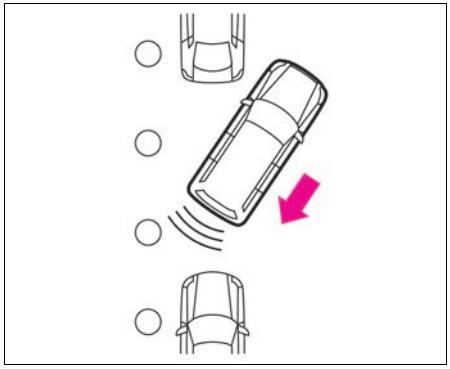
●後退中は、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、前進中は後方の障害物に対して作動しません。



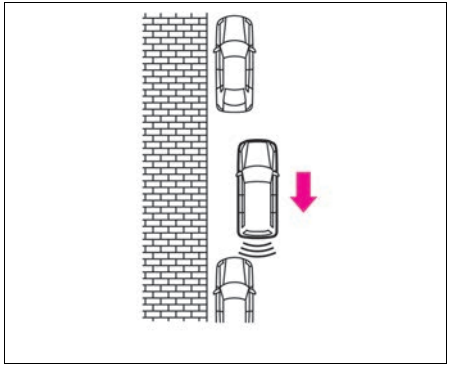
●障害物に対し斜めに接近すると作動しないことがあります。



●幅の狭い障害物に対しては作動しないことがあります。

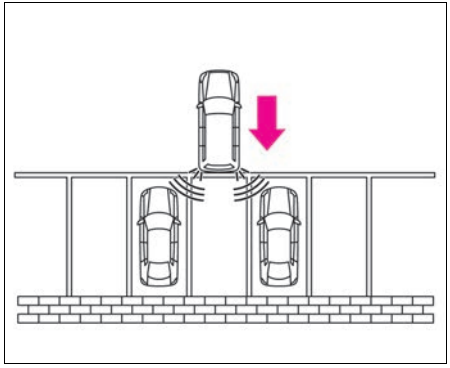


●他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。

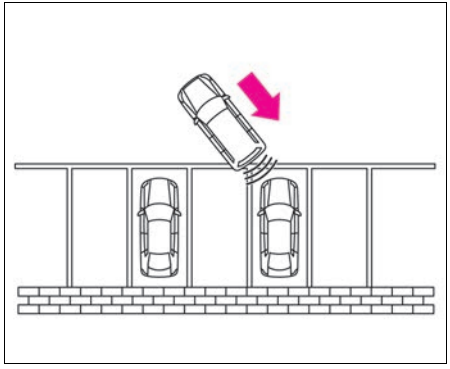


並列駐車をするとき

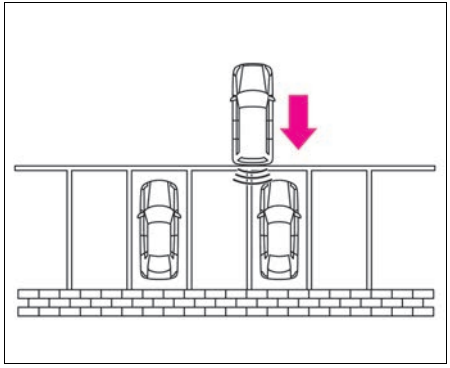
●狭いスペースに進入するときに作動することがあります。



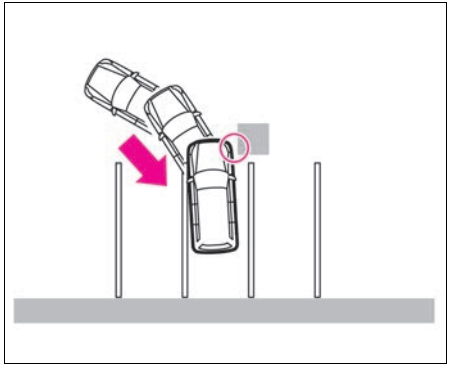
●他の車両の角部に向かって接近したときは作動しません。



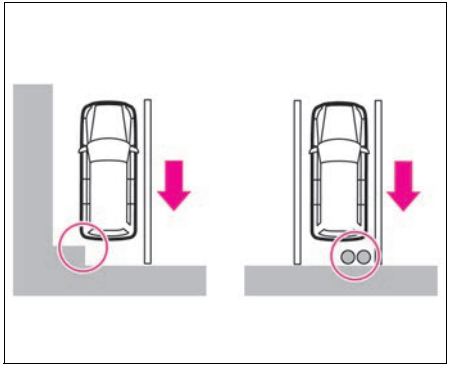
●他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。



●後退中は、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、前進中は後方の障害物に対しては作動しません。



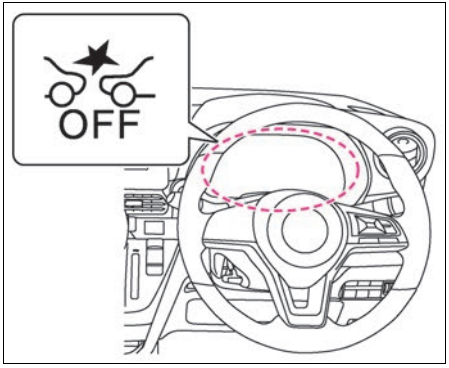
●壁から突き出している柱や配管などに対しては作動しません。



EAPMの停止のしかた

●マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「衝突被害軽減ブレーキ」を選択すると、EAPMのON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。
画面の切り替えかた（➔P.46）
運転支援（➔P.54）

●機能をOFFにすると、システムが停止します。
（衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]／EAPM警告灯が点灯）



知識

- EAPMの設定は、FCM、前方衝突予測警報[PFCW]の設定と連動しています。
- マルチインフォメーションディスプレイの設定で機能をOFFにしても、エンジンを再始動するとONに切り替わります。

EAPM に関する注意事項

⚠ 警告

- **次の場合は、予期せずシステムが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあるため、EAPMをOFFにする。**
  - ― けん引するとき
  - ― トレーラーなどに積載するとき
  - ― 点検などでシャシーダイナモを使用するとき
  - ― 純正品以外のサスペンション部品を使用しているとき（車高や車両の傾きが変わると正しく障害物を検知できないことがあります）
- **センサーは次のような障害物は検知しません。**
  - ― 背の低い障害物
  - ― 幅の狭い障害物
  - ― 針金、金網、ロープなどの細い障害物
  - ― バンパーに非常に近い障害物
  - ― 急に進行方向に現れた障害物
- **センサーは次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。**
  - ― 地面から高い位置に存在する障害物
  - ― スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- **センサーは次のような場合は検知しないことがあります。**
  - ― 雨、雪、氷、汚れなどがセンサーに付着しているとき
  - ― 周囲で大きな音が鳴っているとき
  - ― 周囲に超音波を発するものがあるとき
  - ― 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
- **センサーは次のような場合は検知することがあります。**
  - ― 周囲に草が生い茂っているとき
  - ― 車両側面の近くに壁があるとき
  - ― 路面上に段差や突起物があるとき
  - ― 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
  - ― 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
  - ― 車両感応センサーや他車のセンサーなど、超音波を発生するものが付近にいたとき
  - ― 他車のホーン、オートバイの排気音や工事など、付近で大きな音がしたとき
  - ― 背が高く上部が張り出しているものがあるとき
  - ― 高さのある縁石や車止めがあるとき
- **フロントカメラは次のような障害物は検知しません。**
  - ― 子供などの背の低い人、動物、自転車
  - ― 対向車両
  - ― 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者以外の障害物）

⚠ 警告

- **フロントカメラは車両の後端を認識するため、以下の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。**
  - バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
  - 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
  - 前方を横切って通過する車両
  - 斜めもしくは前向きに止まっている車両
- **フロントカメラは次のような場合、前方の車両、歩行者を検知できないことがあります。**
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯していない、あるいはヘッドライトのレンズが極端に汚れているとき
  - 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - カーブを走行しているとき
  - 勾配の変化があるところを走行しているとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
  - 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
  - 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
  - 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更・右左折、前方車両の右左折・急ハンドル・急加速・急減速など）
  - 始動してから約15秒間
  - カメラの視界がさえぎられているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）
  - カメラの向きがずれているとき
- **フロントカメラは以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。**
  - 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
  - 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
  - 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合（周りの風景が水たまりに映り込むなど）
  - 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
  - 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
- **以下の対象物にはフロントカメラが対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。**
  - 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
  - 車高の低い車両
  - 最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両
  - 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
  - 前方の至近距離に割り込んだ車両
  - 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者

⚠ 警告

— 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者

— 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）

— リヤタイヤから車両後端までが長い車両

— 四輪車以外の車両（二輪車など）

— 荷台から荷物や幌がはみ出している車両

● **フロントカメラは以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。**

— 複数の対象物同士が近接している場合

— 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合

● **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

低速衝突軽減ブレーキ機能について

● **ブレーキ制御は短時間しか作動しません。必ず運転者がブレーキペダルを踏んでください。**

● **車両を停止させる場合は、必ず運転者がブレーキペダルを踏む。**

低速加速抑制機能が作動したあとに低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除され、車両が動き出します。

● **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

⚠ 注意

低速衝突軽減ブレーキ機能について

● **システムの作動を待たず、すみやかにブレーキ操作を行う。**

車両の状態、走行状況、交通環境、天候、路面状況などにより作動しない場合や、本来の性能を発揮できないことがあります。

● **アクセルペダルを踏んだ状態で障害物に接近したときは、作動が遅れることがあります。**

アドバイス

● 次の場合は、システムが正常に作動しない、または機能を十分に発揮できないことがあります。

— 悪天候（雨、霧、雪など）のとき

— 勾配が急な坂道を走行しているとき

— 段差などをまたいでいるときなど車両姿勢が変化しているとき

— 滑りやすい路面を走行しているとき

— ハンドルを大きく切って旋回しているとき

— 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき

— 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき

— 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき

— 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき

— 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、三菱自動車純正品もしくは三菱自動車販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき

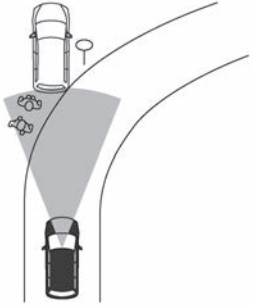
— 車両が傾いているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）

● 動いている物体に対してはEAPMは作動しません。（前方の車両、歩行者を除く）

知識

低速加速抑制機能について

- センサーで検出した壁や車両などの大きな障害物に対して作動します。車両の幅以下の障害物は検知しません。
- フロントカメラで検出した衝突のおそれのある前方の車両や歩行者に対して作動します。
- 低速加速抑制機能は、運転者がアクセルペダルを戻すと解除されます。
- アクセルペダルを踏み続けた場合は、作動を開始してから約6秒後に解除されます。
- 渋滞中などで前方にいる車両を追い越すときなどに低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 信号待ちや右折待ちなどで、車間距離の短い状態から前の車に続いて発進する際、アクセルペダルを素早く深く踏み込むと低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 次の場合は作動しません。
  - 車速が約15km/h以上のとき（前方の車両、歩行者に対しては約25km/h以上）
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - セレクターレバーがD、L（Ds）、R以外のとき
  - トラクションコントロール機能（TCS）が作動しているとき
  - タイヤが空転しているとき
- 路面または壁面の模様・ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車両や歩行者の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似通っている場合、フロントカメラが対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動する場合があります。
- 自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。
- 以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。
  - 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、車両など）



  - 道路上方にある物（低い橋、道路標識など）
  - 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
  - 駐車場内にある物（梁など）

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいても作動しません。
- 次の場合は作動しません。
  - 車速が約2km/h未満、または約15km/h以上のとき
  - セレクターレバーがD、L（Ds）、R以外のとき
- 前進時は車両後方の障害物に対しては作動しません。同様に、後退時は車両前方の障害物に対しては作動しません。

EAPMの作動が停止するとき

- 次の場合、メーター内の衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]／EAPM警告灯が点灯し、作動が停止します。
  - FCMの設定をOFFにしたとき
  - アクティブスタビリティコントロール[ASC]をOFFにしたとき

● FCMが一時的に作動できなくなったときは、FCM／EAPM警告灯が点滅し、EAPMも一時的に作動しなくなります。
詳しくは、FCMの作動が停止するとき(P.177)をお読みください。

● システムに異常があると、メーター内のFCM／EAPM警告灯が点灯するとともに、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
警告灯（P.256）
警告メッセージ（P.264）

アドバイス

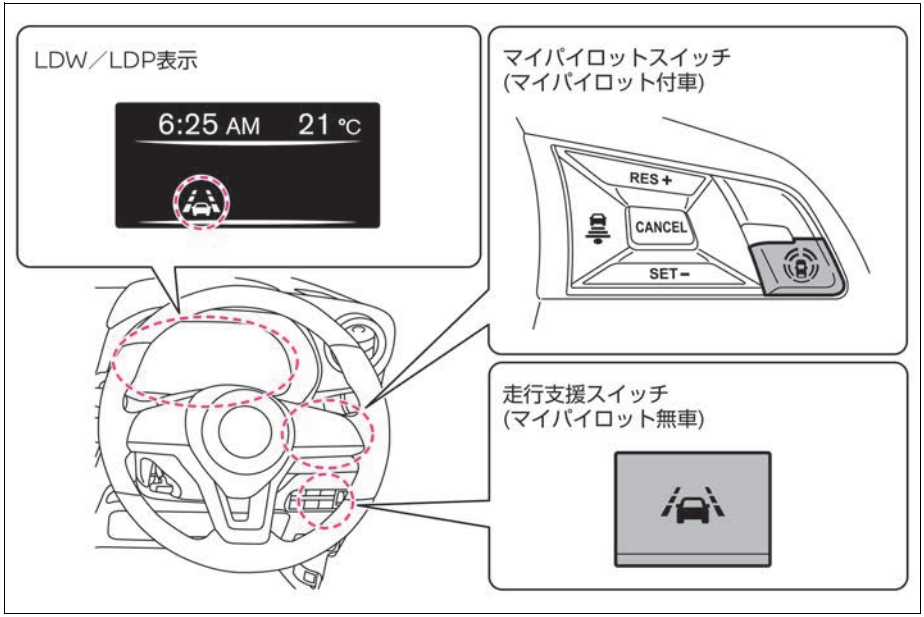
- システムを正しく作動させるためにセンサーはいつもきれいにしておいてください。センサーの取り扱いについては、（P.307）をお読みください。
- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
  上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
  警告灯（P.256）

車線逸脱警報システム [LDW] ／車線逸脱防止支援機能 [LDP]

LDW：Lane Departure Warning、LDP：Lane Departure Prevention

車線逸脱警報システム[LDW]は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。車線逸脱防止支援機能[LDP]は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。

システムに関連する表示とスイッチ



⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

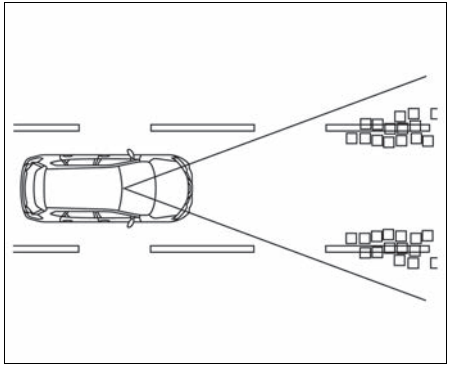
  LDW／LDPは、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転を心がけてください。

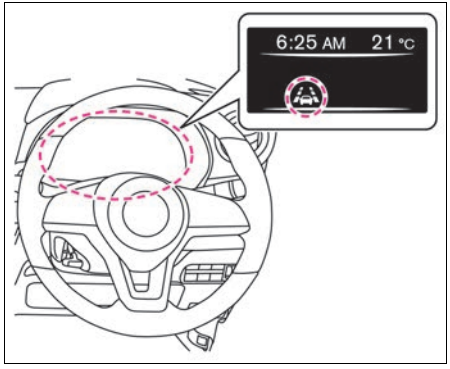
- **カメラには限界があるため、機能を過信しない。**

  道路の状態、天候、交通状況などによりシステムが正常に作動しないことがあります。

LDW について

- フロントガラス上部のフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音（ブザー）とともにマルチインフォメーションディスプレイのLDW表示がオレンジ色に点滅します。
  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。





📖 知識

- 車両の移動する方向に方向指示器を作動させている場合は警報を行いません。

  （方向指示器を解除したあと、約2秒間は警報を行いません。）

- マルチインフォメーションディスプレイを「走行支援」に切り替えると、LDWの作動状態をマルチインフォメーションディスプレイ内で確認することができます。

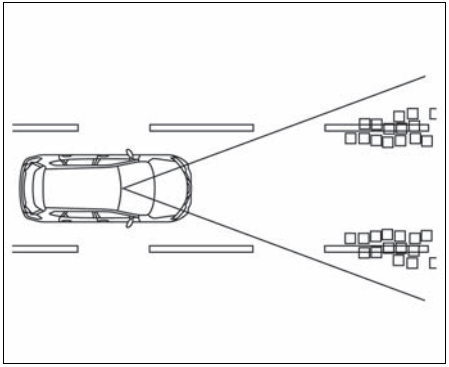
  詳しくは、運転支援をお読みください。

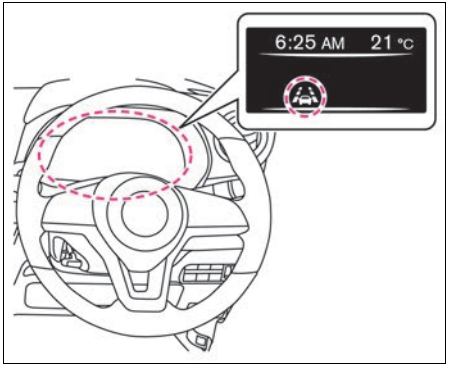
  ➔ 画面の切り替えかた (P.46)

  ➔ 運転支援 (P.54)

LDP について

- フロントガラス上部のフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音（ブザー）とともにマルチインフォメーションディスプレイのLDP表示がオレンジ色に点滅します。
  同時にブレーキを短時間制御し、車両を車線内に戻す方向に制御力を短時間発生させて車両を車線内に戻す操作を促します。
  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。





知識

- 車両の移動する方向に方向指示器を作動させている場合は警報もブレーキ制御も行いません。
  （方向指示器を解除したあと、約2秒間は作動しません。）

- マルチインフォメーションディスプレイを「走行支援」に切り替えると、LDPの作動状態をマルチインフォメーションディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは運転支援をお読みください。
  ➔画面の切り替えかた (P.46)
  ➔運転支援 (P.54)

ON・OFF のしかた

LDW

●マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「車線逸脱警報」を選択すると、LDW機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。
➔画面の切り替えかた (P.46)
➔運転支援 (P.54)

知識

- LDWの設定は、エンジンを再始動しても維持されます。

LDP（マイパイロット付車）

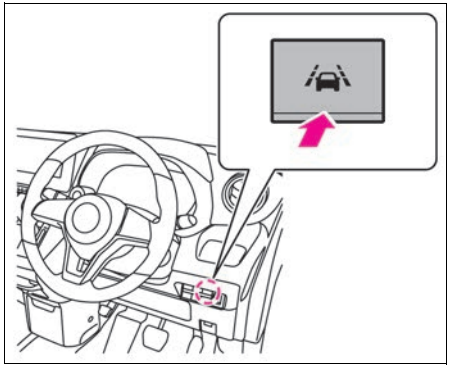
●マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「車線逸脱防止支援」をONにしていると、マイパイロットスイッチ を押すとシステムがONになります。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。
➔画面の切り替えかた (P.46)
➔運転支援 (P.54)

知識

- エンジンを停止するとLDPはOFFになります。

LDP（マイパイロット無車）

●走行支援スイッチを押すごとにON・OFFを切り替えることができます。



知識

- エンジンを停止するとLDPはOFFになります。

LDW ／ LDP に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるため、LDPを使用しないでください。**
  - ― 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
  - ― 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - ― 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
  - ― 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - ― 車線の幅が狭い道路を走行するとき
  - ― 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、三菱自動車純正品もしくは三菱自動車販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているとき
  - ― 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**
  - ― 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
  - ― 急なカーブのある道路を走行するとき
  - ― 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
  - ― 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります。）
  - ― 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
  - ― 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
  - ― 先行車との車間距離が短く、カメラの検出範囲がさえぎられるとき
  - ― 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
  - ― 汚れなどでヘッドライトの明るさが不十分なときやヘッドライトの光軸調整が適切に行われていないとき
  - ― 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
  - ― 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

アドバイス

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

作動が停止するとき

LDW

- 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったときは、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されるとともに、LDW表示が点滅または消灯し、一時的に作動が停止します。（室内の温度が下がると、作動を復帰します。）
- システムに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
  警告メッセージ（➔P.264）

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。フロントカメラの取り扱いについては、（➔フロントカメラの取り扱い(P.306)）をお読みください。
- マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してくだ さい。

アドバイス

エンジン再始動後も警告が表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

車線逸脱警報システム[LDW]表示(P.68)

LDP

- 次の場合は、"ポー"というブザー音とともにマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、作動を解除します。
  警告メッセージ：「作動範囲外のため現在使用できません」
  — アクティブスタビリティコントロール[ASC]をOFFにしたとき
  警告メッセージ：「システムを解除しました 滑りやすい路面です」
  — ASC/TCSが作動したとき
  — タイヤの空転を検出したとき
  システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度マイパイロットスイッチ または走行支援スイッチをOFFにし、再度LDPをONにしてください。
- 炎天下に駐車したときなど、フロントカメラが高温になったときは、"ポー"というブザー音とともにマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、作動を解除します。 システムを再び作動させる場合は、室内の温度が下がってから再びシステムをONにしてください。
- システムに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されるとともに、LDP表示がオレンジ色に点灯し、作動が停止します。
  警告メッセージ（P.264）

アドバイス

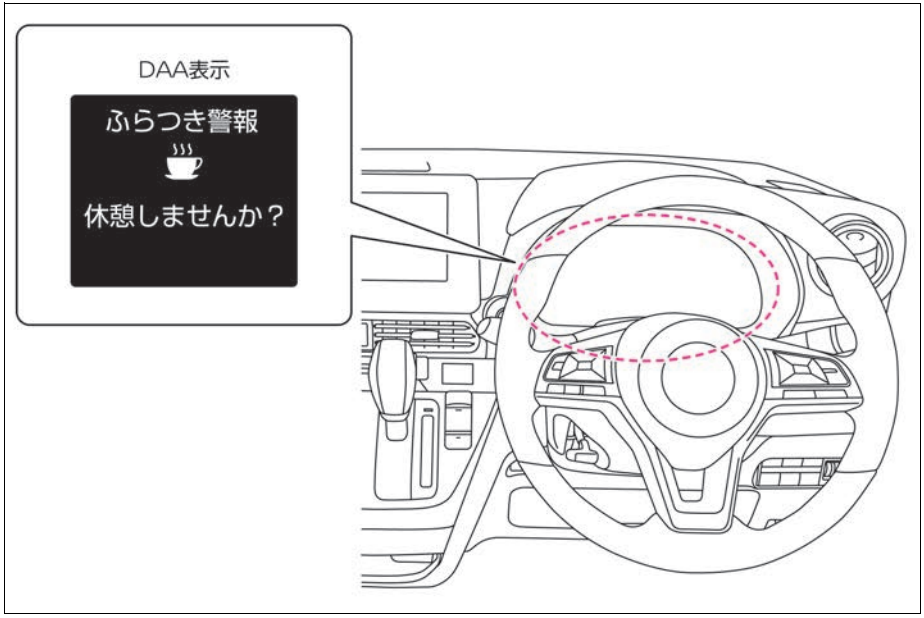
- マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停止し一度エンジンを停止してから再始動してください。エンジン再始動後も警告が表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

ふらつき警報 [DAA]

DAA : Driver Attention Alert

ふらつき警報[DAA]は、ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したときに、マルチインフォメーションディスプレイの表示と音により運転者に休憩を促します。

システムに関連する表示



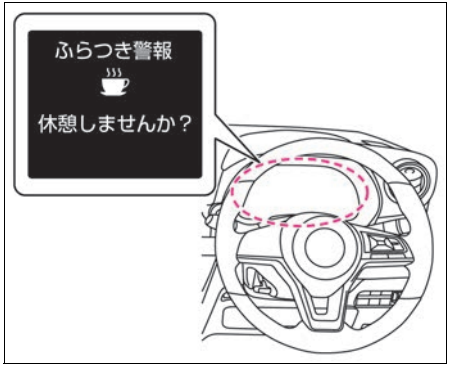
⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  このシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。疲労時の運転は重大な事故に至る危険があるため、運転前に十分に休憩をとり、安全運転に努めてください。

DAA について

- 車速約60km/h以上で走行中、運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに、警報音（ブザー）とともにマルチインフォメーションディスプレイに「休憩しませんか？」と警告メッセージを表示します。
  警告メッセージ（P.268）



DAA の停止のしかた

●マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「ふらつき警報」を選択すると、DAAのON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。
➔画面の切り替えかた (P.46)
➔運転支援 (P.54)

📖 知識

- 設定は、エンジンを再始動しても維持されます。
- マイパイロット★作動中は、DAAのシステムはOFFになります。
➔マイパイロット★ (P.153)

DAA の作動が停止するとき

●システムに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、作動が停止します。
警告メッセージ（➔P.268）

🚗 アドバイス

- 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
- 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。

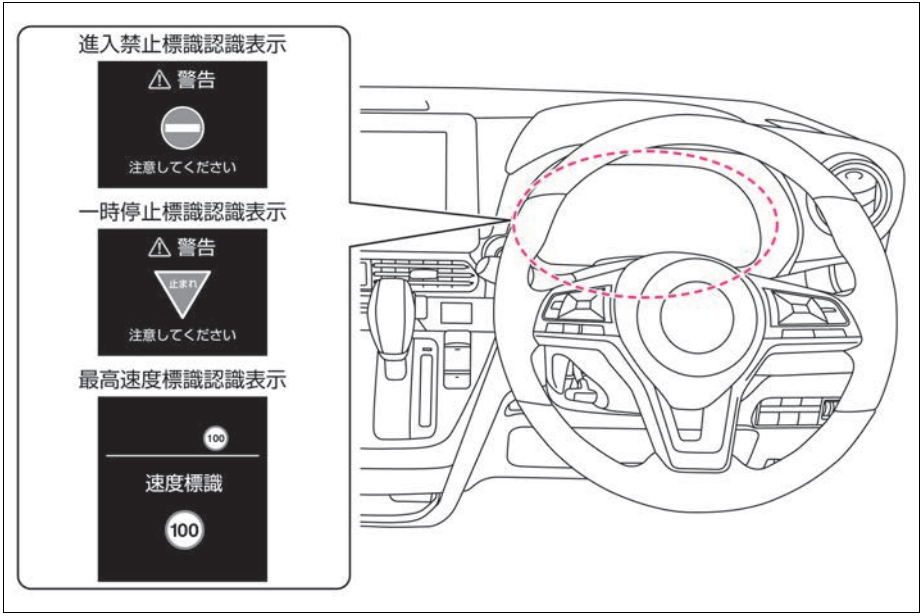
通常走行に支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

標識認識システム [TSR]

TSR : Traffic Sign Recognition

フロントガラス上部にあるフロントカメラにより標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

システムに関連する表示



⚠ 警告

● **走行中は運転者の責任で実際の標識を確認する。**

TSRは、運転者の安全運転をサポートする機能です。

TSRには限界があり、状況によっては標識を認識できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。

運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

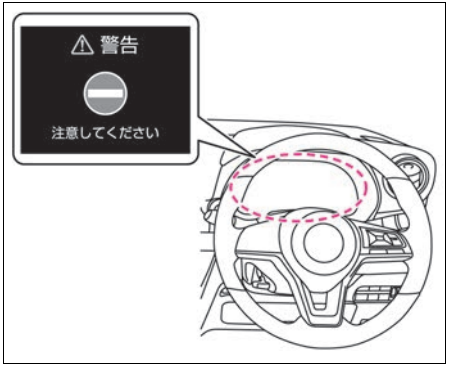
TSR について

●TSRには次の機能があります。

進入禁止標識認識

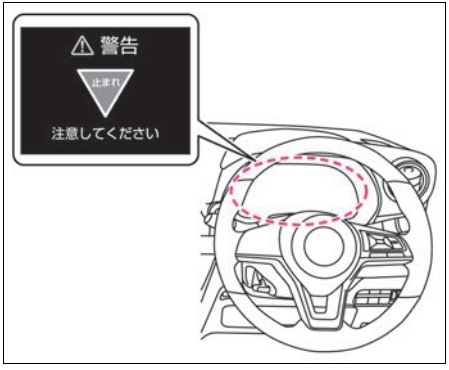
●前方の車両進入禁止標識を認識し、一方通行路へ進入する可能性がある場合にはマルチインフォメーションディスプレイに警告表示します。

●万一、車両進入禁止標識を通過した場合には警告音が鳴ります。



一時停止標識認識

- 前方の一時停止標識を認識した場合には、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

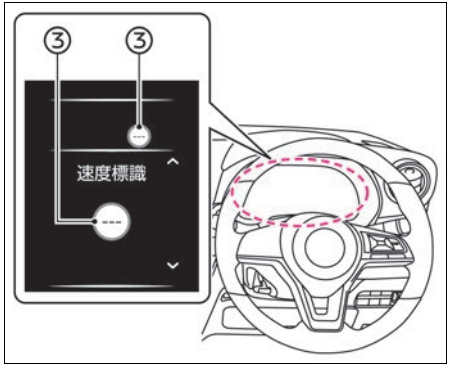


知識

- 次のような道路標識は認識しません。
  - 電光式の最高速度標識
  - 補助標識（時間帯、区間の終わりなど）

最高速度標識認識

- 前方の最高速度標識を認識した場合には、マルチインフォメーションディスプレイ①、および走行支援グループ ②に表示されます。
  走行支援グループ（表示項目）について (P.52)
- 次の場合は、最高速度標識の表示が切り替わります。
  - 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 次の場合は、最高速度標識の表示を終了し③が表示されます。



  - 最高速度標識を認識し、車両がその標識を通過してから一定の距離を走行したとき
  - 右左折などで走行している路線が変わったとシステムが判断したとき
- 最高速度標識を認識できない場合は③が表示されます。

進入禁止標識／一時停止標識認識の停止のしかた

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「道路標識表示」を選択すると、進入禁止標識／一時停止標識認識機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援をお読みください。
  画面の切り替えかた (P.46)
  運転支援 (P.54)

📖 知識

- いずれの設定も、エンジンを再始動しても維持されます。

最高速度標識認識の停止のしかた

●マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「速度標識表示」を選択すると、最高速度標識認識機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.46)
➔運転支援 (P.54)

📖 知識

- 最高速度標識認識の設定は、エンジンを再始動しても維持されます。

TSR に関する注意事項

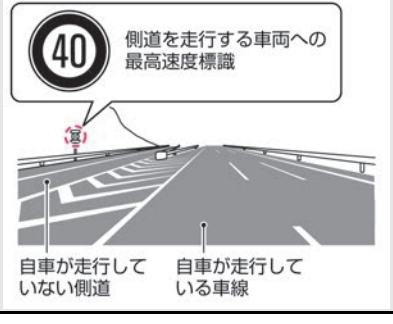
⚠ 警告

- **次のような場合は、標識の認識が遅れたり、認識できなかったりすることがあります。**
  - 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯していない、あるいはヘッドライトのレンズが極端に汚れているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、虫汚れなどが付着しカメラの視界がさえぎられているとき
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方車両から反射した強い光（太陽光など）を受けているとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 勾配の変化があるところを走行しているとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
  - 隣を走る車で視界がさえぎられているとき
  - 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
  - 標識の周辺が煩雑で標識を認識しにくいとき
  - 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき
  - 夜間で標識に自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にあるとき
  - 標識が色あせたり、折れ曲がったりしているとき
  - 標識が破損しているなど形状が変わってしまっているとき
  - 標識が泥、雪、または霜などで覆われたとき
  - 標識の一部が樹木や汚れなどによって隠れて不明瞭なとき
  - 標識に光（街灯など）や影が映り込んでいるとき
  - 標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
  - 標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
  - 標識が明るすぎたり、暗すぎたりしたとき
  - カメラの向きがずれているとき
  - 始動してから約15秒間は標識を認識しません
- **次のような場合は、標識の認識が適正に行えず、実際の規制内容とは異なるものを表示したり、 実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。（最高速度標識においては、実際の最高速度よりも高い数字や、低い数字を表示したりすることがあります）**
  - 数字が認識しにくい標識（数字が消えかかっているなど）

⚠ 警告

— 認識対象となる標識の色、形に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）

— 自車の路線に対しての標識ではないが、自車の路線付近にあり、その標識が自車の路線に向いている場合（本線から分岐する側道の一時停止標識や最高速度標識など）



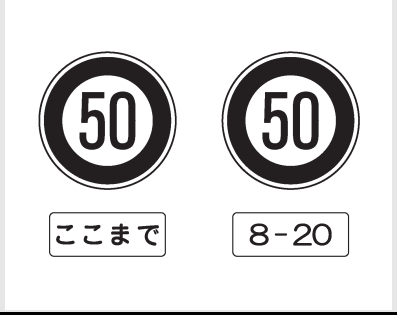
⚠ 注意

● **TSRは、運転者の安全運転をサポートする機能です。**

TSRには限界があり、状況によっては標識を認識できなかったり、実際とは異なる表示をしたりする場合があります。

運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

● **標識の近傍にある補助標識は認識しないため、実際の規制内容と異なる表示をする場合があります。必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。**



アドバイス

● システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。フロントカメラの取り扱いについては、（➔P.306）をお読みください。

知識

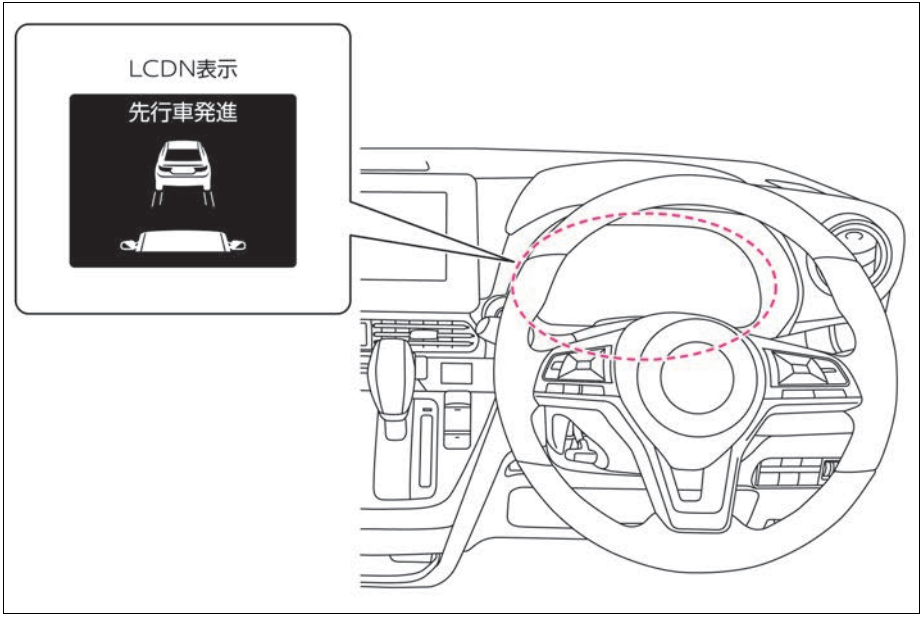
● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

先行車発進通知 [LCDN]

LCDN : Leading Car Departure Notification

先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、音と表示でお知らせする機能です。

システムに関連する表示

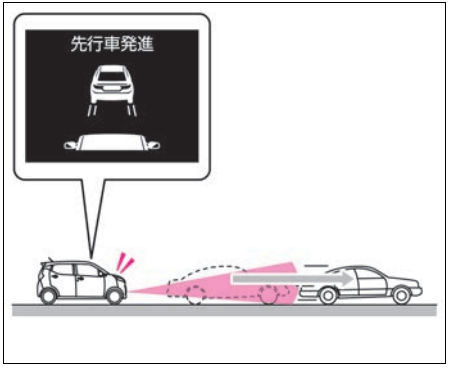


⚠ 注意

- **先行車との車間距離や周囲の状況を目視で直接確認し、常に安全運転を心がけてください。**

LCDN について

- 自車と先行車が停止したあと、先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、ブザー音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせします。
- 次のいずれかの条件を満たしているときに作動します。
  - セレクターレバーが**P**、**R**以外でブレーキペダルを踏んで停止している
  - セレクターレバーが**N**で停止している
  - セレクターレバーが**P**、**R**以外でブレーキオートホールド機能★が作動している
  - レーダークルーズコントロール[ACC]★で停止状態を保持している



先行車発進通知 [LCDN] の設定のしかた

●マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「先行車発進お知らせ」を選択すると、LCDNの設定（OFF／標準／早め）を切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➲画面の切り替えかた (P.46)
➲運転支援 (P.54)

LCDN に関する注意事項

📖 知識

● 次の場合は作動しません。

— 衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]のシステム異常等により、FCM／踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]警告灯が点灯もしくは点滅しているとき（FCMやアクティブスタビリティコントロール[ASC]をOFFにしているときを除く）

— 先行車との車間距離が長いとき

● システムを正しく作動させるために車両前部に取り付けられたレーダーセンサーとその周辺、およびフロントカメラ前方のフロントガラスのお手入れを行ってください。

➲レーダーセンサーの取り扱い (P.305)
➲フロントカメラの取り扱い (P.306)

● 次のような場合は、作動が遅れたり、作動しないことがあります。

— 自車と先行車との間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んだり横切ったとき

— 先行車がオートバイのような幅の狭い車両のとき

— 先行車との車間距離が極端に短いとき

— 先行車が自車に対して左右にずれているとき

— 先行車が右左折、車線変更、急旋回をしたとき

— 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき

— 急勾配の坂道、急カーブで停止しているとき

— 未舗装路など凹凸のある路面で停止しているとき

— 車両が傾いているとき（後席シートやラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）

— ハンドルが大きく切れているとき

— 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）のとき

— 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき

— 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき

— カメラの視界がさえぎられているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）

— カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき

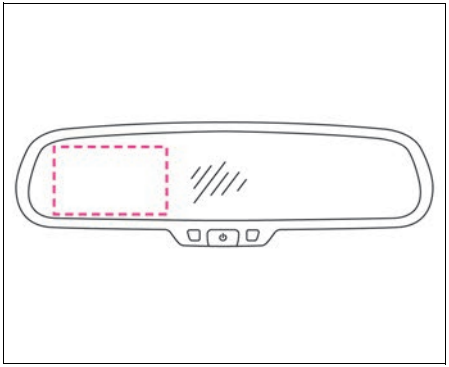
— マルチインフォメーションディスプレイにセンサー表示されているとき

● 道路状況や交通状況などにより不必要な作動をすることがあります。周囲の状況を目視で直接確認してください。

リヤビューモニター★

リヤビューモニターについて

●リヤビューモニターは自動防眩ルームミラーに表示されます。



●キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、セレクターレバーをRに入れると作動します。車の後方の状況を確認しながら後退させることができます。

●セレクターレバーをRから他の位置にすると、リヤビューモニターがOFFになります。

⚠ 警告

- **リヤビューモニターの機能を過信しない。**

  リヤビューモニターは、後退操作を補助するシステムです。後退するときは、直接目で後方および周囲の安全を確認しながら運転してください。

- **実際の距離感を間違えないように注意する。**

  リヤビューモニターの映像はレンズの特性により、画面に映る人や障害物の感覚が実際の位置や距離と異なります。

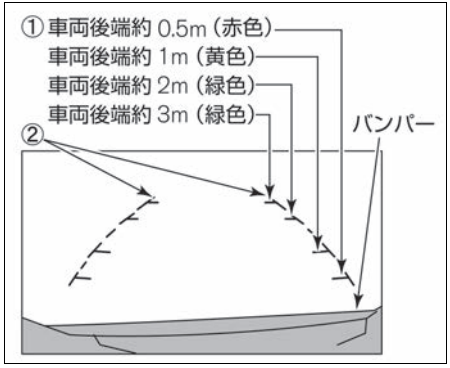
各表示線について

①距離目安ライン

●車両後方の距離の目安を示します。

②車幅目安ライン

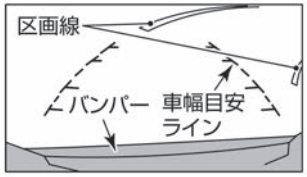
●後退したときの車幅の目安を示します。



リヤビューの見かた

1. 画面に表示される目安ラインを利用して駐車する例を説明します。
   セレクターレバーをRにして、駐車スペースに入るようにゆっくりと後退します。

2. 車の後部が駐車スペースの中に入ったら、車幅目安ラインと駐車スペースの左右の区画線が平行になるようにハンドルを操作します。



3. 車幅目安ラインと駐車スペースの区画線が平行になったらハンドルをまっすぐ（直進状態）にして、ゆっくりと後退します。

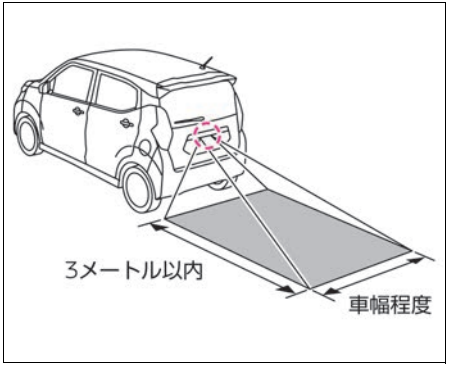
知識

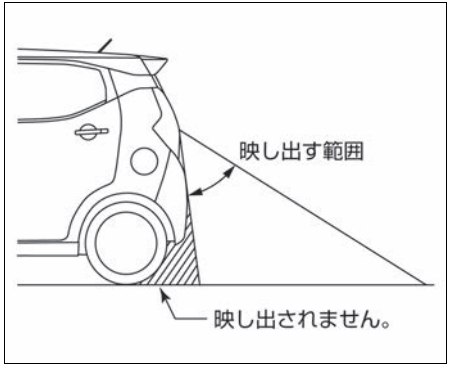
- 画面では車幅目安ラインと駐車スペースの区画線が平行に見えても、実際には平行ではない場合があります。
- 前記と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドルの操作も左右逆になります。

リヤビューモニター★の注意事項

映し出す範囲

●バンパー後端から車の後方を映します。





⚠ 注意

- **リヤビューモニターだけを見ながら後退しない。**

  絶対に画面の映像だけを見ながら後退しないでください。映像と実際の状況は異なることがあるため、車をぶつけたり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。後退するときは、後方や周囲の安全を目視やミラーなどで直接確認してください。

アドバイス

- 車や路面の状況により、映る範囲が異なることがあります。
- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた鏡像です。

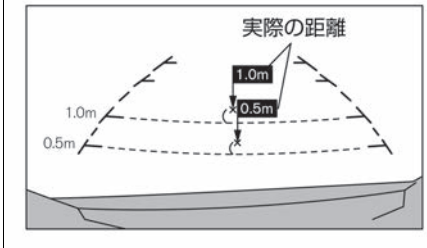
- 画面に表示される距離目安ライン、車幅目安ラインはあくまでも目安です。また、車両の乗車人数、車両姿勢などによって距離目安ライン、車幅目安ラインの位置がずれます。実際のまわりの状況を直接目で確認してご使用ください。

映像と実際の路面との誤差

●次のような場合には、画面の映像と実際の路面状況（距離や進路など）に誤差が生じます。

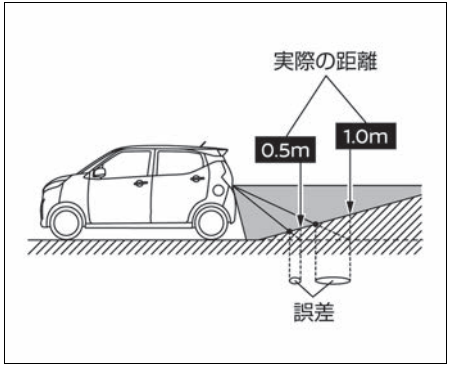
急な上り坂が後方にあるとき

●後方に上り坂がある場合、距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも手前に表示されます。



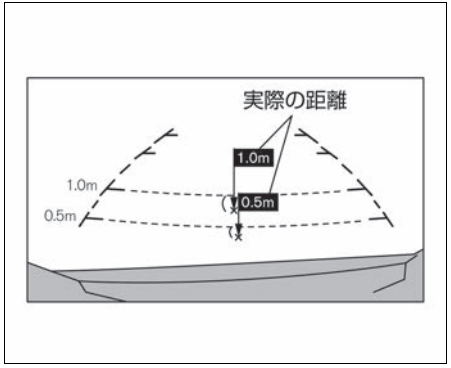
●上り坂に障害物がある場合には障害物が実際よりも遠くにあるように見えます。

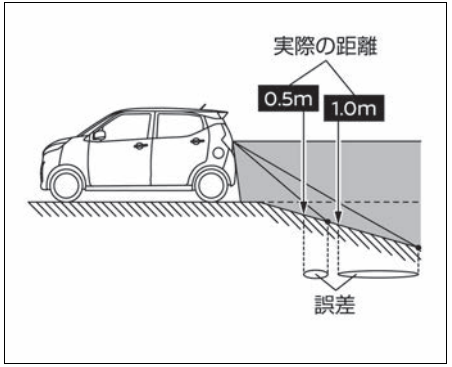
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備



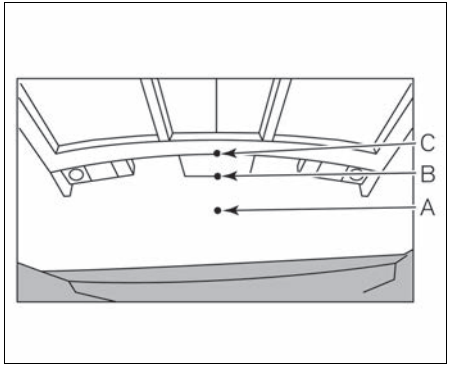
急な下り坂が後方にあるとき

- 後方に下り坂がある場合、距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも後ろに表示されます。
- 下り坂に障害物がある場合には、障害物が実際よりも近くにあるように感じます。



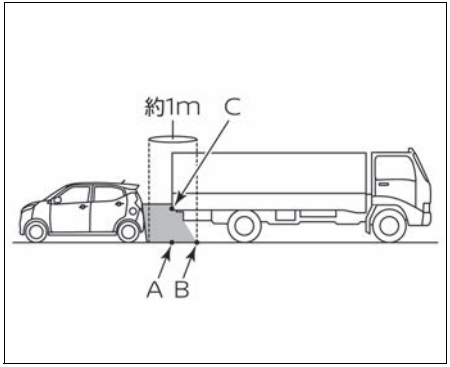


立体物が近くにあるとき



- 距離目安ライン、車幅目安ラインは平面物（道路など）を対象にしています。そのため、張り出し部分のある立体物が近くにある場合には実際の距離と異なって表示される場合があります。

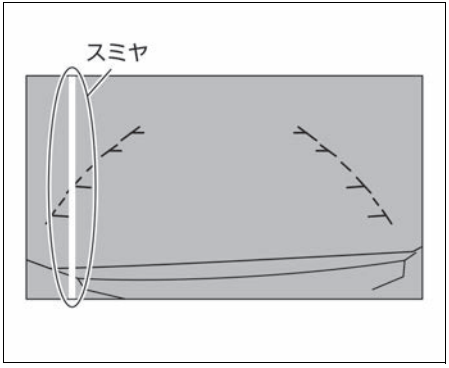
- 例：Cの位置はBの位置よりも遠くにあるように見えますが、実際はAの位置と同じ距離です。Aの距離まで下がるとぶつかることがあります。



故障かなと考える前に

故障かな？	確認すること	対処方法
映像の映りが悪い	カメラレンズが汚れていませんか？	カメラレンズを清掃してください。 ➔リヤビューカメラの取り扱い (P.307)
	カメラレンズに雨、雪などの水滴が付着していませんか？	
	太陽光や他車のヘッドライトの光が直接カメラレンズ面に当たっているためで故障ではありません。当たっている光がなくなれば元に戻ります。	
	温度の急な変化によってカメラレンズ部が結露したためで故障ではありません。しばらく走行すると元に戻ります。	
	暗いところや夜間時には映りが悪くなることがありますが故障ではありません。	
映像にちらつきが出る	蛍光灯などの照明の下にいるためで故障ではありません。	
実際の色味と異なる	カメラの特性のためで故障ではありません。	
映像が映らない	セレクターレバーが R になっていますか？	セレクターレバーを R にしてください。
映像が正しい方向を向いていない	テールゲートが開いていませんか？	テールゲートを閉めてください。
映像が見づらい	カメラに強い光や反射光が入ったためで故障ではありません。	
映像にスミヤ（※）が入る	バンパーなどから強い反射光が入ったためで故障ではありません。	

※スミヤ ： 方向指示器の強い光が上下方向に光の帯のように出たもの。



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

カメラ映像が正常に表示されない場合

セレクターレバーをRに入れ、リヤビューモニターを作動させた状態でも次のような画面表示が続く場合は、カメラシステムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

カメラECUが作動しない場合

- リヤビューモニター画面がカメラ画面に切り替わらず、ミラー表示し続けているとき

カメラの故障により映像に異常がある場合

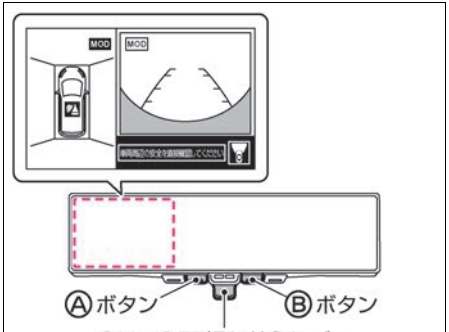
- リヤビューモニター画面が黒色／青色／灰色など、異常なカメラ映像が表示されるとき

マルチアラウンドモニター（移動物検知機能付）★

マルチアラウンドモニターは、自車位置を映し出すことにより、駐車スペースへの駐車時や縦列駐車時に運転者を補助します。

マルチアラウンドモニターについて

- 電源ポジションがONのときに、デジタルルームミラーのON・OFF切り替えレバーを手前に引き、Ⓐボタンを押すか、セレクターレバーをRにするとデジタルルームミラーに表示します。



⚠ 警告

- **マルチアラウンドモニターの機能を過信しない。**

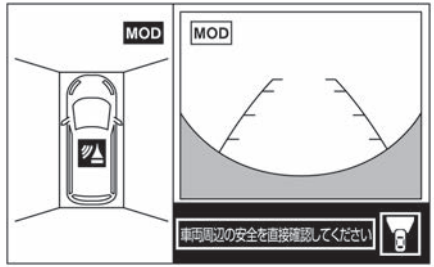
  マルチアラウンドモニターは障害物などの確認を補助するシステムです。車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。特に車両の四隅は、トップビュー、フロントビュー、リヤビューに障害物が映らない死角になります。必ず窓から目視し、安全を確認してから車両を操作してください。常に低速で車両を移動させてください。

- **実際の距離感を間違えないように注意する。**

  マルチアラウンドモニターに映し出される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

マルチアラウンドモニターの使いかた

- デジタルルームミラーがデジタルルームミラーモードの時に使用できます。
  ➔デジタルルームミラー（マルチアラウンドモニター付）★ (P.90)
- 切り替えレバーがOFFのときでも、セレクターレバーをRにするとマルチアラウンドモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／リヤビュー（右側画面）を表示します。セレクターレバーをRから他の位置にすると、マルチアラウンドモニターがOFFになります。
- セレクターレバーがDまたはL（Ds）のときに、センサーが障害物を検知したときはマルチアラウンドモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。障害物の検知がなくなると、マルチアラウンドモニターはOFFになります。
- デジタルルームミラーのⒶボタンを押すとマルチアラウンドモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。



⚠ 警告

- **ドアミラーを格納した状態で使用しない。**

  適切な範囲を映すことができません。また使用するときは、テールゲートが確実に閉まっているか確認してください。

📖 知識

- デジタルルームミラーのⒷボタンを押すと、次のとおりに画面を切り替えることができます。

  ― セレクターレバーがRのとき
  トップビュー（左側画面）/リヤビュー（右側画面）→サイドブラインドビュー（左側画面）/リヤビュー（右側画面）→リヤワイドビュー（全画面）

  ― セレクターレバーがR以外のとき
  トップビュー（左側画面）/フロントビュー（右側画面）→サイドブラインドビュー（左側画面）/フロントビュー（右側画面）→マルチアラウンドモニターOFF

- 右側画面にフロントビューが表示されているときにセレクターレバーをRにすると、リヤビューに切り替わります。セレクターレバーをR以外にすると、再度、フロントビューに切り替わります。
- 三菱自動車純正品のオリジナルナビゲーションの一部の機種では、ナビゲーションモニターへ表示を切り替えることができます。
- オリジナルナビゲーションのオプションスイッチを押すとナビモニターに表示されます。デジタルルームミラー付車はⒶボタンを押すとデジタルルームミラーに表示されます。
- 取り扱いについては、オリジナルナビゲーション用取扱説明書（別冊）も合わせてお読みください。

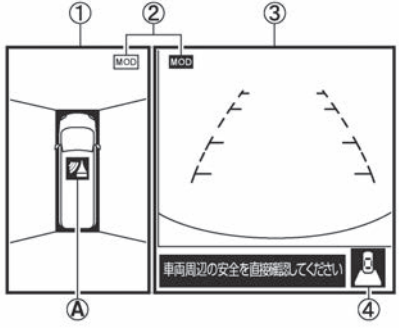
3分タイマー機能

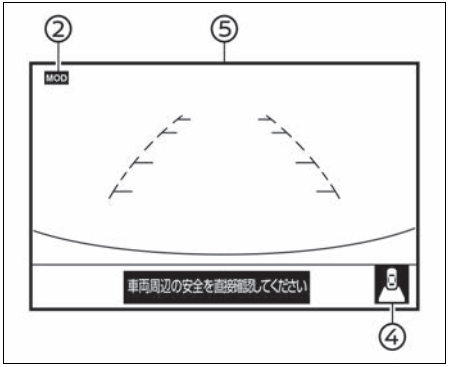
- デジタルルームミラーのⒶボタンを押してから約3分後にマルチアラウンドモニター表示が消える機能です。セレクターレバーがR以外のときに作動します。

ただし、タイマー作動中にデジタルルームミラーのⒷボタンを押したり、パーキングセンサーまたは移動物検知機能が作動したりするとタイマーがリセットされます。

- デジタルルームミラーのON・OFF切り替えレバーを車両前方側へ倒すと、マルチアラウンドモニターがOFFになります。

画面の見かた





①左側画面

●トップビューまたはサイドブラインドビューを表示します。

②移動物検知機能作動状態アイコン

●どちらのビューで移動物検知機能が作動するかを表します。

— MOD：移動物検知機能が作動します

— MOD：移動物検知機能が作動しません

③右側画面

●セレクターレバーがRのときはリヤビューを、R以外のときはフロントビューを表示します。

④方向指示アイコン

●画面の映している方向を表します。

— ：リヤビュー表示

— ：フロントビュー表示

⑤全画面表示リヤビュー画面

●車両の後方の映像を画面幅いっぱいに表示します。

知識

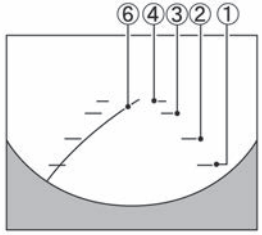
- 電源ポジションをONにしてから初めてマルチアラウンドモニターを表示したときに、アイコンⒶの色と点滅（約3秒間）で、パーキングセンサーの作動状況を表します。
  - — 赤色に点滅：パーキングセンサーON
  - — 灰色に点滅：パーキングセンサーOFF（パーキングセンサーをOFFにした直後も点滅します。）
- 表示しているビューで映している範囲でのみ移動物検知機能が作動します。例えば、リヤビューで移動物検知機能を作動させている場合には、車両前方の移動物は検知しません。

画面表示の種類について

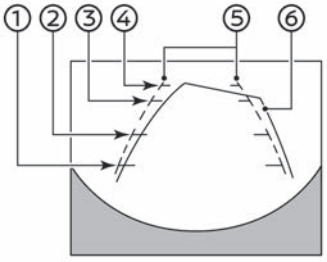
■ フロントビュー／リヤビュー

●車両の前方／後方の映像をマルチアラウンドモニター右側画面に表示します。

<フロントビュー>



<リヤビュー>



距離目安ライン

●車体からの距離の目安を表示します。

— ①赤色：約0.5m

— ②黄色：約1m

— ③緑色：約2m

— ④緑色：約3m

⑤車幅目安ライン

●車幅の目安を示します。

⑥予想進路線

●運転操作時に予想進路を示します。予想進路線は、ハンドルを切ったときに表示されます。予想進路線はハンドルを切った角度に応じて移動し、ハンドルを中立位置にすると表示されなくなります。

●フロントビューは、車速が10km/hを超えると表示されなくなります。

⚠ 警告

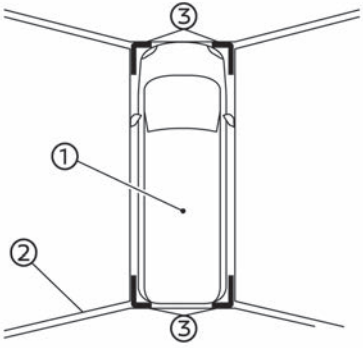
- **リヤビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**

アドバイス

- フロントビューが表示されているときに、中立位置から約90度の範囲内でハンドルを切ると、予想進路線が左右に表示されます。約90度以上ハンドルを切ると、予想進路線はハンドルを切った方向とは逆方向にのみ表示されます。
- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。

- リヤビューカメラは車幅の中心よりずれた位置に取り付けられているため、リヤビューの表示は多少右にずれて見えます。

■ トップビュー



① 自車
② トップビュー境目
③ コーナー部分

●自車位置や駐車スペースへの進入コースが分かりやすい、車両を上から見たような映像をマルチアラウンドモニター左側画面に表示します。

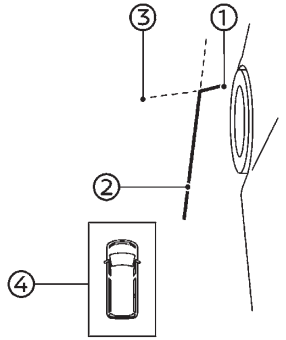
●自車①は、自車位置を示しています。トップビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。カメラでは撮影できない領域トップビュー境目②は、黒色で表示されます。

●電源ポジションをONにし、トップビューを表示すると、トップビュー境目②と撮影されないコーナー部分③は、約4秒間黄色で強調表示されます。パーキングセンサー（フロント/リヤ）がOFFのとき、撮影されないコーナー部分③は赤色で表示されます。

⚠ 警告

- **ドアミラー、車両前方、車両後方に装着されているカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な映像のため、トップビューは障害物を実際より遠く映します。**
- **囲いや車両といった高さのある障害物は、映像の継ぎ目で位置がずれたり、表示されなかったりすることがあります。**
- **カメラの高さよりも上にある障害物は表示されません。**
- **トップビューの映像は、カメラの位置が変化するとずれることがあります。**
- **路上の線は映像の継ぎ目でずれたり、曲がって見えたりすることがあります。ずれは、車両から遠ざかるにつれて大きくなります。**

■ サイドブラインドビュー



① 前端目安ライン
② 側方目安ライン
③ 前端目安ラインと側方目安ラインの延長線
④ センサー表示

●車両の左側前輪付近から前方を、マルチアラウンドモニター左側画面に表示します。道路端への幅寄せ駐車などに便利です。

目安ライン

●モニターには車幅と車両の前端を示す目安ラインが表示されます。
– ①前端目安ラインは、車両前部の位置の目安を示します。
– ②側方目安ラインは、ドアミラーを含めた車幅の目安を示します。
– ③前端目安ラインと側方目安ラインの延長線は、緑色の破線で表示します。

センサー表示

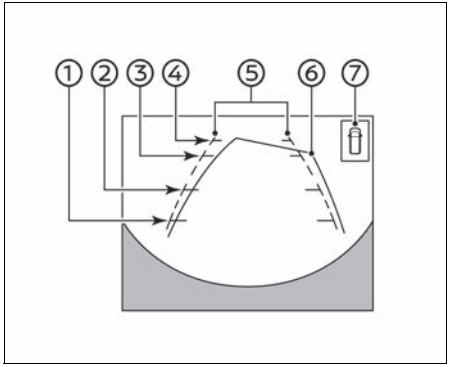
●④センサー表示はセンサーが障害物を検知すると、表示されます。

アドバイス

● 方向指示器の光が側方目安ラインと重なる場合がありますが、異常ではありません。

■ リヤビュー（全画面表示）

●車両の後方の映像を画面幅いっぱいに表示します。



距離目安ライン

●車体からの距離の目安を表示します。
— ①赤色：約0.5m
— ②黄色：約1m
— ③緑色：約2m
— ④緑色：約3m

⑤車幅目安ライン

●車幅の目安を示します。

⑥予想進路線

●運転操作時に予想進路を示します。予想進路線は、ハンドルを切ったときに表示されます。予想進路線はハンドルを切った角度に応じて移動し、ハンドルを中立位置にすると表示されなくなります。

⑦センサー表示

●センサーが障害物を検知すると表示します。

⚠ 警告

- **リヤビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**

アドバイス

- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。
- リヤビューカメラは車幅の中心よりずれた位置に取り付けられているため、リヤビューの表示は多少右にずれて見えます。

移動物検知機能について

- 車庫入れや駐車場からの発進時などに自車周辺の移動物を運転者にお知らせすることで、安全確認をサポートする機能です。
- 車両周辺に移動物があるときに、音と黄枠を表示してお知らせします。
- トップビューに MOD 表示がある場合には移動物を検知したエリア（前後左右）に黄枠を表示します。
- 移動物検知機能は以下の条件のとき、MOD が表示されている画面で作動します。
  - セレクターレバーがPまたはNで停車しているときに、トップビュー側で作動します。
  - セレクターレバーがDで車速約8km/h以下のときに、フロントビューで作動します。
  - セレクターレバーがRで車速約8km/h以下のときに、リヤビューで表示します。

⚠ 注意

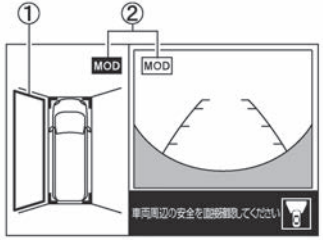
- **車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。**

知識

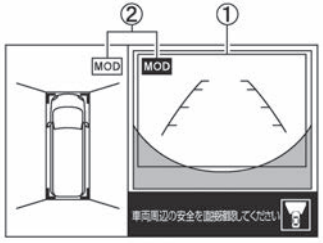
- センサーブザーが鳴っている場合は移動物検知機能ブザーは鳴りません。
- サイドブラインドビューには移動物検知機能がないため、 MOD アイコンを表示しません。

画面の見かた

<トップビュー>



<フロントビュー>



①移動物検知表示

- 移動物検知機能で移動物を検知したときに、黄枠でお知らせします。

②移動物検知機能作動状態アイコン

●移動物検知機能を作動させる側の画面のアイコンを青色で表示します。

— MOD：移動物検知機能が作動します

— MOD：移動物検知機能が作動しません

知識

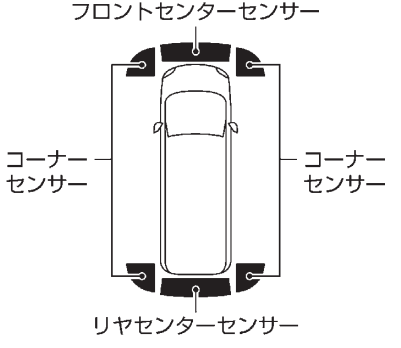
- 以下の場合には移動物検知機能は作動しません。
  - — 車速やセレクターレバーの位置が移動物検知機能の作動条件から外れている場合
  - — トップビューによる移動物検知機能作動中でいずれかのドアが開いている場合
  - — リヤビューによる移動物検知機能作動中でテールゲートが開いている場合
- トップビューによる移動物検知機能作動中で電動格納ミラーが作動していると、誤検知する場合があります。

パーキングセンサー（フロント / リヤ）について

●マルチアラウンドモニター（移動物検知機能付）を表示させて、走行中にセンサーが静止した障害物を検知した場合は、センサー表示とブザーでお知らせします。

●センサー表示はトップビュー、サイドブラインドビューまたはリヤビュー（全画面表示）画面に表示されます。

●障害物を検知してから、センサー表示とブザーが出るまでに多少時間がかかります。



警告

- **バンパーに凹みなどがあると正確な距離が測定できず、正常に作動できない場合があります。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤作動の原因になります。**
- **純正以外の部品を取り付けたとき、正常に作動できない場合があります。**

注意

- **気温や天候、路面状態などの周囲の状況や、障害物の大きさ、形状によってはセンサーが検知できないことがあります。また、音波を吸収しやすいものにも、センサーが検知できないことがあります。必ず周囲を確認して運転をしてください。**
- **次のような障害物には作動しません。**
  - — 背の低い障害物
  - — 幅の狭い障害物
  - — 針金、金網、ロープなどの細い障害物
  - — センサーに非常に近い障害物
  - — 急に進行方向に現れた障害物
- **次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。**
  - — 地面から高い位置に存在する障害物
  - — スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- **センサーは次のような場合は検知しない、もしくは正しく検知できない場合があります。**
  - — 雨、雪、氷、汚れなどがセンサーに付着しているとき
  - — 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
  - — 周囲に草が生い茂っているとき

⚠ 注意

— 車両側面の近くに壁があるとき
— 路面上に段差や突起物があるとき
— 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
— 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
— 周囲で大きな音が鳴っているとき
— 車両感応センサーやホーン、他車のセンサー、オートバイの排気音など超音波を発生するものが付近に存在するとき
— 炎天下や寒冷時
— 表面が一様でない障害物（複数の障害物が積載されて凹凸に形状を成している場合）

- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**
- **センサー部が凍結したときは異常表示が出たり、壁などの障害物があったりしてもセンサーが検知しないことがあります。**

  （氷が解ければ、正常に復帰します）
- **センサーは前後バンパーについています。バンパーには、ステッカーを貼ったりアクセサリーなどを取り付けないでください。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤警報や誤操作の原因になります。**

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにセンサーはいつもきれいにしておいてください。センサーの取り扱いについては、（➔P.307）をお読みください。

■ コーナーセンサー

障害物までの距離（目安）	60 ～ 50cm	50 ～ 30cm	30cm 以下
表示色	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	早い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ フロントセンターセンサー

障害物までの距離（目安）	100 ～ 60cm	60 ～ 50cm	50 ～ 30cm	30cm 以下
表示色	緑	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	遅い	早い	点灯
ブザー音	無し	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ リヤセンターセンサー

障害物までの距離（目安）	150 ～ 50cm	50 ～ 30cm	30cm 以下
表示色	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	早い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ センサー表示色

- センサー表示の色は、障害物に近づくにしたがって、緑、黄、赤と変化します。センサーの表示の色と距離目安線とでは障害物までの距離は異なります。

■ ブザー音

- 障害物との距離が近づくにしたがって、断続音の間隔が短くなります。表示が赤の場合は連続音になります。
- 障害物との距離が広がった場合は断続音が消え、センサー表示のみとなります。

●フロントセンサーが検知したときは低音、リヤセンサーが検知したときは高音でお知らせします。
●コーナーセンサーが検知したときは障害物との距離が3秒間変わらない場合は断続音は消え、センサー表示のみとなります。
●障害物を検知しているときは、ステアリングスイッチのOKスイッチでセンサーの音がOFFになります。

■ パーキングセンサー（フロント/リヤ）OFF

●マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「センサー」を選択すると、各パーキングセンサー（フロント/リヤ）のON・OFFを設定できます。

■ パーキングセンサー（フロント/リヤ）によるカメラ画面の自動表示機能

●セレクターレバーがDかつ車速約10km/h以下でカメラが表示されていない場合に、車両前方の障害物を検知した場合はマルチアラウンドモニター画面を自動で表示します。
●障害物がなくなると、マルチアラウンドモニターはOFFになります。
●デジタルルームミラーの中央ボタンを操作して画面を表示させた場合には、障害物がなくなっても自動でOFFになりません。

マルチアラウンドモニター★に関する注意事項

⚠ 警告

- **カメラはフロントグリル下部、ドアミラー、リヤナンバープレート上部に装着されています。作動を妨げるような物をカメラ部分に取り付けないでください。字光式ナンバープレートやナンバープレートリムを装着すると、フロントビューおよびリヤビューモニターの映像が一部映らなくなることがあります。**
- **距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離は目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**
- **目安ラインや予想進路線は、乗車人数や燃料の容量などの影響により実際の距離と異なることがあります。目安としてお使いください。**
- **サイズが異なるタイヤと交換すると、予想進路線とトップビューが不適切に表示されることがあります。**
- **上り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。下り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも近くにあるように見えます。ミラーを併用するか、目視によって正確な距離を判断してください。**
- **フロントビューおよびリヤビューの表示線は、路面の状況により障害物への距離が実際と異なって見えることがあります。特徴をよく理解してください。**

アドバイス

- カメラに汚れ、雨、雪が付着すると、映像の映りが悪くなることがあります。カメラを清掃してください。

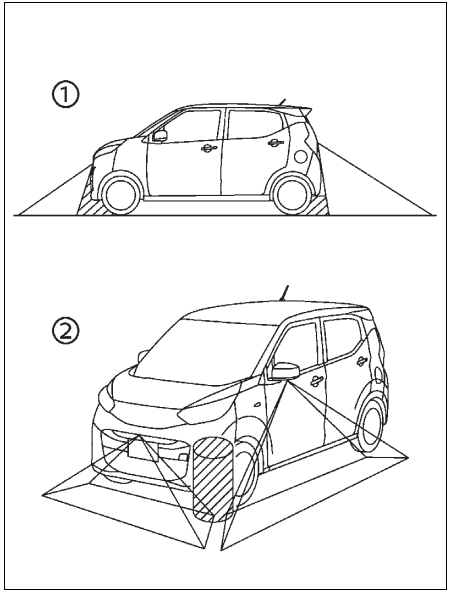
  ➔フロントビュー★／サイドビューカメラ★の取り扱い (P.306)

  ➔リヤビューカメラの取り扱い (P.307)
- アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて含ませた布でふき取ったあと、乾いた布でふいてください。
- モニター映像に悪影響が生じるため、カメラに傷をつけないよう注意してください。
- カメラにはワックスを使用しないでください。中性洗剤を薄めて含ませた清潔な布でワックスをふき取ってください。

知識

- カメラレンズの特性により、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して見えたりすることがあります。車幅目安ラインと予想進路線は、実際の車幅と進路よりも広くなっています。
- セレクターレバーが R 以外のとき、デジタルルームミラーのⒶボタンを押してマルチアラウンドモニターを表示させたあと、パーキングセンサー（フロント/リヤ）または移動物検知機能が作動しない状態で約3分間操作を行わないでいると、マルチアラウンドモニター表示が消えます（3分タイマー機能）。
- 画面の切り替わり後は、映像の表示が遅れることがあります。マルチアラウンドモニターが完全に表示されるまでは、映像が一時的にゆがむことがあります。
- 外気温が極端に高いか、低いときは、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- カメラに直接強い光を当てると、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- 蛍光灯照明が当たると、映像にちらつきが出ることがありますが、異常ではありません。
- マルチアラウンドモニター映像の色味は、実際とはわずかに異なって見えることがあります。
- 暗いところや夜間時には映りが悪くなり、色味が異なって見えることがありますが、異常ではありません。
- トップビューの各カメラの映像に鮮明さの違いが生じることがあります。
- トップビューの画像は、4つのカメラからの映像を加工処理して表示するため、次のように表示される場合があります。
  - ― 立体物が倒れこんで見える
  - ― 路面よりも高い位置にある車両などが実際より遠くに見える
  - ― 高さのあるものが画像の継ぎ目でずれて表示される
  - ― 各カメラ画像の明るさが違う

映し出す範囲



●特定の領域は、カメラに映し出されません。フロントビューまたはリヤビューでは、バンパー下側または地上面の部分は表示されないことがあります①。トップビューではカメラの映し出す範囲の境目付近にあるもの、路面より高さのあるものは表示されないことがあります②。

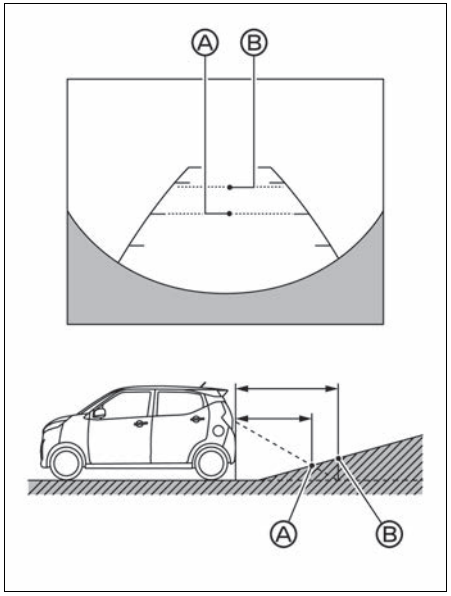
映像と実際の路面との誤差

●フロントビューとリヤビューに表示される距離目安ラインと車幅目安ラインは、

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

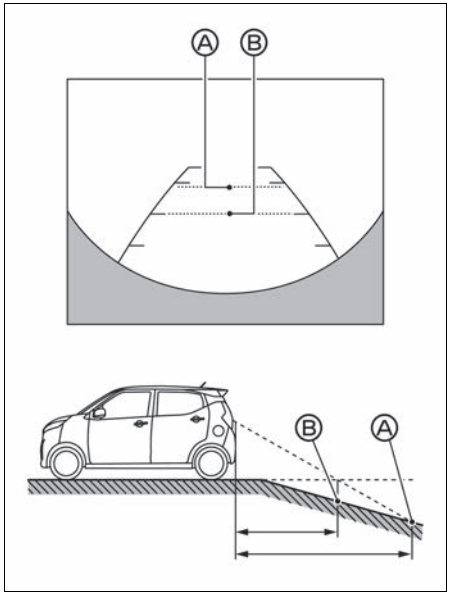
舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離はあくまでも目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

急な上り坂が後方にあるとき



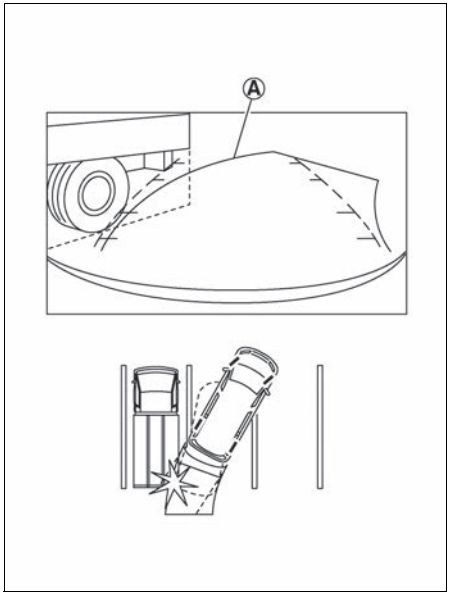
●距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも手前に表示されます。例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。上り 坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。

急な下り坂が後方にあるとき



●距離目安ラインと車幅目安ラインは実際の距離よりも後ろに表示されます。 例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。下り 坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも近くにあるように見えます。

立体物が近くにあるとき

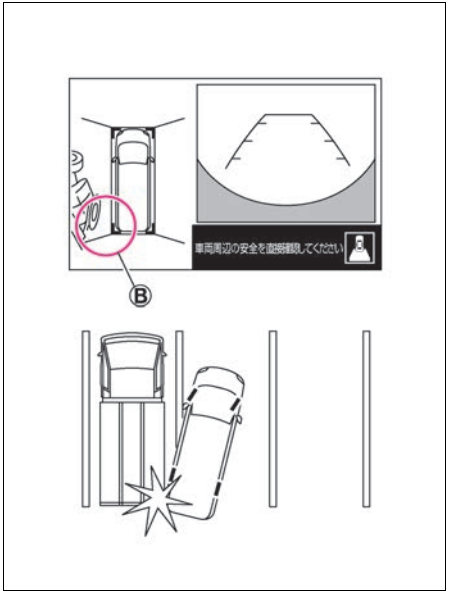


●立体物が近くにある場合には実際の距離と異なって表示される場合があります。

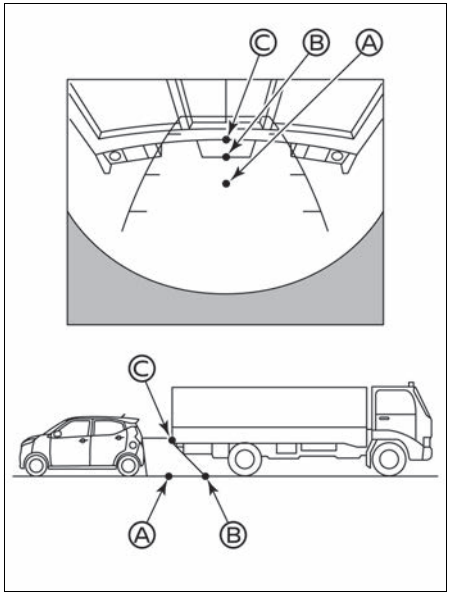
●例1：予想進路線Ⓐは表示されているトラックの車体に触れていません。しかし、トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、ぶつかることがあります。

●例2：表示されているトップビューⒷでは、自車とトラックの車体間にはわずかな距離があるように見えます。しかし、実際の距離は表示されているよりも短

く、トラックの車体にぶつかることがあります。



立体物に接近するとき

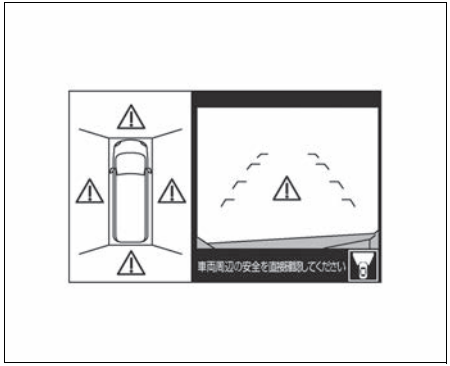


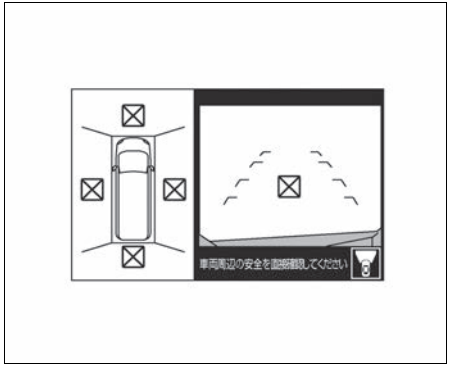
●Ⓒの位置はⒷの位置よりも遠くにあるように見えますが、実際はⒶの位置と同じ距離です。トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、Ⓐの位置まで下がるとぶつかることがあります。

画面のエラー表示について

⚠アイコンが画面内に表示された場合は、マルチアラウンドモニターの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

☒アイコンが画面内に表示された場合は、カメラ映像が一時的に周囲の電子機器の影響を受けている可能性があります。頻繁に表示される場合は三菱自動車販売会社で点検を受けてください。





☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

カメラ映像が正常に表示されない場合

セレクターレバーをRに入れ、マルチアラウンドモニターを作動させた状態でも次のような画面表示が続く場合は、カメラシステムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

カメラECUが作動しない場合

- マルチアラウンドモニター画面がカメラ画面に切り替わらず、ミラー表示し続けているとき

カメラが作動しない／カメラの故障／カメラECUの故障などにより映像に異常がある場合

- マルチアラウンドモニター画面が黒色／青色／灰色など、異常なカメラ映像が表示されるとき

室内装備

室内灯

ルーム&マップランプ／ラゲッジルームランプ P.222

収納装備

グローブボックス P.224
アッパーグローブボックス P.224
センターロアボックス P.224
車検証入れ P.224
ドリンクホルダー／ボトルホルダー P.225

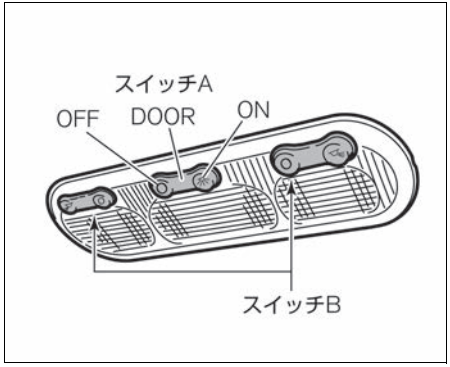
その他の室内装備

ステアリングヒーター★ P.227
シートヒーター P.227
アクセサリーソケット（DC12V） P.228
充電用USBポート P.228
コンビニエントフック P.229
フロアマット P.230
サンバイザー／バニティミラー P.230
カードホルダー P.231
アシストグリップ P.231
シートアンダートレイ★ P.232
ラゲッジフロアボード★ P.232

ルーム＆マップランプ／ラゲッジルームランプ

ルーム＆マップランプの使いかた

●次のように点灯・消灯します。



スイッチA

スイッチ位置	点灯・消灯のしかた
ON	ルームランプが常時点灯
DOOR（中立）	ドアを開けるとルームランプが点灯し、閉めると消灯します。
OFF	消灯

スイッチB

スイッチ位置	点灯・消灯のしかた
	スイッチを押した方のマップランプが常時点灯
○（水平）	スイッチAが中立のとき、ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。

アドバイス

- エンジンが停止しているときは、ルーム&マップランプを長時間点灯させないでください。12Vバッテリー（メイン）があがるおそれがあります。

知識

キー連動室内照明システム

- スイッチAが中立かつスイッチBが水平位置にあると、次の条件で点灯します。
  - ― キーをキースイッチから抜き取ってから約15秒間（キーレスエントリーシステム付車）
  - ― 電源ポジションをOFFにしてから約15秒間（キーレスオペレーションシステム付車）
  - ― キースイッチ（電源ポジション）がOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  - ― キースイッチ（電源ポジション）がOFFのとき、ドアを閉めてから約15秒間
  - ― ドアが開いているとき

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「自動室内灯」を選択すると、キー連動室内照明システムのON・OFFを切り替えることができます。

  設定の詳細については、車両設定をお読みください。

  画面の切り替えかた (P.46)

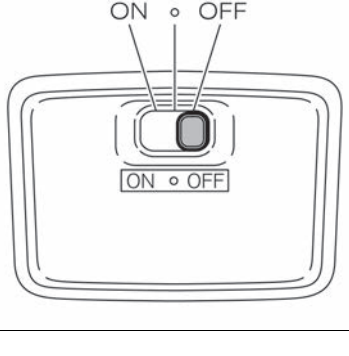
  車両設定 (P.57)

バッテリーセーバー

- 12Vバッテリー（メイン）あがりを防止するため、ルーム&マップランプは15分以上点灯し続けると消灯します。

ラゲッジルームランプの使いかた

●次のように点灯・消灯します。



室内灯

スイッチ	点灯・消灯のしかた
ON	常時点灯します。
○（中立）	ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF	常時消灯します。

アドバイス

- エンジンが停止しているときは、ラゲッジルームランプを長時間点灯させないでください。12Vバッテリー（メイン）があがるおそれがあります。

知識

キー連動室内照明システム

- スイッチが中立の位置にあると、次の条件で点灯します。
  - キーをキースイッチから抜き取ってから約15秒間（キーレスエントリーシステム付車）
  - 電源ポジションをOFFにしてから約15秒間（キーレスオペレーションシステム付車）
  - キースイッチ（電源ポジション）がOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  - キースイッチ（電源ポジション）がOFFのとき、ドアを閉めてから約15秒間
  - ドアが開いているとき

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「自動室内灯」を選択すると、キー連動室内照明システムのON・OFFを切り替えることができます。

  設定の詳細については、車両設定をお読みください。

  ➔画面の切り替えかた (P.46)

  ➔車両設定 (P.57)

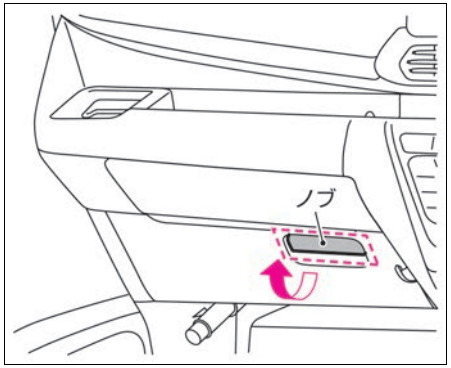
バッテリーセーバー

- 12Vバッテリー（メイン）あがりを防止するため、ラゲッジルームランプは15分以上点灯し続けると消灯します。

グローブボックス

グローブボックスの使いかた

●開けるときは、ノブを手前に引きます。
●閉めるときは、ロックするまでふたを押します。



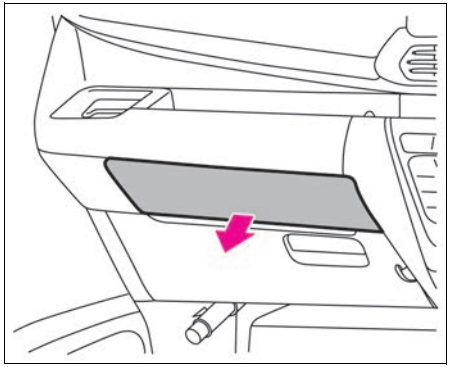
⚠ 注意

- **グローブボックスを開けたまま走行しない。**
  走行中に収納したものが飛び出したり、ふたに当たったりするなどして、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ふたを開けるときは、ゆっくり開ける。**
  ふたを全開にしたとき身体に当たるおそれがあります。

アッパーグローブボックス

アッパーグローブボックスの使いかた

●開けるときは、引き出します。
●閉めるときは、押し戻します。



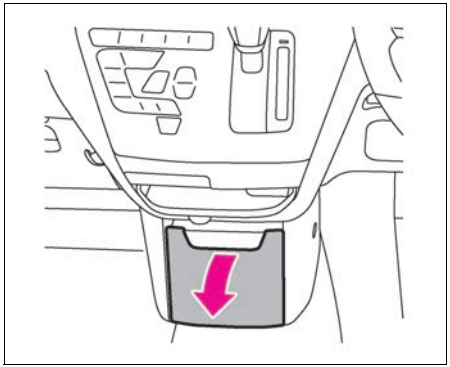
⚠ 注意

- **開けたまま走行しない。**
  収納した物が飛び出したりして、思わぬケガをしたり、事故につながるおそれがあります。

センターロアボックス

センターロアボックスの使いかた

●開けるときは、手前に引きます。
●閉めるときは、奥に押し戻します。



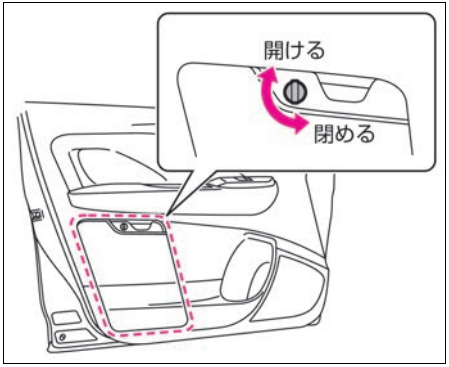
⚠ 注意

- **開けたまま走行しない。**
  収納した物が飛び出したりして、思わぬケガをしたり、事故につながるおそれがあります。

車検証入れ

車検証入れの使いかた

●助手席ドア内側に車検証を収納できます。
●開けるときは、ツマミを右に90°回してカバーを開けます。
●閉めるときは、カバーを閉じてツマミを左に90°回します。



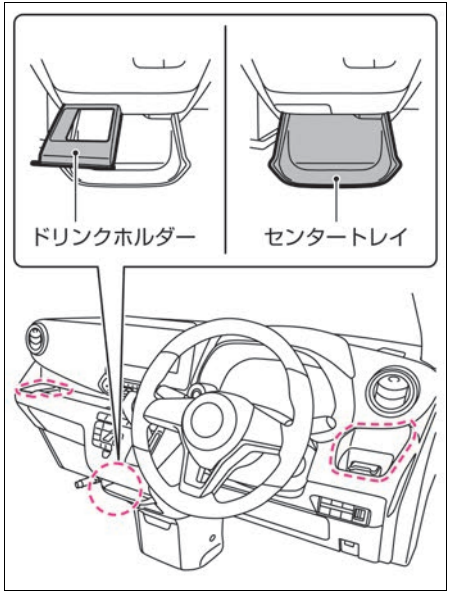
ドリンクホルダー／ボトルホルダー

前席シート用ドリンクホルダーについて

●インストルメントパネル部に3箇所あります。

中央のドリンクホルダーについて

●手前に引き出して使用します。（ドリンクホルダーを引き出すと、同時にセンタートレイも引き出されます。）
●格納するときは押し戻します。
●ドリンクホルダーのみを格納し、トレイとして使用できます。



⚠ 注意

● **トレイに3kg以上の物を載せない。**

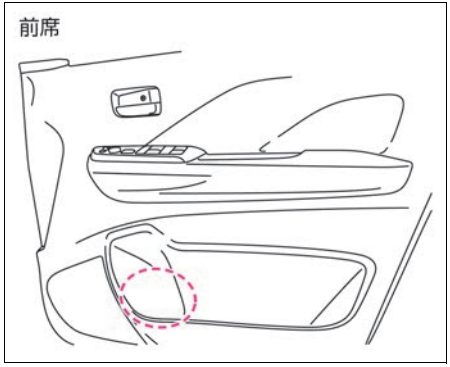
破損したり、物が落ちたりして思わぬケガをするおそれがあります。また、ドリンクホルダーに熱い飲物を置いているときは、こぼれてやけどをするおそれがあります。

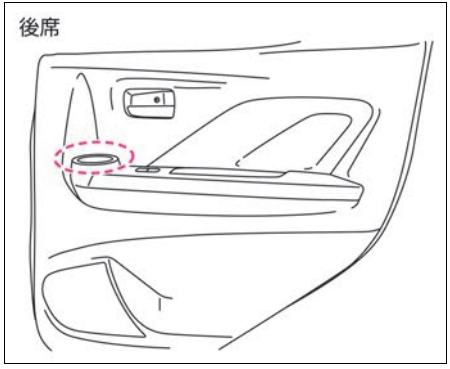
📖 知識

● トレイのみを引き出すことができます。

ボトルホルダーについて

●ボトルホルダーは、前席および後席のドアにあります。





ドリンクホルダー／ボトルホルダーに関する注意事項

⚠ 警告

- **走行中に飲物を出し入れしない。**

  走行中に飲物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転中は信号待ちなどの停車中に飲物を出し入れしてください。

- **ビンなどの硬いものは入れない。**

  側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **熱い飲物を置かない。**

  熱い飲物をドリンクホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、飛び散ったりして、乗員がやけどを負うおそれがあります。

- **飲物をこぼさないように注意する。**

  飲物の容器の形によっては、確実に固定されないおそれがあります。

- **車室内のスイッチや画面などに飲物をこぼさないようにする。**

  故障や火災のおそれがあります。

アドバイス

- 飲物や液体がいっぱいに満たされた容器をドリンクホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、漏れ出したりして、車両の電子機器などに損傷を与えるおそれがあります。いっぱいに満たされた容器を置かないでください。

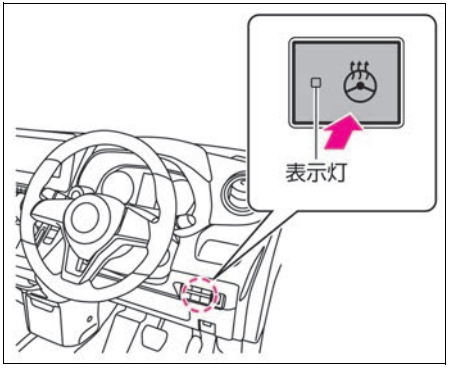
ステアリングヒーター★

ハンドルを温めます。

アドバイス

- 12Vバッテリー（メイン）あがりを防止するため、エンジンをかけた状態でご使用ください。ただし、アイドリング状態での連続使用は避けてください。

ステアリングヒーターの使いかた



- スイッチを押すと約30分間作動します。（スイッチの表示灯が点灯）
- 作動中にスイッチを押すと作動が停止します。（スイッチの表示灯が消灯）
- ハンドルの温度が一定温度以上のときは、スイッチを押してもステアリングヒーターは作動しません。

シートヒーター

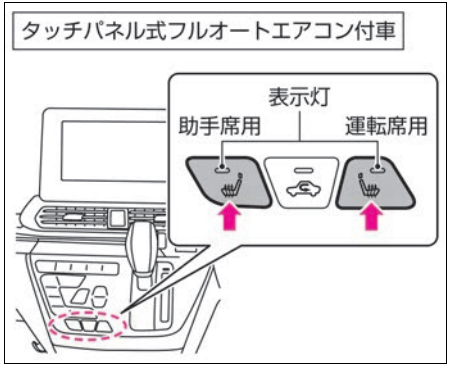
前席シートの座面を温めます。

キースイッチ（電源ポジション）がONのときに使えます。

シートヒーターの使いかた

タッチパネル式フルオートエアコン付車

- スイッチをタッチすると作動します。（スイッチの表示灯が点灯）
- 止めるときは、再度スイッチをタッチします。（スイッチの表示灯が消灯）
- スイッチをタッチすると、操作音が鳴ります。



⚠ 注意

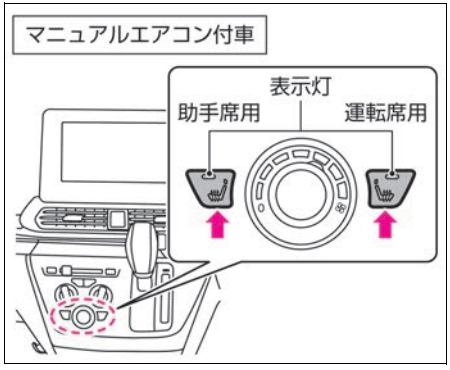
- **長時間の連続使用はしない。**

低温やけどの原因になります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意してください。

- **硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。**

マニュアルエアコン付車

- スイッチを押すと作動します。（スイッチの表示灯が点灯）
- 止めるときは、再度スイッチを押します。（スイッチの表示灯が消灯）



アドバイス

- 過熱するおそれがあるため、シートに毛皮や座布団を載せたり、三菱自動車純正以外のシートカバーを使用したりしないでください。
- シートを清掃するときは、シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。
- 水などをこぼしたときは、乾いた布ですぐにふき取ってください。
- 12Vバッテリー（メイン）あがりを防止するため、エンジンをかけた状態でご使用ください。ただし、アイドリング状態での連続使用は避けてください。

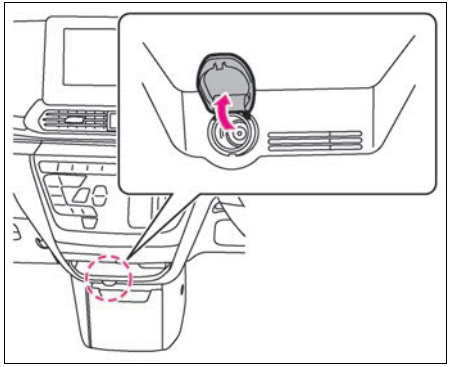
アクセサリーソケット（DC12V）

カーアクセサリーの電源をとるときに使います。キースイッチ（電源ポジション）がONまたはOFF（ACC状態）のとき使えます。

ACC状態については、ACC電源オートオン/オフ機能（P.119）をお読みください。

アクセサリーソケットの使いかた

- アクセサリーソケットはインストルメントパネルにあります。
- ふたを開けて使います。
- 使用しないときは、ふたを閉めます。
- 容量は、12V（ボルト）、10A（アンペア）、120W（ワット）です。
- 相手プラグを挿入したり抜いたりするときは、使用機器側の電源をOFFにするか、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしてください。



警告

- **アクセサリーソケットを使うときは、次のことを守る。**

  アクセサリーソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどのおそれがあります。

  — 2マタソケットなどでタコ足配線をしない

  — 消費電力120W以下のものを使用する

  — 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入する

  — 使用中や使用後はソケットやプラグに注意する

  — シガーライターをソケットに差し込まない

  — ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしない

アドバイス

- 12Vバッテリー（メイン）あがりを防止するため、エンジンをかけた状態で使用してください。また、長時間使用したり、エアコン、ヘッドライト、リヤデフォッガーなどを同時に使用したりしないでください。

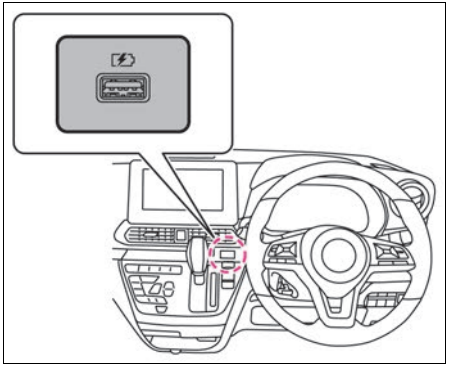
充電用 USB ポート

充電用USBポートはモバイル機器などの充電専用です。キースイッチ（電源ポジション）がONまたはOFF（ACC状態）のとき使えます。 ACC状態については、ACC電源オートオン/オフ機能（P.119）をお読みください。

充電用 USB ポートの使いかた

モバイル機器を充電するのに便利な充電用USBポートが用意されています。

- 充電用USBポートはインストルメントパネル部にあります。
- 容量は5V（ボルト）、2.4A（アンペア）、12W（ワット）です。



⚠ 警告

- **SRSエアバッグの作動を妨げるような場所に、モバイル機器や接続用のケーブルを設置しない。**

  SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグの作動時にモバイル機器が飛ばされたりして、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **充電用USBポートを使用するときは、次のことを守る。**

  充電用USBポートの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

  — 複数の充電用USBポートを持つアダプターを使用して、一度にたくさんのモバイル機器を充電しない

  — 消費電力12W以下のものを使用する

  — ケーブルはしっかり奥まで挿入する

  — ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしない

  — ソケットの向きに注意し、無理な接続や取り外しをしない

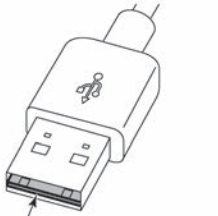
⚠ 注意

- **モバイル機器または接続用のケーブルは、運転の邪魔にならない場所に固定する。**

  運転に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 両面挿し（リバーシブル）対応のUSBケーブルは、充電用USBポートの内部端子を破損するおそれがあるので使用しないでください。



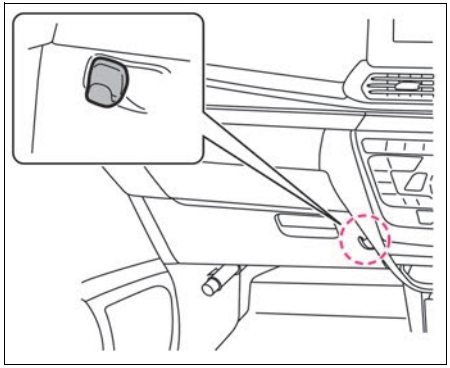
リバーシブルタイプUSBコネクター
（接点基板が中央にある）

- 12Vバッテリー（メイン）あがりを防止するため、エンジンをかけた状態で使用してください。

コンビニエントフック

コンビニエントフックの使いかた

●買い物袋などを引っ掛けるときに使います。



アドバイス

- フックの変形または破損を防ぐため、次のことをお守りください。

  — 3kg以上の物を掛けない

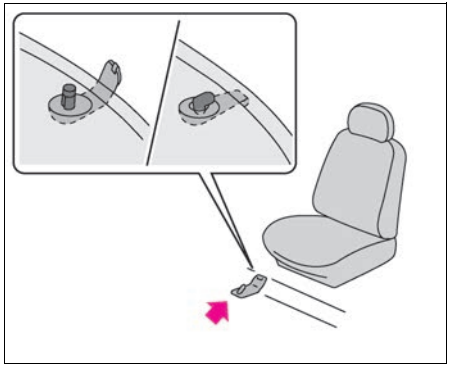
  — 炎天下などで車内が高温のときは、物をかけたままにしない

フロアマット

この車（年式）専用のフロアマットが設定されています。
床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。

固定のしかた

- 床面には三菱自動車純正フロアマット用の固定クリップが付いています。
- フロアマットを床の形状に合わせて敷き、取り付け穴に固定クリップのピンを通して確実に固定します。
- 車種により、固定クリップ・ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、三菱自動車販売会社にお問い合わせください。



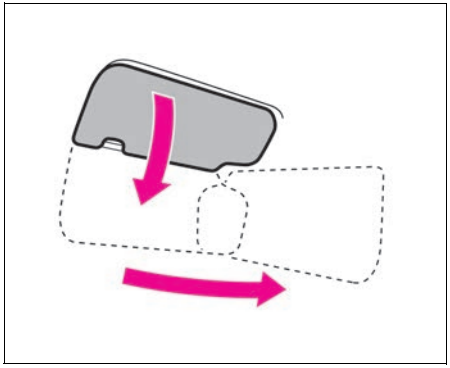
⚠ 警告

- **この車（年式）専用のフロアマットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用する。**
  フロアマットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬ速度が出る、またはブレーキが効きづらくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **運転席にフロアマットを敷くときは、次のことを守る。**
  - 三菱自動車純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
  - フロアマットでペダルを覆わない
  - フロアマットを重ねて敷かない
  - 運転席専用のフロアマットを使用する
  - フロアマットを前後さかさまにしたり、裏返しにしたりして使用しない
- **運転する前にフロアマットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。**
- **運転に支障がないことを確認する。**
  運転する前、キースイッチ（電源ポジション）がOFFの状態でセレクターレバーがPのとき、各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。
- **タバコの火種をフロアマットなどに落とさない。**
  火災につながるおそれがあります。

サンバイザー／バニティミラー

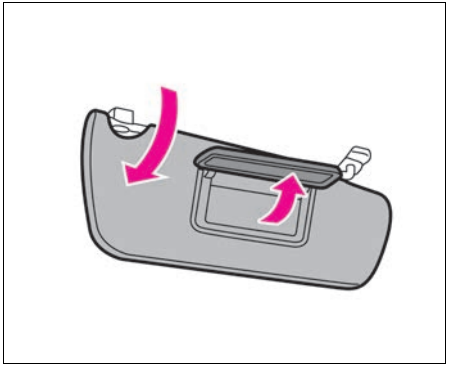
サンバイザーの使いかた

- 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います。
- 横からの日差しを防ぐときは、下に下げてフックから外し、横にして使います。



バニティミラー★の使いかた

- サンバイザー裏側にバニティミラー（鏡）が付いています。
- サンバイザーを下に下げ、カバーを開けて使います。

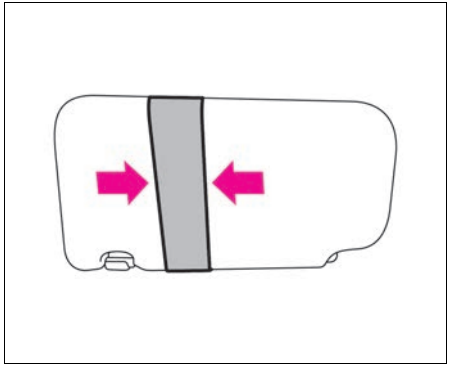


カードホルダー

カードホルダーの使いかた

タイプA

- 運転席側のサンバイザーにカードホルダーが付いています。
- カードをスライドさせ、差し込みます。

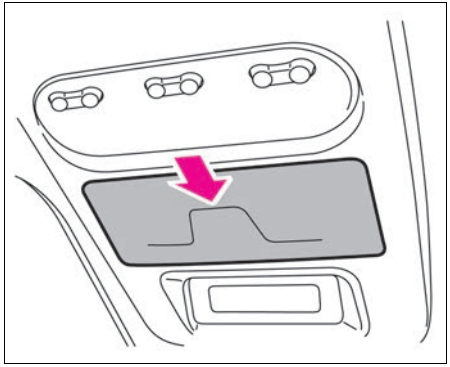


アドバイス

- 炎天下での駐車は車室内が大変高温になりますので、カードを入れたままにしないでください。カードが変形するおそれがあります。

タイプB

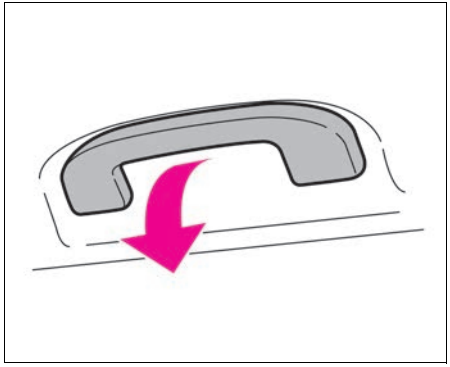
- ルーム&マップランプ付近にカードホルダーが付いています。
- カードを挟み込んで使います。



アシストグリップ

アシストグリップの使いかた

- アシストグリップは、前席シート左右および後席シート左右にあります。



⚠ 注意

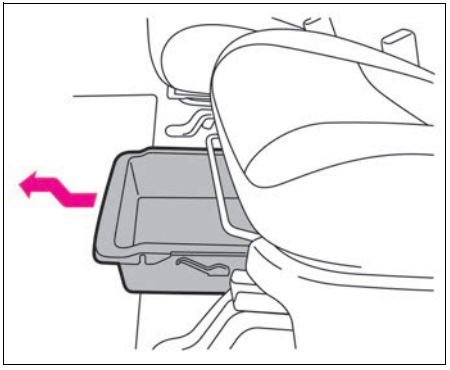
- **アシストグリップに手をかけて乗り降りしない。**

  アシストグリップは、走行中などシートに座った状態で身体を支えるために使用してください。乗降用ではないため、手をかけて乗り降りしないでください。万一、アシストグリップが外れた場合は、思わぬケガをするおそれがあります。

シートアンダートレイ★

シートアンダートレイの使いかた

- 助手席シートの下にあります。
- 使用するときは、トレイを少し上げながら引き出します。
- 戻すときは、トレイを押し込みます。



⚠ 注意

- **引き出したトレイは、最後まで確実に押し込む。**

  引き出したトレイを戻すときは、最後まで確実に押し込んでください。
  また、トレイを引き出したまま走行しないでください。ブレーキをかけたときなどにトレイや収納した物が飛び出し、思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

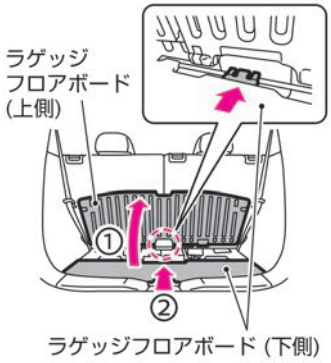
- トレイからはみ出るほど、物を入れないでください。シートの調節レバーに当たりレバー操作を妨げたり、収納した物が取り出せなくなったりするおそれがあります。
- 2kg以上の物を入れないでください。トレイが破損するおそれがあります。

ラゲッジフロアボード★

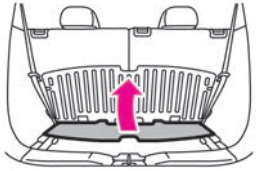
大きな荷物をラゲッジアンダーボックスに収納する際は、ラゲッジフロアボードを持ち上げてください。

ラゲッジフロアボードの持ち上げかた

1. テールゲートを開けます。
   テールゲートの開けかた (P.82)
2. ①上側のラゲッジフロアボードを持ち上げ、
   ②下側のラゲッジフロアボードを後席シート下のレールにはめ込みます。



3. 上側のボードごと下側のラゲッジフロアボードを持ち上げます。



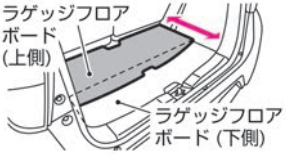
4. 下側のラゲッジフロアボード裏側にあるフックを後席シートのヘッドレストステーに引っ掛け、ラゲッジフロアボードを固定します。

アドバイス

- フックをかけたまま後席シートを前後にスライドさせたり、背もたれの角度調整を行ったりしないでください。ラゲッジフロアボードが破損するおそれがあります。

知識

- 上側のラゲッジフロアボードは、後席シート位置にあわせて前後にスライドします。



- 後席シートの位置によっては、下側のラゲッジフロアボード裏側にあるフックが後席シートのヘッドレストステーに引っ掛けにくいときがあります。

MEMO

トラブルがおきたときは

まずはじめに

故障したときは	P.236
発炎筒	P.236
けん引について	P.237

緊急時の対処方法

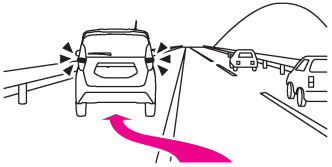
パンクしたときは	P.240
ドアが開かないときは	P.244
キーレスオペレーションキー★で始動できないときは	P.245
ハンドルがロックし、エンジンの始動ができないときは	P.245
12Vバッテリー（メイン）があがったときは	P.246
警告灯がついたときは	P.249
表示灯がついたときは	P.257
警告メッセージが表示されたときは	P.259
警報音（ブザー）が鳴ったときは	P.273
窓ガラスがくもったときは	P.275
オーバーヒートしたときは	P.276
セレクターレバーが動かないときは	P.277
雪道やぬかるみにはまったときは	P.278
水没したときは	P.278
外装ランプが点灯しないときは	P.279
ヒューズが切れたときは	P.284

故障したときは

車両が故障したときは、次の手順で対処してください。

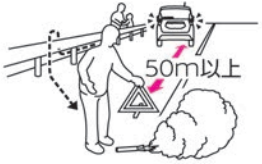
故障したときの対処のしかた

1. 非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。
路肩が無い場所では、可能な限り広いところまで自走します。

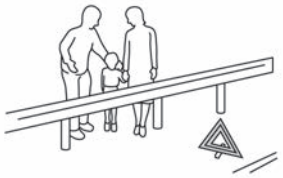


2. 同乗者をガードレールの外側などに避難させ、車両の50m以上後方に発炎筒と停止表示板（停止表示灯）を置きます。

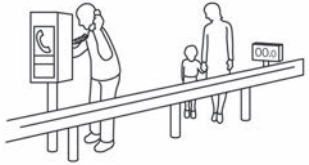
➔発炎筒 (P.236)



3. 運転者もガードレールの外側などに避難します。
避難するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないように注意してください。



4. 非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。



⚠ 警告

- **発炎筒はトンネル内では使用しない。**
煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。このときは非常点滅表示灯をご使用ください。

⚠ 注意

- **エンジンが停止しているときは、慎重に運転する。**
故障によりエンジンが停止していると、ブレーキや電動パワーステアリングが正しく機能せず、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなったりすることがあります。すみやかに安全な場所に停車してください。

アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務付けられています。
- 高速道路上では1kmごとに非常電話が設置されています。

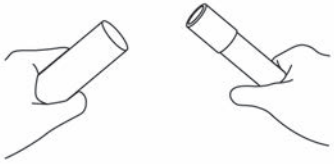
発炎筒

高速道路や踏み切りなどで故障・事故により緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。発炎時間は約5分です。非常点滅表示灯と併用してください。

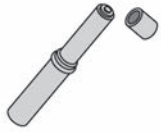
発炎筒の使いかた

1. 助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。

2. 本体をひねりながらケースから引き抜き、本体を逆さにして差し込みます。



3. 先端のふたを取り、ケースのすり薬で発炎筒の先端をこすって着火します。



⚠ 警告

- **お子さまには触らせない。**
  いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。
- **可燃物の近くで使用しない。**
  引火するおそれがあります。
- **点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけない。**
  やけどをするおそれがあります。
- **トンネル内では使用しない。**
  煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。このときは非常点滅表示灯をご使用ください。

アドバイス

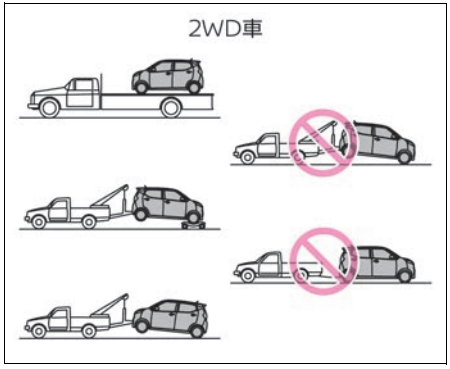
- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に三菱自動車販売会社でお買い求めください。

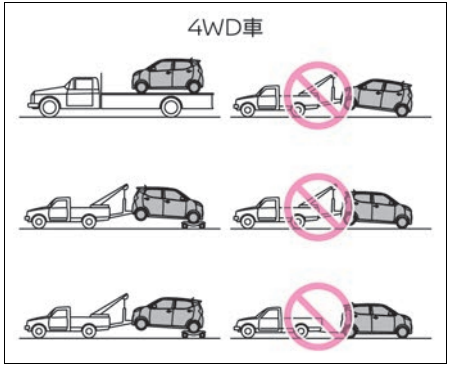
けん引について

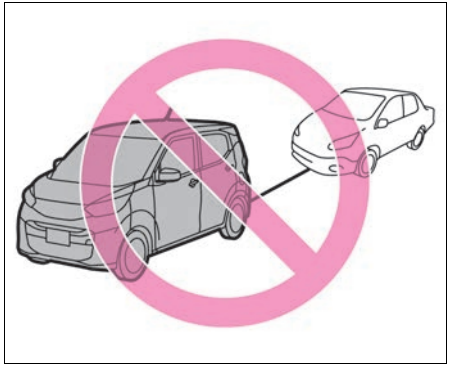
けん引が必要なときは、三菱自動車販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。やむをえずけん引するときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。

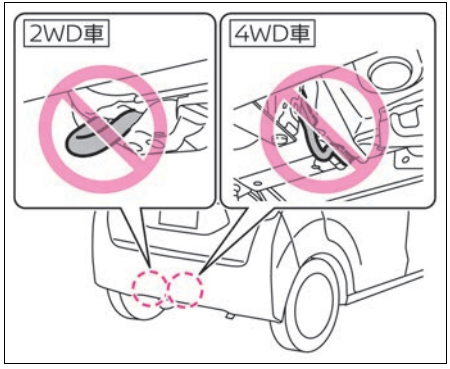
けん引時の注意事項

- 車両が動かなかったり、異常な音がしたりするときは、けん引せずに三菱自動車販売会社へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、2WD車は前輪または4輪を、4WD車は4輪を持ち上げてください。
- やむをえず4輪接地の状態でけん引されるときは、セレクターレバーを**N**に入れて行ってください。
- 4輪接地でけん引してもらうときは、速度30km/h以下、距離40km以内にしてください。高速走行や長距離走行をすると、トランスミッションが破損するおそれがあります。できるだけレッカー車、またはトレーラーを依頼してください。
- けん引ロープはできるだけソフトロープを使い、バンパーに傷をつけないように注意してください。
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。
- けん引中は、マイパイロット★をOFFにする。
- けん引中は、踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]をOFFにする。









⚠ 注意

- **2WD車の前輪を持ち上げてけん引するときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにしない。**

  アクティブスタビリティコントロール[ASC]が作動し、ブレーキがかかることがあります。

リヤフックについて

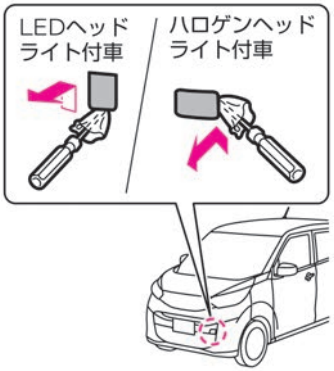
この車両で他車をけん引することはできません。後ろ側についているフック（リヤフック）は船舶またはトレーラー輸送時の固定専用です。けん引時などの固定には絶対使用しないでください。

アドバイス

- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。

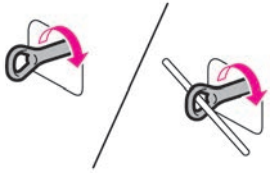
やむをえず 4 輪接地でけん引されるときは

1. 先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、フロントバンパーのカバーの溝に差し込んでカバーを外します。



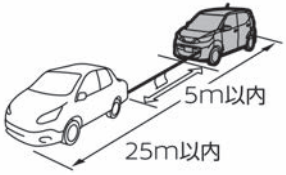
2. 金属の固い棒などを使用して、けん引フックを取り付けます。

➔ 工具、パンクタイヤ応急修理キットの格納場所 (P.289)

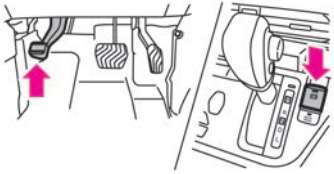


3. 自車および他車のけん引フックにロープを掛け、ロープ中央に

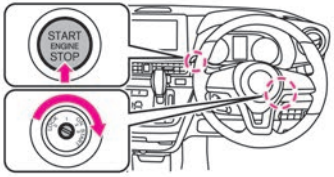
30cm×30cm 以上の白い布を取り付けます。
ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平になるように掛けてください。



4. エンジンを始動しセレクターレバーをNに入れ、パーキングブレーキを解除します。



5. エンジンを始動できないときはキースイッチ（電源ポジション）をONにし、セレクターレバーをNにしてください。



⚠ 警告

キーレスオペレーションシステム付車

- **4輪接地でけん引されるときは、電源ポジションをOFFにしない。**

  電源ポジションがOFFで12Vバッテリー（メイン）があがると、ハンドルロック（ステアリングロック）の解除ができなくなるため、このままの状態でけん引しないでください。けん引するときは救援車のバッテリーとつなぎ、電源ポジションをONにしてハンドル操作ができる状態で行ってください。また、けん引中は電源ポジションをOFFにしないでください。ハンドル操作ができなくなり危険です。

キーレスエントリーシステム付車

- **4輪接地でけん引されるときは、キースイッチをLOCKにしない。**

  ハンドルがロックされ操作ができなくなり危険です。

⚠ 注意

- **エンジンが停止していると、ブレーキや電動パワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなったりすることがあるので注意する。**
- **けん引フックに指定以外のフックは絶対に使用しない。**

  フック部が破損するおそれがあります。
- **長い下り坂ではけん引しない。**

  ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。
- **4WD車はトレーラーに車載するか、4輪接地の状態でけん引してもらう。**

  2輪を上げた状態でけん引すると、上げた車輪が回転して、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

アドバイス

- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。

知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

パンクしたときは

この車両にはスペアタイヤおよびジャッキが標準で搭載されていません。
タイヤがパンクしたときは、パンクタイヤ応急修理キットで応急修理ができます。

応急修理する前に

応急修理を行うときは、次の準備をしてください。

- 地面が固く平らな場所に車両を移動する。
- パーキングブレーキをかける。
- セレクターレバーをPにする。
- キースイッチ（電源ポジション）をOFFにする。
- 必要に応じて、非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板（または停止表示灯）を置く。
  ➔故障したときの対処のしかた (P.236)
- 人や荷物を降ろす。
- 工具、パンクタイヤ応急修理キットを取り出す。
  ➔工具、パンクタイヤ応急修理キットの格納場所 (P.289)
- 次の場合はパンクタイヤ応急修理キットでは応急修理ができません。三菱自動車販売会社またはJAFなどに連絡してください。
  - 約4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - タイヤサイド部が損傷を受けたとき
  - ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
  - タイヤがホイールから外れているとき
  - ホイールが破損しているとき
  - タイヤが2本以上パンクしているとき
  - 修理剤の有効期限が切れているとき

アドバイス

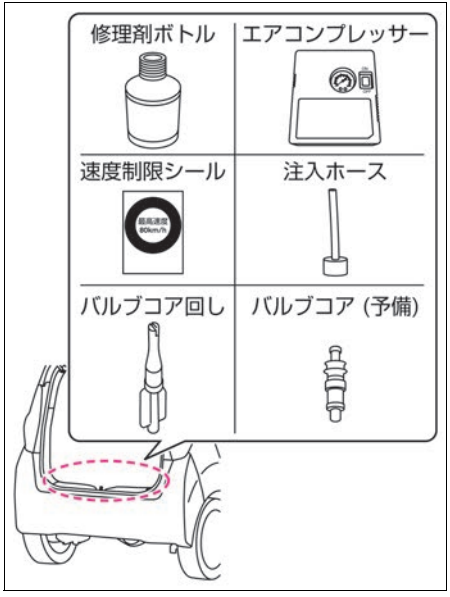
- タイヤに釘やネジが刺さっている場合は、抜いてしまうとパンク穴が大きくなり空気が漏れやすくなるため、抜かずにパンクタイヤ応急修理キットで応急修理してください。

知識

- パンクタイヤ応急修理キットの修理剤を使用したタイヤは、新しいタイヤに交換されることをおすすめします。タイヤの交換については専門の修理業者と相談し、損傷が激しい場合は交換、修理可能と判断された場合は修理を実施してください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しいものと取り替えてください。
- 修理剤は再使用できません。使用後は新しい修理剤をお求めください。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

パンクタイヤ応急修理キットについて

- タイヤトレッド部（接地面）の軽度なパンクは、パンクタイヤ応急修理キットで応急修理できます。
- パンクタイヤ応急修理キットは、ラゲッジルームに格納されています。
- 応急修理を目的としているため、修理後に長期間の走行はできません。修理後はすみやかに三菱自動車販売会社または専門の修理業者で点検、恒久修理またはタイヤ交換を行ってください。



知識

- パンクタイヤ応急修理キットを取り出すときは、後席シートを車両前方へスライドさせてください。（2WD車）

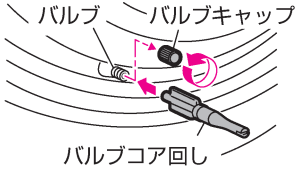
応急修理のしかた

■ 修理剤の注入

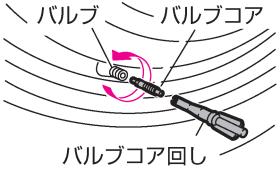
1. 修理剤ボトルとエアコンプレッサーを取り出し、修理剤ボトルをよく振ります。

2. 修理剤ボトルの内ぶたを付けたまま注入ホースをねじ込みます。（注入ホースをねじ込むと内ぶたが破れます。）

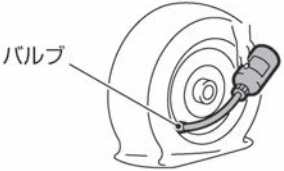
3. パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを外し、ビニール袋に入っているバルブコア回しの後ろでバルブ内のバルブコアを押し、タイヤの空気を完全に抜きます。



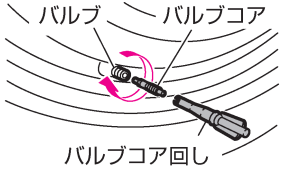
4. バルブコア回しでバルブコアを回し、取り外します。



5. 注入ホースをバルブに差し込みます。その後、修理剤ボトルをさかさまにして持ち、修理剤がすべてタイヤ内に注入できるまで何回も圧迫します。

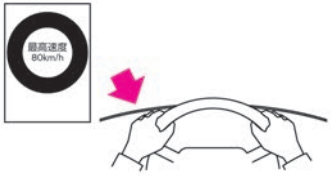


6. 注入し終わったら、注入ホースをバルブから引き抜き、バルブコア回しを使ってバルブコアをバルブにしっかりとねじ込みます。



7. 注入が終わった空ボトルから修理剤が漏れるのを防ぐため、注入ホースの先端にバルブコア回しを差し込んで栓をします。

8. 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。



⚠ 注意

- **バルブコアは慎重に取り外す。**
  外すときにタイヤに空気が残っていると、コアが飛び出すおそれがあります。

⚠ 注意

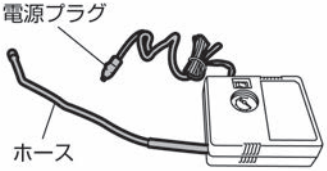
- **ハンドルのセンターパッド部には速度制限シールを貼らない。**
  SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置にも貼らないでください。

知識

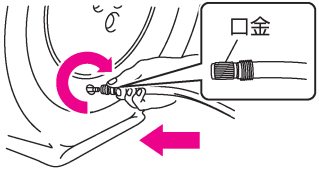
- 修理剤ボトルは注入ホースをねじ込む前によく振ってください。注入ホースをねじ込んだあとに修理剤ボトルを振ると、修理剤が飛び散るおそれがあります。
- 修理剤は衣服などに付着すると取れなくなるおそれがありますので注意してください。
- 寒冷時には修理剤の粘度が高くなり、注入作業がしにくくなります。その場合、車内などで温めると注入作業がしやすくなります。
- バルブコアは汚れないようにきれいに保管してください。
- 空になった修理剤ボトルは、タイヤ交換または恒久修理のときに修理剤の回収に使いますので、捨てずに三菱自動車販売会社または修理業者までお持ちください。

■ エアの注入

1. エアコンプレッサーに格納されているホースと電源プラグを取り出します。

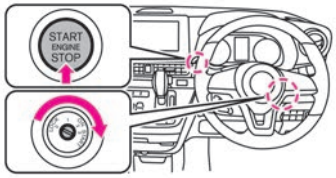


2. エアコンプレッサーのホースの口金をタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。

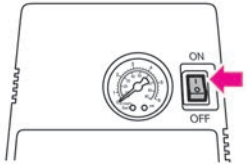


3. 電源プラグを車内のアクセサリーソケットに差し込みます。

4. キースイッチ（電源ポジション）をONにします。



5. エアコンプレッサーのスイッチをONにし、タイヤを指定空気圧まで昇圧させます。



6. 指定空気圧まで昇圧できたら、エアコンプレッサーのスイッチをOFFにし、電源プラグをアクセサリーソケットから抜きます。
7. ホースをタイヤのバルブからすばやく取り外し、タイヤのバルブにキャップを取り付けます。

10分以内に指定空気圧まで昇圧できない場合

10分以内に指定空気圧まで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。三菱自動車販売会社またはJAFなどに連絡してください。

空気を入れすぎてしまったとき

ホースの口金を緩めて空気を抜いてください。

⚠ 注意

- **空気を入れたあとは、ホースの口金が熱くなることがあるため、やけどしないように注意する。**

アドバイス

- コンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10分以上連続して作動させないでください。タイヤ空気圧を昇圧できない場合は修理できません。

知識

- タイヤの指定空気圧は運転席ドア開口部に表示してあります。
- 車種により、コンプレッサーの形状が異なります。

■ 点検走行

1. ただちに走行を始め、10分間または5km程度走行してください。80km/h以下の速度で注意深く運転してください。
2. 走行後、エアコンプレッサーのスイッチがOFFになっていることを確認し、エアコンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧をチェックしてください。

130kPa未満の場合

本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して三菱自動車販売会社またはJAFなどのロードサー ビスに連絡してください。

130kPa以上指定空気圧未満の場合

エアコンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで昇圧し、点検走行の作業を行います。上記作業を繰り返しても指定空気圧より低下する場合は、本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して三菱自動車販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡 してください。JAFの連絡先…別冊のメンテナンスノート「三菱サービスネット」をお読みください。

指定空気圧の場合

応急修理は完了です。すみやかに三菱自動車販売会社または専門の修理業者まで慎重に運転してください。

⚠ 注意

- **走行するときは、低速で慎重に運転し、特にカーブや旋回時には注意する。**

アドバイス

- 応急修理後の恒久修理の際、パンク穴を発見できないために恒久修理できないことがあります。そのまま走行を続ける場合は、こまめに空気圧をチェックしてください。頻繁に空気圧の低下がみられるときは、三菱自動車販売会社または修理業者で点検を受けてください。

パンクタイヤ応急修理キットの注意事項

⚠ 注意

パンクタイヤ応急修理キットについて

- **パンクタイヤ応急修理キットは、搭載車両専用のため、他の車には使用しない。**
- **パンクタイヤ応急修理キットは自動車用タイヤの空気充填や空気圧チェック以外で使用しない。**
- **パンクタイヤ応急修理キットはDC12V専用のため、他の電源での使用はしない。**
- **分解、改造などは絶対にしない。**
- **コンプレッサーに衝撃を与えない。**

  故障の原因となります。
- **お子さまが誤って手を触れないように注意する。**

修理剤について

- **修理剤を口に入れない。**

  修理剤を飲み込むと健康に害があります。万一誤って飲んだ場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診療を受けてください。
- **万一目や皮膚に付着した場合は、 水でよく洗い流す。**

  それでも異常を感じたときは、医師の診療を受けてください。

アドバイス

パンクタイヤ応急修理キットについて

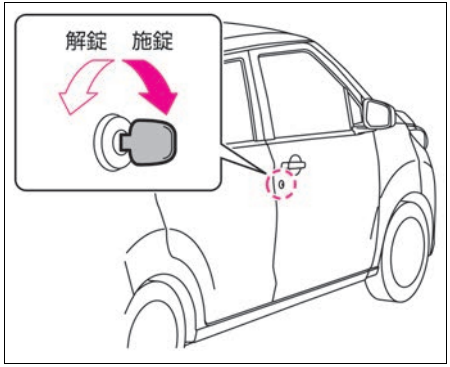
- パンクタイヤ応急修理キットは、必ず三菱自動車純正品を使用してください。
- 水やほこりを避けて使用してください。

ドアが開かないときは

キーの電池が切れたときや、12Vバッテリー（メイン）があがったときなどドアが開かないときは、次の方法で施錠・解錠してください。

内蔵キー（エマージェンシーキー）でのドアの開けかた

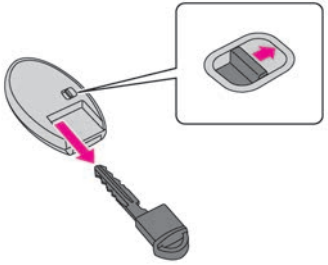
運転席ドアにある鍵穴に内蔵キーを差し込んで車両後方に内蔵キーを回すと解錠します。施錠するときは、車両前方に内蔵キーを回します。



知識

キーレスオペレーションシステム付車

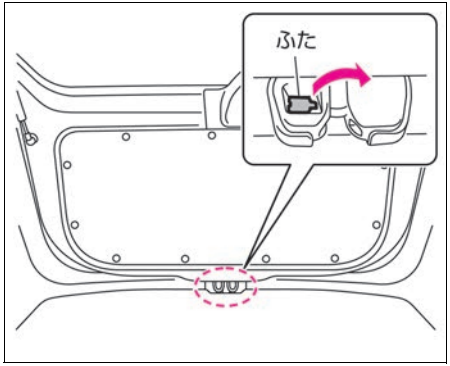
- 内蔵キーはキーレスオペレーションキーに内蔵されています。

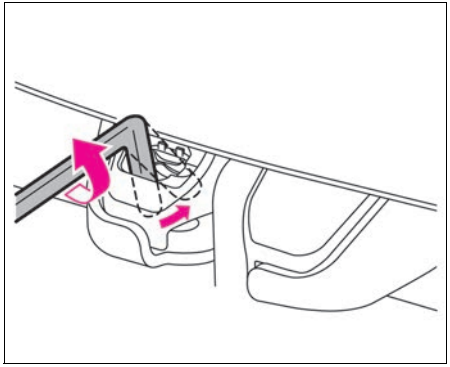


緊急時のテールゲートの開けかた

12Vバッテリー（メイン）あがりなどにより、テールゲートを開けられなくなったときは、次の操作をしてください。

- テールゲートの車室内側にあるロック機構のふたを開けます。
- お手持ちの六角レンチを穴に差し込みレバーを矢印の方向に動かして解錠し、テールゲートを持ち上げます。





アドバイス

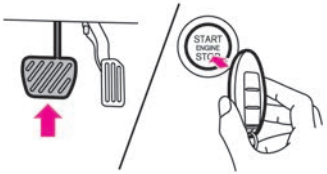
- この手順は、あくまで故障時の緊急手段です。故障の原因になるため、正常なときは使用しないでください。
- テールゲートオープナースイッチなどの故障につながるおそれがあるため、この操作をしたときは三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
- 操作後はなるべく早く三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

キーレスオペレーションキー★で始動できないときは

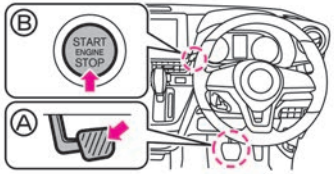
キー（キーレスオペレーションキー）の電池が切れたときや、使用環境によりキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順でエンジンを始動してください。

エンジンの始動のしかた

1. ブレーキペダルを踏み、キーのロゴマークの裏面をエンジンスイッチに接触させます。
（ブザーが"ピピッ"と鳴ります。）



2. ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルⒶをしっかりと踏み込みながら、エンジンスイッチⒷを押します。



アドバイス

- 左記の手順でエンジンを始動できない場合は、早めに三菱自動車販売会社にご連絡ください。

知識

- 停止操作は通常と同じ手順です。
- ドアの施錠・解錠は、内蔵キー（エマージェンシーキー）（➔P.244）をご使用ください。
- キーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。

➔キー（キーレスオペレーションキー）★の電池交換 (P.299)

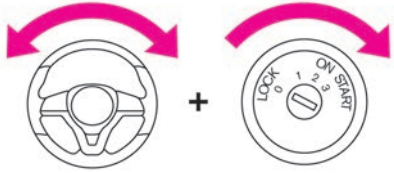
ハンドルがロックし、エンジンの始動ができないときは

ハンドルがロックされているときはキーが回せなかったり（キーレスエントリーシステム付車）、エンジンスイッチを押しても電源ポジションが切り替わらない場合があります（キーレスオペレーションシステム付車）。次の手順でハンドルロック（ステアリングロック）を解除してください。

ハンドルロック（ステアリングロック）の解除のしかた

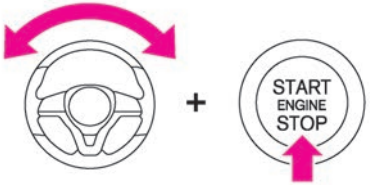
キーレスエントリーシステム付車

- ハンドルを左右に回しながらキーを回します。ロックが解除できないときは、繰り返し行ってください。
エンジンの始動のしかた（➔P.116）



キーレスオペレーションシステム付車

- ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押します。ロックが解除できないときは、繰り返し行ってください。
エンジンの始動のしかた（➔P.114）

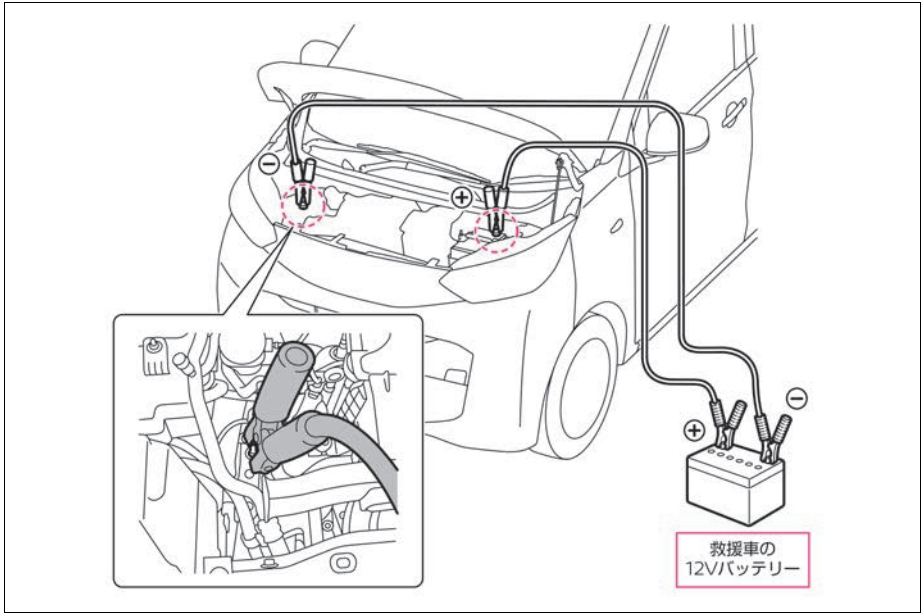


アドバイス

- ハンドルがロックされていても、数mm～数cmだけ動かすことができます。その範囲内でハンドルを左右にゆっくり回しながらキーを回す（キーレスエントリーシステム付車）、またはエンジンスイッチを押してください。（キーレスオペレーションシステム付車）
- ハンドルがロックされているときはハンドルが重く、力を入れないと回すことができないことがあります。
- キーレスオペレーションシステム付車は、12Vバッテリー（メイン）があがるとハンドルロック（ステアリングロック）の解除が行えず、電源ポジションが切り替わらなくなります。すみやかに12Vバッテリー（メイン）を充電してください。

12V バッテリー（メイン）があがったときは

12Vバッテリー（メイン）があがり、エンジンの始動ができなくなったときは、救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。この車両には、12Vバッテリー（メイン）とリチウムイオンバッテリー（サブ）の2つのバッテリーが搭載されていますが、12Vバッテリー（メイン）のみ接続してください。（バッテリーの搭載位置 (P.301)）



⚠ 警告

- **ジャンプスタートを行うときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**

  12Vバッテリー（メイン）から発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受ける。**

  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ。**
- **ブースターケーブルを自車12Vバッテリー（メイン）の⊖端子に直接つながない。**
- **ブースターケーブルの⊕端子と⊖端子を接触させない。**

  火花が発生し、12Vバッテリー（メイン）から発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **12Vバッテリー（メイン）の⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**

  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリー（メイン）の端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- **12Vバッテリー（メイン）を交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**

  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

アドバイス

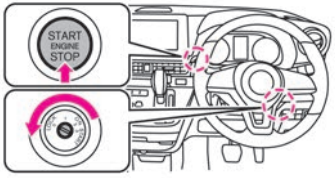
- 12Vバッテリー（メイン）とリチウムイオンバッテリー（サブ）の2つのバッテリーを使用しています。12Vバッテリー（メイン）があがるとエンジンが始動できません。バッテリーがあがったときは、12Vバッテリー（メイン）を処置をしてください。
- ブースターケーブルをつなぐときは、必ず12V（ボルト）バッテリー仕様の救援車を依頼してください。12V（ボルト）以上のバッテリーにブースターケーブルをつないだ場合、つなぎ方を間違えると車両が破損するおそれがあります。

ジャンプスタートのしかた

1. 自車と救援車のキースイッチ（電源ポジション）をOFFにします。

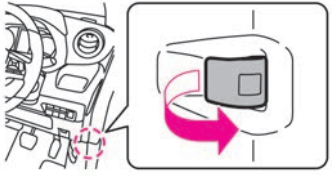
   キーレスオペレーションシステム付車（➔P.115）

   キーレスエントリーシステム付車（➔P.118）

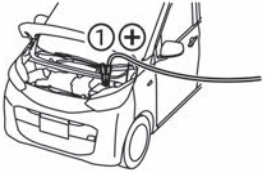


2. 自車の運転席の右下にあるボンネットオープナーを引いて、ボンネットを開けます。

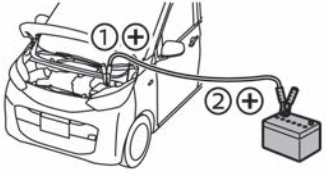
   ➔ボンネットの開けかた、閉めかた (P.293)



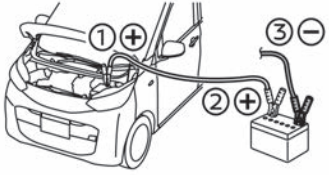
3. ブースターケーブル①を自車の12Vバッテリー（メイン）の⊕端子に接続します。



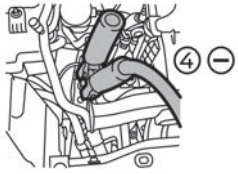
4. 手順3で接続したケーブルの反対側②を救援車のバッテリーの⊕端子に接続します。



5. もう1本のブースターケーブル③を救援車のバッテリーの⊖端子に接続します。



6. 手順5で接続したケーブルの反対側④を右記のような自車の車体（手順3で接続した位置から離れた未塗装の金属部）に接続します。



7. 救援車のエンジンを始動し、エンジン回転数を少し高めにします。
8. 自車のエンジンを始動します。
エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。
キーレスオペレーションシステム付車の始動のしかた（➔P.114）
キーレスエントリーシステム付車の始動のしかた（➔P.116）

⚠ 注意

- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触したりしないように注意する。**
- **ブースターケーブルは、確実に接続する。**
  エンジン始動時の振動で外れたりしないように確実につないでください。
- **冷却ファンやベルトに注意する。**
  ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

アドバイス

- 押しがけによる始動はできません。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。
- エンジンをかけるときは、ヘッドライト（➔P.132）やエアコンなどはOFFにしてください。
- エンジンが始動しても、しばらくエアコンやオーディオ★を使用しないでください。

キーレスオペレーションシステム付車

- エンジンが始動できない場合には、一旦電源ポジションをOFFにして、10秒以上待ってから再始動してください。
- 12Vバッテリー（メイン）があがるとハンドルロック（ステアリングロック）の解除が行えず、電源ポジションが切り替わらなくなります。すみやかに12Vバッテリー（メイン）を充電してください。

警告灯がついたときは

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯または点滅したときは、次の対処方法に従ってください。メーター内の警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	油圧警告灯	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社に連絡してください。 ⚠ 注意 ●**油圧警告灯が点灯したまま走行しない。** エンジンを破損するおそれがあります。
	故障警告灯（MIL）	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● エンジン回転中、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。	● 点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社に連絡してください。
	充電警告灯（赤色表示）	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● エンジン回転中、バッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社に連絡してください。 ⚠ 注意 ●**充電警告灯が点灯したまま走行しない。** バッテリーが破損したり、エンジンが突然停止したりし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	充電システム警告灯（黄色表示）	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、リチウムイオンバッテリー（サブ）に異常があると点灯します。	● 点灯し続けるときは、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 知識 ●警告灯の点灯と同時に、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。 警告メッセージ（➔P.268） ➔バッテリーの搭載位置（P.301）
	ABS警告灯	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、ABSのシステムに異常があると点灯し続けます。	● キースイッチ（電源ポジション）をONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 アドバイス ●ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。この場合、滑りやすい路面でのブレーキ時や急ブレーキ時にタイヤがロックすることがあります。
	電動パーキングブレーキ警告灯★	● 電動パーキングブレーキがかかっていると点灯し、電動パーキングブレーキを解除すると消灯します。 ● 電動パーキングブレーキのシステムに異常があると点滅します。	● 電動パーキングブレーキを解除しても点滅が続くときは、すみやかに車両を安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社に連絡してください。 アドバイス ●電動パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行（約3km/h以上）すると、ブザーが鳴ります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
 電動パーキング ブレーキ無車	ブレーキ警告灯 （赤色表示）	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 （パーキングブレーキをかけているときは消灯しません） ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、次の場合は点灯し続けます。 — パーキングブレーキをかけているとき — ブレーキ液が不足しているとき — ブレーキシステムに異常があるとき	● パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除します。 ● パーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車して、三菱自動車販売会社にご連絡ください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 ● ブレーキ液量が正常でABS警告灯と同時に点灯したときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 **⚠ 警告** **●パーキングブレーキを解除してもブレーキ警告灯が点灯し続けるときは、点灯したまま走行しない。** ブレーキの効きが極度に悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。 **アドバイス** ●パーキングブレーキを戻し忘れたまま走行（約7km/h以上）すると、ブザーが鳴ります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
 電動パーキングブレーキ付車	ブレーキ警告灯（赤色表示）	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、次の場合は点灯し続けます。 — ブレーキ液が不足しているとき — ブレーキシステムに異常があるとき	● 走行中にブレーキ警告灯（赤色表示）が点灯した場合は、車両を停止し、以下の確認を行ってください。（ブレーキシステム警告灯と同時にアクティブスタビリティコントロール[ASC]警告灯も点灯します。） — ブレーキ液量が規定通りに入っていることを確認してください。ブレーキ液が不足してる場合は、ブレーキ液を補充し三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 — ブレーキ液量が適正のときは、他に原因があることが考えられますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
 電動パーキングブレーキ付車	ブレーキシステム警告灯（黄色表示）	● 走行中に点灯し続けたときは、電動パーキングブレーキ機能が故障しているおそれがあります。	● 走行中にブレーキシステム警告灯（黄色表示）が点灯した場合は、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	シートベルト非着用警告灯	**運転席／助手席** ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、乗員がシートベルトを着用していないと点灯します。 ● シートベルトを着用しないで走行すると（約15km/h以上）、警告灯が点滅します。 **後席** ● キースイッチ（電源ポジション）をONにしたとき、乗員がシートベルトを着用していないと点灯します。 ● シートベルトを着用しないで走行すると（約15km/h以上）、警告灯が点滅します。 **前席シートベルト非着用警告音（シートベルト非着用ウォーニング）** ● シートベルトを着用しないで走行すると（約15km/h以上）、約95秒間ブザーが鳴ります。 **後席シートベルト非着用警告音（シートベルト非着用ウォーニング）** ● シートベルトを着用しないで走行すると（約15km/h以上）、約65秒間ブザーが鳴ります。	● シートベルトを着用してください。 ⚠ 警告 **●走行中は全員がシートベルトを着用する。** 着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。 📖 知識 ●助手席シート、後席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警告灯が点灯することがあります。 ●後席のシートベルト非着用警告灯は、ルーム&マップランプ周辺にあります。
	SRSエアバッグ警告灯	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。 ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯を続けます。	⚠ 警告 **●キースイッチ（電源ポジション）をONにしても点灯しないとき、または点灯を続けるときは、放置したまま走行しない。** 万一のときSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	アクティブスタビリティコントロール[ASC]警告灯	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、ASCが作動すると点滅します。 ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、ASC、ヒルスタートアシスト[HSA]の電子制御システムに異常があると点灯し続けます。	● 点灯したときはASC、HSAの作動は停止しますが、それらのシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ➔アクティブスタビリティコントロール[ASC] (P.146) ➔ヒルスタートアシスト[HSA] (P.148)
	燃料残量警告灯	● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、燃料の残量が少ないと点灯します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。 知識 ●燃料の残量が約6.5 ℓ 以下で点灯します。なお、走行に使用できる燃料容量は、上記残量よりも少なくなります。 ●車両姿勢、走行状況などによって燃料がタンク内で移動するため、警告灯の点灯するタイミングが変わる場合があります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	電動パワーステアリング警告灯	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● エンジン回転中、電動パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。	● すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ● 点灯しているときは、電動パワーステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。 アドバイス ●ハンドルに長時間力をかけた状態が続いたり停車中に操作を繰り返すと、システムの過熱を防ぐためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控え、システムの温度が下がると、通常のハンドル操作力に戻ります。 知識 ●すばやいハンドル操作を行うと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえてくることがありますが、異常ではありません。
	マスターウォーニング	● マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されると同時に黄色か赤色に点灯します。	● 同時に表示した警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。 警告メッセージ（➔P.259）

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]／踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]警告灯	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● 次の場合は点灯します。 — FCMをOFFにしているとき — アクティブスタビリティコントロール[ASC]をOFFにしているとき — FCM、前方衝突予測警報[PFCW]、EAPMまたはパーキングセンサー（フロントセンターセンサー、コーナーセンサー、リヤセンターセンサー）のシステムに異常が発生しているとき — 周辺の電波源の影響を受けているとき — センサーの汚れなどで、FCMが一時的に作動できない状態になっているとき ● EAPMが作動したときは点滅します。 ● 次の場合はゆっくり点滅します。 — フロントガラスの汚れなどにより、フロントカメラが前方を認識できなくなったとき — 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき — 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき — フロントガラスの結露やくもりなどにより、フロントカメラが前方を認識できなくなったとき	● FCMをOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 ● ASCをOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 ➔ASCの停止のしかた (P.147) ● エンジン再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ● フロントガラスが汚れているときは、フロントガラスを清掃し、警告灯が消灯したことを確認してください。 ➔フロントカメラの取り扱い (P.306) ● フロントガラスに結露やくもりなどがある場合は結露やくもりを除去し、警告灯が消灯したことを確認してください。 ➔フロントガラスのくもりの取りかた (P.275) ● 室内の温度が高いときなどは、温度が下がると作動を復帰します。 各システムについては、FCM（➔P.173）、PFCW（➔P.179）およびEAPM（➔P.182）をお読みください。

表示灯がついたときは

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯している理由は、次の説明をお読みください。メーター内の警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	方向指示表示灯	● 非常点滅表示灯スイッチを押すと左右同時に点滅します。 ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、方向指示器を作動させると、作動させた側のみ点滅します。	● 方向指示器の電球（バルブ）が切れたときは点滅が速くなります。電球を交換してください。 ➔方向指示器の使いかた (P.136) ➔外装ランプが点灯しないときは (P.279)
	ヘッドライト上向き表示灯	● ヘッドライトのハイビーム（上向き）を点灯させると点灯します。	➔ハイビーム（上向き）への切り替えかた (P.135)
	テールランプ表示灯	● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。	➔ライトスイッチの使いかた (P.132)
	SPORT表示灯	● キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● キースイッチ（電源ポジション）がONでセレクターレバーがDのとき、スポーツモードスイッチをONにすると点灯します。（パドルシフト無車）	➔スポーツモードスイッチの使いかた (P.121)
	フォグランプ表示灯★	● フォグランプを点灯させると点灯します。	➔フォグランプの使いかた (P.137)
	オートマチックハイビーム[AHB]表示灯	● AHBをONにすると点灯します。	➔オートマチックハイビーム[AHB] (P.134)

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	オートストップ&ゴー[AS&G]表示灯	● AS&G作動中に点灯します。 ● AS&G作動中に、ボンネットが開いたときに、速く点滅します。 ● AS&Gに異常があると遅く点滅します。	**速い点滅をしたとき（約1秒間に2回）** ● ボンネットが開いていないか確認してください。ボンネットが開いていると、通常のエンジン停止状態となります。その場合はエンジンをかけ直してください。 **遅い点滅をしたとき（約2秒間に1回）** ● すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
	アクティブスタビリティコントロール[ASC] OFF表示灯	● キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、ASCをOFFにすると点灯します。	➔アクティブスタビリティコントロール[ASC]（P.146）
	セキュリティーインジケーター	● キースイッチ（電源ポジション）がON以外のときに点滅します。 ➔イモビライザー（盗難防止装置）（P.36）	● キースイッチ（電源ポジション）をONにしたあとも点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
	ブレーキオートホールド表示灯（白色）★	● ブレーキオートホールド機能が待機状態のとき白色に点灯します。	➔ブレーキオートホールド★（P.126）
	ブレーキオートホールド表示灯（緑色）★	● ブレーキオートホールド機能が作動しているとき緑色に点灯します。	➔ブレーキオートホールド★（P.126）
	低水温表示灯（緑色表示）	● エンジン冷却水温が低いと点灯します。 ● キースイッチ（電源ポジション）をONにすると、数秒間点灯して消灯します。エンジン冷却水温が低いときは、低水温表示灯（緑色表示）が消灯せずに点灯し続けますが、エンジンの暖機により、しばらくすると既定の水温以上に達して、消灯します。	アドバイス ● しばらく走行したあとも点灯し続けるときは、水温センサーの異常が考えられます。すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

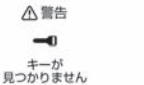
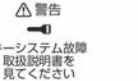
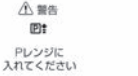
表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	ヒルディセントコントロール[HDC]表示灯★	● キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● HDCスイッチを押し、作動が可能なとき点灯します。	● HDCスイッチを押したとき、表示灯が点滅している場合は作動しません。作動条件が満たされているか確認してください。 ➔ヒルディセントコントロール[HDC]★ (P.148)

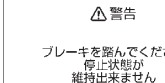
警告メッセージが表示されたときは

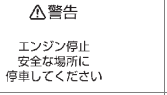
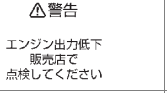
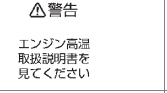
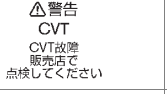
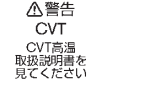
警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

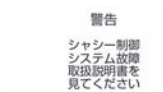
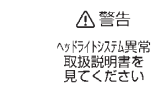
警告メッセージ

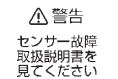
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	エンジン始動操作表示	● キーレスオペレーションキーを持って車室内に入ると表示します。	● ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押してください。エンジンが始動します。 知識 ●次の場合、表示が消えます。 — エンジンを始動したとき — 表示されてから約15秒経過したとき — リモコン機能、またはドアハンドルのスイッチでドアを施錠したとき — セレクターレバーをP以外に入れたとき
	キーレスオペレーションキー非作動時エンジン始動表示	● キーレスオペレーションキーの電池が切れたときや、使用環境により、キーレスオペレーションキーと車両の通信が正常に行われないときに表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら、キーレスオペレーションキーの裏面をエンジンスイッチに接触させてください。 ➔キーレスオペレーションキー★で始動できないときは (P.245)

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	キーレスオペレーション キー電池切れ表示	● キーレスオペレーションキーの電池切れが近くなると電池の交換を知らせます。	● 新しい電池に交換してください。 ➔キー（キーレスオペレーションキー）★の電池交換（P.299） 知識 ●次の場合、キーレスオペレーションキー電池切れ表示が消えます。 ― 表示から約30秒経過したとき ― 電源ポジションをON以外にしたとき
	キーレスオペレーション キー持ち出し警告	● 電源ポジションがONのとき、キーレスオペレーションキーが車外に持ち出されると表示します。 ● キーレスオペレーションキーを携帯していないときに、電源ポジションを切り替えようとすると表示します。 ● 携帯しているキーレスオペレーションキーの電池が切れているときに、電源ポジションを切り替えようとすると表示します。	● キーレスオペレーションキーが車外に持ち出されていないか確認してください。 ● キーレスオペレーションキーを携帯してください。 ● 新しい電池に交換してください。 ➔キー（キーレスオペレーションキー）★の電池交換（P.299）
	ドア開き警告	● ドアが確実に閉まっていないとき、開いている位置を表示します。	● ドアを確実に閉めてください。 知識 ●走行前に表示が消えていることを確認してください。ドアが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
	キーシステム警告	● ハンドルロック（ステアリングロック）やキーシステムに異常があると表示します。	● 三菱自動車販売会社にご連絡ください。エンジンが始動できないことやキースイッチ（電源ポジション）が切り替わらないことがあります。
	P戻し忘れ警告	● セレクターレバーがP以外のとき、キースイッチ（電源ポジション）をONからOFFにすると表示します。	● セレクターレバーをPに入れてください。 ● キースイッチ（電源ポジション）をONにしたときも表示が消えます。

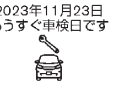
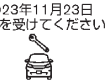
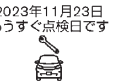
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	キーID警告	● 次のときに電源ポジションを切り替えようとすると表示します。 — 登録されていないキーレスオペレーションキーを携帯しているとき	● 自車のキーレスオペレーションキーであることを確認してください。
	パーキングブレーキ戻し忘れ警告	● パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると（約7km/h以上）表示し、ブザーが鳴ります。	● すみやかにパーキングブレーキを解除してください。 ➔パーキングブレーキ★ (P.124) アドバイス ●走行するときは、必ずパーキングブレーキを解除してください。
	電動パーキングブレーキ戻し忘れ警告	● 電動パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると（約3km/h以上）表示し、ブザーが鳴ります。 ● 電動パーキングブレーキをかけ、運転席シートベルトを着用せずにアクセルペダルを踏み、発進すると表示します。	● すみやかに電動パーキングブレーキを解除してください。 ➔電動パーキングブレーキ★ (P.125) ● 運転するときは、必ずシートベルトを着用してください。
	電動パーキングブレーキ警告	● 急な坂道などで電動パーキングブレーキがかかった状態で車両が動くと表示し、ブザーが鳴ります。 ● 電動パーキングブレーキがかかった状態で、ブレーキペダルを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチを押した場合に表示します。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 解除する場合は、ブレーキペダルを踏んでから電動パーキングブレーキスイッチを押し下げてください。 ➔電動パーキングブレーキ★ (P.125)
	ブレーキオートホールド警告	● ブレーキオートホールド機能が作動中に車両が動いたときに表示し、ブザーが鳴ります。	● ブレーキペダルを踏んで車を停止させてください。
	ステアリングロック未解除表示	● ハンドルロック（ステアリングロック）を解除できないときに表示します。	● ハンドルを軽く左右に回しながらエンジンスイッチを押してください。ハンドルロック（ステアリングロック）を解除すると表示が消えます。

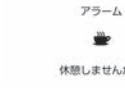
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	燃料残量警告	● 燃料が少なくなると表示します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。 知識 ● 燃料の残量が約6.5 ℓ 以下で表示します。 ● 車両姿勢、走行状況によっては、燃料がタンク内で移動するため、警告が表示されるタイミングが変わる場合があります。
	エンジン異常警告A	● 走行中、エンジンに異常が発生し、エンジンが停止しているときに表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
	エンジン異常警告B	● 走行中、エンジンに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
	エンジン異常警告C	● 走行中、エンジンの温度が異常に高くなると表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
	CVT故障警告	● CVTに異常があると表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
	CVT高油温警告	● CVTフルードの温度が異常に高くなると表示します。	● 表示すると出力が制限されています。周囲に注意して走行してください。 ● CVTフルードが正常な温度まで下がると表示は消灯します。

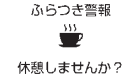
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	オーバーヒート警告	● エンジン冷却水の温度が異常に高くなると表示します。	● ただちに安全な場所に車を止めて処置してください。 ➔オーバーヒートしたときは (P.276) ⚠ 注意 ●**表示したまま走行をしない。** そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。
	シャシー制御表示	● シャシー制御のシステムに異常があると表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
	EAPM作動時表示	● EAPMが作動すると表示します。	● 進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者などを検知している場合に、アクセルペダルが素早く深く踏み込まれたとシステムが判断したときに作動します。 ➔踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM] (P.182)
	ヘッドライト警告	● LEDヘッドライトに異常があると表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

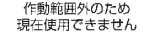
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	システム故障警告A	● マイパイロット、LDW、LDPが故障すると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ➔マイパイロット★ (P.153) ➔衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（歩行者・自転車運転者検知付） (P.173) ➔前方衝突予測警報[PFCW] (P.179) ➔踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM] (P.182) ➔車線逸脱警報システム[LDW]／車線逸脱防止支援機能[LDP] (P.191)
	システム故障警告B	● FCM、PFCW、EAPMまたはパーキングセンサー（フロントセンターセンサー、コーナーセンサー、リヤセンターセンサー）が故障すると表示します。	
	センサーシステム異常警告	● センサーが故障したときに表示します。	● 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。 通常走行に支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ➔パーキングセンサー（フロント/リヤ） (P.69)
	AS&G異常警告	● AS&Gシステムに異常があると表示します。	● システムの異常が考えられます。 通常走行に支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ➔オートストップ&ゴー[AS&G]（コーストストップ機能付） (P.140)

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	オートストップ&ゴー [AS&G]エンジン再始動不可表示	● AS&G作動中にボンネットを開け、通常のエンジン停止状態になったときに表示します。	● AS&G作動から通常のエンジン停止状態になっています。 キースイッチ（電源ポジション）をOFFにする、またはエンジンを再始動してください。
	エンジンOFF操作表示	● AS&Gエンジン再始動不可表示が表示された後に表示します。	
	自動電源OFF表示A	● エンジンが停止している状態で、電源ポジションをONにしたまましばらくすると表示します。	● そのまま電源ポジションを切り替えないと、省エネのため電源ポジションがOFFになります。
	自動電源OFF表示B	● エンジンが停止している状態で、電源ポジションをONにしたまま時間が経過し、電源ポジションが自動でOFFになったときに表示します。	
	ライト消し忘れ警告	● キースイッチ（電源ポジション）がON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合に表示し、ブザーが鳴ります。 — ライトスイッチが ≡D の位置にあるとき — ライトスイッチを ≡D/OFFの位置に回して、メーター内のテールランプ表示灯 ≡D が点灯しているとき	● ライトスイッチをAUTOの位置にする、または ≡D/OFFの位置に回して、メーター内のテールランプ表示灯 ≡D を消灯してください。 ➔ライトスイッチ (P.132)
	オイル交換表示	● 設定したオイル交換距離に達すると表示します。	● オイル交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 設定（➔P.58）

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	オイル/オイルフィルター交換表示	● 設定したオイル/オイルフィルター交換距離に達すると表示します。	● オイル/オイルフィルター交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 設定（➔P.58）
	タイヤ交換表示	● 設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。	● タイヤ交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 設定（➔P.58）
	メンテナンス距離表示	● オイル/オイルフィルター、タイヤ以外の整備項目の点検距離または交換距離に達すると表示します。	● その他の整備項目には、例えばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検／交換距離は設定したり、リセットしたりできます。 設定（➔P.58）
	誕生日表示	● 設定した誕生日の日付になると表示します。（キースイッチ（電源ポジション）がOFFのときに運転席ドアを開けると表示します。）	● 設定方法については、➔スケジュール (P.59)をお読みください。
	記念日表示	● 設定した記念日の日付になると表示します。（キースイッチ（電源ポジション）がOFFのときに運転席ドアを開けると表示します。）	● 設定方法については、➔スケジュール (P.59)をお読みください。
	車検日表示A	● 設定した車検日の約1か月前から表示します。（キースイッチ（電源ポジション）がOFFのときに運転席ドアを開けると表示します。）	● 設定方法については、➔スケジュール (P.59)をお読みください。
	車検日表示B	● 設定した車検日の日付になると表示します。（キースイッチ（電源ポジション）がOFFのときに運転席ドアを開けると表示します。）	● 設定方法については、➔スケジュール (P.59)をお読みください。
	点検日表示A	● 設定した点検日の約1か月前から表示します。（キースイッチ（電源ポジション）がOFFのときに運転席ドアを開けると表示します。）	● 設定方法については、➔スケジュール (P.59)をお読みください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	点検日表示B	● 設定した点検日の日付になると表示します。（キースイッチ（電源ポジション）がOFFのときに運転席ドアを開けると表示します。）	● 設定方法については、➔スケジュール (P.59)をお読みください。
	走行時間アラーム表示	● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。	● 走行時間アラーム表示は、設定したりリセットしたりできます。 設定（➔P.60）
	AS&Gガイダンス表示（ブレーキ踏み増し）	● 車両停止時に、ブレーキペダルの踏み込みが少ないことにより、AS&Gが作動しないときに表示します。	● AS&Gを作動させたいときはブレーキペダルを踏み増してください。 ➔オートストップ&ゴー[AS&G]（コーストストップ機能付） (P.140) ● 表示・非表示の設定ができます。 設定（➔P.60） 📖 知識 ●次の場合、表示が消えます。 — AS&Gが作動したとき — 走行を開始したとき
	AS&Gガイダンス表示（ハンドル操作検知）	● 車両停止時に、ハンドル操作を検知していることにより、AS&Gが作動しないときに表示します。	● ハンドル操作を検知しているため、AS&Gが作動しません。 ➔オートストップ&ゴー[AS&G]（コーストストップ機能付） (P.140) ● 表示・非表示の設定ができます。 設定（➔P.60） 📖 知識 ●次の場合、表示が消えます。 — オートストップ&ゴー[AS&G]が作動したとき — 走行を開始したとき

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	AS&Gガイダンス表示（エアコン優先）	● 車両停止時に、エアコン（冷房・暖房・除湿機能）を優先していることにより、AS&Gが作動しないときに表示します。	● エアコンを優先しているため、AS&Gが作動しません。 ➔オートストップ&ゴー[AS&G]（コーストストップ機能付）（P.140） ● 表示・非表示の設定ができます。 設定（➔P.60） 知識 ●次の場合、表示が消えます。 ― AS&Gが作動したとき ― 走行を開始したとき
	リチウムイオンバッテリー（サブ）異常警告	● リチウムイオンバッテリー（サブ）に異常があると表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
	DAAシステム異常警告	● DAAに異常があると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ➔ふらつき警報[DAA]（P.196）
	DAA表示	● 運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➔ふらつき警報[DAA]（P.196）
	進入禁止標識認識表示	● 前方の車両進入禁止標識を認識し、一方通行路へ進入する可能性がある場合はマルチインフォメーションディスプレイに表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➔標識認識システム[TSR]（P.198）

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	一時停止標識認識表示	● 前方の一時停止標識を認識した場合には、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➔標識認識システム[TSR] (P.198)
	最高速度標識認識表示	● 前方の最高速度標識を認識した場合には、マルチインフォメーションディスプレイおよび走行支援グループに表示されます。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➔標識認識システム[TSR] (P.198)
	作動範囲外警告	● 次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。 — ➔マイパイロット★ (P.153) — 車線逸脱防止支援機能[LDP]（➔P.191） ● アクティブスタビリティコントロール[ASC]をOFFにしたとき	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再びONにしてください。
	フロントレーダーシステム停止警告	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 — ➔マイパイロット★ (P.153) — ➔衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（歩行者・自転車運転者検知付） (P.173) — ➔前方衝突予測警報[PFCW] (P.179) ● 次のような道路形状、または建造物がある場合は、レーダーが先行車を正確に検知できず、作動が停止します。 — 長い橋を走行しているとき — 砂地や雪原を走行しているとき — 長い壁の近くを走行しているとき	● 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、エンジンを再始動してください。 ● 停止したときの状態が改善、または変更されると、システムは作動を再開します。（再開するまでに時間がかかることがあります）

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	カメラ高温警告	● 炎天下に駐車したときなど、フロントカメラが高温になり、次のシステムが停止すると表示します。 — ➔マイパイロット★ (P.153) — ➔衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（歩行者・自転車運転者検知付） (P.173) — ➔車線逸脱警報システム[LDW]／車線逸脱防止支援機能[LDP] (P.191) — ➔標識認識システム[TSR] (P.198)	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、フロントカメラ周辺の温度が下がってから、再びONにしてください。

マイパイロット（レーダークルーズコントロール [ACC]）警告メッセージ

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
	● アクティブスタビリティコントロール[ASC]をOFFにしたとき	● ASCがOFFの場合はACCは使用することができません。
	● アクティブスタビリティコントロール[ASC]/TCSが作動したとき ● タイヤの空転を検出したとき	● ASC/TCSが作動する、または、タイヤが空転するような状況ではACCは使用できません。
	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときはACCは使用することができません。
	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合はACCは使用することができません。
	● システム故障	● 安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
⚠警告 ブレーキを踏んでください 停止状態が 維持出来ません	● ACCにより車両が停止中、運転席ドアが開いたが電動パーキングブレーキが正常に作動しなかったとき	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。

マイパイロット（車線維持支援機能 [LKA]）警告メッセージ

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
 車線維持支援は 一時的に作動できません	● 両側の車線を検出しなくなったとき ● 車速が約50km/h以下で、先行車を検出しなくなったとき	● 作動条件を再度満たすと車線維持支援機能は再開されます。
⚠警告 	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないときに表示します。 — 表示（赤）により警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
⚠警告 ハンドルを 操作してください	● 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。 — 音、表示（赤）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。 ● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、LKAが解除されます。
⚠警告 緊急停止	● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 — 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、マイパイロットが解除されます。
レーンを認識できません 車線維持支援を解除します	● 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき（雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）	● 再び車線維持支援機能を使用したいときは、レーンマーカーがはっきりと描かれている道路でマイパイロットを解除し、再度セットしてください。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
 現在使用できません 悪天候です	● ワイパーを高速で作動させたとき	● ワイパーの高速作動を解除して再度セットしてください。
 カメラが認識 できないため 現在使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光を受けたとき	● 状況が改善すると、マイパイロットを使用することができます。 ● 警告表示が出続ける場合は、安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止してからカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除いてください。
 車線認識カメラ・ その周辺が高温のため 使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 室内の温度が下がるとマイパイロットを使用することができます。

警報音（ブザー）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外で警報音（ブザー）が鳴ることがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピピピピ...（数秒間）（キーレスオペレーションシステム付車）	ドアハンドルのスイッチを押したとき	電源ポジションはOFFになっているか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前にドアハンドルのスイッチを押していないか
		キーのドア施錠スイッチを押したとき	いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前に施錠スイッチを押してはいないか
		ドアを閉めたとき	無意識にドアハンドルのスイッチを押していないか
	ピッピッピッ（3回）（キーレスオペレーションシステム付車）	ドアを閉めたとき	電源ポジションがONのまま、キーが車外に持ち出されていないか
	キー（金属音）	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	ディスクブレーキのパッド（摩擦材）が摩耗していないか 金属音が発生したときは、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。
	ピー（継続）（キーレスオペレーションシステム付車）	ドアを閉めたとき	セレクターレバーがP以外のままキーが車外に持ち出されていないか

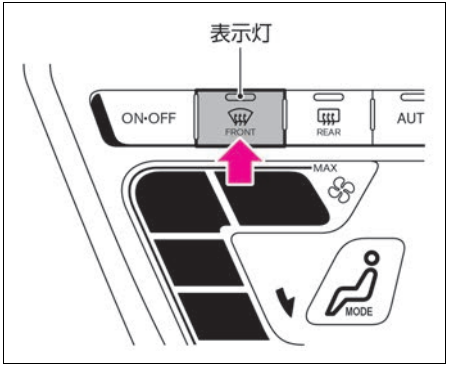
どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車室内	ピピピピッ、 ピピピピッ…（繰り返し） （キーレスオペレーションシステム付車）	電源ポジションをOFFにしたとき	運転席ドアが開いていないか
	ピピピピッ、 ピピピピッ…（繰り返し） （キーレスエントリーシステム付車）	運転席ドアを開けたとき	キースイッチにキーが差し込まれたままになっていないか
	ピピッピピッピピッ（3回） （キーレスオペレーションシステム付車）	ドアを閉めたとき	電源ポジションがONのまま、キーが車外に持ち出されていないか
		エンジンスイッチを押したとき	キーを携帯しているか キーを携帯してもブザーが鳴るときは、キーの電池を交換してください
	ピピピピピピッ（約1秒間） （キーレスオペレーションシステム付車）	電源ポジションをOFFにしたとき	セレクターレバーをPに入れているか

窓ガラスがくもったときは

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき使えます。

フロントガラスのくもりの取りかた

タッチパネル式フルオートエアコン付車



- デフロスタースイッチをタッチするとエアコンが作動し、外気導入に切り替わります。
  （スイッチの表示灯が点灯）
- もう一度スイッチをタッチすると止まります。
  （スイッチの表示灯が消灯）
- スイッチをタッチすると、操作音が鳴ります。

⚠ 注意

- **デフロスタースイッチをONにしているときは、エアコンの設定温度を低くしない。**
  フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

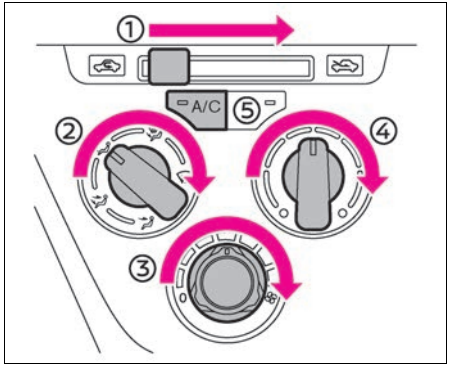
アドバイス

- デフロスタースイッチをONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。

知識

- エアコンがOFFのとき、デフロスタースイッチをタッチするとエアコンも作動します。

マニュアルエアコン付車



- 内外気切り替えレバー①を外気導入位置にします。
- 吹き出し口切り替えダイヤル②をデフロスター位置 にします。
- 風量切り替えダイヤル③を回し、風量を最大にします。
- 温度調節ダイヤル④を高温側に回します。
- A/Cスイッチ⑤を押してONにします。

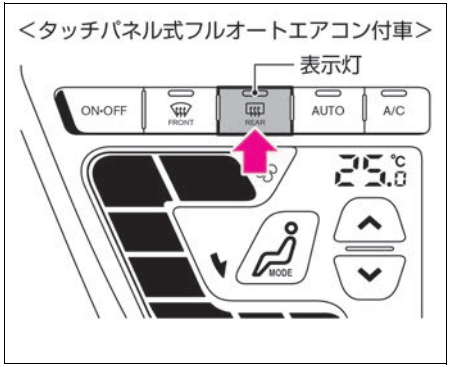
アドバイス

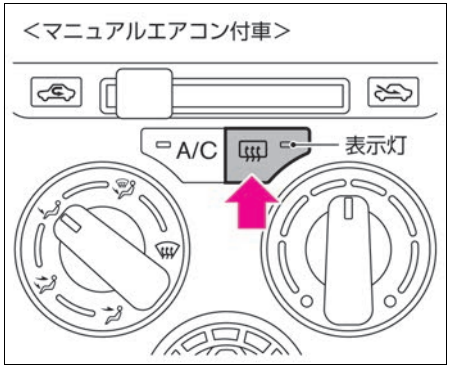
- 吹き出し口切り替えダイヤルをデフロスター位置にしているときは、エアコンの設定温度を低温にしないでください。フロントウインドウガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。
- 吹き出し口切り替えダイヤルをデフロスター位置にしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。

テールゲートガラスのくもりの取りかた

- リヤデフォッガースイッチをタッチする（押す）と約15分間作動し、テールゲートガラスの熱線が暖まります。
  （リヤデフォッガースイッチの表示灯が点灯）
- 止めるときは、もう一度スイッチをタッチします（押します）。
  （リヤデフォッガースイッチの表示灯が消灯）

●タッチパネル式フルオートエアコン付車は、スイッチをタッチすると、操作音が鳴ります。





アドバイス

- 連続して長時間使用しないでください。消費電力が多いため12Vバッテリー（メイン）あがりの原因になります。

知識

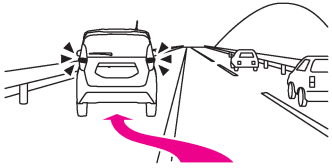
- リヤデフォッガースイッチをタッチする（押す）と、ヒーテッドドアミラーも同時に作動します。

オーバーヒートしたときは

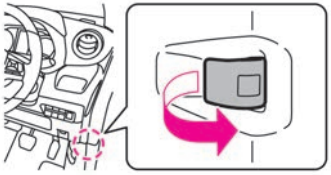
マルチインフォメーションディスプレイにオーバーヒート警告（➔P.263）が表示されたときや、エンジンルームのすき間から蒸気が出ているときはオーバーヒートしています。次の方法で処置してください。

処置のしかた

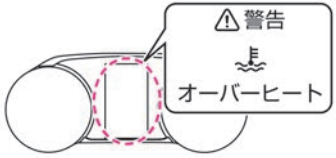
1. ただちに安全な場所に停車します。
➔故障したときの対処のしかた(P.236)



2. エンジンを作動させたままボンネットを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。
万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにエンジンを停止し、自然冷却してください。

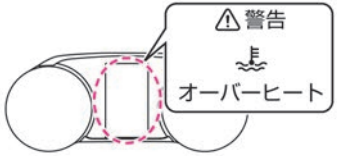


3. マルチインフォメーションディスプレイのオーバーヒート警告が消えたら、エンジンを停止させしばらく待ちます。
エンジンが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。



4. 冷却水が不足しているときは、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補充してください。
➔エンジンルーム内の配置図(P.293)
補充後は、しっかりキャップを閉めてください。

5. 走行中、再度マルチインフォメーションディスプレイにオーバーヒート警告が表示されたら、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。



6. 早めに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

⚠ 警告

- **ボンネットを開けるときは十分に注意する。**
  エンジンルーム内は高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。**
  やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
  エンジンを停止し、蒸気が出なくなるまで待ち、ボンネットを開けてください。
- **エンジンが十分に冷えていないときは、ラジエーターやリザーバータンクのキャップを外さない。**
  蒸気や熱湯が噴き出し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **オーバーヒートしたときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置をする。**
  そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

アドバイス

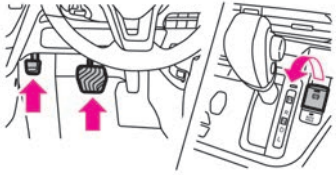
- 応急的に水だけを補充したときは、早めに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

セレクターレバーが動かないときは

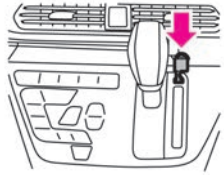
万一12Vバッテリー（メイン）あがりなどでセレクターレバーをPから動かせないときは、次の方法で動かすことができます

セレクターレバーの動かしかた

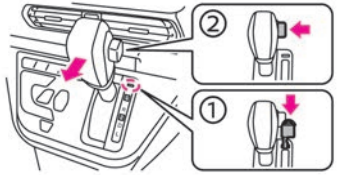
1. 安全のためパーキングブレーキをかけ、ブレーキペダルを踏み続けます。



2. 内蔵キーまたは、お手持ちの先の細い工具などをシフトロック解除穴に押し込みます。



3. 内蔵キーまたはお手持ちの先の細い工具などを押し込んだまま①、セレクターレバーのボタンを押して②セレクターレバーを動かします。



アドバイス

- セレクターレバーをPから動かせないときは、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

知識

キーレスオペレーションシステム付車

- 内蔵キーはキーレスオペレーションキーに内蔵されています。詳しくは（P.244）をお読みください。

雪道やぬかるみにはまったときは

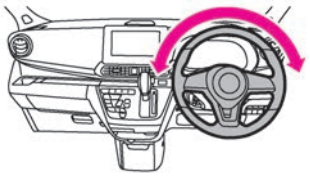
雪道、砂地、ぬかるみなどでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったりしたときは、次の方法で脱出してください。

脱出のしかた

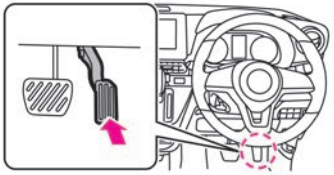
1. アクティブスタビリティコントロール[ASC]をOFF にします。

ASCの停止のしかた (P.147)

2. 車両の前後に障害物が無いことを確認し、ハンドルを左右に回して前輪の周囲をならします。
必要に応じ、タイヤの下に木材などをそえてください。



3. ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。
周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。



警告

- **周囲の安全を必ず確認する。**
周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何もないことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。
- **必要以上にアクセルペダルを踏み込まない。**
急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

- **脱出するときは、過度にタイヤを空転させない。**
タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品が異常過熱したりすることにより思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、三菱自動車販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

水没したときは

水没したときの対処のしかた

水没したときは、次のような対処方法で車外に脱出してください。

- シートベルトを外して車外に脱出してください。
- ドアが開く水位が低いうちにドアを開けて、車外に脱出してください。
- ドアが開かなかった場合、パワーウインドウのスイッチを押し窓ガラスを開け、窓から車外に脱出してください。
- パワーウインドウスイッチを押しても窓ガラスが開かない場合、以下の方法で脱出してください。
  - 緊急脱出用ハンマー（別売り）がある場合、窓ガラスを割り窓から車外に脱出してください。

— 緊急脱出用ハンマー（別売り）がない場合、または緊急脱出用ハンマーで窓ガラスが割れない場合には、車内外の水位が同じ高さくらいまで浸水するのを待ち、ドアを強く押し開けて車外に脱出してください。
（車内外の水圧差がなくなると、ドアを開けることができます。）

●浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

⚠ 警告

● **水位が窓ガラスよりも高いとき、緊急脱出用ハンマーを使用した場合、割れたガラスが車内に入り、ケガをするおそれがあります。**

緊急脱出用ハンマー（別売り）について

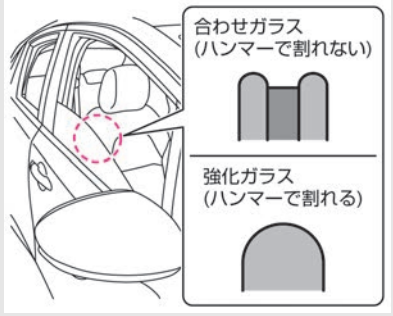
● **フロントウインドウガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマーで割ることはできません。フロントドアガラス、リヤドアガラス、テールゲートガラスを割って脱出してください。**

※ドアガラスについては、車両の仕様変更により合わせガラスの場合があります。

合わせ、または強化ガラスの見分け方法については、ガラスの断面、もしくは刻印（マーク）を確認することで見分けることができます。

ガラスの断面で合わせガラスを見分ける方法

● ドアガラスを半分ほど開け、断面を上から確認し、2枚のガラスが貼り合わせられている場合は合わせガラスとなります。



ガラスにある刻印（マーク）で合わせガラスを見分ける方法

● ドアガラスには次のような刻印（マーク）が表示されています。この表示によって、合わせガラスかどうかを見分けることができます。

※車両によっては、刻印（マーク）が表示されていない、またはガラスの種類を示す表示の位置が異なる場合があります。

外装ランプが点灯しないときは

次の交換可能な電球（バルブ）、番号灯、方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面/フェンダータイプ）以外の外装ランプはすべてLEDです。LEDが一部でも点灯しない場合は三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

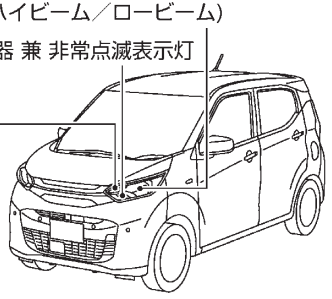
ヘッドライト、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドライト内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の現象で、機能上の問題ではありません。

また、レンズの構造上、レンズのふちに水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。ただし、ランプ内に水がたまっている場合やレンズ内面に大粒の水滴が

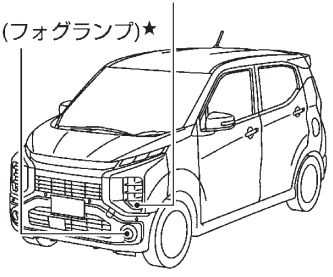
付着している場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

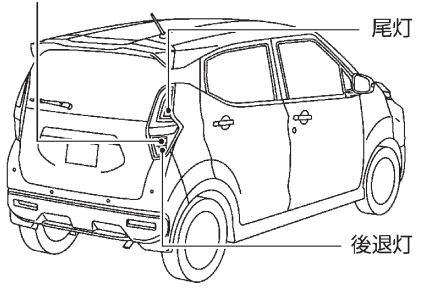
交換可能な電球（バルブ）の位置

ハロゲンヘッドライト付車



LEDヘッドライト付車





⚠ 注意

- **電球交換は、電球が冷えた状態で行う。**

  やけどをするおそれがあります。
- **交換作業をするときは、指や腕をケガしないように注意する。**
- **電球は確実に取り付ける。**

  電球は点灯中、表面が高温になります。電球が正しく取り付けられていないと、走行中に電球が外れて周辺の部品に接触するなどし、発熱、発火につながるおそれがあります。

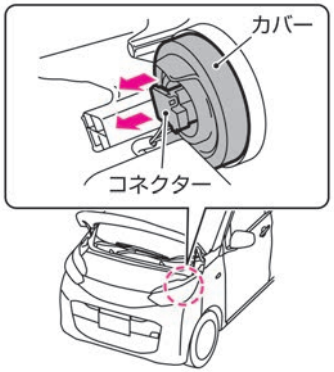
アドバイス

- 電球交換をするときは、軍手などを着用してください。
- 外した部品は確実に取り付けてください。水が入り故障の原因になるおそれがあります。
- 電球に油が付着したときは柔らかい布などでふき取ってください。また、素手でガラス部分に触れないでください。電球の寿命が短くなったり電球が破損するおそれがあります。

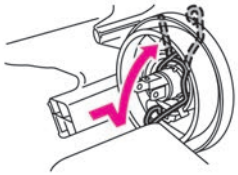
ハイビーム／ロービーム（ハロゲンヘッドライト付車）

1. ボンネットを開け、コネクターとカバーを取り外します。

   ➔ボンネットの開けかた、閉めかた (P.293)



2. リテーニングスプリングのロックを外し、電球を交換します。



3. 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

⚠ 注意

- **電球の取り扱いには注意する。**
  ハイビーム／ロービームに使用している電球は、電球内の圧力が高いため、破損するとガラスが飛び散ることがあります。

アドバイス

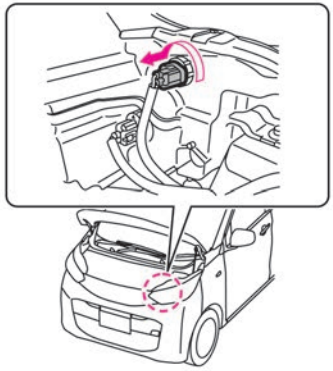
- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。
- リテーニングスプリングが必ず固定されたことを確認してください。

知識

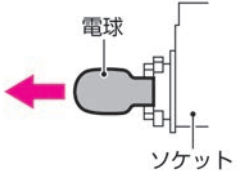
- ハイビーム／ロービームヘッドライト：12V-60/55W（H19）
- LEDヘッドライト付車のハイビーム／ロービームヘッドライトは交換できません。点灯しないときは三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

車幅灯（ハロゲンヘッドライト付車）

1. ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。
➔ボンネットの開けかた、閉めかた (P.293)



2. 古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。



3. 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

アドバイス

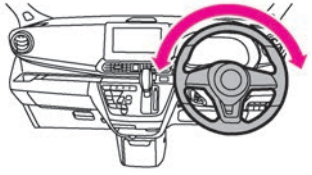
- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

知識

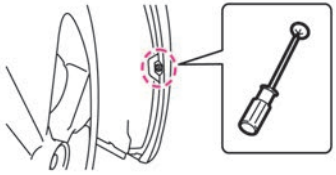
- 車幅灯：12V-5W（W5W）
- LEDヘッドライト付車の車幅灯は交換できません。点灯しないときは三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

フォグランプ★

1. 作業スペースを確保するため、作業する側と反対方向にハンドルを切ります。

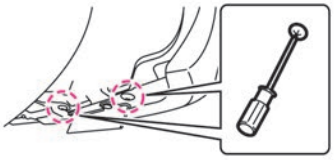


2. お手持ちの工具でネジを外します。



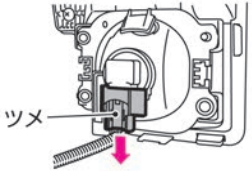
3. 下側のネジを外します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

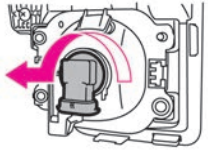


4. カバーをめくり、作業スペースを確保します。

5. コネクターを取り外します。（ツメを押しながら外します。）



6. ソケットを矢印の方向に回して引き抜き、電球を交換します。



7. 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

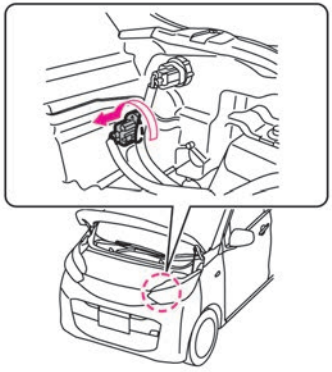
知識

- フォグランプ：12V-19W（H16）

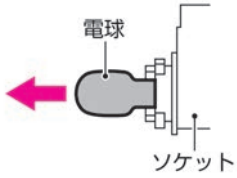
方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）（ハロゲンヘッドライト付車）

1. ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。

ボンネットの開けかた、閉めかた (P.293)



2. 古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。



3. 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

アドバイス

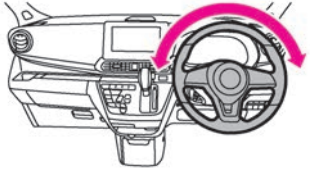
- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

知識

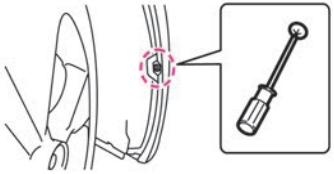
- 方向指示器　兼　非常点滅表示灯（前面）：12V-21W（アンバー）（WY21W）

方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）（LED ヘッドライト付車）

1. 作業スペースを確保するため、作業する側と反対方向にハンドルを切ります。



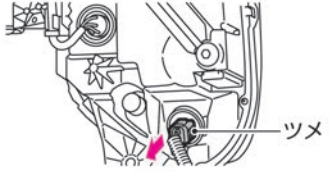
2. お手持ちの工具でネジを外します。



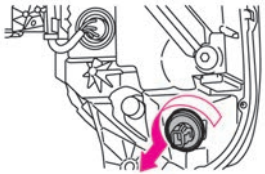
3. 下側のネジを外します。

4. カバーをめくり、作業スペースを確保します。

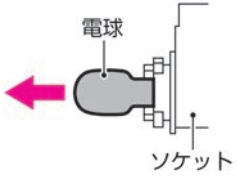
5. コネクターを取り外します。（ツメを押しながら外します。）



6. ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。



7. 古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。



8. 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

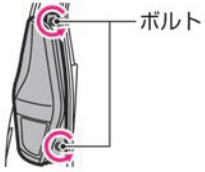
知識

- 方向指示器　兼　非常点滅表示灯（前面）：12V-21W（アンバー）（WY21W）

方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面）／後退灯／尾灯

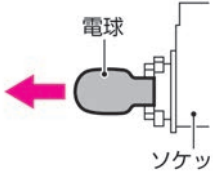
1. テールゲートを開けます。

2. リヤコンビランプのボルトを外し、ランプをまっすぐ後方に引いて取り外します。



3. 交換したい電球のソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。

4. 古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

5. 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

知識

- 尾灯：12V-5W（W5W）
- 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面）：12V-21W（アンバー）（WY21W）
- 後退灯：12V-16W（W16W）

ヒューズが切れたときは

ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。故障の状況から、関係するヒューズを確認してください。

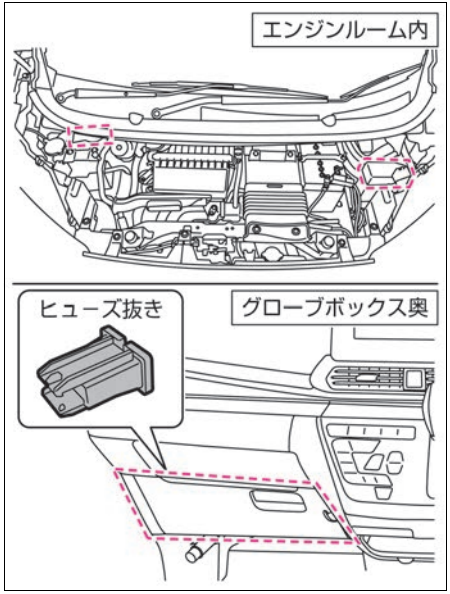
ヒューズボックスの位置

●ヒューズボックスは、次の位置にあります。
- エンジンルーム内
- グローブボックス奥

●各ヒューズの位置は、ヒューズボックスのふたの裏側またはヒューズボックス付近に表示してあります。

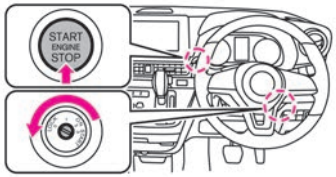
ヒューズ抜きについて

●グローブボックス奥のヒューズボックス内にヒューズ抜きがあります。

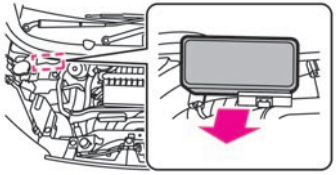


ヒューズの点検・交換のしかた（エンジンルーム内）

1. キースイッチ（電源ポジション）をOFFにし、ボンネットを開けます。
ボンネットの開けかた、閉めかた (P.293)



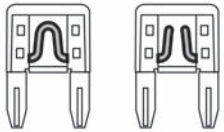
2. ヒューズボックスのふたを外します。



3. ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。
ヒューズ抜き（P.284）

4. ヒューズが切れていないか点検します。
切れているときは新しいヒューズと交換します。

ヒューズの参考画像

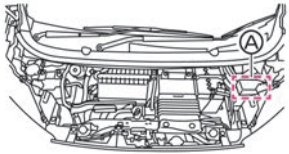


警告

- **規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。**
  電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

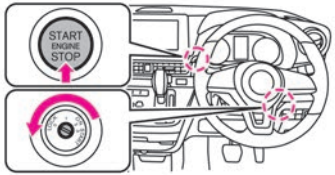
アドバイス

- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。
- 交換してもヒューズが切れるときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
- Ⓐの位置にあるヒューズを交換するときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。



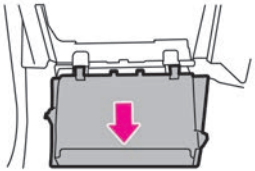
ヒューズの点検・交換のしかた（グローブボックス奥）

1. キースイッチ（電源ポジション）をOFFにします。



2. グローブボックスを開け、左右のストッパーを外します。

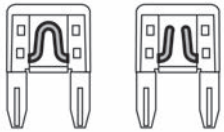
3. グローブボックスを外します。



4. ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。
   ヒューズ抜き（➔P.284）

5. ヒューズが切れていないか点検します。
   切れているときは新しいヒューズと交換します。

ヒューズの参考画像



警告

- **規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。**
  電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。
- 交換してもヒューズが切れるときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- グローブボックスを取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

メンテナンス

メンテナンスの前に

点検整備について P.288

工具・ジャッキ

工具・ジャッキ★について P.289

点検と整備

エンジンルーム P.293
ウォッシャー液の補給 P.294
寒冷時の取り扱い P.295
タイヤ P.296
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.298
ワイパー P.299
キー（キーレスオペレーションキー）★の電池交換 P.299
キー（キーレスエントリーキー）★の電池交換 P.300
バッテリー P.301
エンジンオイル P.302

清掃・お手入れ

外装のお手入れ P.304
内装のお手入れ P.308

サービスデータ

点検値 P.311
交換油脂類 P.311
車両仕様 P.314
イベントデータレコーダ（EDR） P.315
車両状態記録機能 P.316

点検整備について

道路運送車両法により、定期点検と日常点検が義務付けられています。正しい点検整備を行いお車を安全にお使いください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検整備の種類

●**日常点検**
走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。
いつもと違うことに気がついたら三菱自動車販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水漏れ、油漏れなど）

●**定期点検**
1年ごとに実施する点検です。12か月点検および24か月点検があります。

●**その他の点検**
新車時の無料点検や、厳しい使われかたをしたときに必要な点検があります。

📖 知識

- 点検・整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。

車検、点検整備のとき

●車検、点検整備については、三菱自動車販売会社にご相談ください。

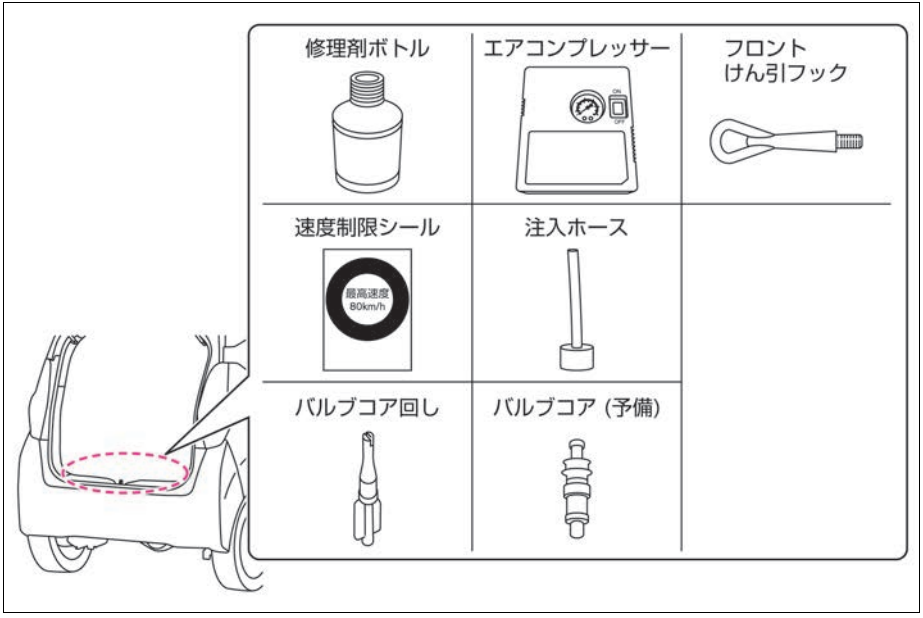
工具・ジャッキ★について

この車両には、スペアタイヤ、ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドル兼ホイールナットレンチが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

工具、パンクタイヤ応急修理キットの格納場所

●工具・パンクタイヤ応急修理キットは、ラゲッジルームに格納されています。

➔応急修理する前に (P.240)
➔パンクタイヤ応急修理キットについて (P.240)



⚠ 注意

● **工具、パンクタイヤ応急修理キットを使ったあとは、元の場所に格納する。**

車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

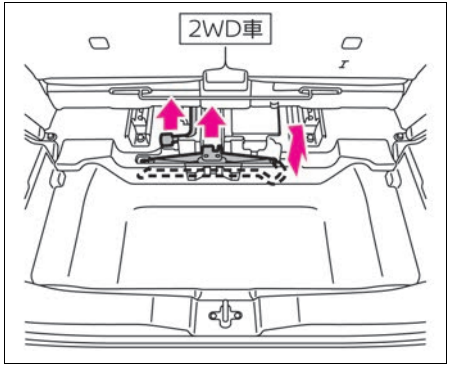
📖 知識

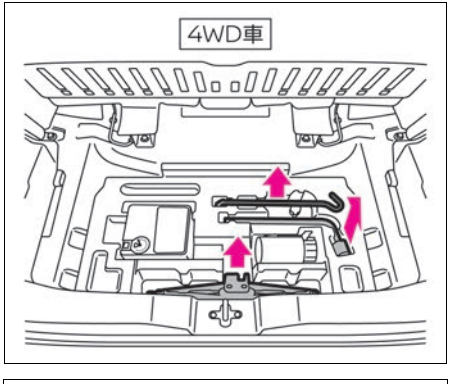
● 停止表示板（停止表示灯）、輪止めは標準で搭載されておりませんので必要に応じて準備してください。

● 工具の種類や発炎筒（➔P.236）などは、万一のときに困らないようにあらかじめ位置を確認しておいてください。

ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドル兼ホイールナットレンチの取り出しかた（別売り）

●ラゲッジルームのラゲッジフロアボード★を持ち上げて取り出します。
ラゲッジフロアボード（➔P.232）





アドバイス

- ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。

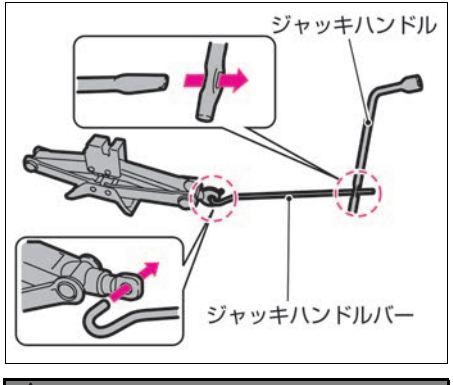
- ジャッキとラゲッジフロアボードが内装部品にぶつからないようにしてください。傷がつくおそれがあります。

知識

- ジャッキを取り出すときは、後席シートを車両前方へスライドさせてください。（2WD車）

ジャッキの使いかた

- ジャッキにジャッキハンドルバーとジャッキハンドルをセットします。
- ジャッキを使って車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを設置してください。



警告

- **ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らない。**

ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。

注意

- **工具、ジャッキを使ったあとは、元の場所に収納する。**

  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ジャッキハンドルを回すときは、ジャッキハンドルバーをしっかり握って回す。**

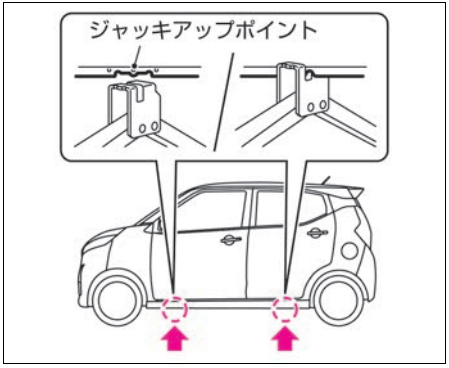
  ジャッキハンドルバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ジャッキハンドルバーは、確実にジャッキハンドルの穴に差し込む。**

  ジャッキハンドルバーが確実に差し込まれていないと、外れて思わぬケガをするおそれがあります。
- **ジャッキアップ中はエンジンを始動しない。**

  車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。

ジャッキアップポイント

- 矢印の位置がジャッキアップポイントです。



⚠ 注意

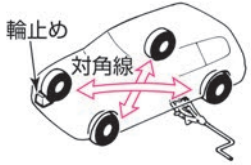
- **ジャッキを使うときは、次のことを必ず守る。**
  - ― ジャッキは必ずこの車両専用のものを使い、他車のジャッキは使わないでください。また、この車両専用のジャッキは他車に使わないでください。
  - ― 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
  - ― 使用前にパーキングブレーキをかけ、セレクターレバーをPにしてください。
  - ― 輪止めなどで車を固定してください。
  - ― ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。
  - ― 人や荷物は必ず車から降ろしてください。

アドバイス

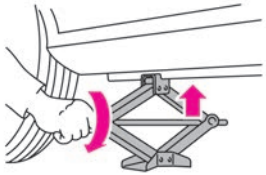
- ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使わないでください。
- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

ジャッキアップのしかた

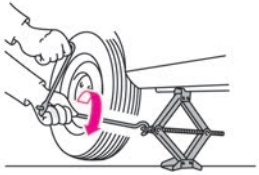
1. 交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面（平坦な硬い場所）に停車し、人や荷物を車から降ろします。
   ➔停車・駐車のしかた (P.130)
2. ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。
   輪止めは、前輪をジャッキアップするときは後輪の後ろ側、後輪をジャッキアップするときは前輪の前側に置きます。



3. ジャッキの上部がジャッキアップポイントに接触するまで、ジャッキを矢印の方向に手で回します。
   ➔ジャッキアップポイント (P.290)



4. ジャッキハンドルを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。



⚠ 注意

- **柔らかい地面の上ではジャッキアップしない。**
  ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。
- **やむをえず傾斜地で作業する場合は、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにする。**

アドバイス

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

工具・ジャッキ

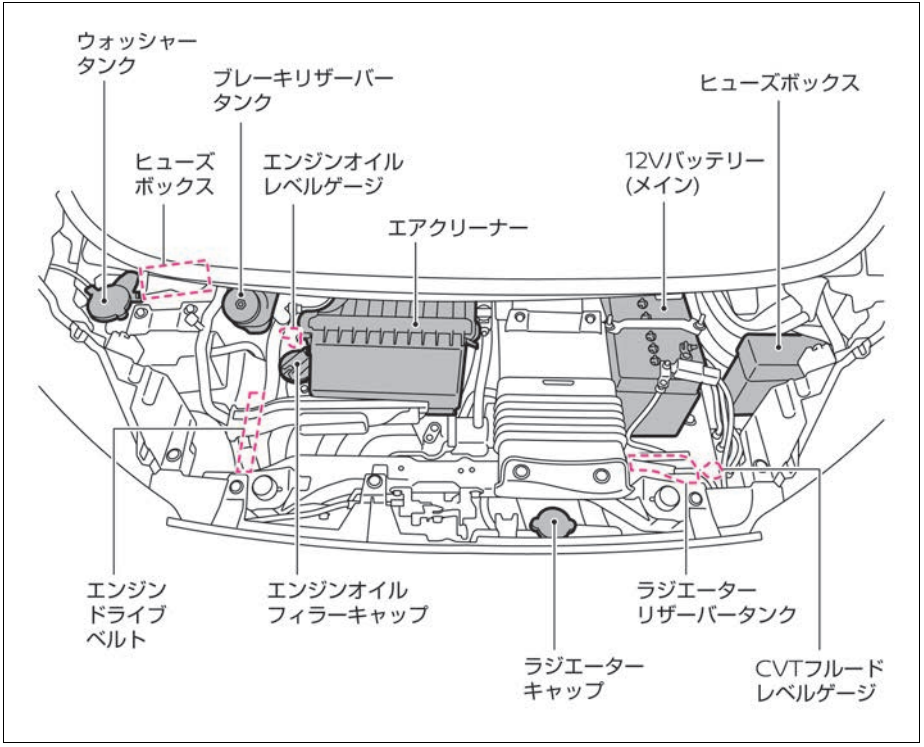
知識

- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。

エンジンルーム

エンジンルーム内を点検するときは安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけた状態でボンネットを開けます。

エンジンルーム内の配置図



⚠ 警告

- **点検や整備に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れない。**
  故障や車両火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **エンジンルーム内の作業をするときは、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにする。**
  エンジン回転中に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

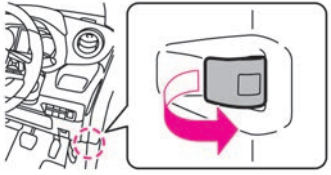
- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ボンネットやワイパーが損傷します。
- 点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

知識

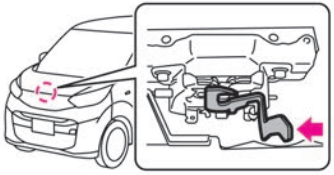
- 車種により部品形状が異なります。

ボンネットの開けかた、閉めかた

1. 運転席の右下にあるボンネットオープナーを引きます。
   ボンネットが少し浮き上がります。

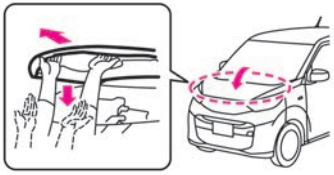


2. ボンネット先端のすき間に手を入れ、レバーを横に押しながらボンネットを持ち上げます。



3. ステーをフックから外し、ボンネット裏側の穴（ステー差し込み位置）に確実に差し込みます。

4. 閉めるときはステーをフックに戻し、ボンネットを20cm～30cmの高さまでゆっくり降ろしてから、手を離して落としてロックします。ロックできなかったときは、レバーを操作してボンネットをもう一度持ち上げてから再度落としてください。ボンネットを上から押して閉めようとしないでください。



⚠ 警告

- **走行前、ボンネットが確実に閉まっていることを、必ず確認する。**

  ロックされていないと、走行中にボンネットが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **風が強いときは、ボンネットをしっかり持ってゆっくりと開ける。**
- **ボンネットを開けたときは、ボンネットに頭などをぶつけないよう注意する。**
- **ラジエーターなどの高温部には触れない。**

  やけどをするおそれがあります。
- **ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろす。**

アドバイス

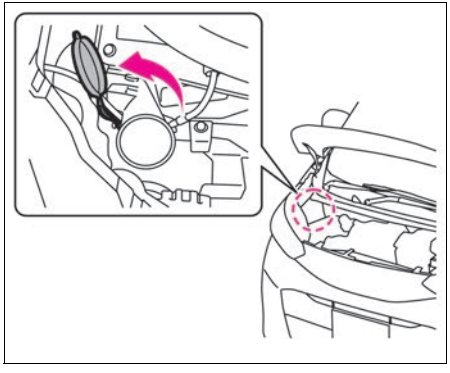
- ボンネットを閉めるときに、ボンネットに体重をかけて強い力で押すと、ボンネットがへこむおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

補給のしかた

- ウォッシャー液が減っているときは、ウォッシャータンクのふたを外し、ウォッシャー液を補給してください。
- ウォッシャー液は、必要に応じ水で薄めてください。希釈割合はウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にします。



⚠ 注意

- **ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけない。**
  出火するおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

知識

- フロントワイパーとリヤワイパーのウォッシャータンクは兼用です。
- 三菱自動車純正ウォッシャー液をおすすめします。
  ➔ウォッシャー液 (P.314)

寒冷時の取り扱い

寒冷時に備えて、準備や点検などを正しく行ってください。

冬の前の準備

■ 冷却水の濃度点検

●冷却水の凍結を防ぐため、冷却水の濃度を点検してください。

冷却水の濃度	凍結温度
50%	約-35℃

●冷却水を補充・交換するときは、三菱自動車純正 スーパーロングライフクーラントプレミアム（50%希釈品）をお使いください。
➔エンジン冷却水 (P.313)

アドバイス

- 冷却水は工場出荷時に50%にしてあります。
- 冷却水の点検・補充・交換は三菱自動車販売会社にご相談ください。

■ 12Vバッテリー（メイン）の液量の点検

●別冊のメンテナンスノート「簡単な点検整備」をお読みください。
➔バッテリーの搭載位置 (P.301)

■ 冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

●冬用タイヤに交換するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。
●タイヤチェーンは、タイヤサイズにあった三菱自動車純正品をおすすめします。

■ ウォッシャー液の濃度点検

●ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の容器に記載してある凍結温度を参考に外気温に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。
●ドアやワイパーなどが凍結したときは、無理に開けたり動かしたりせず、凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。
●ガラスに雪や霜が積もっているときは、プラスチックの板などを使用して、ガラスを傷つけないように雪を取り除いてください。
●足まわり（ブレーキ周辺、フェンダーの裏側など）が凍りついているときは、部品が破損しないように注意しながら、付着した氷塊を取り除いてください。
●車室内に乗り込むときは、靴についた雪を取り除いてください。

⚠ 警告

- **ルーフに積もった雪は落とす。**
  窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷するおそれがあります。
- ワイパー、ドアミラー、パワーウインドウなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。

📖 知識

- 外気温が低く、エンジン冷却水温が低いときは、暖房性能を確保するためエンジン回転数が上昇することがあります。

雪道の走行のしかた

■ 滑りやすい路面に注意

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。
  ➔タイヤチェーンについて (P.298)

■ 走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

■ 駐車するときの注意

- セレクターレバーを**P**にして、パーキングブレーキをかけずに輪止めをしてください。パーキングブレーキをかけると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。
- 雪が積もりそうなときはアンテナを取り外してください。アンテナが破損するおそれがあります。
  アンテナの外しかた（➔P.304）

タイヤ

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。

日常的に点検を行ってください。

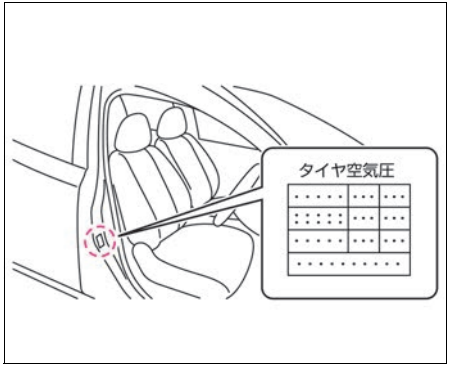
タイヤの点検項目

安全な走行のため、タイヤの点検は次の項目を点検してください。

詳細は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

タイヤ空気圧

- すべてのタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあります。

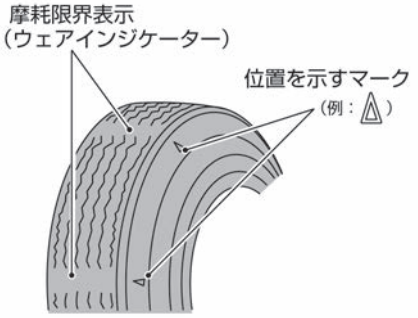


タイヤの亀裂・損傷の有無

- タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷および針などの異物が刺さっていないか点検してください。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

- タイヤの溝の深さが十分であるか、ウェアインジケーター（摩耗限界表示）が表れていないか点検してください。
- タイヤが摩耗して接地面とウェアインジケーター（摩耗限界表示）が同じ高さになったらタイヤを交換してください。



⚠ 警告

- **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。**

  バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **使用開始後5～7年を目安に必ず点検する。**

  タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。引き続き使用する場合は安全走行を確保するため、必ず点検を受けてください。点検については三菱自動車販売会社へご相談ください。

📖 知識

- タイヤの空気は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用して点検してください。
- タイヤ空気圧の点検は、走行前のタイヤが冷えているときに点検・調整してください。
- タイヤ側面の厚みが薄いタイヤは、空気圧が減っていることを目視で確認することが困難なため、必ずタイヤエアゲージを使用して点検してください。
- 走行直後はタイヤ空気圧が約1割上がることがあります。

タイヤ・ロードホイールを交換するときは

- タイヤ交換をするときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。
  ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。

⚠ 注意

- **指定サイズ以外のタイヤ・ロードホイールは絶対に取り付けない。**

  不適合なタイヤ・ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付ける。**

  特に4WD車は、径が異なるタイヤを装着すると車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、アクティブスタビリティコントロール[ASC]システムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。

  — 摩耗差の大きいタイヤの装着
  — 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着
  — サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着

アドバイス

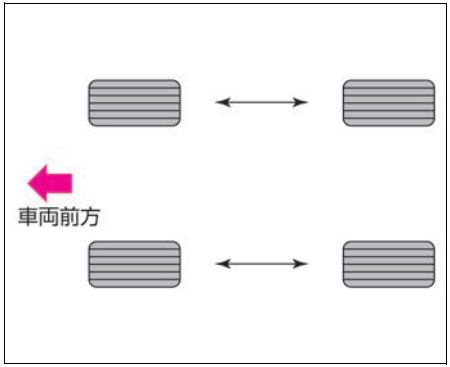
- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車のものは使えない場合があります。お手持ちのものをご使用になるときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- アルミホイール★には荷重制限がありますので、交換するときは三菱自動車販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。
- バルブキャップは三菱自動車純正品を使用してください。三菱自動車純正品以外のバルブキャップを使用すると腐食して固着し、外れなくなる場合があります。

- バルブキャップを工具などを使用して締め付けると、バルブキャップが破損するおそれがあります。

- ホイールナットの締め付けトルクは、98N·m（10kg·m）です。

タイヤローテーションのしかた

左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。



⚠ 注意

- **著しく摩耗差のあるタイヤや空気圧が規定値と著しく異なるタイヤを装着しない。**

  車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換については、三菱自動車販売会社にご相談ください。

冬用タイヤ・タイヤチェーン

雪道や凍結した道路を走行するときは、冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤについて

冬用タイヤを装着するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

⚠ 注意

- **タイヤチェーンを不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものを使用しない。**

  ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンを装着するときは、次のことを守ってください。

- タイヤチェーンを装着するときは、安全に作業できる平坦な場所に停車し、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにして作業してください。

- タイヤチェーンは必ず前2輪に装着してください。4WD車も前2輪に装着してください。
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書で指定された速度で走行してください。

アドバイス

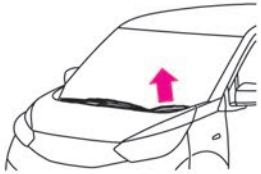
- タイヤチェーンを装着すると、ホイールカバー★やアルミホイール★に傷をつけるおそれがあります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。路面を損傷したり、チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。また、4WD車は機構に無理がかかり故障の原因となります。
- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行しないでください。また、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ワイパー

ワイパーゴムが傷んでいると、きれいにふき取れなかったり、窓ガラスを傷つけたりします。定期的に点検し、傷んでいるときは次の手順に従って交換してください。

ワイパーブレードの交換のしかた

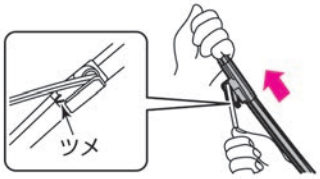
1. ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを少し傾けます。



2. ワイパーブレードのツメを押したままにします。

3. ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。

4. 新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。



アドバイス

- 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう気をつけてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。
- ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

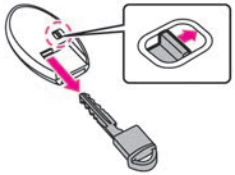
知識

- リヤワイパーブレードの点検、交換が必要なときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- ワイパーゴムの交換のしかたは、別冊のメンテナンスノートの「簡単な点検整備」をお読みください。

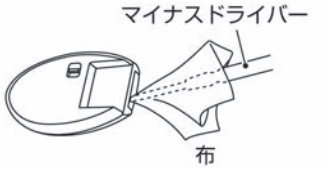
キー（キーレスオペレーションキー）★の電池交換

キーのスイッチを押しても作動しないときや作動表示灯（➔P.74）が点滅しないときは、電池の消耗が考えられます。次の手順に沿って、電池を交換してください。

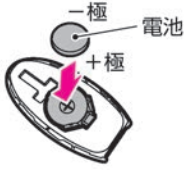
1. キー裏側のロックを外しながら、内蔵キー（エマージェンシーキー）を引き抜きます。



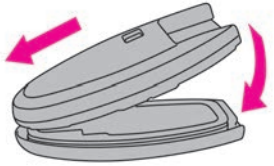
2. すき間にマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください。）



3. 消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、+極を下にして取り付けてください。）
使用電池：CR2032



4. カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。



⚠ 警告

- **電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。**

  キーレスオペレーションキーには、ボタン電池が使用されています。誤って電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

  新しい電池および取り外した電池は、お子さまの手の届かない場所に保管してください。
- **電池を飲み込んだり、体内に入れてしまった場合は、直ちに医師の診察を受ける。**

⚠ 注意

- **カバーがしっかりと閉まらない場合は、キーレスオペレーションキーの使用を中止する。**

キーレスオペレーションキーをお子さまの手の届かない場所に保管し、すみやかに三菱自動車販売会社にご連絡ください。

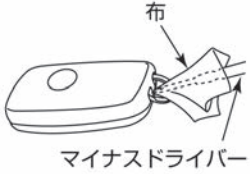
アドバイス

- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。三菱自動車販売会社での交換をおすすめします。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換の際は、必ず同じタイプの電池と交換してください。
- 電池交換後は、キーレスオペレーションシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、三菱自動車販売会社にご相談ください。

キー（キーレスエントリーキー）★の電池交換

リモコンのスイッチを押しても作動しないときや作動表示灯（➔P.77）が点滅しないときは、電池の消耗が考えられます。次の手順に沿って、電池を交換してください。

1. スリットにマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください。）



2. 消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、+極を下にして取り付けてください。）
使用電池：CR2032

3. カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。

⚠ 警告

- **電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。**

キーレスエントリーキーには、ボタン電池が使用されています。誤って電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

新しい電池および取り外した電池は、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

- **電池を飲み込んだり、体内に入れてしまった場合は、直ちに医師の診察を受ける。**

⚠ 注意

- **カバーがしっかりと閉まらない場合は、キーレスエントリーキーの使用を中止する。**

キーレスエントリーキーをお子さまの手の届かない場所に保管し、すみやかに三菱自動車販売会社にご連絡ください。

アドバイス

- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。三菱自動車販売会社での交換をおすすめします。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換の際は、必ず同じタイプの電池と交換してください。
- 電池交換後は、キーレスエントリーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、三菱自動車販売会社にご相談ください。

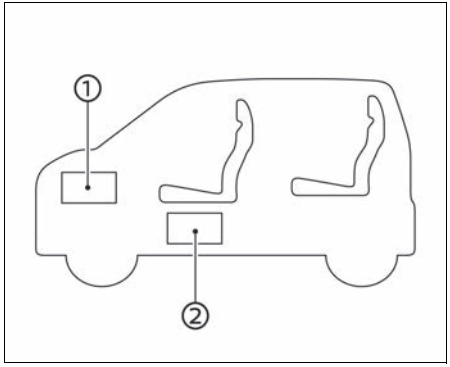
バッテリー

12Vバッテリー（メイン）のメンテナンスについては、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

バッテリーの搭載位置

この車両には、2種類のバッテリーが搭載されています。



①12Vバッテリー（メイン）：エンジンルーム内
（エンジン始動・補機駆動用）

②リチウムイオンバッテリー（サブ）：運転席下
（オートストップ&ゴー[AS&G]（アイドリングストップ）再始動・補機駆動用★）

12V バッテリー（メイン）に関する注意事項

⚠ 警告

- **12Vバッテリー（メイン）を充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**

  12Vバッテリー（メイン）から発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診断を受ける。**

  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **12Vバッテリー（メイン）の⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**

  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリー（メイン）の端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。

- **12Vバッテリー（メイン）を交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**

  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

アドバイス

- この車両は、充放電能力と寿命性能を強化した専用バッテリーをご使用ください。専用バッテリー以外を使用すると、12Vバッテリー（メイン）の早期劣化やオートストップ&ゴー[AS&G]が正常に作動しなくなる原因となります。 詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

リチウムイオンバッテリー（サブ）に関する注意事項

⚠ 警告

- **取り扱いかたを誤ると火災、感電、故障の原因となるおそれがあるため、次のことを必ず守る。**
  - 水に濡らしたり、取り外しや分解をしたりしない
  - 強い衝撃を加えない
  - バッテリー端子を外したり、端子から電気製品の電源を取ったりしない
  - 火気を近づけない

アドバイス

- リチウムイオンバッテリー（サブ）は運転席下に搭載されています。運転席の下へ足を入れて大きな力を掛けたり、重い物を載せたりしないでください。

エンジンオイル

エンジンオイルの交換時期は別冊のメンテナンスノートをお読みください。
また、指定のエンジンオイルについては、巻末のサービスデータ（P.311）をお読みください。

エンジンオイルに関する注意事項

⚠ 注意

- **オイルの点検後は、オイルレベルゲージを確実に差し込む。**

  オイルレベルゲージが根元まで差し込まれていないと、オイルが吹き出し火災の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意

- **エンジンオイルフィラーキャップは確実に閉める。**

  走行時にキャップが外れてエンジンオイルが噴き出すと、火災の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 適切にオイル交換が行われないと、エンジンの破損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

外装のお手入れ

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

●洗車機で洗車するときは、アンテナを外してください。
アンテナの外しかた（➲P.304）

●塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色やサビの原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
— ばい煙、虫の死がいや鳥のふん、樹液、鉄粉、コールタールなどが付着したとき
— 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
— ほこり、汚れがひどいとき

⚠ 注意

- **下回りを洗うときは、ケガをしないように注意する。**
- **エンジンルームを水で洗ったり、洗剤やワックスなどを直接スプレーしたりしない。**

  エンジンの始動不良や不調などの原因になるおそれがあります。また、電装品などに水がかかると、故障したり電気部品のショートにより車両火災につながるおそれがあり危険です。

水や洗剤、ワックスなどの製品を使用する場合は、布に塗布してからエンジンルームをふいてください。

アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使用しないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。

水洗いするときは

① 水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。
② 水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディーシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。
③ はん点が残らないように水をふき取ります。

アドバイス

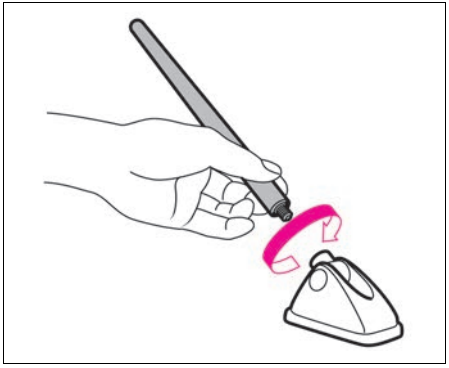
- 洗車をするときに、車体に体重をかけるなどして、強い力で押したときに、場所によっては車体がへこむおそれがあります。

洗車機を使うときは

●ルーフについているアンテナを外してください。
●ドアミラーを格納してください。
➲ドアミラー (P.94)
●燃料補給口を完全に閉めてください。
➲開けかた、閉めかた (P.98)
●高圧洗浄機を使用するときは、洗車ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、塗装の劣化を早めたりすることがあります。

アンテナの外しかた

●アンテナを取り外すときは、アンテナの根元を持ち、矢印の方向に回して取り外します。
●取り付けるときは、アンテナの根元を持ち、矢印と逆方向に回し、確実に締め付けます。



アドバイス

- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車室内に水が漏れるおそれがあります。

オーバーフェンダーテープ付車

- 表面の汚れをとるときは、水洗い後柔らかい布で拭き取ります。強くこすると、傷がつくことがあります。
- 高圧洗車機を使用するときは、フェンダーのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。テープが剥がれる場合があります。

ワックスをかけるときは

●ワックスがけは1か月に1回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

ワックスのかけかた

① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。

② 塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

ワックスの選びかた

●コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスをご使用ください。三菱自動車純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラ★のレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

アルミホイール★のお手入れ

●中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。三菱自動車純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあるため、次のことをお守りください。
  - 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使用しない
  - 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）
  - 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
  - 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使用しない

軽い補修のしかた

●塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。

レーダーセンサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

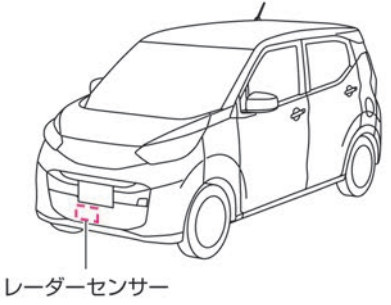
●レーダーセンサー周辺部はいつもきれいにしておいてください。

●強い力で乾拭きしないでください。また、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーで清掃するときは、センサーから十分に離して使用してください。レー

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ダーセンサーを損傷するおそれがあります。

- レーダーセンサー周辺に強い衝撃を与えないでください。衝突などでレーダーセンサー周辺を破損したときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
- レーダーセンサー周辺にステッカー（透明な物を含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けたり、塗料を塗ったりしないでください。誤作動の原因になります。
- バンパーを改造、脱着したり、塗装しないでください。バンパーを改造したり塗装する場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。



アドバイス

- レーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着している場合は、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されることがあります。

フロントレーダーシステム停止警告（P.269）

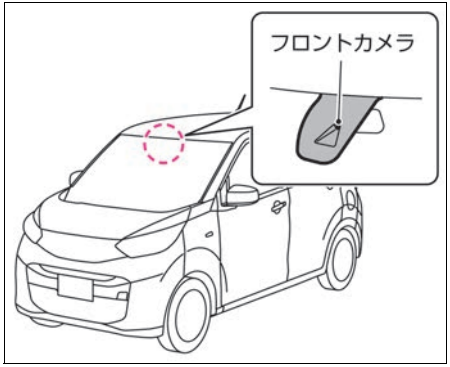
システム故障警告（P.264）

- レーダーセンサー周辺の遮蔽物を取り除いて走行すると、システムの作動は再開します。再開しない場合は三菱自動車販売会社にご連絡ください。

フロントカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

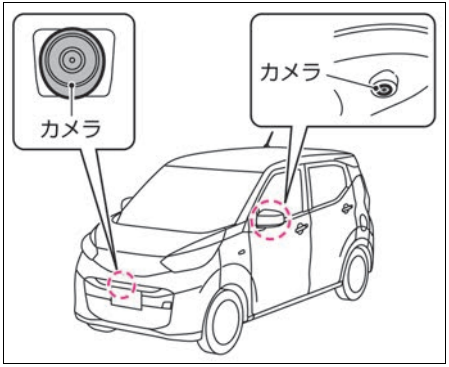
- カメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ前方のフロントガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。
- カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。またカメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。
  事故などでカメラ周辺部が変形した場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。



フロントビュー★／サイドビューカメラ★の取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ周辺部に強い衝撃を与えないでください。衝突などでカメラ周辺を破損したときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。



⚠ 警告

- **カメラ部に強い衝撃を与えない。**
  カメラ部は精密機械のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災または感電のおそれがあります。

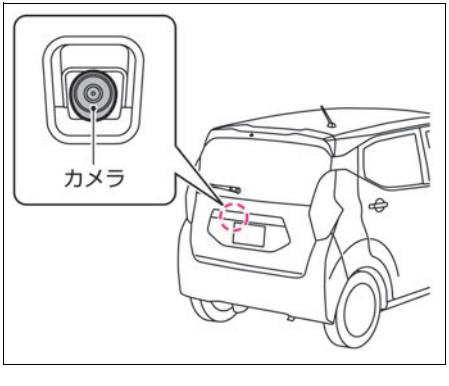
アドバイス

- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、濡れた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷をつけないでください。画面の映像へ影響が出ることがあります。
- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

リヤビューカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- 光が反射するため、ナンバープレートのアクセサリーを取り付けないでください。
- カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。衝突などでカメラ周辺を破損したときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。



⚠ 警告

- **カメラ部に強い衝撃を与えない。**
  カメラ部は精密機械のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災または感電のおそれがあります。

アドバイス

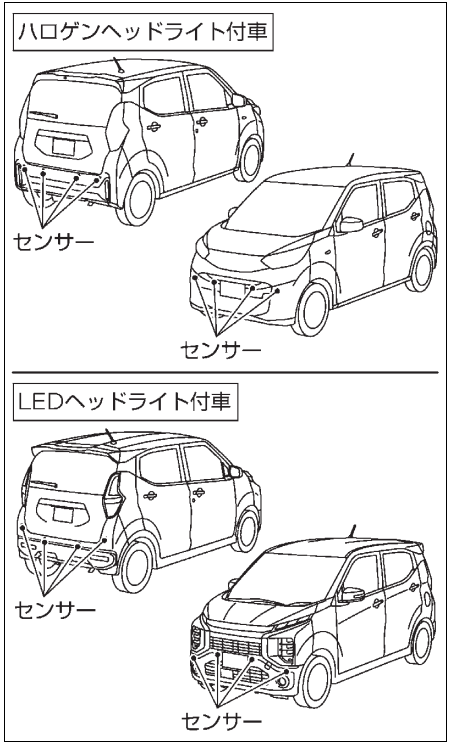
- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、濡れた柔らかい布でふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷をつけないでください。画面の映像への影響が出ることがあります。
- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

センサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、以下のことをお守りください。

- センサーはいつもきれいにしておいてください。
  汚れているときは、柔らかい布で傷つけないように注意してふき取ってください。
- 強い力で乾拭きしないでください。また、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーで清掃するときは、センサーから十分に離して使用してください。センサーを損傷するおそれがあります。

- センサーまたはその周辺に強い衝撃を与えないでください。またセンサーの取り外し、分解などをしないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでセンサーの取り付け部が変形した場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- センサーまたはその周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。故障、誤作動の原因になります。



内装のお手入れ

内装のお手入れについて

アドバイス

- 車室内に水をかけないでください。オーディオ★やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤を使用しないでください。変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため、確認してからご使用ください。
- オーディオ★やスイッチ類などの電装品、ブレーキペダル周りにシリコーン（シリコン）を含むケミカル用品（スプレー、グリース、オイルなど）を使用しないでください。電装品の故障につながるおそれがあります。
- 消臭剤・芳香剤、化粧品・日焼け止めなどは、容器からこぼしたりしないでください。また、吊り下げタイプの消臭剤・芳香剤などは、内装部品に接触しないようにしてください。含まれる成分によっては、内装部品に付着すると変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあるため、付着した場合は、すみやかに柔らかい布でふき取ってください。

アドバイス

- 塩素系（二酸化塩素や次亜塩素酸）の洗浄液を使用しないでください。塗装はがれやサビなどの原因となるおそれがあります。やむをえず洗浄（除菌）する場合は、エタノール75%以下をご使用ください。エタノールを乾いた布に含ませ、内装部品をふいてください。エタノールがなくなるまでふき取ってください。ふき残しがあると塗装はがれや色落ちなどの原因となるおそれがあります。エタノールは、引火性ですので、火気に注意してください。
- 内装部品を固いもので擦ったり引っかいたりしないでください。傷がつき、破損するおそれがあります。

カーペットの汚れ取り

●電気掃除機でほこりを取り除き、三菱自動車純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアマットを取り外したときは、敷き直すときにフロアマットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。

フロアマット (P.230)

布、ビニールレザーの汚れ取り

●中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、三菱自動車純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

IR カット /99%UV カットガラス★のお手入れ

フロントドアガラスの内側にはIRカット&99%UVカットコーティングがされています。

●フロントドアガラスの内側を清掃するときは、水または温水を含ませた柔らかいきれいな布で早めに汚れをふき取ってください。

アドバイス

- IRカット&99%UVカットコーティングの傷つきや劣化を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ― フロントドアガラスの汚れがひどいときは、なるべく窓ガラスの開閉を行わない。
  - ― 清掃するときはコンパウンド（研磨剤）入りのガラスクリーナー、アルカリ性洗剤は使用しない。
  - ― 砂などが付着している布で清掃をしない。

メーター表面やその他光沢のあるプラスチック部品の汚れ取り

●塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。
硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。

アドバイス

- 乾いた布やウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色の原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

ガラスの汚れ取り

●テールゲートガラスの内側を清掃するときは、熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で熱線にそって軽くふいてください。

●ガラスクリーナー、洗剤などは使用しないでください。

●ガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。

デジタルルームミラー★のお手入れ

●ミラーやカメラ部は常にきれいな状態にしておいてください。汚れなどが付いていると見えにくくなるおそれがあります。

●ミラーやカメラ部を清掃するときは、乾いた柔らかい布などでそっと拭いてください。

●清掃するときはアルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品でミラーやカメラ部を拭かないでください。変色、劣化、故障の原因となります。汚れがひどいときは、まず濡れた柔らかい布で拭いてから乾いた柔らかい布で拭いてください。

- カメラ前方のテールゲートガラスはいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた布でふき取ります。
  油膜が付いているときは、油膜取りを使用して清掃してください。
- カメラ前方のテールゲートガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。
  外観リヤ (P.4)

点検値

項目		点検値
補機ベルト		調整不要 ※1
ブレーキペダル ※2	遊び	3〜11mm
	床板とのすき間 エンジン回転中、踏力約490N（50kg）で踏んだとき	85mm以上
パーキングブレーキ★ （足踏み式）	踏みしろ 約196N（20kg）で踏んだとき	4〜5ノッチ

※1：HYBRID付車の補機ベルトは、ベルトオートテンショナー（自動張力調整機構）とストレッチベルト（張力調整無し）を採用しており、HYBRID無車の補機ベルトはストレッチベルト（張力調整無し）を採用しているため、ベルトの張力調整は不要です。また、電動パワーステアリングおよび冷却ファンは、ベルト駆動ではないためベルトの張力調整は不要です。詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

※2：ブレーキが正常に作動しないときは、必ず三菱自動車販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの床板とのすき間の調節が必要なときも、三菱自動車販売会社にご相談ください。

交換油脂類

お車の性能を適正に保つため、弊社指定銘柄のご使用をおすすめします。指定銘柄以外をお使いになる場合、指定銘柄に相当する品質のものをお使いください。記載の規定量は目安です。実際の量とは異なることがあります。交換時期については別冊のメンテナンスノートをお読みください。

エンジンオイル

適用		規定量（ℓ）	指定銘柄
ターボ無車	オイルのみ交換	2.8	三菱自動車純正ダイヤクイーン モーターオイル GLV-1 0W-8 ※
	オイルとオイルフィルター交換	3.0	
ターボ付車	オイルのみ交換	2.8	三菱自動車純正ダイヤクイーン モーターオイル SP 0W-16
	オイルとオイルフィルター交換	3.0	

※：添加剤はエンジンオイルに添加しないでください。

■ 指定銘柄以外のエンジンオイルについて

粘度（SAE規格）およびグレードは下記のものをご使用ください。

エンジン	粘度（SAE 規格）	グレード
ターボ無車	0W-8	JASO規格 GLV1マークのついたものをお使いください。 JASO M 364適合品
	0W-16	API規格SPをお使いください。 ILSACマークのついたものをおすすめします。 APIマーク ILSACマーク
ターボ付車	0W-20	API規格SPをお使いください。 ILSACマークのついたものをおすすめします。 APIマーク ILSACマーク

エンジン冷却水

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	4.0※1	三菱自動車純正 スーパーロングライフクーラントプレミアム ※2

※1：リザーバータンクのMAXレベル容量（0.3 ℓ）を含みます。

※2：市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水は、三菱自動車純正スーパーロングライフクーラントプレミアムを必ずご使用ください。

CVT フルード

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	5.8	三菱自動車純正CVTF-J4+※

※：CVTフルードは、三菱自動車純正CVTF-J4+を必ずご使用ください。それ以外のフルードを使用すると、CVTが破損するおそれがあります。

リヤディファレンシャルオイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
4WD	0.8	三菱自動車純正スーパーハイポイドギヤオイル GL-5 90

トランスファーオイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
4WD	0.39	日産純正デフオイルハイポイドスーパーS GL-5 75W-90

ブレーキフルード

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	–	三菱自動車純正 ブレーキフルードスーパー4（DOT4）

ウォッシャー液

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	1.5	三菱自動車純正ウォッシャー液※

※：外気温に応じて濃度を調節してください。

車両仕様

電球（バルブ）の容量

電球			容量（V-W）	電球のタイプ
前照灯（ヘッドライト）	ハロゲンヘッドライト付車	ハイビーム／ロービーム	12-60/55	H19
前部霧灯（フォグランプ）★			12-19	H16
車幅灯	ハロゲンヘッドライト付車		12-5	W5W
番号灯			12-5	W5W※
尾灯			12-5	W5W
後退灯			12-16	W16W
方向指示器 兼 非常点滅表示灯	前面		12-21（アンバー）	WY21W
	側面（フェンダータイプ）		–※（灯体交換）	
	後面		12-21（アンバー）	WY21W

※：電球が点灯しないときは三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

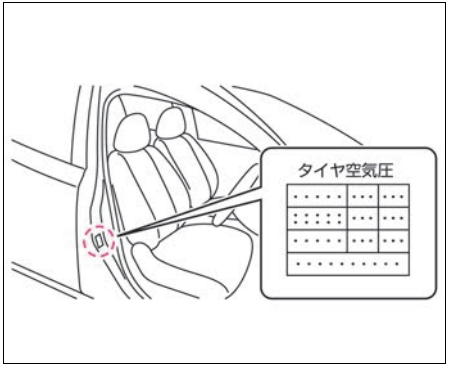
次の外装ランプはLEDです。LEDが一部でも点灯しない場合は、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

- **ロービーム（LEDヘッドライト付車）**
- **ハイビーム（LEDヘッドライト付車）**
- **車幅灯（LEDヘッドライト付車）**
- **制動灯**
- **ハイマウントストップランプ**
- **方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面／ミラータイプ）**

タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D	インセット
155/65R14 75S	14×4.5J	100mm（4穴）	46mm
165/55R15 75V	15×4.5J		

タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してありますので、確認してください。



イベントデータレコーダ（EDR）

車両データの記録・蓄積について

この車両に装備されている以下システムの各コンピューターはイベントデータレコーダ機能を備えています。

以下システムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、イベントデータレコーダで車両が衝突したときなどの車両データを記録・蓄積しています。

知識

- イベントデータレコーダは一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声は記録しません。
- 氏名、性別、年齢などの個人情報は記録しません。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に下記車両データを記録・蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報
- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 車速、エンジン回転数などの車両情報

■ マイパイロットシステム★

マイパイロットシステムは下記車両データを記録・蓄積します。

- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 先行車やレーンマーカーなどの検知状況
- 車速などの車両情報
- マイパイロットの作動に関する情報
- マイパイロットの故障診断情報
- フロントカメラの画像情報（SRSエアバッグ、衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]作動時）

データの扱いについて

三菱自動車および三菱自動車が委託した第三者は、イベントデータレコーダに記録されたデータを三菱自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、三菱自動車および三菱自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

車両状態記録機能

車両状態の記録・蓄積について

車両状態記録機能は、下記車両データを記録・蓄積します。

- 車輪速などの車両走行情報

車両状態記録機能

車両状態記録機能は品質維持を目的として、車両の運行状態を記録・蓄積します。

車両状態記録機能から得られたデータを元に的確なサービスを提供することができます。

知識

- 車両状態記録機能は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

三菱自動車および三菱自動車が委託した第三者は、車両状態記録機能に記録されたデータを車両の故障診断・品質の向上・研究開発を目的として、取得・利用することがあります。

なお、三菱自動車および三菱自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

4

4WD
- 4WD（4輪駆動）車の扱いかた P.144

A

A/C（エアコン）
- A/Cスイッチ P.100, P.104
- エアコンを使うときに注意すること P.108
- タッチパネル式フルオートエアコン P.100
- 吹き出し口 P.107
- マニュアルエアコン P.104

ABS（アンチロックブレーキシステム） P.145
ACC（レーダークルーズコントロール） P.156
ACC電源オートオン/オフ機能 P.119
AHB（オートマチックハイビーム） P.134
AS&G（オートストップ&ゴー） P.140
ASC（アクティブスタビリティコントロール） P.146

C

CVTフルード（規定量） P.313

D

DAA（ふらつき警報） P.196

E

e-Assist P.149
EDR（イベントデータレコーダ） P.315
ELR（緊急固定）付3点式シートベルト P.18
ESS（エマージェンシーストップシグナルシステム） P.145

F

FCM（衝突被害軽減ブレーキシステム） P.173

H

HDC（ヒルディセントコントロール） P.148
HSA（ヒルスタートアシスト） P.148
HYBRID P.144

I

ISOFIXチャイルドシート下部取付金具 P.34

L

LCDN（先行車発進通知） P.202
LDP（車線逸脱防止支援機能） P.191
LDW（車線逸脱警報システム） P.191
LKA（車線維持支援機能） P.163

O

ODO（オドメーター） P.39

S

SPORT表示灯 P.44
SRS エアバッグ P.21
SRSエアバッグ警告灯 P.41

T

TCS（トラクションコントロール機能） P.146
TRIP（トリップメーター） P.39
TSR（標識認識システム） P.198

W

W数（電球の容量） P.314

ア

アームレスト P.85
アウターミラー（ドアミラー） P.94
アクセサリーソケット（DC12V） P.228
アクティブスタビリティコントロール[ASC]
- ASC P.146
- ASC OFF表示灯 P.44
- ASC警告灯 P.41

アダプティブシフトコントロール P.121, P.123
アッパーグローブボックス P.224
アラーム P.273
アルミホイールのお手入れ P.305
アンサーバック機能 P.74, P.78
アンチロックブレーキシステム[ABS]
- ABS P.145
- ABS警告灯 P.41

アンテナ P.110

イ

ESS（エマージェンシーストップシグナルシステム） P.145

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。

索引

一時停止標識認識 P.198
移動物検知機能 P.213
イベントデータレコーダ（EDR） P.315
イモビライザー（盗難防止装置）
　イモビライザー（盗難防止装置） P.36
　セキュリティーインジケーター P.44
イルミネーションコントロール P.71
インナーミラー（自動防眩ルームミラー（リヤビューモニター付）） P.89

ウ

ウィンカー（方向指示器） P.136
ウインドウガラス（パワーウインドウ） P.96
ウェルカムライト P.74, P.78
ウォーニング（警告灯） P.41
ウォッシャー
　ウォッシャー液（規定量） P.314
　ウォッシャー液の補給 P.294
　ウォッシャースイッチ P.139
ウォッシャーの噴霧状態点検 M
動けなくなったときは P.236
運転するときに注意すること P.15
運転前の準備 P.14

エ

エアコン
　A/Cスイッチ P.100, P.104
　エアコンを使うときに注意すること P.108
　タッチパネル式フルオートエアコン P.100
　吹き出し口 P.107
　マニュアルエアコン P.104
エアバッグシステム
　SRS エアバッグ P.21
　SRS カーテンエアバッグ P.26
　SRS サイドエアバッグ P.25
　SRSエアバッグ警告灯 P.41
　運転席SRSニーエアバッグ P.27
　運転席&助手席SRSエアバッグ P.23
HSA（ヒルスタートアシスト） P.148
ASC
　ASC P.146
　ASC OFF表示灯 P.44
　ASC警告灯 P.41
ACC（レーダークルーズコントロール） P.156
ABS
　ABS P.145
　ABS警告灯 P.41
エコモード
　エコドライブレポート P.70
エマージェンシーストップシグナルシステム [ESS] P.145
エンジン
　エンジンオイル P.302, P.311
　エンジンオイル量の点検・補給 M
　エンジンスイッチ P.114
　エンジンの始動のしかた P.114, P.116
　エンジンの停止のしかた P.115, P.117
　エンジンの非常停止のしかた P.116
　エンジンルーム P.293
　エンジンルームから蒸気が出ているとき P.276
　エンジンを始動できないときは P.245
　キースイッチ P.116
　フード（ボンネット） P.293
エンジンオイル P.311
エンジン回転計（タコメーター） P.39
エンジン型式 S
エンジンスイッチ P.114
エンジンスイッチでの電源ポジションの切り替えかた P.115
エンジンのかかり具合、異音点検 M
エンジンの低速、加速の状態点検 M

オ

応急修理する前に P.240
オーディオ
　アンテナ P.110
　オーディオの使いかた P.110
　ステアリングスイッチ P.111
オートストップ&ゴー[AS&G]
　AS&G P.140
　AS&G OFFスイッチ P.141
　AS&G（車両情報） P.47
　AS&G表示灯 P.44
オートマチックハイビーム[AHB]
　AHB P.134
　AHB表示灯 P.44
オートライトコントロール（フロントワイパー連動） P.133
オートロック機能 P.74, P.78, P.79
オーバーヒート P.276
お子さまを乗せるときに注意すること P.28
オドメーター（積算距離計） P.39

カ

カードホルダー P.231
外気温度計 P.40
外装のお手入れ P.304
外装ランプが点灯しないときは P.279
カギ
　キーレスエントリーキー付車 P.77
　キーレスオペレーションシステム付車 P.74
各種設定画面 P.53
ガソリン P.98
カメラ
　フロントカメラ P.306
　フロントビュー／サイドビューカメラ P.306
　リヤビューカメラ P.307
カメラシステム P.204

索引

画面OFF P.65
ガラスアンテナ P.110
寒冷時の取り扱い P.295

キ

キー
　エマージェンシーキー P.244
　キー（キーレスエントリーキー）の電池交換 P.300
　キー（キーレスオペレーションキー）の電池交換 P.299
　キーレスエントリーキー P.77
　キーレスオペレーションキー P.74
キースイッチ P.116
キーレスエントリーキー
　機能・使いかた P.77
　電池交換のしかた P.300
キーレスオペレーションキー
　エマージェンシーキー P.244
　機能・使いかた P.74
　電池が切れたとき P.245
　電池交換のしかた P.299
キー連動室内照明 P.222
キー連動室内照明システム P.74, P.78
キックダウン P.129

ク

空気圧（タイヤ） P.315
くもり取り
　デフロスタースイッチ P.275
　リヤデフォッガースイッチ P.275
クラクション（ホーン） P.88
クリアランスランプ（車幅灯）
　スイッチ P.132
　点灯しないとき P.279
グリップコントロール P.63
グリップコントロール機能 P.146
車のお手入れ P.304
グローブボックス P.224

ケ

警告灯 P.41
警告灯がついたときは P.249
警告メッセージ P.62
警告メッセージが表示されたときは P.259
警報音（ブザー）が鳴ったときは P.273
けん引について P.237

コ

交換油脂類 P.311
工具 P.289
後席シート P.86
航続可能距離 P.51
後退灯
　電球（バルブ）容量 P.314
　点灯しないとき P.279
故障警告灯（MIL） P.41
故障したときは P.236
コンビニエントフック P.229

サ

サービスデータ（車両仕様） P.314
最高速度標識認識 P.198
最高速度標識表示 P.69
サイドミラー（ドアミラー） P.94
サンバイザー P.230

シ

シート
　後席シート P.86
　シートヒーター P.227
　前席シート P.84
　チャイルドシート P.29
シートアンダートレイ P.232
シートヒーター P.227
シートベルト
　シートベルトの着用のしかた P.18
　シートベルトの注意事項 P.19
　シートベルト非着用警告灯 P.41
室内灯 P.222
始動しない P.245
始動のしかた P.114, P.116
自動防眩ルームミラー（リヤビューモニター付） P.89
車検証入れ P.224
車線維持支援機能[LKA] P.163
車線逸脱警報システム[LDW]
　LDW P.191
　LDW表示 P.68
車線逸脱防止支援機能[LDP]
　LDP P.191
　LDP表示 P.68
　走行支援スイッチ P.193
ジャッキ P.289
車幅灯
　スイッチ P.132
　点灯しないとき P.279
車両型式 ..... S
車両重量 ..... S
車両仕様 P.314
車両状態記録機能 P.316

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。

索引

車両寸法 S
ジャンプスタートのしかた P.247
充電警告灯 P.41
充電用USBポート P.228
衝撃感知式ドアロック解除システム P.81
乗車定員 S
衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]
FCM P.173
FCM／踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]警告灯 P.41
FCM表示 P.67
進入禁止標識認識 P.198

ス

スイッチの操作
A/Cスイッチ P.100, P.104
イルミネーションコントロールスイッチ P.71
ウォッシャースイッチ P.139
エンジンスイッチ P.114
オートストップ&ゴー[AS&G]OFFスイッチ P.141
キースイッチ P.116
シートヒータースイッチ P.227
ステアリングスイッチ（オーディオ） P.111
ステアリングスイッチ（マイパイロット） P.154
ステアリングスイッチ（マルチインフォメーションディスプレイ） P.46
ステアリングヒータースイッチ P.227
スポーツモードスイッチ P.121
テールゲートオープナースイッチ P.82
デフロスタースイッチ P.275
ドアスイッチ（ドアハンドルのスイッチ） P.79
ドアミラースイッチ P.94
パワーウインドウスイッチ P.96
非常点滅表示灯スイッチ（ハザードスイッチ） P.10
ヒルディセントコントロール[HDC]スイッチ P.149
フォグランプスイッチ P.137
ブレーキオートホールドスイッチ P.127
方向指示器スイッチ P.136
ライトスイッチ P.132
リヤデフォッガースイッチ P.275
ワイパー・ウォッシャースイッチ P.138
水没したときは P.278
ステアリング（ハンドル） P.88
ステアリングスイッチ
オーディオ P.111
マイパイロット P.154
マルチインフォメーションディスプレイ P.46
ステアリングヒーター P.227
ステアリングロック（ハンドルロック）
ステアリングロック（ハンドルロック） P.115, P.118
ハンドルがロックしエンジンの始動ができないときは P.245
スピードメーター（速度計） P.39
スペアタイヤ P.289
スポーツモード P.121, P.124
スモールランプ（車幅灯）
スイッチ P.132
点灯しないとき P.279

セ

制動灯
点灯しないとき P.279
セキュリティーインジケーター P.44
設定（メーター） P.53
セレクターレバー
アダプティブシフトコントロール P.121, P.123
セレクターレバー（パドルシフト付車） P.122
セレクターレバー（パドルシフト無車） P.120
先行車発進通知[LCDN] P.202
センサー
センサーの取り扱い P.307
パーキングセンサー（フロント/リヤ） P.214
洗車のしかた P.304
前照灯（ヘッドライト）
スイッチ P.132
点灯しないとき P.279
前席シート P.84
センターロアボックス P.224
前部霧灯（フォグランプ）
スイッチ P.137
点灯しないとき P.279
フォグランプ表示灯 P.44
前方衝突予測警報[PFCW]
PFCW P.179
PFCW表示 P.69

ソ

走行距離 P.51
走行支援 P.52
走行支援機能画面 P.66
走行支援表示 P.68
走行のしかた P.129
速度計（スピードメーター） P.39

タ

タイヤ
アルミホイールのお手入れ P.305

タイヤ・ホイールを交換するとき P.297
タイヤ・ロードホイールサイズ P.315
タイヤチェーン P.298
タイヤについて（4WD） P.145
タイヤの位置交換（ローテーション） P.298
タイヤの空気圧 P.296, P.315
タイヤの点検項目 P.296
パンク P.240
パンクタイヤ応急修理キット P.240
冬用タイヤ P.298
タイヤアングルガイド P.63
タコメーター（エンジン回転計） P.39
正しい運転姿勢について P.14
タッチパネル式フルオートエアコン P.100

チ

チャイルドシート P.29
チャイルドシート適合表 P.31
チャイルドプルーフ P.81
駐車のしかた P.130
チルトステアリング P.88

テ

定期点検 ..... M
停止のしかた P.115, P.117
停車のしかた P.130
低水温表示灯 P.44
低速加速抑制機能 P.182
低速衝突軽減ブレーキ機能 P.182
定速制御機能（マイパイロット） P.170
テールゲート
開かない P.244
テールゲート P.82
テールゲートガラスのくもりの取りかた P.275
テールランプ（尾灯）
スイッチ P.132
テールランプ表示灯 P.44
点灯しないとき P.279
デジタルルームミラー
デジタルルームミラー（マルチアラウンドモニター付） P.90
デジタルルームミラーのお手入れ P.309
デフロスタースイッチ P.275
電球（バルブ）交換 P.279
電球（バルブ）容量 P.314
点検整備について P.288
電池交換のしかた P.299, P.300
電動格納式ドアミラー P.94
電動パーキングブレーキ
電動パーキングブレーキ P.125
電動パーキングブレーキ警告灯 P.41
電動パーキングブレーキ注意事項 P.126
電動パワーステアリング警告灯 P.41

ト

ドア
テールゲート P.82
ドア P.79
ドアが開かないときは P.244
ドアスイッチ（ドアハンドルのスイッチ） P.79
ドアを室内から開けられないとき（チャイルドプルーフ） P.81
ドアミラー P.94
ドアを室内から開けられないとき（チャイルドプルーフ） P.81
灯火装置（ランプ）の点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 ..... M
盗難防止装置（イモビライザー） P.36
時計 P.40
トラクションコントロール機能（TCS） P.146
トラブルがおきたときは
12Vバッテリー（メイン）があがったときは P.246
オーバーヒートしたときは P.276
キーレスオペレーションキーで始動できないときは P.245
警告灯がついたときは P.249
警告メッセージが表示されたときは P.259
警報音（ブザー）が鳴ったときは P.273
水没したときは P.278
セレクターレバーが動かないときは P.277
点灯しないとき P.279
ドアが開かないときは P.244
パンクしたときは P.240
ハンドルがロックしエンジンの始動ができないときは P.245
ヒューズが切れたときは P.284
表示灯がついたときは P.257
窓ガラスがくもったときは P.275
雪道やぬかるみにはまったときは P.278
トランスファーオイル（規定量） P.313
トリップメーター（区間距離計） P.39
ドリンクホルダー P.225

ナ

内装のお手入れ P.308
ナンバー灯（番号灯）
スイッチ P.132
点灯しないとき P.279

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。

ニ

日常点検 M

ネ

燃費情報 P.47
燃料
　燃料計 P.39
　燃料計（車両情報画面） P.51
　燃料タンク容量 P.98
　燃料補給口 P.98
燃料残量警告灯 P.41

ハ

パーキングセンサー（フロント/リヤ） P.69, P.214
パーキングブレーキ P.124
パーキングブレーキ（電動パーキングブレーキ） P.125
パーキングブレーキの踏みしろ点検 P.311, M
排気量 S
ハイマウントストップランプ
　点灯しないとき P.279
ハザードスイッチ（非常点滅表示灯） P.10
挟み込み防止機構 P.97
発炎筒 P.236
バックミラー（自動防眩ルームミラー（リヤビューモニター付）） P.89
発進 P.129
バッテリー
　12Vバッテリー（メイン）があがったときは P.246
　バッテリー P.301
　バッテリー液量の点検・補給 M
バッテリーセーバー
　ヘッドライト P.132
　ラゲッジルームランプ P.222
　ルーム&マップランプ P.222
パドルシフト P.124
バニティミラー P.230
バルブ（電球）交換 P.279
バルブ（電球）容量 P.314
パワーウインドウ
　挟み込み防止機構 P.97
　パワーウインドウ P.96
　パワーウインドウが正常に作動しないとき P.97
パワーステアリング警告灯 P.41
パンクしたときは P.240
番号灯
　スイッチ P.132
　点灯しないとき P.279
ハンドル P.88
ハンドルロック（ステアリングロック）
　ハンドルがロックしエンジンの始動ができないときは P.245
　ハンドルロック（ステアリングロック） P.115, P.118

ヒ

ヒーテッドドアミラー P.95
非常停止のしかた P.116
非常点滅表示灯
　スイッチ P.10
　電球（バルブ）容量 P.314
　点灯しないとき P.279
尾灯
　スイッチ P.132
　点灯しないとき P.279
ヒューズ P.284
ヒューズが切れたときは P.284
標識認識システム[TSR]
　TSR P.198
　TSRに関する注意事項 P.200
　一時停止標識認識 P.198
　最高速度標識認識 P.198
　進入禁止標識認識 P.198
表示灯 P.44
表示灯がついたときは P.257
ヒルスタートアシスト[HSA] P.148
ヒルディセントコントロール[HDC]
　HDC P.148
　HDCスイッチ P.149
　HDC表示灯 P.44

フ

ブースターケーブルのつなぎかた P.246
フード（ボンネット） P.293
フォグランプ
　スイッチ P.137
　点灯しないとき P.279
　フォグランプ表示灯 P.44
吹き出し口 P.107
ブザー（警報音） P.273
踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]
　EAPM P.182
　衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]／EAPM警告灯 P.41
　低速加速抑制機能 P.182
　低速衝突軽減ブレーキ機能 P.182
フューエルフィラーリッド（燃料補給口）
　フューエルフィラーリッド（燃料補給口） P.98
　フューエルフィラーリッドオープナー P.98
フューエルメーター（燃料計） P.39
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.298
ふらつき警報[DAA] P.196
ブレーキ液量の点検・補給 M
ブレーキオートホールド
　ブレーキオートホールド P.126

ブレーキオートホールド表示灯 P.44
ブレーキ警告灯（赤色表示） P.41
ブレーキシステム警告灯（黄色表示） P.41
ブレーキの効き点検 M
ブレーキフルード P.314
ブレーキペダルの踏みしろ P.311, M
フロアマット P.230
フロントカメラ P.306
フロントガラスのくもりの取りかた P.275

へ

ヘッドライト
自動点灯ランプの消灯のしかた P.134
スイッチ P.132
点灯しないとき P.279
ヘッドライト上向き表示灯 P.44
ヘッドライトの点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 M
ヘッドライトレベリングダイヤル P.136
ヘッドレスト
後席シート P.87
前席シート P.85

ホ

ホイールサイズ P.315
ホイールナットレンチ P.289
方向指示器
スイッチ P.136
電球（バルブ）容量 P.314
点灯しないとき P.279
方向指示表示灯 P.44
方向指示器の点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 M
防犯装置
イモビライザー（盗難防止装置） P.36
セキュリティーインジケーター P.44
ホーンの鳴らしかた P.88
補機ベルト P.311
ポジションインジケーター P.39
ポジションランプ（車幅灯）
スイッチ P.132
点灯しないとき P.279
ボトルホルダー P.225
ボンネット（フード） P.293

マ

マイパイロット
車両情報画面 P.52
ステアリングスイッチ P.154
マイパイロット P.153
マイパイロット表示 P.67
マスターウォーニング P.41
窓ガラスがくもったときは P.275
マニュアルエアコン P.104
マルチアラウンドモニター
移動物検知機能 P.213
パーキングセンサー（フロント/リヤ）について P.214
マルチアラウンドモニター P.208
マルチアラウンドモニターに関する注意事項 P.216
マルチインフォメーションディスプレイ
インフォメーショングループ P.51
エコグループ P.47
各種設定画面 P.53
画面OFF P.65
警告メッセージ P.62
シャシー制御 P.63
ステアリングスイッチ P.46
走行支援グループ P.52
マルチインフォメーションディスプレイ P.46

ミ

ミラー
自動防眩ルームミラー（リヤビューモニター付） P.89
デジタルルームミラー（マルチアラウンドモニター付） P.90
ドアミラー P.94
バニティミラー P.230

メ

メーター
オドメーター（積算距離計） P.39
外気温度計 P.40
各種設定画面 P.53
警告灯 P.41
警告メッセージ P.62
航続可能距離表示 P.51
スピードメーター（速度計） P.39
時計 P.40
表示灯 P.44
マルチインフォメーションディスプレイ P.46
メーター P.38
メーターの明るさの調節のしかた P.71
メンテナンス設定 P.53
メンテナンスデータ（サービスデータ） P.311

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。

ユ

油圧警告灯 P.41
雪道の走行のしかた P.296
雪道やぬかるみにはまったときは P.278

ヨ

4WD（4輪駆動）車の扱いかた P.144

ラ

ライトスイッチ P.132
ラゲッジフロアボード P.232
ラゲッジルームランプ P.222
ランプ（室内照明）
　ラゲッジルームランプ P.222
　ルーム&マップランプ P.222

リ

リチウムイオンバッテリー P.301
リモコンによる施錠・解錠 P.79
リヤガラスのくもりの取りかた P.275
リヤシート P.86
リヤディファレンシャルオイル
（規定量） P.313
リヤデフォッガースイッチ P.275
リヤビューカメラ P.307
リヤビューモニター P.204
リヤワイパースイッチ P.138

ル

ルーム&マップランプ P.222
ルームランプ
　ラゲッジルームランプ P.222
　ルーム&マップランプ P.222

レ

冷却水
　寒冷地の取り扱い P.295
　規定量 P.313
　冷却水量の点検・補給 M
レーダークルーズコントロール[ACC]
　ACC P.156
　ACCの解除のしかた P.160
　ステアリングスイッチ P.154
レーダーセンサー P.305
レバー（セレクターレバー） P.120, P.122

ロ

ロードホイール
　お手入れ P.305
　交換 P.297
　サイズ P.315
路上で故障したときは P.236
ロックノブ P.80

ワ

ワイパー
　ワイパー・ウォッシャースイッチ P.138
　ワイパーブレードの交換 P.299
ワックスをかけるときは P.305

メーター内に警告灯や警告メッセージが表示されたときは、すみやかに適切に対処する必要があります。詳しくは、警告灯がついたときは（➔P.249）、警告メッセージが表示されたときは（➔P.259）をお読みください。表示灯については、表示灯がついたときは（➔P.257）をお読みください。

警告灯 例

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯したときは（➔P.249）に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。

警告メッセージ 例

警告メッセージが表示されたときは、（➔P.259）に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。

表示灯 例

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯している理由は、（➔P.257）をお読みください。

MEMO

MEMO

MEMO

純正品のおすすめ

- お客様のお車に最適な純正品をご使用ください。
- 純正品は、厳しい検査に合格し、その品質が保証されています。
  また、三菱自動車販売会社を通じてお求めになれます。
- 新車時の性能と快適な乗り心地を長く維持していただくために、点検や交換の際は、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 三菱自動車指定の純正品や油脂類以外の物を使用すると、故障などの原因になることがあります。
- 純正品にはGENUINE PARTSと記載してあります。

事故が起きたときは！

あわてずに次の処置をしてください。

- **続発事故の防止**
  他の交通の妨げにならないような安全な場所（路肩、空地など）に車を止め、エンジンを止めます。
- **負傷者の救護**
  負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
  この場合、特に頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故のおそれがあるときは安全な場所に移動させます。
- **警察への届け出**
  事故が発生した場所、状況および負傷者数や負傷の程度などを警察官に報告し指示を受けます。
- **相手方の確認とメモ**
  相手方の氏名、住所、電話番号を確認し、事故の状況をメモします。
- **ご購入された販売会社と保険会社への連絡**
- **医師の診断を受ける**
  外傷がなくても頭部などに強い衝撃を受けたときは、医師の診断を受けてください。後になってから後遺症が出るおそれがあります。

万一に備えて

安心のため、自賠責保険（強制保険）のほかに任意自動車保険にも加入しましょう。
詳しくは三菱自動車販売会社へご相談ください。